
人権についての市民意識調査

－ 報告書 －

令和3（2021）年3月
兵庫県 朝来市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 調査結果からみる現状と傾向	3
【1】人権のことについて	3
1 人権全般について	3
2 人権問題について	3
3 L G B T (Q +) について	5
4 効果的と思う啓発広報活動	6
【2】男女共同参画のことについて	7
1 男女の地位の平等意識	7
2 家庭における男女共同参画	7
3 男女共同参画に関する用語等の認知	7
4 各種ハラスメントについて	8
5 働く場における男女共同参画	8
6 女性の参画について	9
III 回答者の属性	10
1 性別構成	10
2 年齢別構成	10
3 同居家族の構成	11
4 同居している家族について	12
IV 調査結果	13
【1】人権のことについて	13
1 人権を身近に感じることに	13
2 人権を取り巻く状況について	15
3 人権侵害について	20
(1) 人権侵害の体験	20
(2) 人権侵害の内容	22
(3) 人権侵害を受けたときの対応	25
4 他人の人権を侵害した経験	28
5 関心のある人権問題	30
6 人権三法の認知状況	33
7 女性の人権に関して問題があると思うこと	34
8 子どもの人権に関して問題があると思うこと	37
9 高齢者の人権に関して問題があると思うこと	40
10 障害のある人の人権に関して問題があると思うこと	43
11 虐待や暴力が身近で起きた場合の対応	46
12 外国人の人権について	49
13 インターネットによる人権侵害に関して問題があると思うこと	52
14 同和問題に関する人権問題について	55

15	同和問題が生じる原因や背景	58
16	犯罪被害者やその家族の人権侵害について	60
17	LGBT(Q+)の人の人権について	63
	(1) LGBT(Q+)の認知状況	63
	(2) 身近にLGBT(Q+)の人がいること	64
	(3) LGBT(Q+)に関する人権問題について	65
	(4) LGBT(Q+)に関する必要な取組	67
18	効果的と思う啓発広報活動	69
【2】	男女共同参画のことについて	72
1	男女の地位の平等意識	72
2	望ましいと思う家庭での役割分担	78
3	「男は仕事、女は家庭」という考え方について	83
4	結婚についての考え方	85
5	男女共同参画に関する用語等の認知状況	88
6	各種ハラスメントについて	91
	(1) 各種ハラスメントに関する経験	91
	(2) DVを受けたときの相談先	96
	(3) DVについて相談しなかった理由	98
7	地域活動・市政への女性の参画状況について	100
8	地域活動における男女の協力について	102
9	就業の状況について	105
	(1) 就業状況	105
	(2) 働いていない理由	107
	(3) 今後の就労意向	109
	(4) 職業	110
	(5) 職場や仕事で悩んでいることや不満	113
10	仕事や家事などを共に担う社会を実現するために有効なこと	116
11	育児休業・介護休業について	124
12	介護が必要になった場合に希望する介助者	128
13	女性の参画が進むことによる影響	131
14	男女が対等な社会となるために重要なこと	135
V	自由意見	138
	資料 調査票	143

I 調査の概要

【調査の目的】

本市では、人権尊重のまちづくりに向け、市民と行政が一体となった推進体制を強化し、市民の人権意識を高め、あらゆる差別や偏見がなくなる地域社会を目指している。

また、男女がお互いの人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いながら、それぞれの個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会を目指している。

このたび、今後の人権教育・啓発及び男女共同参画の施策を進める上で参考とするため、「人権についての市民意識調査」を実施した。

【調査対象】

朝来市に居住する 20 歳以上の市民

【標本抽出方法】

住民基本台帳から無作為抽出

【調査方法】

郵送配布～郵送回収

【調査期間】

令和 2（2020）年 12 月

【回収結果】

配布数 ----- 2,000 件

有効回収数 ----- 682 件

有効回収率 ----- 34.1%

【報告書の見方について】

- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- (2) 2つ以上の回答を可能とした（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、「該当数」を「n」で表記している。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (6) 設問によっては、平成22年に実施した同調査（「前々回調査」と表記）及び平成27年に実施した同調査（「前回調査」と表記）との比較を行っている。また、内閣府による令和元年実施の「男女共同参画社会に関する世論調査」（「R1内閣府」と表記）、同じく平成26年実施の「女性の活躍推進に関する世論調査」（「H26内閣府」と表記）、及び兵庫県による令和元年実施の「令和元年度第2回県民モニターアンケート調査」（「兵庫県」と表記）との全体傾向比較も行っている。
- (7) 内閣府や兵庫県との比較においては、設問や選択肢等が一致していない場合がある。
- (8) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

Ⅱ 調査結果からみる現状と傾向

【1】人権のことについて

1 人権全般について

- ・「人権」を身近な問題として感じている人は合計で約4割（39.6%）であり、40～50歳代で高く、身近に感じない人は25.3%となっている。時系列比較でみると、大きな変化はみられない。
- ・「今の日本は、人権が尊重されている社会である」に対する賛同意識は、全体では半数近くを占めるが、女性は男性を大きく下回っており、差が目立っている。
- ・「住民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている」について「そう思う」への回答は年齢が上がるほど高い傾向にあるが、20歳代でも比較的高くなっている。
- ・実際に人権が侵害されたと思ったことがある人はおよそ4人に1人の割合で、女性や40～50歳代で多くみられる。その内容としては「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」をはじめ「パワーハラスメント」「学校でのいじめ」などの順に多いが、特に女性は「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」「プライバシーの侵害」、男性は「公的機関や企業・団体による不当な扱い」がそれぞれ多い。
- ・人権侵害を受けたときの対応としては、特に女性は「友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」が男性を大きく上回っており、男性は「何もしなかった」人が多い。また、公的な機関や人権擁護委員などへの相談は少ない状況である。

-
- 「住民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている」については、前回調査に比べ『賛同意識』の割合が増加し、年齢別では20歳代が最も『賛同意識』が高いことから、人権教育などこれまでの取組が着実に進んでいることが分かる。
 - 実際に人権が侵害されたと思ったことがある人の割合は40～50歳代で高くなっているが、その結果を反映するように「人権」を身近な問題として感じている人の割合も40～50歳代で高くなっている。この世代はいわゆる団塊ジュニア世代や就職氷河期世代と言われる年代層であり、他の年代層よりも人権への意識が高いことが分かる。
-

2 人権問題について

（1）関心のある人権問題

- ・関心のある人権問題については「障害のある人に関する問題」をはじめ「SNSや動画投稿サイトなどインターネットを悪用した人権侵害の問題」「女性や子どもに関する問題」などが多く、特に「SNSや動画投稿サイトなどインターネットを悪用した人権侵害の問題」は時系列比較でみると増加で推移している。また、20歳代の若い年齢層では「性同一性障害者（心と身体の性が一致しない人）に関する問題」や「性的指向（異性愛・同性愛・両性愛）を理由とした人権侵害の問題」、30歳代では「子どもに関する問題」や「働く人の権利」、60歳以上では「高齢者に関する問題」や「同和問題」など、年齢による差が大きい。
- ・人権三法については「よく知っている」が4.4%、「少しは知っている」が28.2%で、内容についての認知は、おおむね3人に1人の割合となっており、人権を身近に感じる人ほどその割合は高くなっている。

(2) 女性の人権

- ・女性の人権に関しては「男女の性別による固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」をはじめ「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」「女性の社会進出のための支援制度が不十分」の順に多いが、時系列比較でみると、特に「セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）」や「ドメスティック・バイオレンス」「ストーカー行為」が増加している。

(3) 子どもの人権

- ・子どもの人権に関しては「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」をはじめ「悪口やいやがらせをSNSや動画投稿サイトなどインターネットに書き込んだりすること」「子ども同士が暴力や仲間はずれ、無視などのいじめをすること」の順に多く、特に「SNSや動画投稿サイトなどインターネットへの書き込み」は、時系列比較でみると大きく増加している。

(4) 高齢者の人権

- ・高齢者の人権に関しては「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと」の順に多く、時系列比較でみると、介護を支援する制度や働く意欲に応じた雇用等については改善がみられるが、「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」については増加している。

(5) 障害のある人の人権

- ・障害のある人の人権に関しては「働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと」「社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと」「バリアフリー化など、障害のある人の暮らしやすいまちづくりが十分でないこと」の順に多く、時系列比較でみると、働く場所や機会、社会参加のための受け入れ態勢、バリアフリー化などの割合は減少傾向にあるが、「学校や職場で不利な扱いを受けること」などが増加傾向にある。

(6) 外国人の人権

- ・外国人の人権については「日本人と同じように人権は守られるべきである」「合法的に滞在している外国人の人権は守られるべきだが、違法に滞在している外国人は人権を制限されても仕方がない」の順に多く、時系列比較でみると「日本人と同じように人権は守られるべきである」が大きく増加している。

(7) 虐待や暴力が身近で起きた場合の対応

- ・虐待や暴力が身近で起きた場合の対応については「児童相談所（子どもの場合）、配偶者暴力相談支援センター（配偶者の場合）や警察へ通報する」や「公的機関の相談窓口など（神戸地方法務局豊岡支局・市役所の相談窓口など）に相談する」が多く、時系列比較でみると「虐待などを受けている本人に事情を聞く」がやや増加した。

(8) インターネットを悪用した人権侵害

- ・インターネットを悪用した人権侵害については「他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること」が最も多く、次いで「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」「悪質商法によるインターネット取引での被害があること」などの順に多く、時系列比較でみると「他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること」が大きく増加した。

(9) 同和問題に関する人権問題

- ・同和問題に関する人権問題については「結婚問題での周囲からの反対」「いわゆる同和地区への居住の敬遠」「差別的な言動」などが多く、時系列比較でみると「特に起きているとは思わない」が減少し「差別的な言動」「SNSや動画投稿サイトなどインターネットを悪用した差別的な情報の掲載」が増加した。
- ・同和問題が生じる原因や背景については「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）や親せきから教えられる偏見、差別意識」や「社会全体で残る差別意識」「地域の人から伝えられる偏見、差別意識」などが多い。

(10) 犯罪被害者やその家族の人権侵害

- ・犯罪被害者やその家族の人権侵害については「各メディアの過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」をはじめ「事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること」「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」の順に多く、時系列比較でみると「事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること」が増加した。

-
- 人権三法については7割が認知しており、一定程度、市民に浸透していることが分かる。
 - 関心のある人権問題については「障害のある人に関する問題」が依然として最も高くなっている。「障害者差別解消法」が施行して5年近くたつが「不当な差別的取扱いの禁止」や「合理的配慮の提供」など様々な取組について、まだまだ十分でないと感じている人が多いことが分かる。
-

3 LGBT(Q+)について

- ・LGBT(Q+)については「内容(意味)をよく知っている」(21.0%)、「内容(意味)を少しは知っている」(38.0%)、「言葉(名称)は知っている」(17.6%)を合わせて7割以上(76.6%)が認知しているが、約2割(20.5%)は「知らない、聞いたことがない」と回答している。
- ・身近にLGBT(Q+)の人が「いる」が8.1%、「いない」44.0%、「わからない」45.9%となっている。
- ・LGBT(Q+)に関する人権問題については「差別的な言動をされること」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」「職場や学校などでいやがらせやいじめを受けること」の順に多く、LGBT(Q+)に関する必要な取組については「社会全体での教育や啓発」をはじめ「公共施設や職場・学校におけるトイレや更衣室などの社会環境の整備」「学校での教育や啓発」などの順に多い。

○LGBT(Q+)については7割が認知しており、一定程度、市民に浸透していることが分かる。

○20～30歳代では周りにLGBT(Q+)の人が「いる」と回答した割合が1割を超えていることから、朝来市においても今後より配慮すべき人権の一つであることが分かる。

4 効果的と思う啓発広報活動

- ・効果的と思う啓発広報活動については「テレビ・ラジオを活用した啓発」をはじめ「市の広報紙」「講演会や講義形式の研修会・学習会」「インターネット・電子メール（メールマガジンなど）・SNSの活用」の順に多く、特に、若い年齢層ほど「インターネット・電子メール（メールマガジンなど）・SNSの活用」が多い。

○効果的と思う啓発広報活動については、前回調査より「テレビ・ラジオを活用した啓発」「インターネット・電子メール（メールマガジンなど）・SNSの活用」「映画など映像を活用した啓発」の回答が大きく増加している。これはコロナ禍のなかで、3密防止など「新しい生活様式」への適応が影響し、これらのニーズがより高まったことが要因と思われる。

【2】男女共同参画のことについて

1 男女の地位の平等意識

- ・全ての分野において男性優遇意識が強い。特に「政治の場」「社会通念や慣習、しきたり」で目立っているが、「学校教育の場」については平等意識が高い。
- ・女性は男性に比べ、全ての項目において男性優遇意識が高い。
- ・時系列比較でみると「政治の場」で男性優遇意識がやや増加した。
- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方については、約3割(28.9%)が「そう思う」と回答し、6割以上(63.3%)が「そう思わない」と回答しており、女性は「そう思わない」の割合が男性を大きく上回っている。
- ・結婚について「そう思わない」の割合が高い順に「子どもがいる場合は離婚しない方がよい」「結婚は必ずしもしなくてもよい」「夫と妻が別姓を名乗ってもよい」となっている。

2 家庭における男女共同参画

- ・望ましいと思う家庭での役割分担については「お年寄り、病人の世話・介護など」「地域の行事参加・近所づきあい」「子どもの世話など」の順に「夫婦同程度」の割合が高く、一方で「洗濯・家の掃除」「食事の支度」「日常の家計管理」は「主として妻」、「生活費の確保」は「主として夫」の割合がそれぞれ高い。
- ・育児休業・介護休業について、「妻が取るほうがよい」が「育児休業」で23.6%、「介護休業」で8.1%、「夫も妻も同じように取るのがよい」が「育児休業」で58.4%、「介護休業」で71.0%となっている。時系列比較でみると、「育児休業」は「妻が取るほうがよい」は減少傾向にある。
- ・介護が必要になった場合に希望する介助者については、「社会福祉施設やケア住宅に入所する」「配偶者」「ホームヘルパーやボランティア」の順に多く、男性は「配偶者」の割合が女性を大きく上回っている。また、親族は4割を占めており、時系列比較でみると、「配偶者」は減少傾向、「社会福祉施設やケア住宅に入所する」は増加傾向にある。

○望ましいと思う家庭での役割分担については、時系列比較でみると、全ての項目において「主として妻」から「夫婦同程度」を理想とする回答割合が増えており、男女共同参画の意識が徐々に醸成されていることが分かる。

3 男女共同参画に関する用語等の認知

- ・用語等の認知については、「セクシュアルハラスメント」「ドメスティック・バイオレンス(DV)」「男女雇用機会均等法」「DV防止法」の順に多く、男女共に30歳代で「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の認知率が高い。時系列比較でみると、「DV防止法」「ジェンダー(社会的、文化的性差)」「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」が大きく増加している。

○男女共同参画に関する用語等の認知については、時系列比較でみると、いずれの用語も認知度が徐々に上がってきており、これまでの広報や啓発等の取組が着実に進んでいることが分かる。

4 各種ハラスメントについて

- ・セクシュアルハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が12.2%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が17.0%で、女性の約2割(20.9%)が「自分が被害を受けたことがある」と回答している。
- ・パワーハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」「自分のまわりに被害を受けた人がある」がそれぞれ23.8%となっており、女性は男性に比べ「自分が被害を受けたことがある」の割合が高くなっている。
- ・マタニティハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が2.1%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が6.0%となっている。
- ・ドメスティック・バイオレンスの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が6.2%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が14.8%で、女性の約1割(10.2%)が「自分が被害を受けたことがある」と回答している。
- ・DVを受けたときの相談先については、「友人、知人」や「家族、親せき」が多くなっているが、「どこにも相談しなかった」人は3割以上みられる。また、女性は「友人、知人」「家族、親せき」の割合が男性を大きく上回っている。
- ・DVをどこにも相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思った」をはじめ「相談するほどのことではないと思った」「どこに(誰に)相談したらよいかかわからなかった」が多く、女性は「自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った」、男性は「相談しても無駄だと思った」の割合がそれぞれ高い。

○DVを受けたときの相談先については、前回調査に比べ「どこにも相談しなかった」の回答が大きく減少する一方で「その他の公的機関(市役所など)」や「警察」「弁護士」等公的機関への相談先の回答が増えており、相談窓口の周知及び啓発が徐々に進んでいることが分かる。

5 働く場における男女共同参画

- ・約7割が仕事をしており、女性は「仕事をしていない」の割合が男性を大きく上回っている。
- ・働いていない理由は、「定年、高齢だから」が半数以上を占めており、女性は「家事・育児・介護に専念したいから」の割合が男性を大きく上回っている。
- ・仕事を「すぐにでもしたい」が11.4%、「将来したい」が21.5%で、およそ3人に1人が就労を希望しており、男性は「すぐにでもしたい」の割合が女性を大きく上回っている。
- ・職業は、「民間の企業や団体に勤めている人」「パート、アルバイト」「公務員、教職員、福祉関係職員、医療関係職員」が多く、女性は「パート、アルバイト」の割合が男性を大きく上回っており、特に60歳代が多い。
- ・職場や仕事に関する不満については、「賃金が低い(給料が少ない)」をはじめ「休暇がとりにくい」「勤務時間が長い」「仕事がきつい」の順に多く、男性は「勤務時間が長い」の割合が女性を大きく上回っている。時系列比較でみると、「休暇がとりにくい」が大きく減少した。
- ・仕事や家事などを共に担う社会を実現するためには、「育児・介護を支援するサービスの充実」が「有効」の割合が半数以上を占めており、女性は「有効」の割合が男性を大きく上回っている。また、女性は若い年齢層ほど「男性の仕事優先、職場中心のライフスタイル

ルを考え直すこと」「男性が家事や育児を行う能力を高めること」で「有効」の割合が高くなっている。

-
- 職場や仕事に関する不満については、時系列比較でみると「賃金が低い（給料が少ない）」「休暇がとりにくい」の順に高いのは変わらないが、いずれもその割合は減少傾向にあり、特に「休暇がとりにくい」が大きく減少している。
 - 「特にない」を時系列比較でみると逆に増加傾向にある。職場等での働き方改革に向けた取組が一定進んでいるとも考えられることから、続けて実態把握が必要と言える。
-

6 女性の参画について

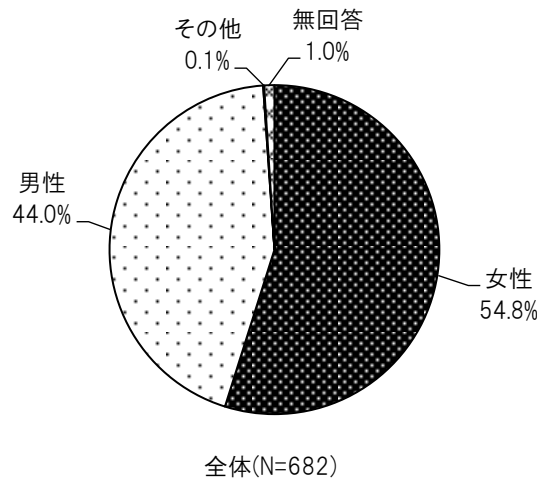
- ・地域活動・市政への女性の参画状況については、4割近く（37.3%）が「参画できていない」と回答しているが、「参画できている」は約3割（31.3%）みられ、男性は「ある程度参画できている」の割合が女性を大きく上回っている。
- ・地域活動における男女の協力については、半数以上が「それぞれの持ち分を分担し、協力しあっている」と回答しているが、男性は女性に比べ「男性が主体となっており、女性はあまり参加していない」の割合が高くなっている。
- ・女性の参画が進むことによる影響については、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」「女性の声が反映されやすくなる」「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」の順に多い。時系列比較でみると、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」が大きく増加している。
- ・男女が対等な社会となるために重要なことについては、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」「男性の意識改革」「子育て支援や高齢者・病人の介護施設などのサービスを充実する」「女性の意識改革」の順に多い。特に女性は「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力を高める」、男性は「男性の意識改革」がそれぞれ多い。

-
- 男女が対等な社会となるために重要なことについては、時系列比較でみると「男性の意識改革」の回答割合が増加傾向にあり、更に性別でみると、今回の調査では女性より男性の回答割合が高い結果となっている。男性の意識が変化し始めていることが分かる。
-

Ⅲ 回答者の属性

1 性別構成

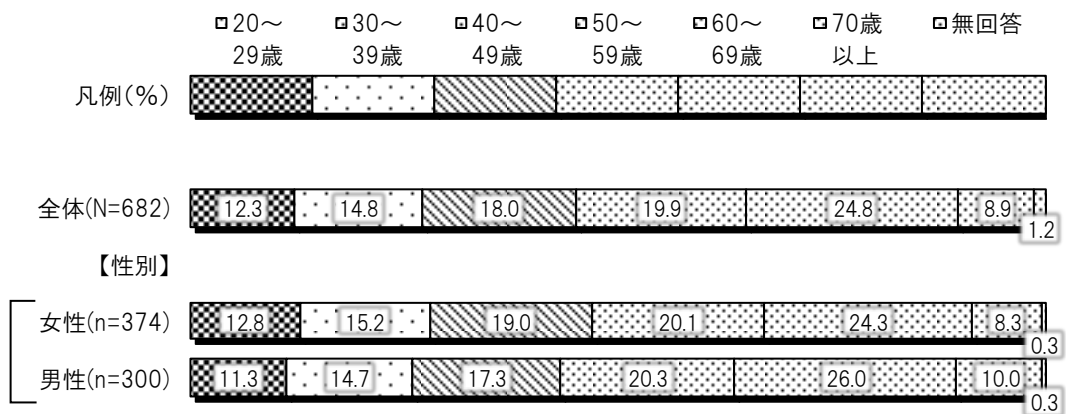
回答者の性別構成比は、「女性」が 54.8%、「男性」が 44.0%と、女性の割合が男性を上回っている。



2 年齢別構成

年齢別構成は、「60～69 歳」の割合が 24.8%と最も高く、次いで「50～59 歳」(19.9%)が続いており、『50 歳以上』は合計で過半数 (53.6%) を占めている。

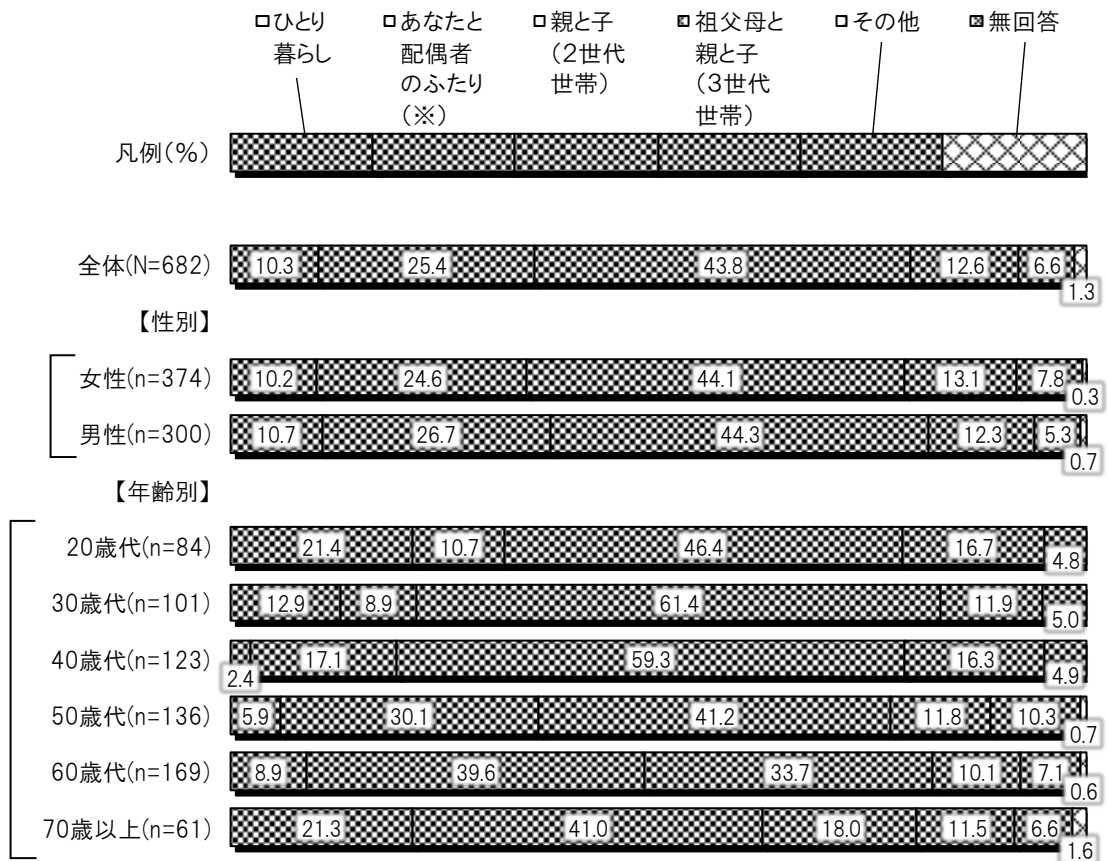
性別では、大きな差はみられない。



3 同居家族の構成

同居家族の構成については、「親と子（2世代世帯）」の割合が43.8%と最も高く、次いで「あなたと配偶者（パートナー）のふたり」（25.4%）、「祖父母と親と子（3世代世帯）」（12.6%）の順となっている。

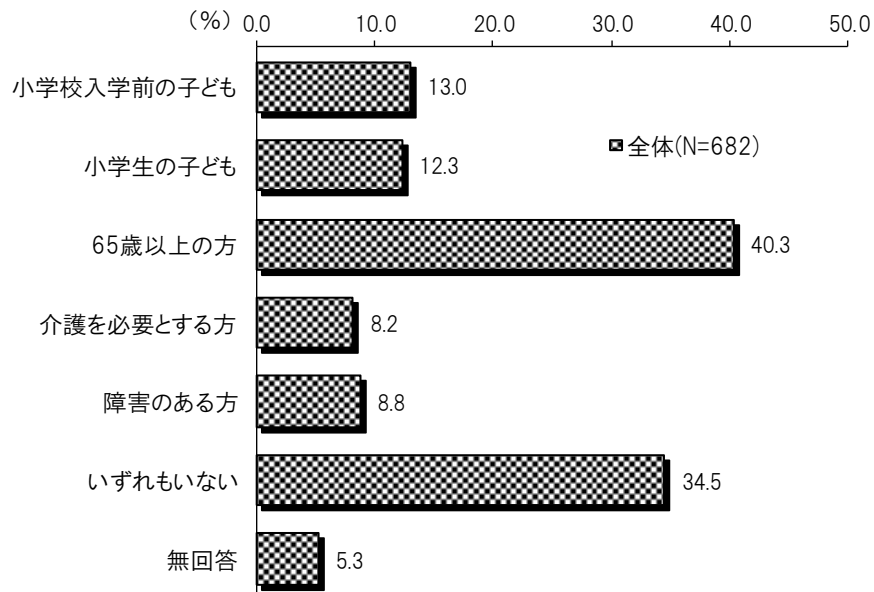
性別では大きな差はみられないが、年齢別では、20歳代や70歳以上で「ひとり暮らし」、50歳代以上で「あなたと配偶者（パートナー）のふたり」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



※あなたと配偶者(パートナー)のふたり

4 同居している家族について

同居している家族については、「65歳以上の方」の割合が40.3%と最も高く、次いで「小学校入学前の子ども」（13.0%）、「小学生の子ども」（12.3%）の順となっている。一方、3割以上（34.5%）が「いずれもない」と回答している。



IV 調査結果

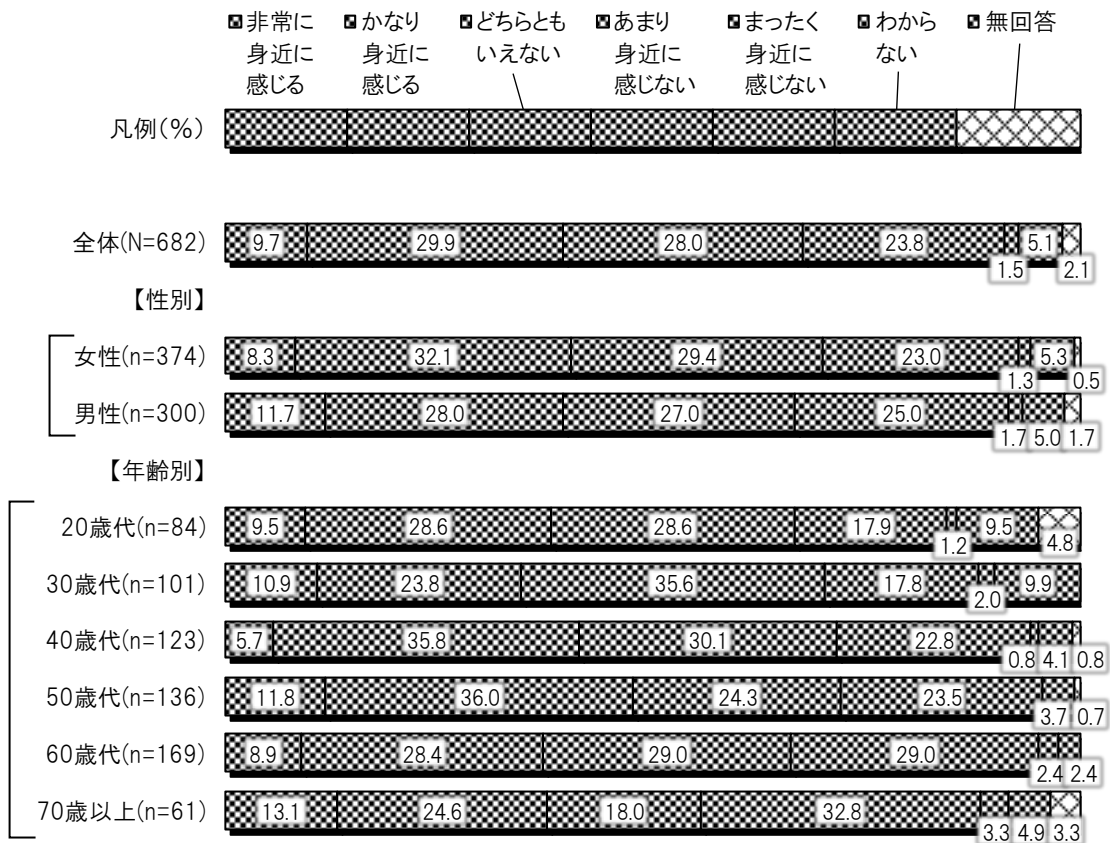
【1】人権のことについて

1 人権を身近に感じることにについて

問5. あなたは「人権」を身近な問題として感じていますか。(〇は1つ)

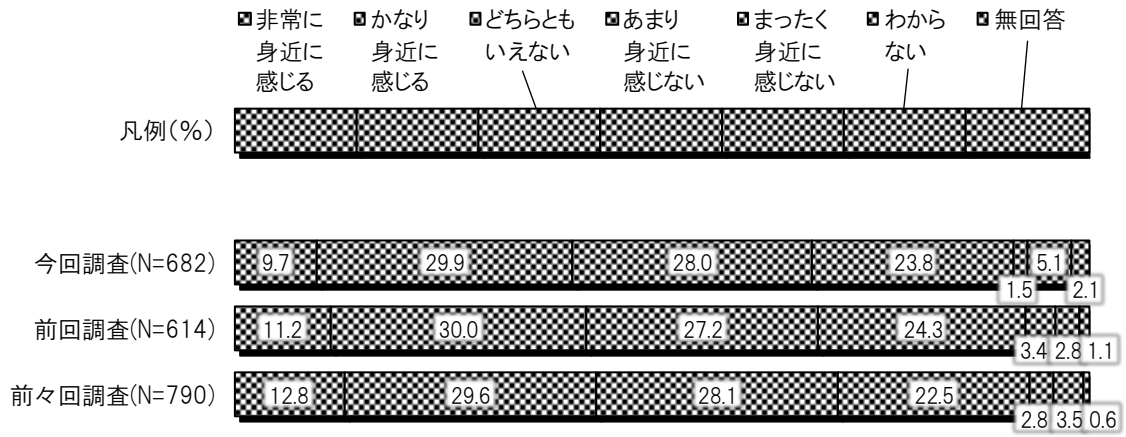
人権については、「非常に身近に感じる」が9.7%、「かなり身近に感じる」が29.9%で、合計約4割(39.6%)が『身近に感じる』と回答している。一方、「あまり身近に感じない」(23.8%)、「まったく身近に感じない」(1.5%)の合計は25.3%であった。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では、50歳代で『身近に感じる(合計)』、60歳代以上で『身近に感じない(合計)』の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



【時系列比較】

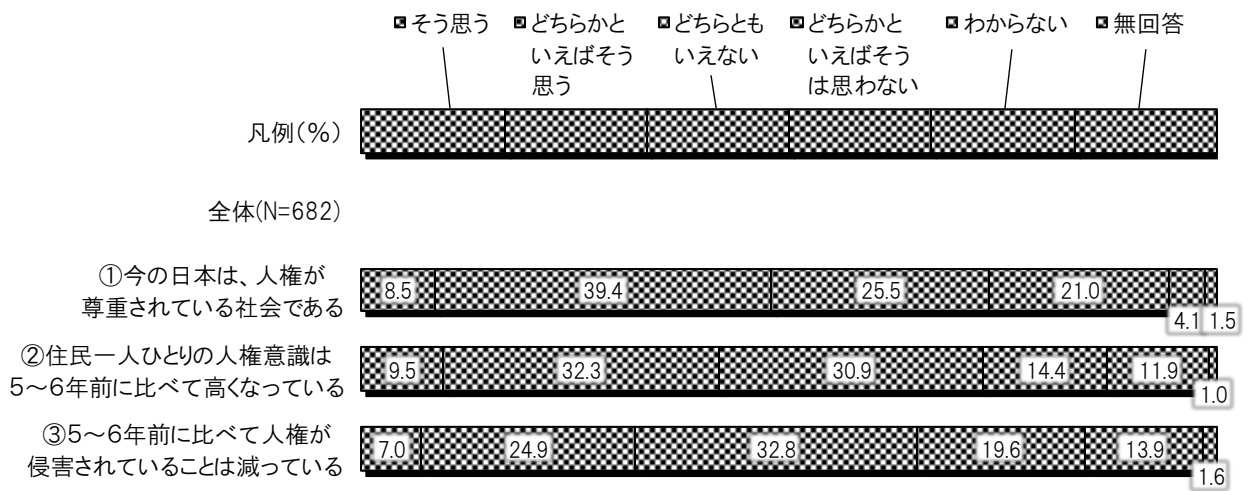
前回調査と比べ大きな変化はみられない。



2 人権を取り巻く状況について

問6. 次の①～③それぞれについて、あなたはどのように思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

人権を取り巻く状況については、『賛同意識』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合が高い順に「①今の日本は、人権が尊重されている社会である」（47.9%）、「②住民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている」（41.8%）、「③5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている」（31.9%）となっている。



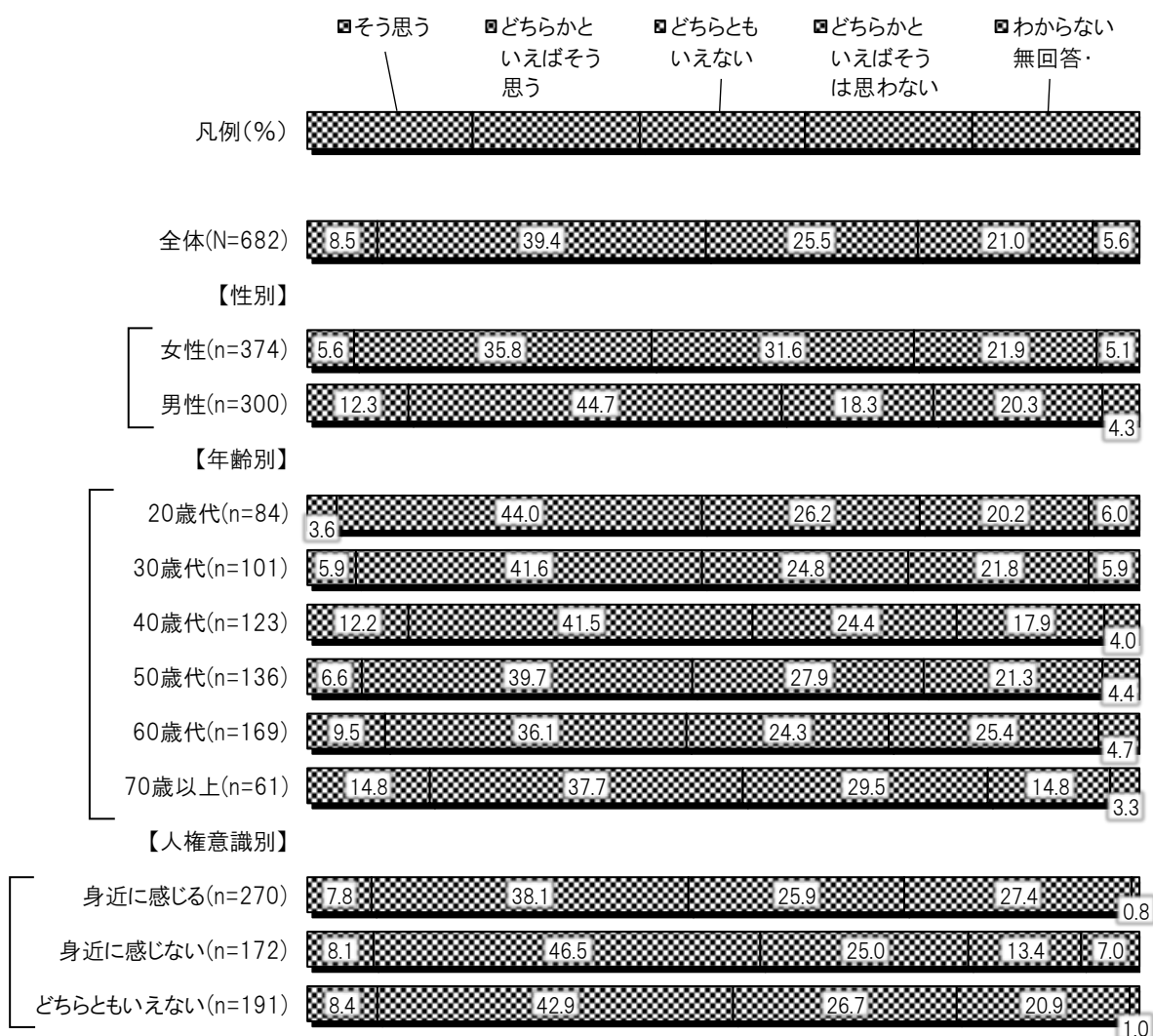
①今の日本は、人権が尊重されている社会である

「人権が尊重されている社会である」については、「そう思う」が 8.5%、「どちらかといえばそう思う」が 39.4%で、『賛同意識』は合計で 47.9%となっている。一方、「どちらかといえばそうは思わない」は 21.0%となっている。

性別では、男性は『賛同意識』が女性を大きく上回っており、女性は男性に比べ「どちらともいえない」の割合が高くなっている。

年齢別では、40歳代や70歳以上で『賛同意識』の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「どちらかといえばそうは思わない」の割合が他の層に比べて高くなっている。

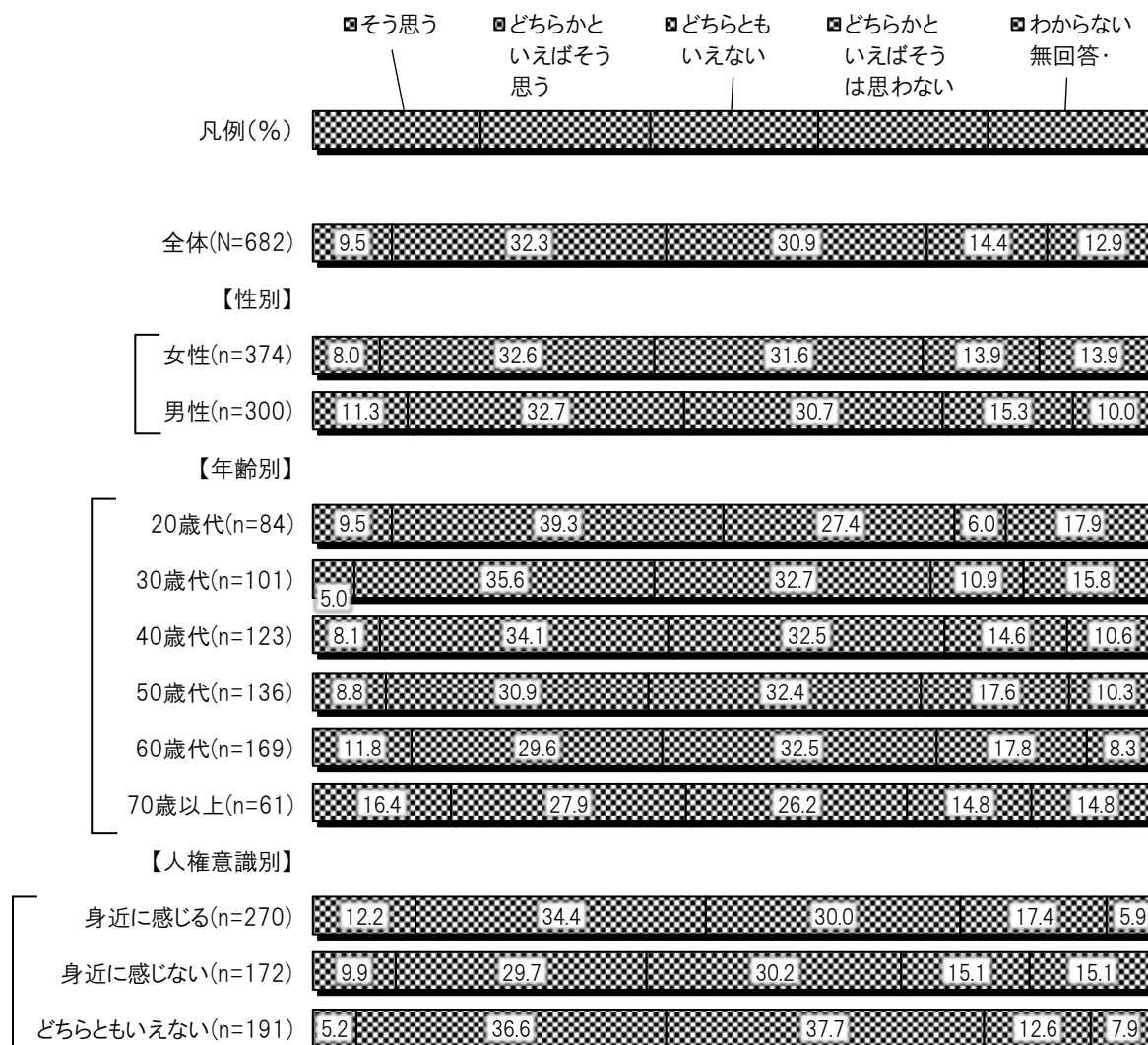


②住民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている

「人権意識は5～6年前に比べて高くなっている」については、「そう思う」が9.5%、「どちらかといえばそう思う」が32.3%で、『賛同意識』は合計で41.8%となっている。一方、「どちらかといえばそうは思わない」は14.4%となっている。

性別では大きな差はみられないが、年齢別では、20歳代で『賛同意識』の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で『賛同意識』の割合が他の層に比べて高くなっている。



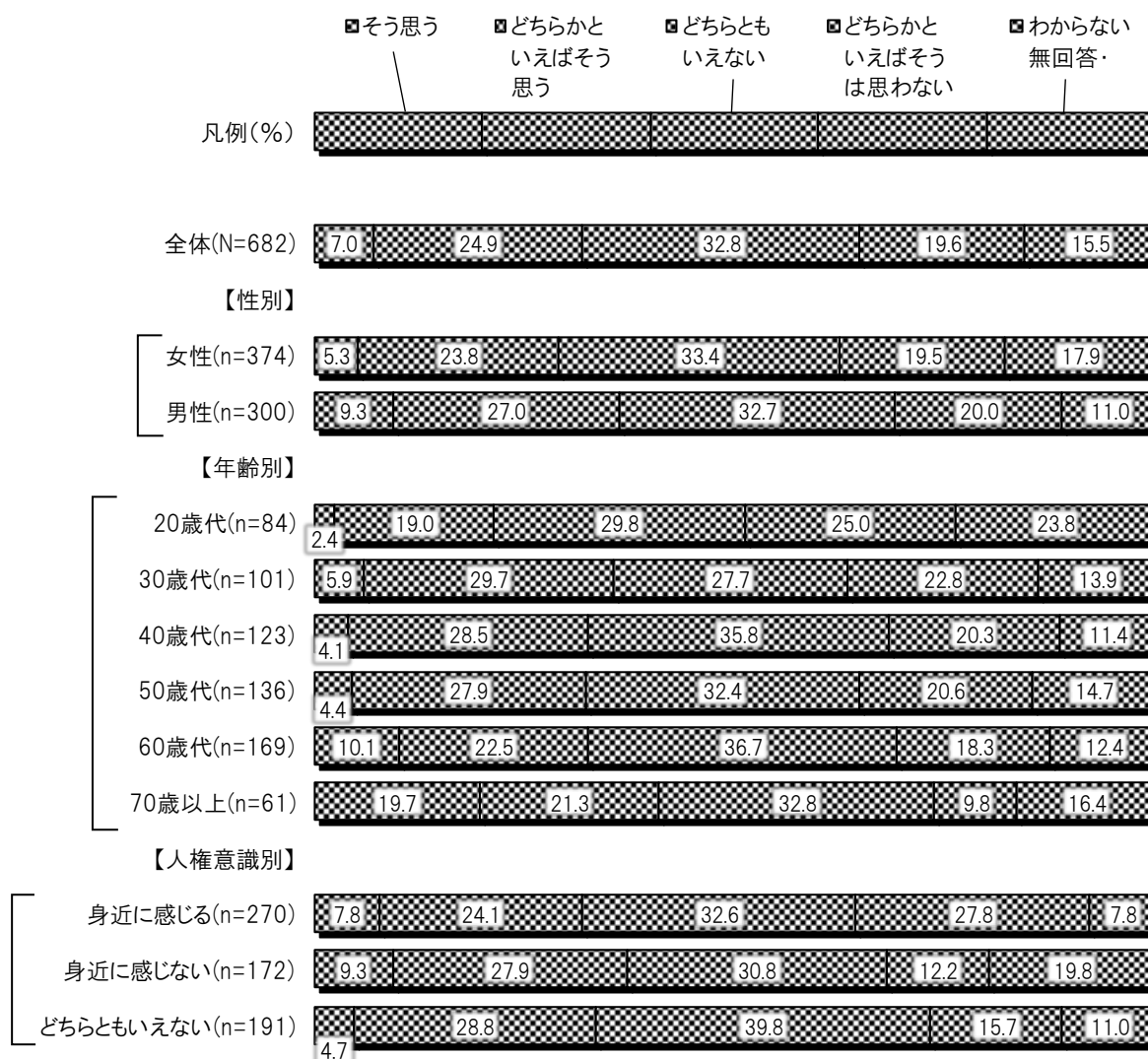
③ 5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている

「人権が侵害されていることは減っている」については、「そう思う」が 7.0%、「どちらかといえばそう思う」が 24.9%で、『賛同意識』は合計で 31.9%となっている。一方、「どちらかといえばそうは思わない」は 19.6%となっている。

性別では、男性は女性に比べ『賛同意識』の割合が高くなっている。

年齢別では、70歳以上で「そう思う」の割合が他の年齢層を大きく上回っており、おおむね若い年齢層ほど「どちらかといえばそうは思わない」の割合が高くなっている。

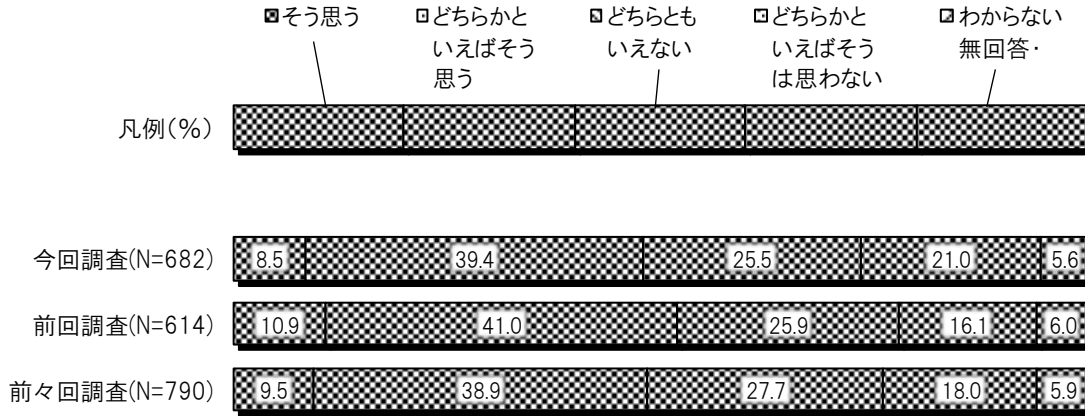
人権意識別では、人権を身近に感じる層で「どちらかといえばそうは思わない」の割合が他の層を大きく上回っている。



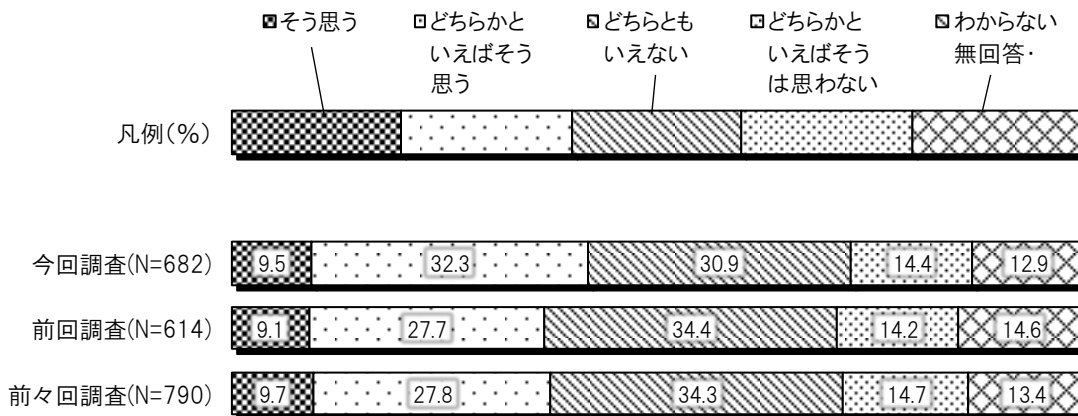
【時系列比較】

前回調査と比べて、「①今の日本は、人権が尊重されている社会である」で「どちらかといえばそうは思わない」、「②住民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている」で「どちらかといえばそう思う」がそれぞれやや増加した。

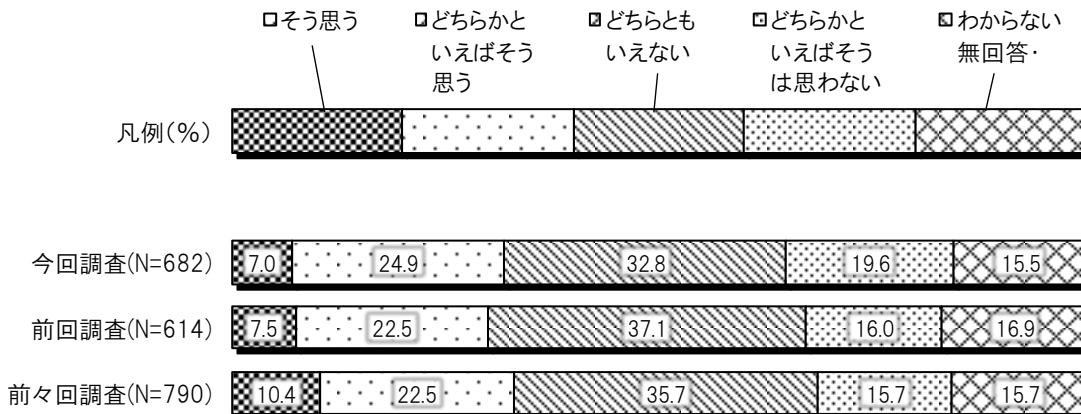
①今の日本は、人権が尊重されている社会である



②住民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている



③5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている

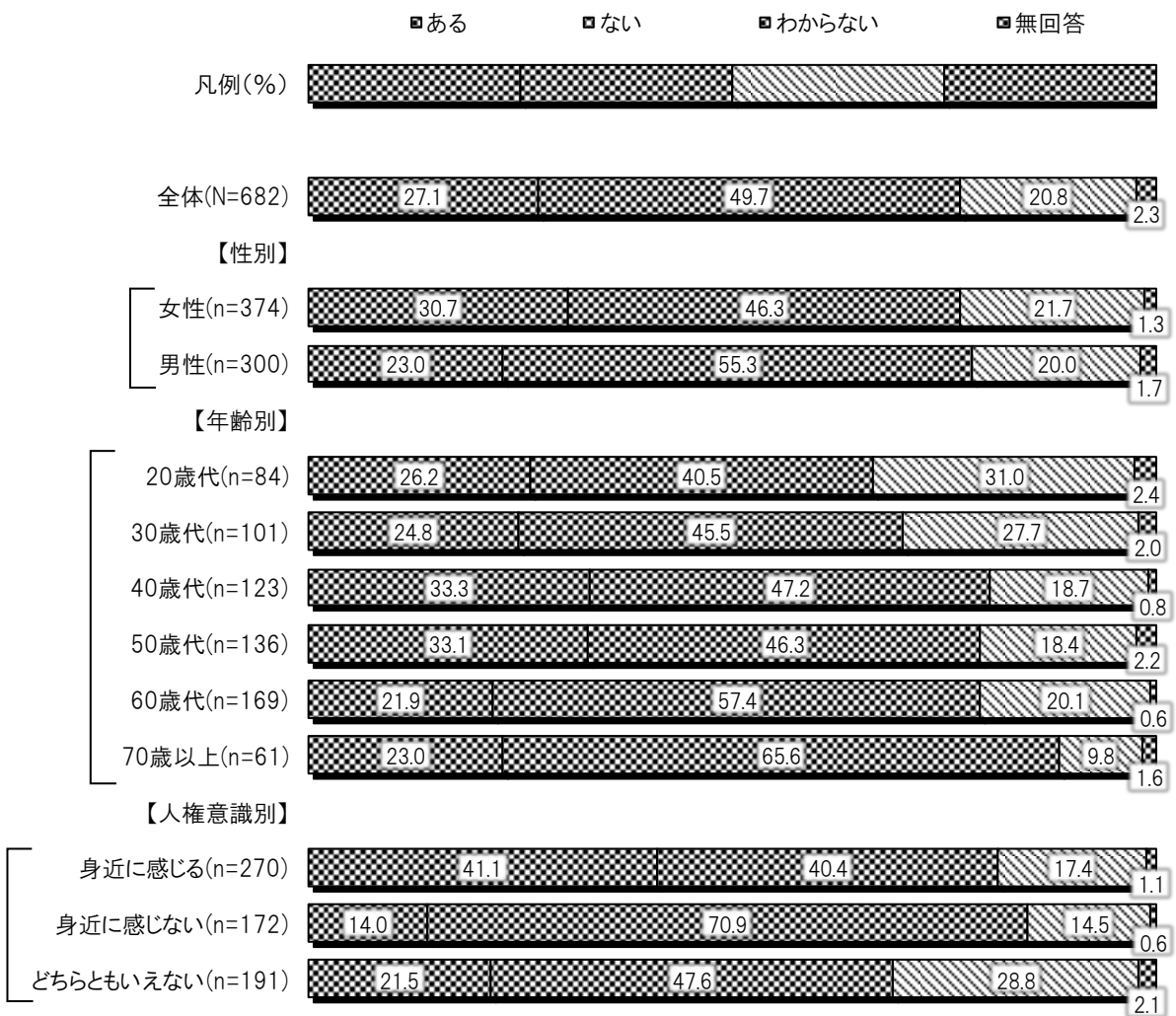


3 人権侵害について

(1) 人権侵害の体験

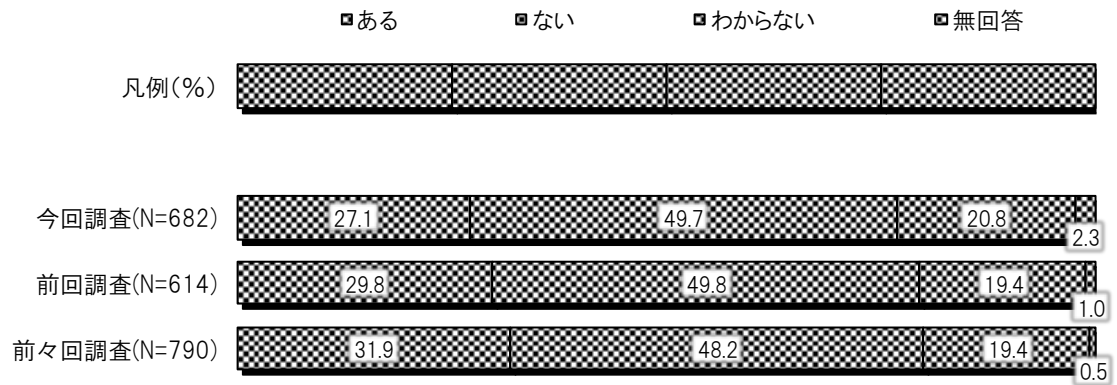
問7. あなたは、今までに自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。
(○は1つ)

人権侵害の体験については、「ある」が27.1%、「ない」が49.7%となっている。
性別では、女性は男性に比べ「ある」の割合が高くなっている。
年齢別では、40～50歳代で「ある」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。
人権意識別では、人権を身近に感じる層で「ある」の割合が他の層を大きく上回っている。



【時系列比較】

前回調査と比べて、「ある」がやや減少した。



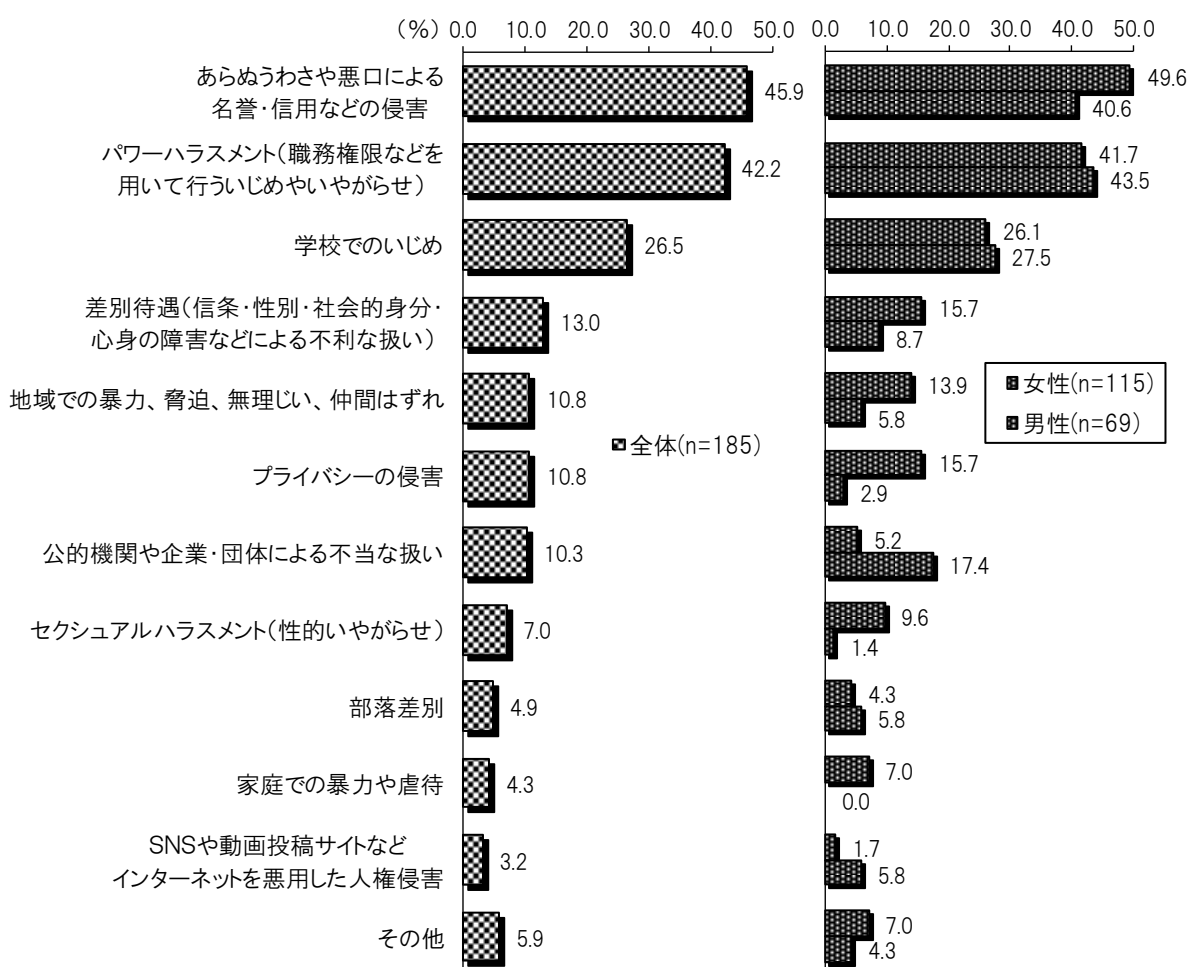
(2) 人権侵害の内容

【問7.で、「1.ある」と答えた方におたずねします】

問7-1. それは、どのような人権侵害でしたか。(〇はいくつでも)

人権侵害の内容については、「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」の割合が45.9%と最も高く、次いで「パワーハラスメント(職務権限などを用いて行ういじめやいやがらせ)」(42.2%)、「学校でのいじめ」(26.5%)、「差別待遇(信条・性別・社会的身分・心身の障害などによる不利な扱い)」(13.0%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」「プライバシーの侵害」などの割合が高く、男性は「公的機関や企業・団体による不当な扱い」の割合が女性を大きく上回っている。



年齢別では、20歳代で「学校でのいじめ」、50歳代で「パワーハラスメント（職務権限などを用いて行ういじめやいやがらせ）」、60歳代で「部落差別」、70歳以上で「地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ」などの割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「パワーハラスメント（職務権限などを用いて行ういじめやいやがらせ）」「地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ」の割合が他の層に比べて高くなっている。

単位 (%)	名誉・信用などの侵害	あらゆる悪口による	権限などを用いて行ういじめ	学校でのいじめ	社会的・心身の障害など	差別待遇（信条・性別など）	地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ	プライバシーの侵害	公的機関や企業・団体による不当な扱い	性的いやがらせ（セクシュアルハラスメント）	部落差別	家庭での暴力や虐待	インターネットを悪用した人権侵害	SNSや動画投稿サイトなど	その他
全体(n=185)	45.9		42.2	26.5	13.0	10.8	10.8	10.3	7.0	4.9	4.3	3.2	5.9		
【年齢別】															
20歳代(n=22)	54.5		22.7	45.5	9.1	9.1	13.6	9.1	13.6	4.5	4.5	4.5	0.0		
30歳代(n=25)	40.0		44.0	36.0	12.0	12.0	8.0	8.0	8.0	0.0	4.0	4.0	12.0		
40歳代(n=41)	43.9		39.0	19.5	12.2	9.8	14.6	7.3	12.2	2.4	0.0	4.9	2.4		
50歳代(n=45)	46.7		62.2	26.7	15.6	8.9	8.9	13.3	2.2	2.2	8.9	4.4	8.9		
60歳代(n=37)	43.2		35.1	21.6	13.5	10.8	5.4	13.5	5.4	13.5	5.4	0.0	8.1		
70歳以上(n=14)	57.1		35.7	7.1	14.3	21.4	21.4	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0		
【人権意識別】															
身近に感じる(n=111)	48.6		45.0	24.3	11.7	14.4	10.8	9.9	8.1	6.3	2.7	2.7	8.1		
身近に感じない(n=24)	37.5		33.3	33.3	12.5	4.2	8.3	12.5	4.2	8.3	8.3	4.2	0.0		
どちらともいえない(n=41)	48.8		39.0	26.8	17.1	4.9	12.2	9.8	7.3	0.0	7.3	4.9	4.9		

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計（年齢別など）において最も高い割合を示している。

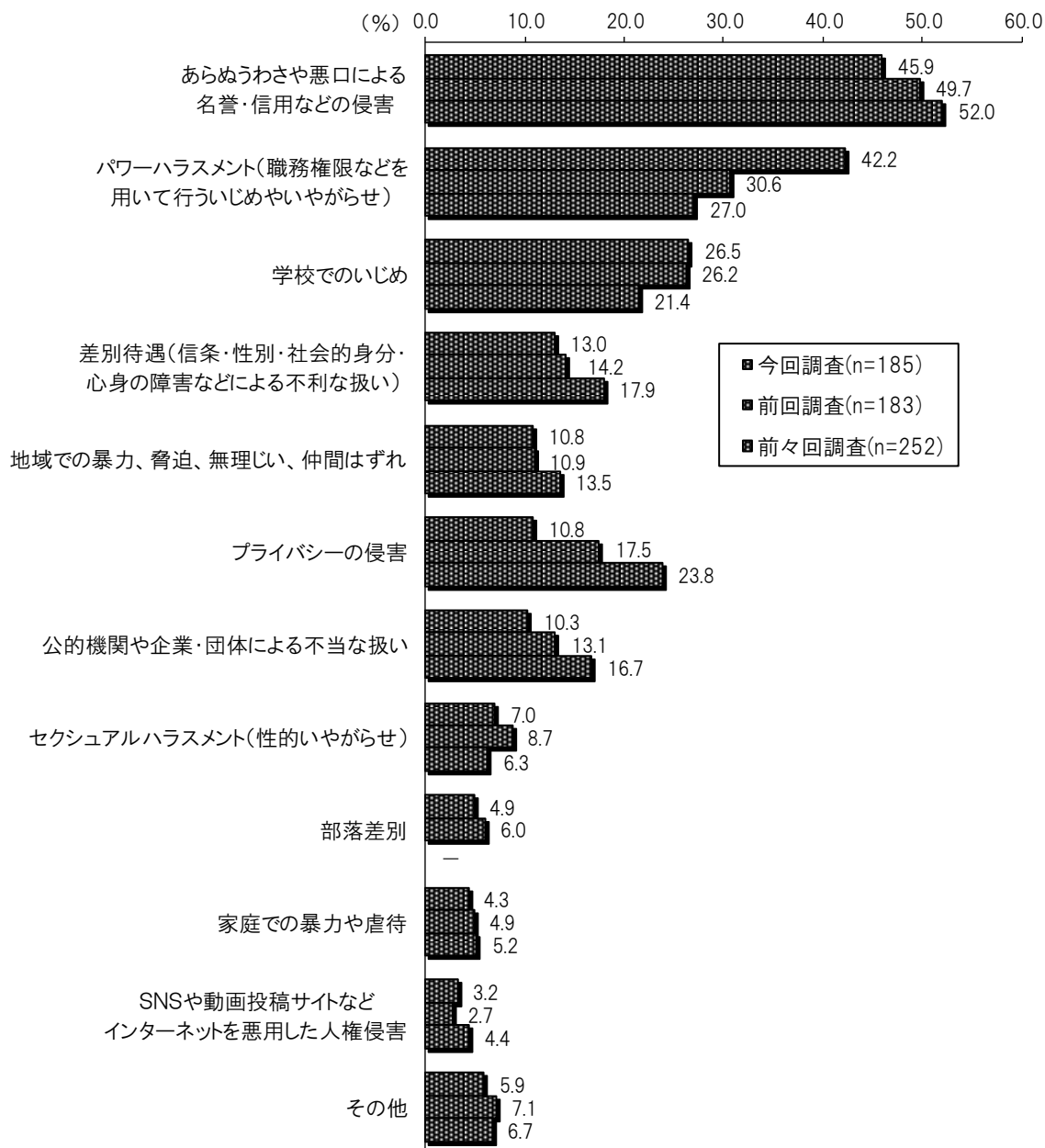
（例／年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。）

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。

また「無回答」は表記から省略している。（本報告書においては、以下同様）

【時系列比較】

前回調査と比べて、「あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害」「プライバシーの侵害」が減少し、「パワーハラスメント（職務権限などを用いて行ういじめやいやがらせ）」が大きく増加した。

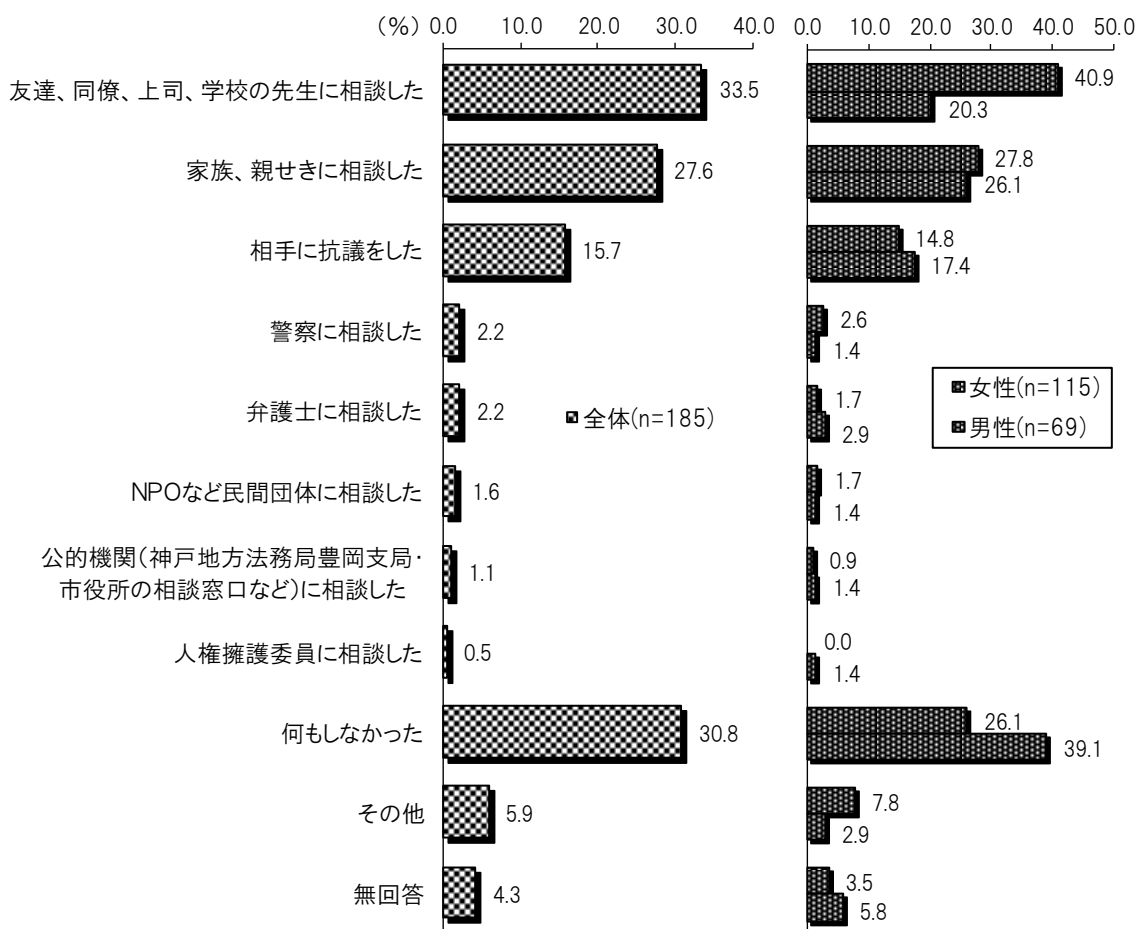


(3) 人権侵害を受けたときの対応

【問7.で、「1.ある」と答えた方におたずねします】
 問7-2. 人権侵害を受けたとき、あなたはどうしましたか。(〇はいくつでも)

人権侵害を受けたときの対応については、「友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」の割合が33.5%と最も高く、次いで「家族、親せきに相談した」(27.6%)、「相手に抗議をした」(15.7%)の順となっている。一方、約3割(30.8%)は「何もしなかった」と回答している。

性別では、女性は「友達、同僚、上司、学校の先生に相談した」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「何もしなかった」の割合が高くなっている。



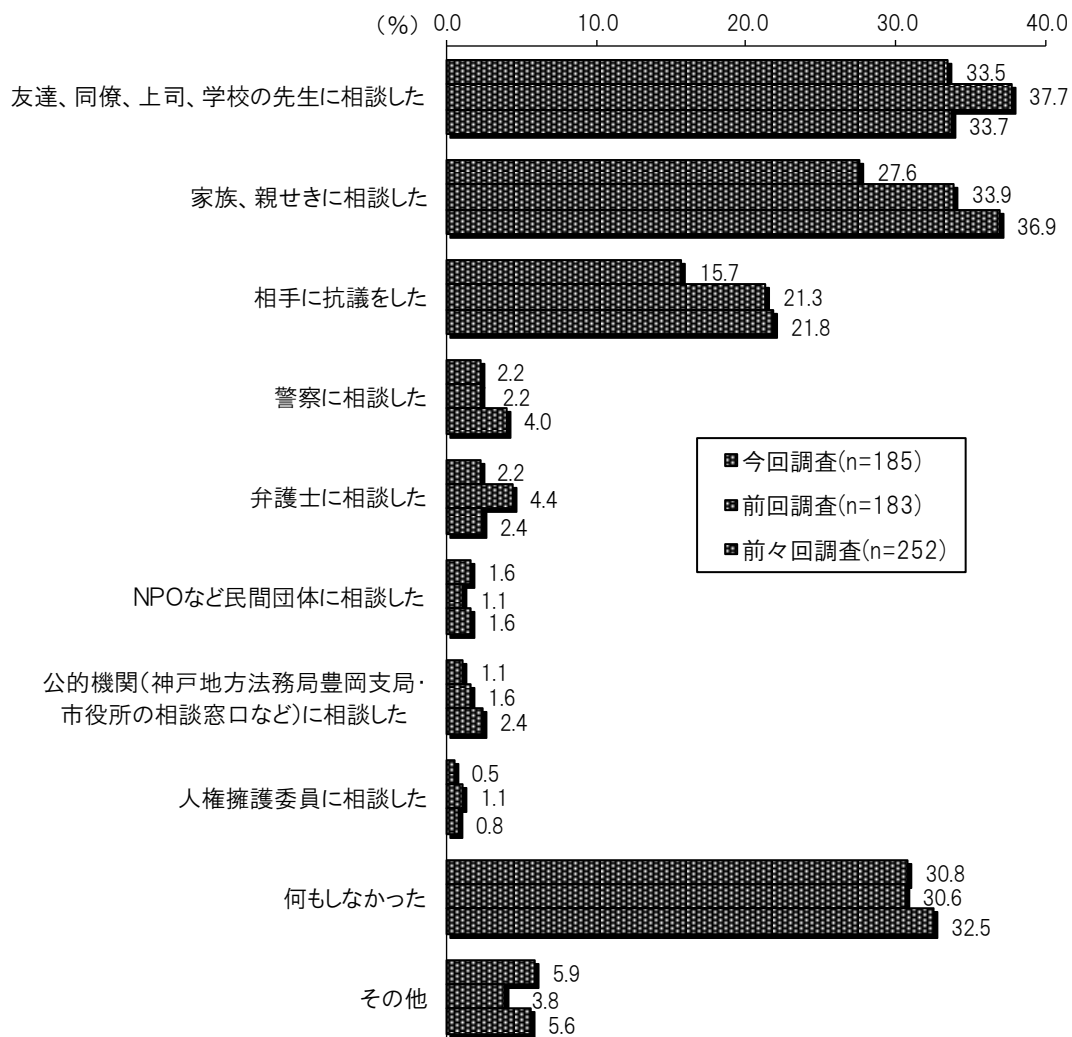
年齢別では、20歳代で「家族、親せきに相談した」、30歳代で「相手に抗議をした」、70歳以上で「何もしなかった」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「家族、親せきに相談した」の割合が他の層を大きく上回っている。

単位 (%)	友達、同僚、上司、学校の先生に相談した	家族、親せきに相談した	相手に抗議をした	警察に相談した	弁護士に相談した	NPOなど民間団体に相談した	岡支局・市役所の相談窓口など	公的機関（神戸方法事務局）	人権擁護委員に相談した	何もしなかった	その他
全体(n=185)	33.5	27.6	15.7	2.2	2.2	1.6	1.1	0.5	30.8	5.9	
【年齢別】											
20歳代(n=22)	45.5	54.5	9.1	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	
30歳代(n=25)	44.0	24.0	32.0	4.0	4.0	0.0	4.0	0.0	24.0	12.0	
40歳代(n=41)	34.1	29.3	9.8	2.4	0.0	2.4	0.0	0.0	34.1	2.4	
50歳代(n=45)	42.2	20.0	8.9	4.4	2.2	0.0	0.0	0.0	37.8	2.2	
60歳代(n=37)	18.9	27.0	24.3	0.0	2.7	5.4	2.7	2.7	24.3	13.5	
70歳以上(n=14)	7.1	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	7.1	
【人権意識別】											
身近に感じる(n=111)	36.9	30.6	17.1	3.6	3.6	1.8	1.8	0.9	26.1	2.7	
身近に感じない(n=24)	37.5	20.8	16.7	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	29.2	8.3	
どちらともいえない(n=41)	24.4	17.1	9.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	46.3	12.2	

【時系列比較】

前回調査と比べて、「家族、親せきに相談した」「相手に抗議をした」が減少した。



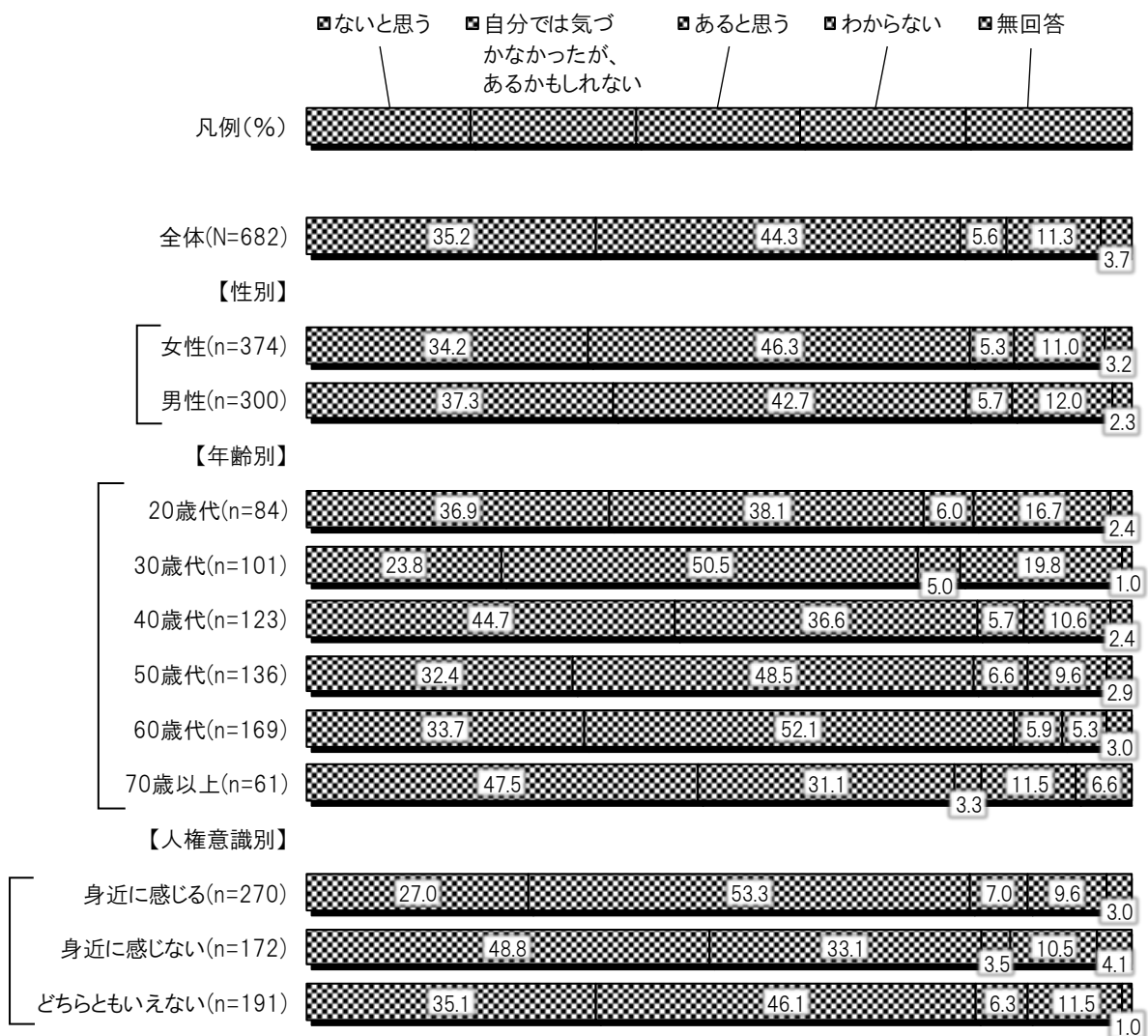
4 他人の人権を侵害した経験

問8. あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがありますか。(○は1つ)

他人の人権を侵害した経験については、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が44.3%、「あると思う」が5.6%で、合計約半数(49.9%)が『あると思う』と回答している。一方、「ないと思う」は35.2%となっている。

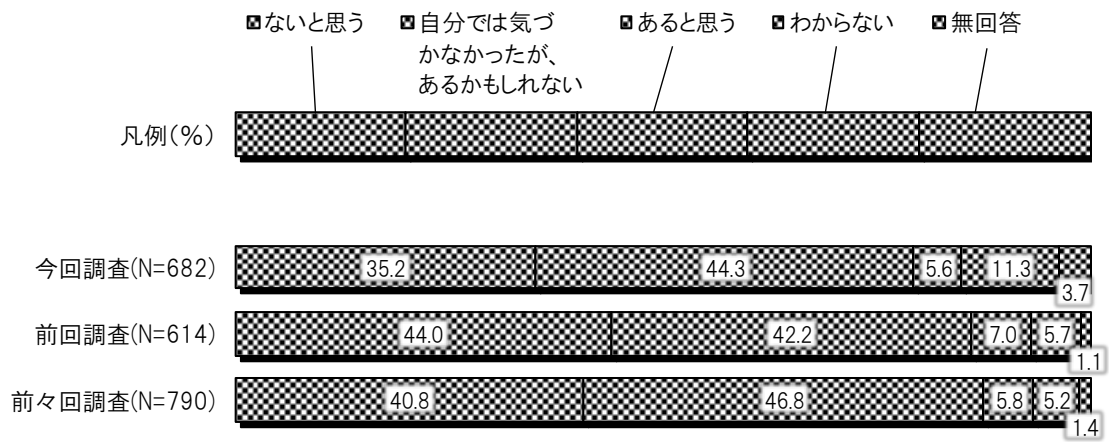
性別では大きな差はみられないが、年齢別では、30歳代や50～60歳代で「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」、人権を身近に感じない層で「ないと思う」の割合がそれぞれ他の層に比べて高くなっている。



【時系列比較】

前回調査と比べて、「ないと思う」が減少し、「わからない」が増加した。

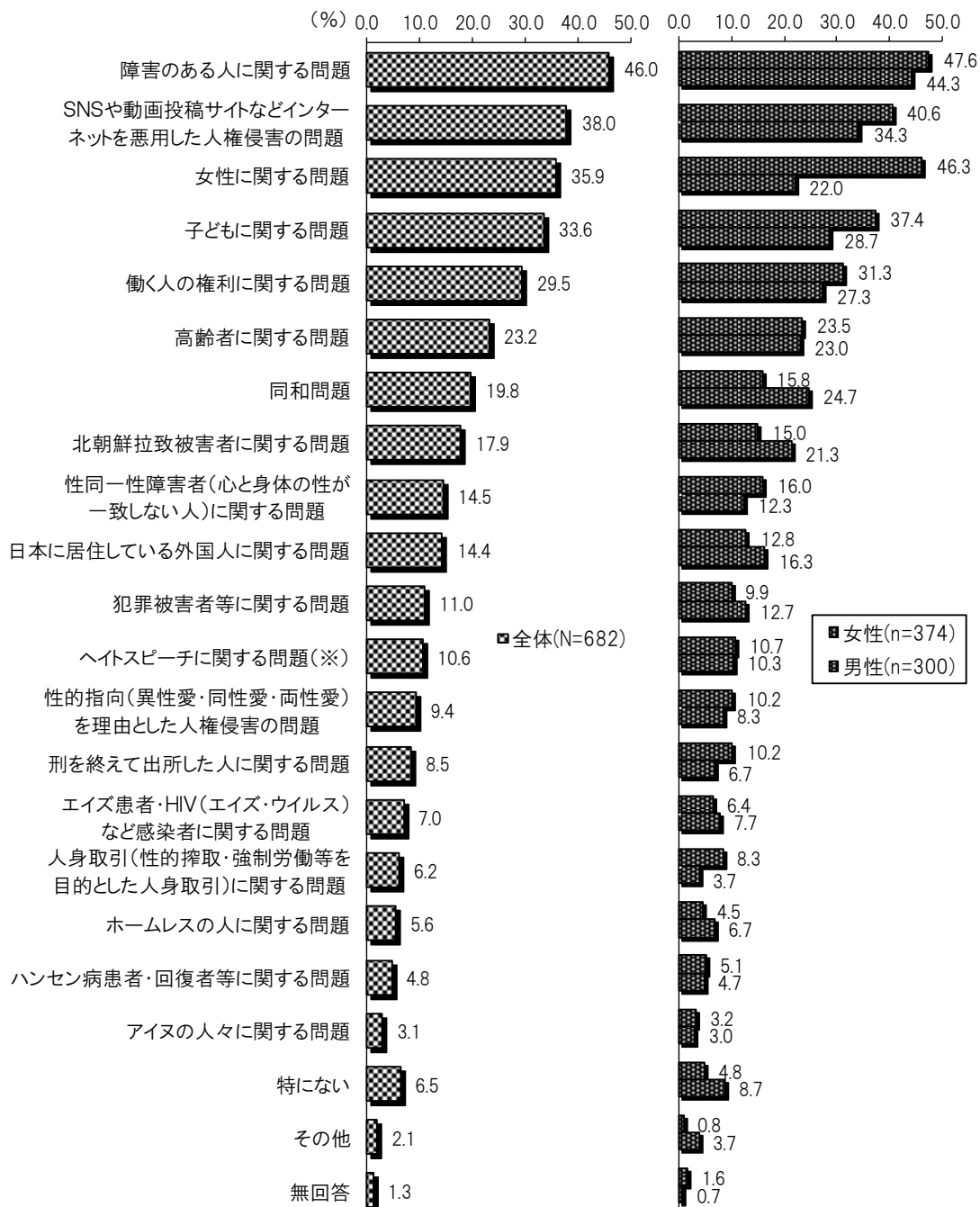


5 関心のある人権問題

問9. 日本の社会には人権にかかわるさまざまな問題がありますが、あなたが特に関心のあるものはどれですか。(〇はいくつでも)

関心のある人権問題については、「障害のある人に関する問題」の割合が46.0%と最も高く、次いで「SNSや動画投稿サイトなどインターネットを悪用した人権侵害の問題」(38.0%)、「女性に関する問題」(35.9%)、「子どもに関する問題」(33.6%)、「働く人の権利に関する問題」(29.5%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「女性に関する問題」「子どもに関する問題」などの割合が高く、男性は「同和問題」「北朝鮮拉致被害者に関する問題」などの割合が女性を上回っている。



※特定の国の出身又はその子孫であることのみを理由に日本社会から追い出そうとしたり、危害を加えようとするなど一方的な内容の言動(ヘイトスピーチ)に関する問題

年齢別では、20歳代で「性的指向（異性愛・同性愛・両性愛）を理由とした人権侵害の問題」、30歳代以下で「子どもに関する問題」、50～60歳代で「障害のある人に関する問題」、60歳代以上で「高齢者に関する問題」「北朝鮮拉致被害者に関する問題」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

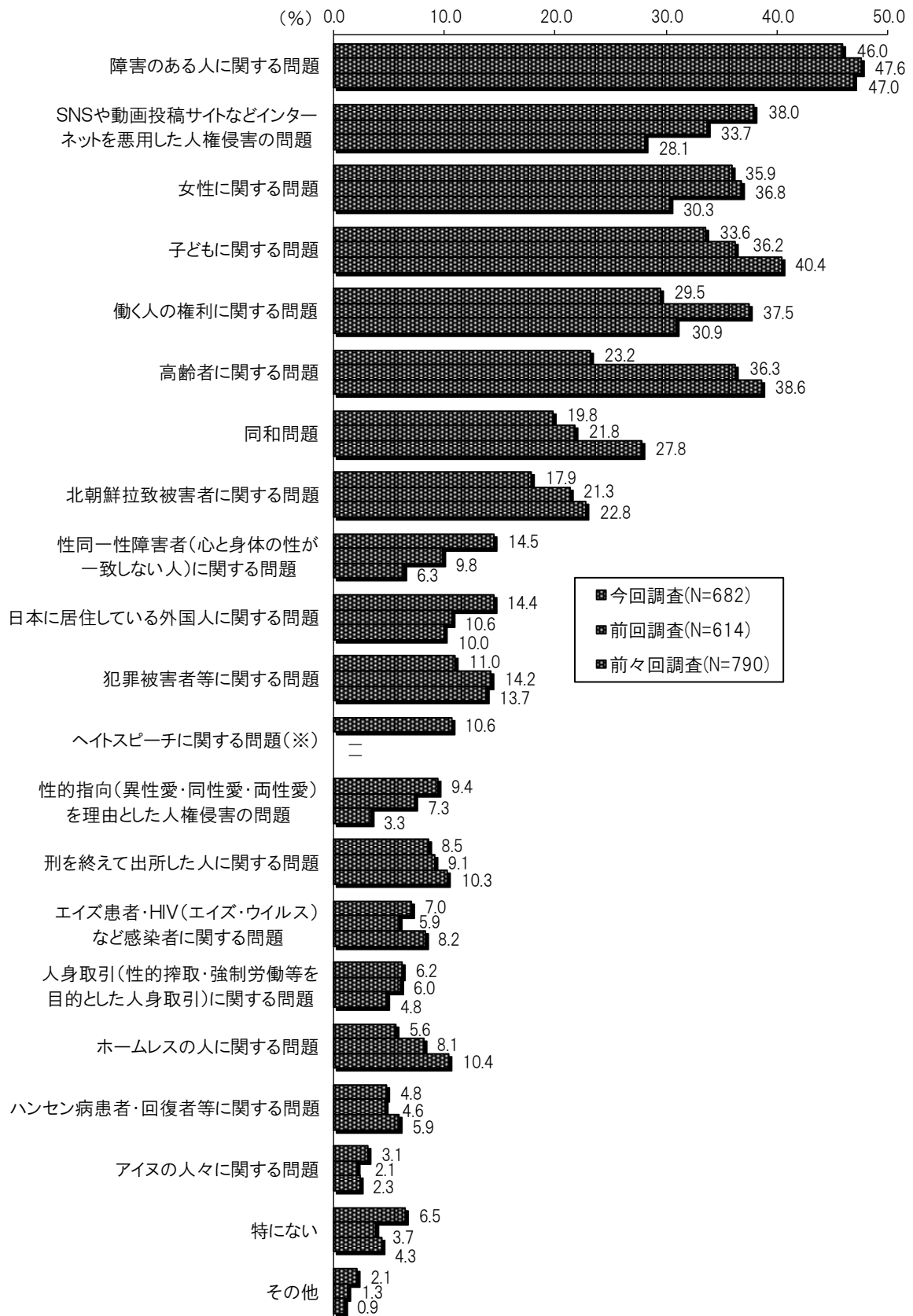
単位 (%)	障害のある人に関する問題	SNSや動画投稿サイトなどインターネットを悪用した人権侵害の問題	女性に関する問題	子どもに関する問題	働く人の権利に関する問題	高齢者に関する問題	同和問題	北朝鮮拉致被害者に関する問題	同性愛者（心と身体が一致しない人）に関する問題	日本に居住している外国人に関する問題	犯罪被害者等に関する問題
全体(N=682)	46.0	38.0	35.9	33.6	29.5	23.2	19.8	17.9	14.5	14.4	11.0
【年齢別】											
20歳代(n=84)	39.3	41.7	46.4	41.7	29.8	19.0	4.8	8.3	20.2	10.7	8.3
30歳代(n=101)	38.6	33.7	39.6	46.5	34.7	10.9	13.9	12.9	12.9	19.8	5.9
40歳代(n=123)	41.5	39.8	27.6	31.7	27.6	18.7	20.3	10.6	18.7	16.3	14.6
50歳代(n=136)	52.2	44.9	45.6	33.1	32.4	23.5	23.5	19.1	15.4	11.8	14.7
60歳代(n=169)	54.4	36.7	33.1	29.6	29.6	31.4	24.3	28.4	12.4	16.6	11.8
70歳以上(n=61)	41.0	24.6	14.8	14.8	16.4	36.1	26.2	23.0	4.9	6.6	6.6

単位 (%)	ヘイトスピーチに関する問題(※)	性的指向（異性愛・同性愛）を理由とした人権侵害の問題	刑を終えて出所した人に関する問題	エイズ患者・HIV（エイズウイルス）など感染者に関する問題	労働等を目的とした人身取引（性的搾取・強制）に関する問題	ホームレスの人に関する問題	ハンセン病患者・回復者等に関する問題	アイヌの人々に関する問題	特になし	その他
全体(N=682)	10.6	9.4	8.5	7.0	6.2	5.6	4.8	3.1	6.5	2.1
【年齢別】										
20歳代(n=84)	10.7	20.2	4.8	2.4	7.1	4.8	4.8	3.6	6.0	3.6
30歳代(n=101)	11.9	8.9	10.9	3.0	7.9	1.0	1.0	3.0	9.9	2.0
40歳代(n=123)	9.8	9.8	6.5	8.1	3.3	6.5	4.1	0.8	3.3	1.6
50歳代(n=136)	7.4	9.6	8.8	12.5	5.1	1.5	4.4	2.9	4.4	0.0
60歳代(n=169)	14.2	6.5	10.1	7.7	6.5	9.5	8.3	5.3	4.7	3.6
70歳以上(n=61)	6.6	3.3	8.2	3.3	8.2	9.8	4.9	1.6	18.0	1.6

※特定の国の出身又はその子孫であることのみを理由に日本社会から追い出そうとしたり、危害を加えようとするなど一方的な内容の言動（ヘイトスピーチ）に関する問題

【時系列比較】

前回調査と比べて、「働く人の権利に関する問題」「高齢者に関する問題」が減少し、「性同一性障害者（心と身体の性が一致しない人）に関する問題」がやや増加した。



※特定の国の出身又はその子孫であることのみを理由に日本社会から追い出そうとしたり、危害を加えようとするなど一方的な内容の言動(ヘイトスピーチ)に関する問題

6 人権三法の認知状況

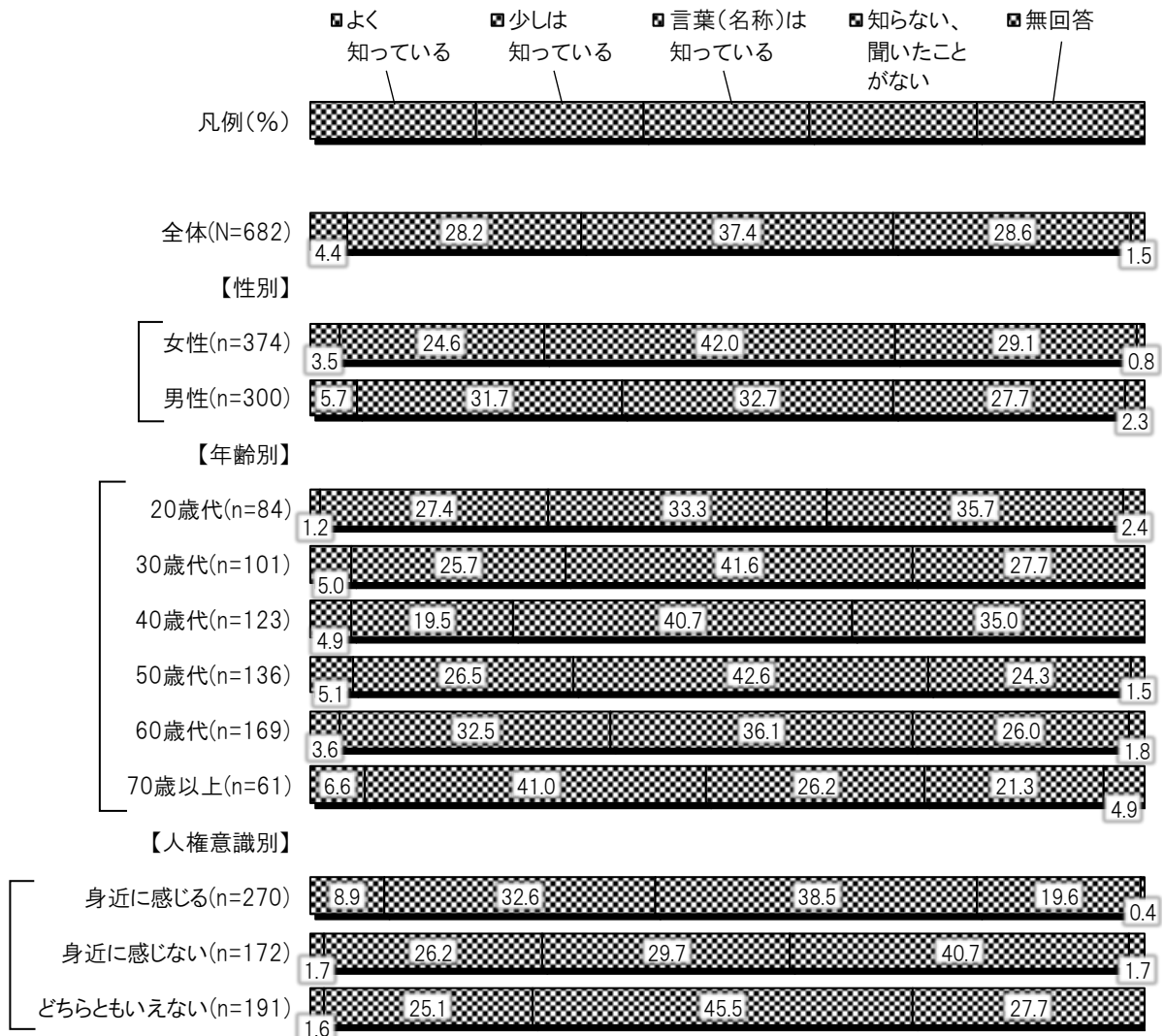
問 10. あなたは、平成 28 (2016) 年度に施行された人権に関する 3 つの法律 (部落差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、障害者差別解消法【人権三法】) について知っていますか。(○は1つ)

人権三法の認知状況については、「よく知っている」が 4.4%、「少しは知っている」が 28.2%、「言葉(名称)は知っている」が 37.4%で、合計 7割(70.0%)が『知っている』と回答している。一方、約 3割(28.6%)は「知らない、聞いたことがない」と回答している。

性別では、女性は男性に比べ「言葉(名称)は知っている」の割合が高く、男性は「少しは知っている」の割合が女性を上回っている。

年齢別では、20歳代や 40歳代で「知らない、聞いたことがない」、60歳代以上で「少しは知っている」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「よく知っている」「少しは知っている」、人権を身近に感じない層で「知らない、聞いたことがない」の割合がそれぞれ他の層に比べて高くなっている。

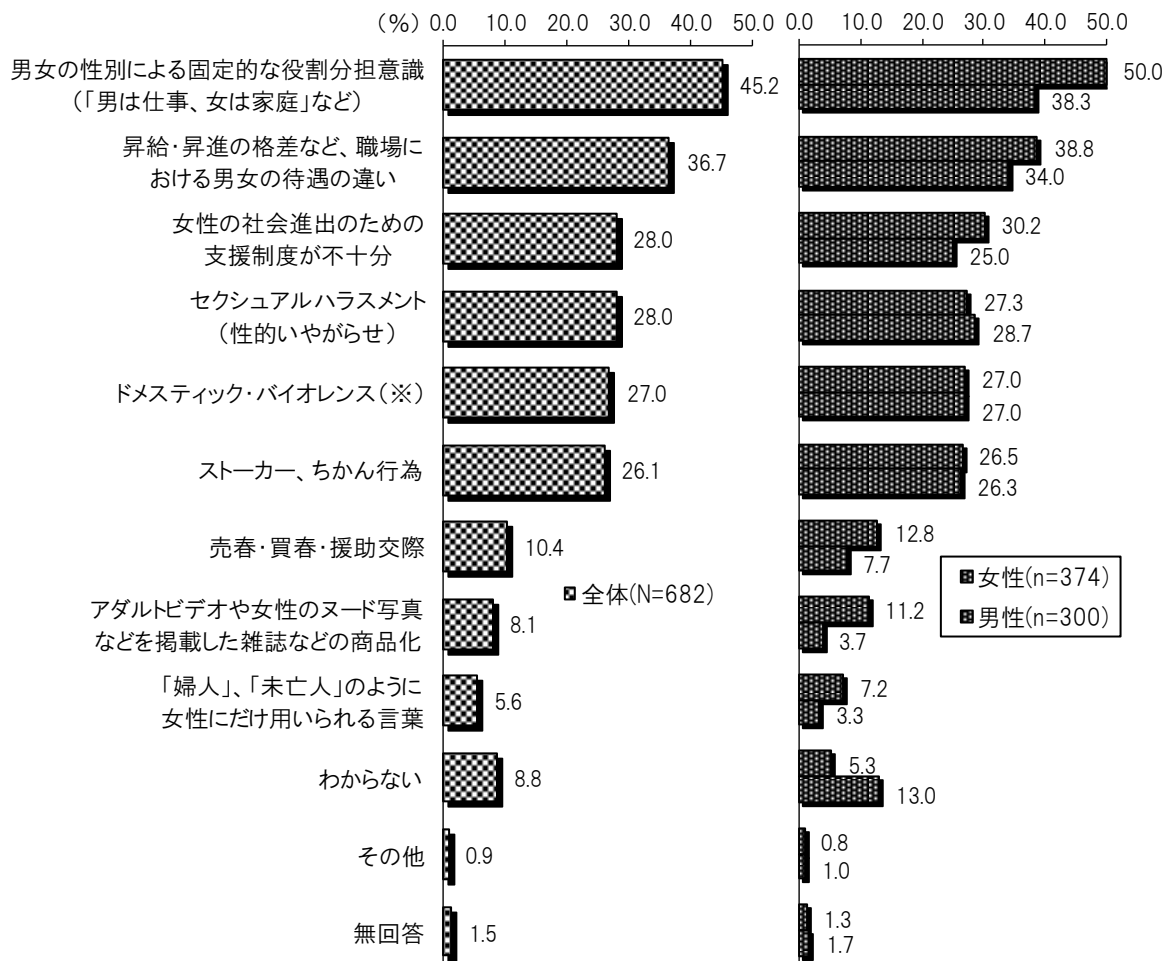


7 女性の人権に関して問題があると思うこと

問 11. 女性に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(○は3つまで)

女性の人権に関して問題があると思うことについては、「男女の性別による固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」の割合が45.2%と最も高く、次いで「昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」（36.7%）、「女性の社会進出のための支援制度が不十分」「セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）」（各 28.0%）の順となっている。

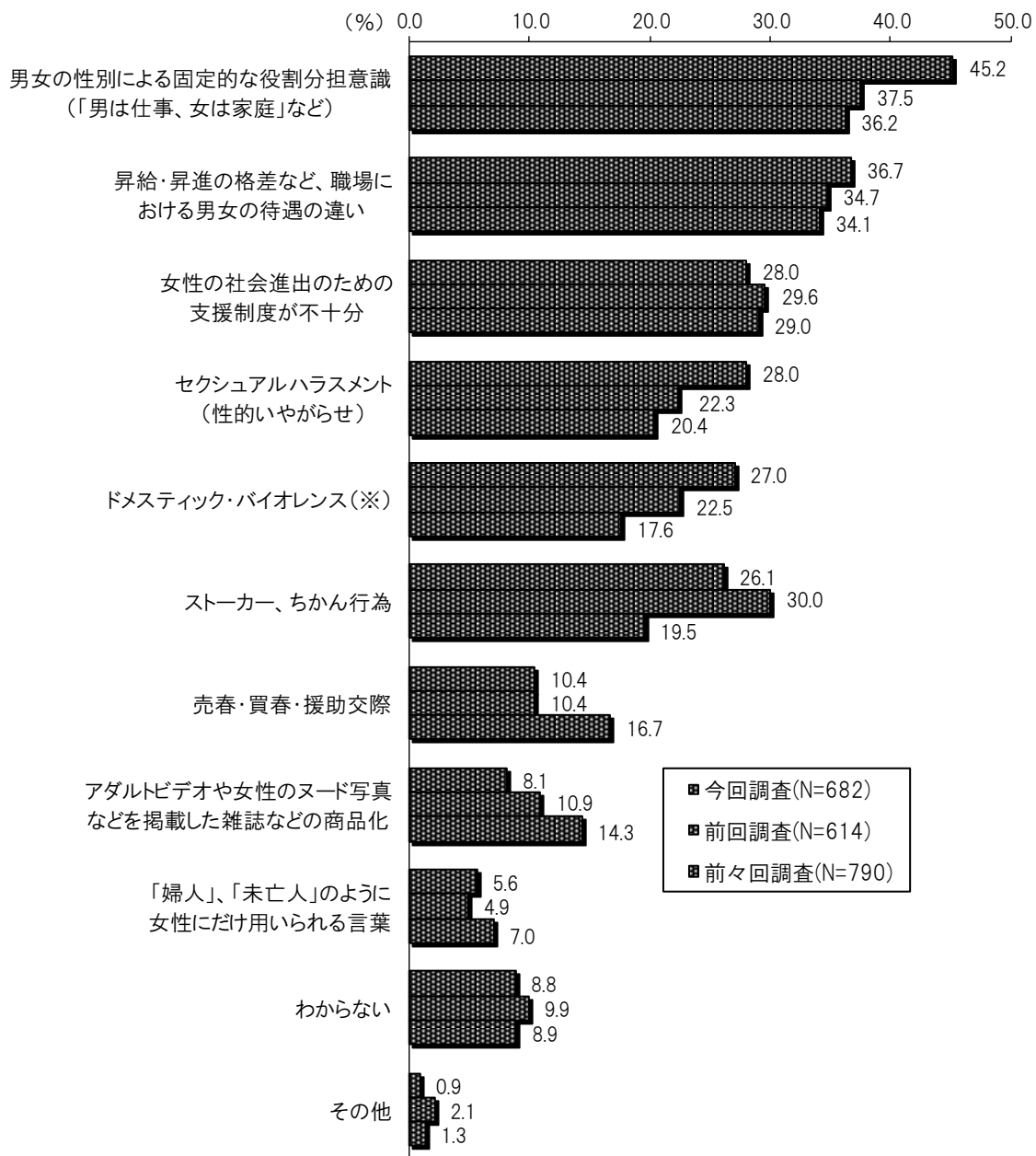
性別では、女性は男性に比べ「男女の性別による固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」「アダルトビデオや女性のヌード写真などを掲載した雑誌などの商品化」などの割合が高く、男性は「わからない」の割合が女性を上回っている。



※ドメスティック・バイオレンス(DV:配偶者や恋人など親しい人からの暴力)

【時系列比較】

前回調査と比べて、「男女の性別による固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）」「セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）」が増加した。



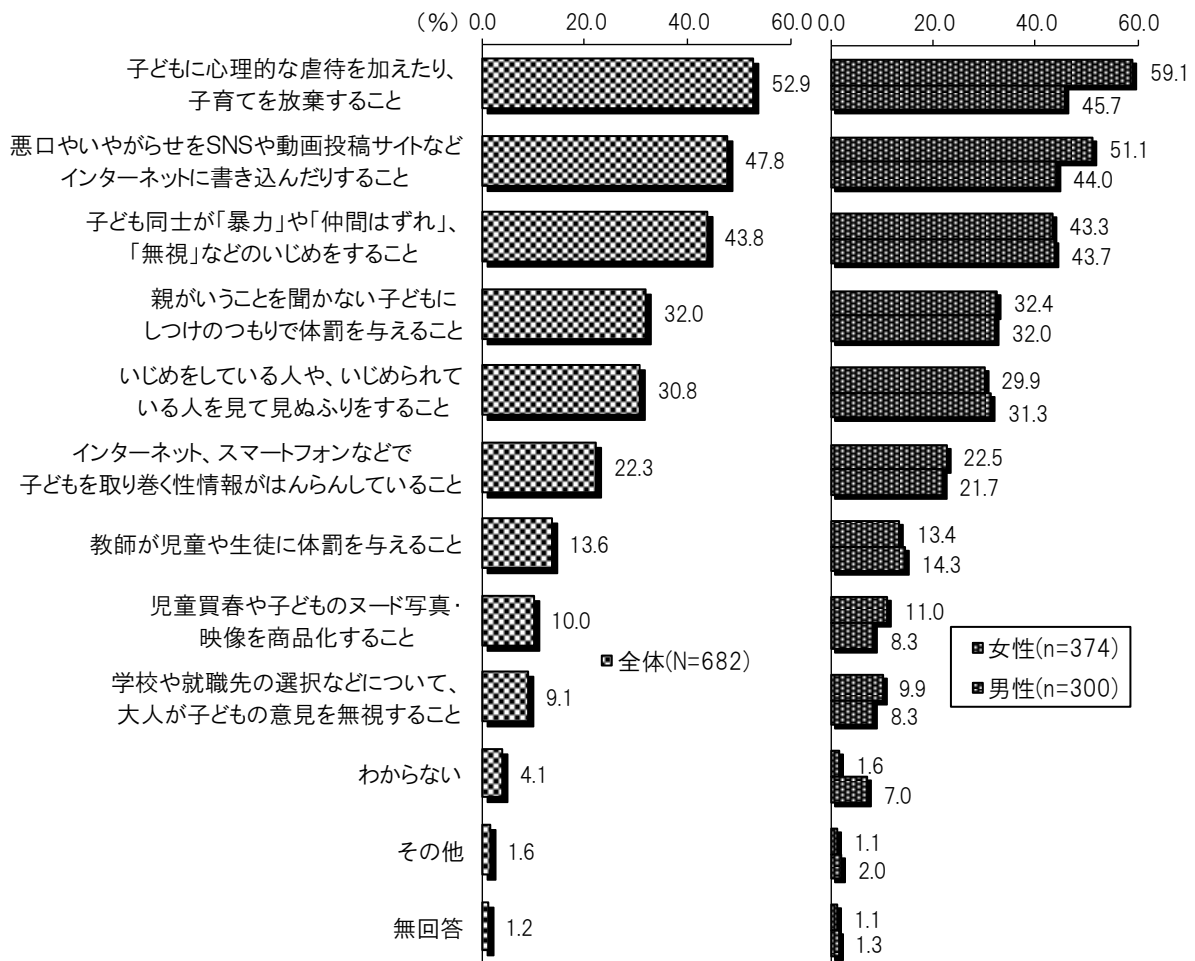
※ドメスティック・バイオレンス(DV:配偶者や恋人など親しい人からの暴力)

8 子どもの人権に関して問題があると思うこと

問 12. 子どもに関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

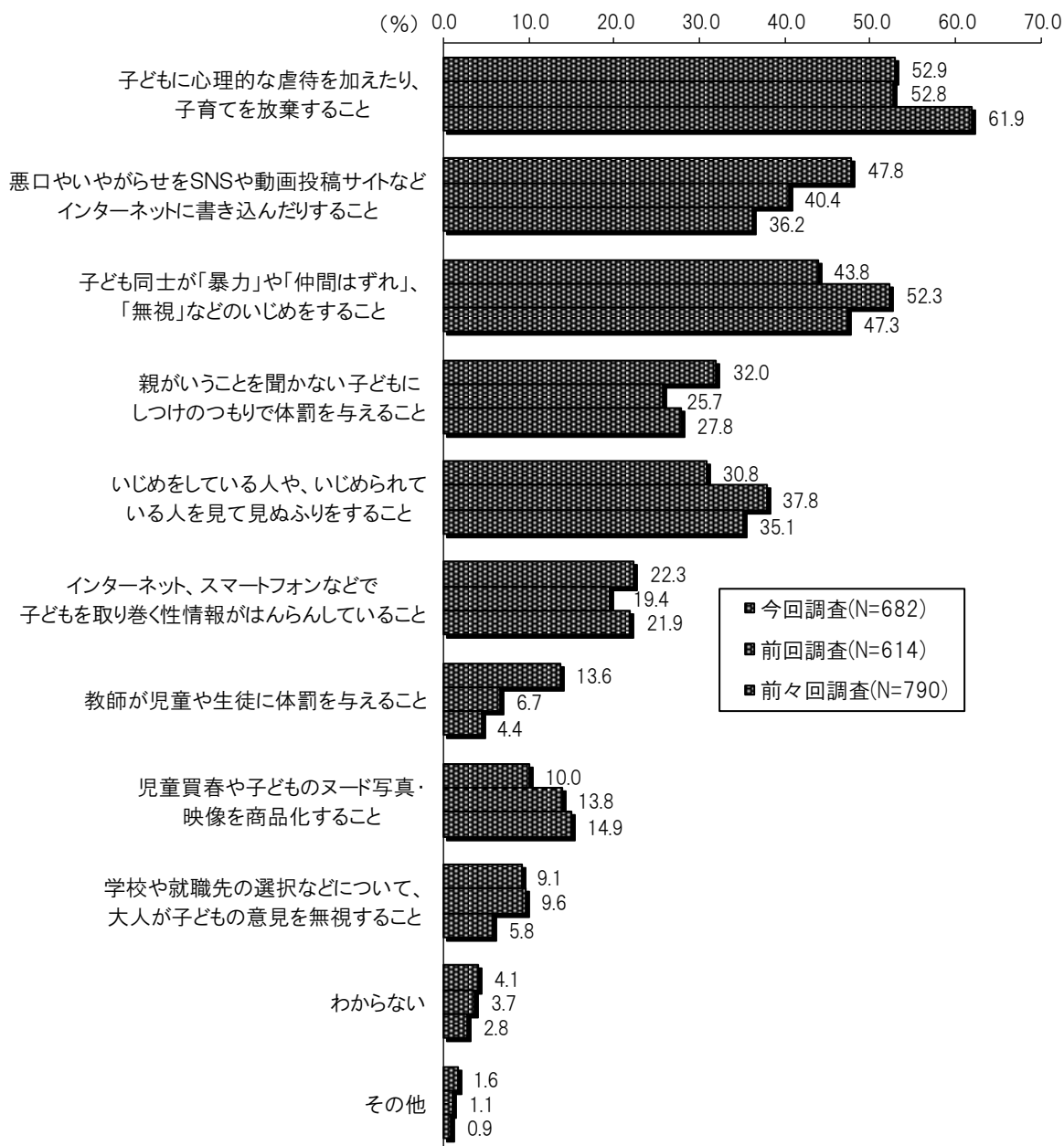
子どもの人権に関して問題があると思うことについては、「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」の割合が52.9%と最も高く、次いで「悪口やいやがらせをSNSや動画投稿サイトなどインターネットに書き込んだりすること」(47.8%)、「子ども同士が暴力や仲間はずれ、無視などのいじめをすること」(43.8%)、「親がいうことを聞かない子どもにしつけのつもりで体罰を与えること」(32.0%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること」「悪口やいやがらせをSNSや動画投稿サイトなどインターネットに書き込んだりすること」の割合が高くなっている。



【時系列比較】

前回調査と比べて、「子ども同士が暴力や仲間はずれ、無視などのいじめをすること」「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること」が減少し、「悪口やいやがらせをSNSや動画投稿サイトなどインターネットに書き込んだりすること」「親がいうことを聞かない子どもにしつけのつもりで体罰を与えること」が増加した。

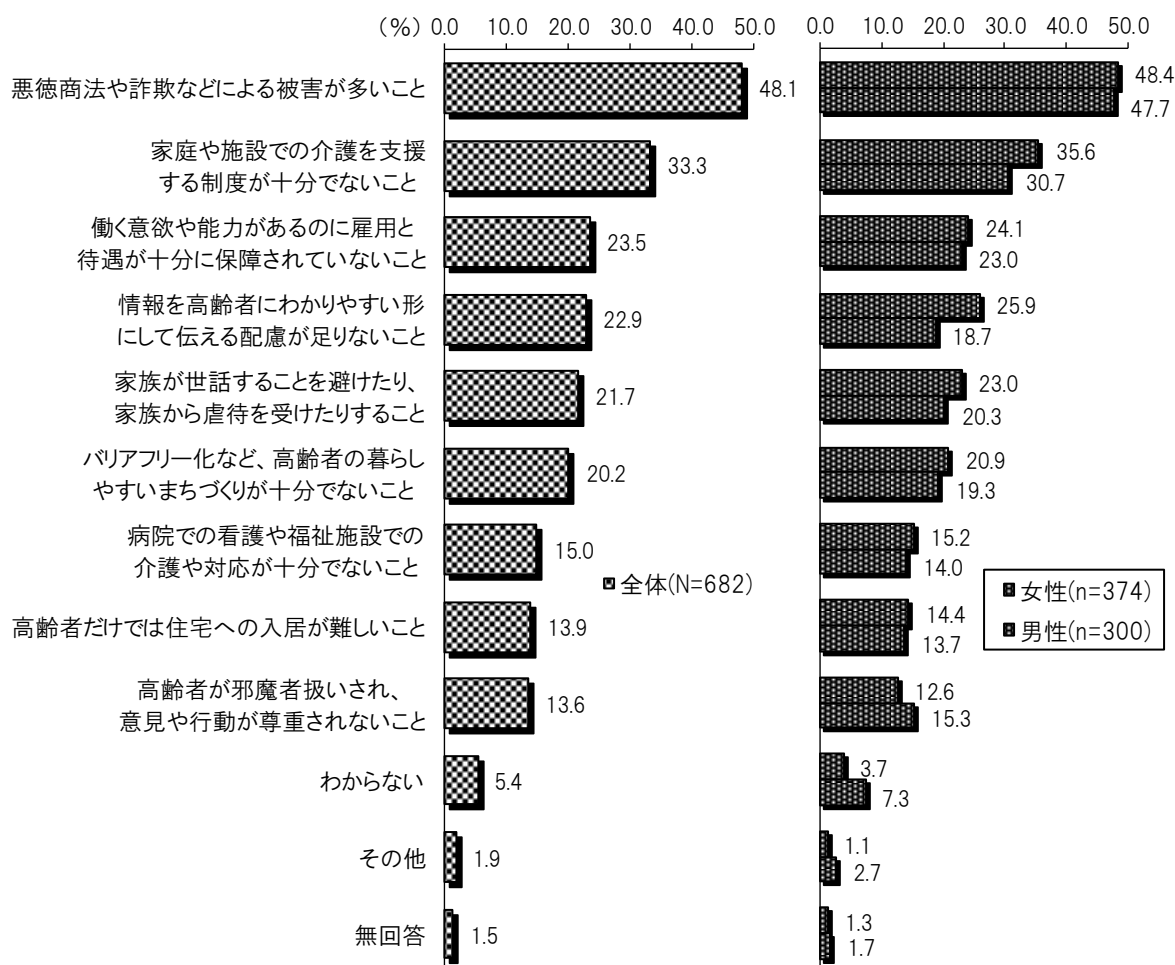


9 高齢者の人権に関して問題があると思うこと

問 13. 高齢者に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

高齢者の人権に関して問題があると思うことについては、「悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと」の割合が48.1%と最も高く、次いで「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」(33.3%)、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと」(23.5%)、「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」(22.9%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」の割合が高くなっている。



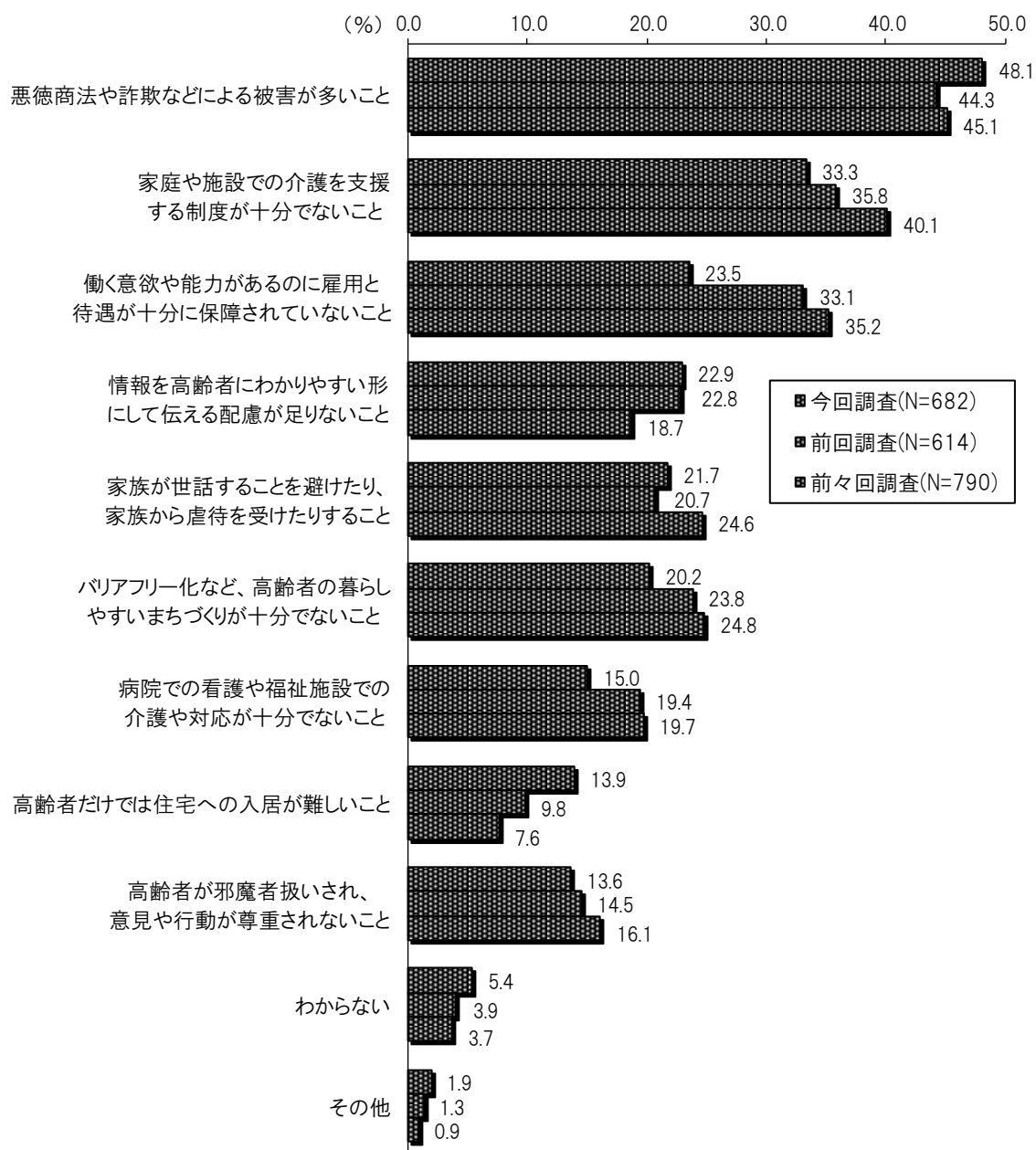
年齢別では、20歳代で「高齢者が邪魔者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと」、30歳代で「家族が世話することを避けたり、家族から虐待を受けたりすること」、50～60歳代で「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと」、70歳以上で「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと」「病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと」などの割合が他の層に比べてやや高くなっている。

単位 (%)	が悪徳商法や詐欺などによる被害	家庭や施設での介護を支援する	いとくが欲や十分に保障されたい雇用	働いて意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分でないこと	情報が高齢者にわかりやすい形	家族が世話することを避けたり	家族から虐待を受けたり	暮らしやすくないこと	バリアフリー化など、高齢者の	病院での看護や福祉施設での介	難しいこと	高齢者だけでは住宅への入居が	高齢者が邪魔者扱いされ、意見	わからない	その他
全体(N=682)	48.1	33.3	23.5	22.9	21.7	20.2	15.0	13.9	13.6	5.4	1.9				
【年齢別】															
20歳代(n=84)	52.4	34.5	15.5	22.6	21.4	16.7	19.0	8.3	25.0	10.7	1.2				
30歳代(n=101)	45.5	29.7	20.8	18.8	27.7	20.8	11.9	16.8	6.9	10.9	2.0				
40歳代(n=123)	52.8	36.6	23.6	17.1	22.8	12.2	15.4	17.9	13.0	3.3	0.0				
50歳代(n=136)	53.7	33.1	27.9	22.8	18.4	22.8	19.1	14.7	13.2	2.2	0.7				
60歳代(n=169)	39.1	34.3	28.4	24.3	20.7	24.9	12.4	13.6	11.2	3.6	3.6				
70歳以上(n=61)	47.5	29.5	14.8	36.1	19.7	19.7	9.8	9.8	19.7	6.6	3.3				
【人権意識別】															
身近に感じる(n=270)	47.0	37.8	27.4	20.7	23.3	23.7	19.3	14.1	17.0	1.9	3.3				
身近に感じない(n=172)	45.9	29.7	19.8	24.4	22.1	14.5	7.6	14.5	13.4	8.1	1.2				
どちらともいえない(n=191)	53.9	34.6	24.1	23.6	20.9	22.0	15.2	13.6	10.5	4.2	0.5				

【時系列比較】

前回調査と比べて、「働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと」が減少した。

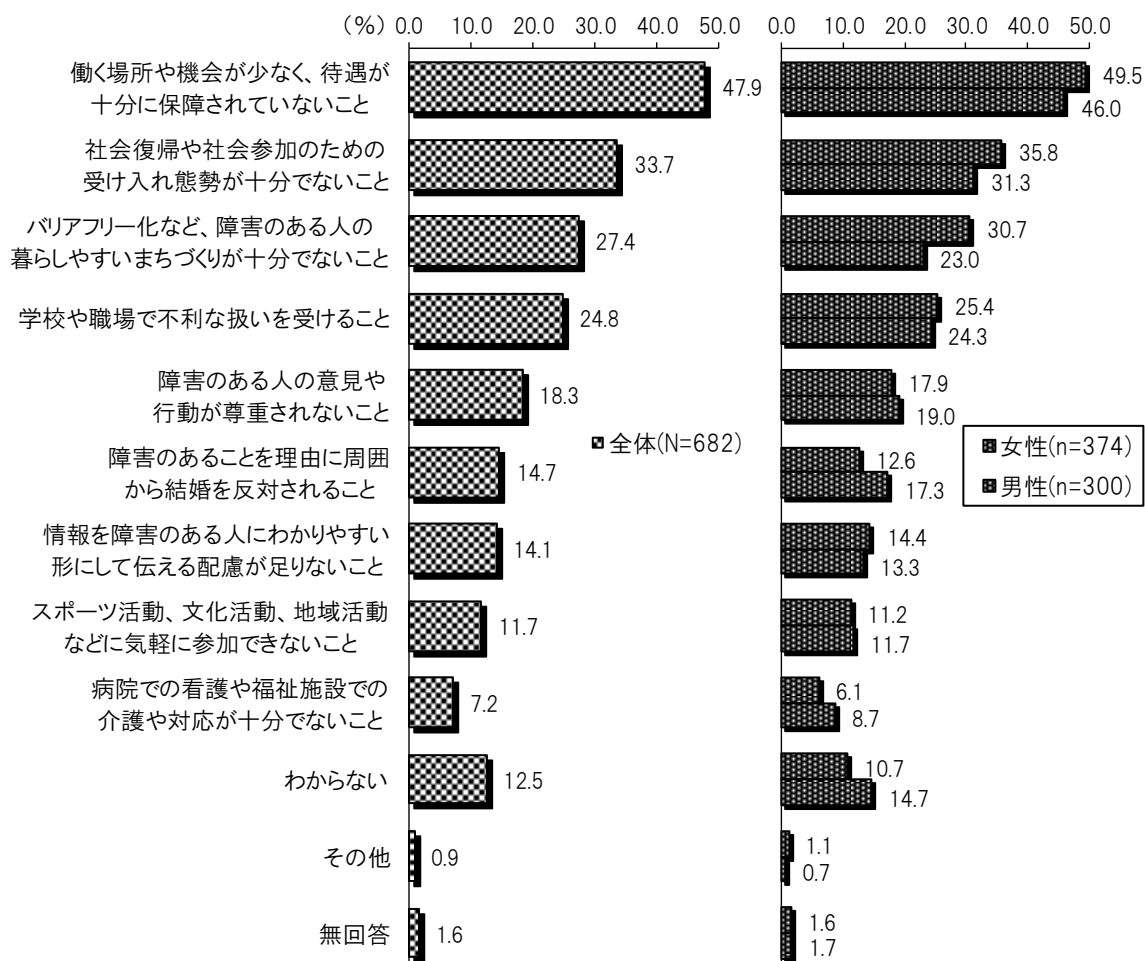


10 障害のある人の人権に関して問題があると思うこと

問 14. 障害のある人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（〇は3つまで）

障害のある人の人権に関して問題があると思うことについては、「働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと」の割合が47.9%と最も高く、次いで「社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと」（33.7%）、「バリアフリー化など、障害のある人の暮らしやすいまちづくりが十分でないこと」（27.4%）、「学校や職場で不利な扱いを受けること」（24.8%）の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「バリアフリー化など、障害のある人の暮らしやすいまちづくりが十分でないこと」の割合が高く、男性は「障害のあることを理由に周囲から結婚を反対されること」の割合が女性をやや上回っている。



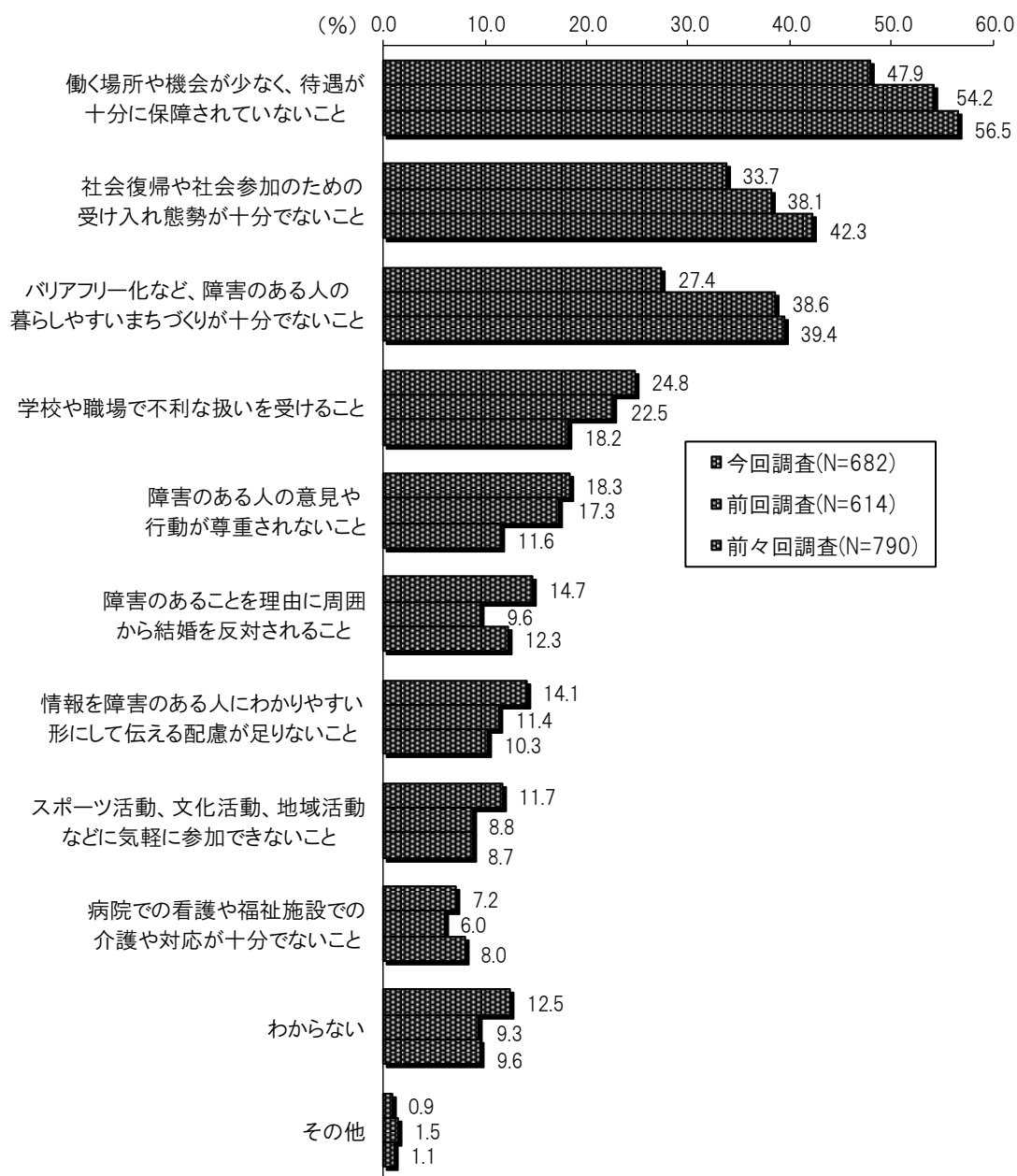
年齢別では、20歳代で「学校や職場で不利な扱いを受けること」、60歳代で「働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと」「バリアフリー化など、障害のある人の暮らしやすいまちづくりが十分でないこと」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと」「障害のある人の意見や行動が尊重されないこと」などの割合が他の層に比べて高くなっている。

単位 (%)	働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと	社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと	暮らしやすいまちづくりが十分でないこと	バリアフリー化など、障害のある人の意見や行動が尊重されないこと	学校や職場で不利な扱いを受けること	障害のある人の意見や行動が尊重されないこと	障害のあることを理由に周囲から結婚を反対されること	情報をして伝える配慮が足りないこと	スポーツ活動、文化活動、地域活動などに気軽に参加できないこと	病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと	わからない	その他
全体(N=682)	47.9	33.7	27.4	24.8	18.3	14.7	14.1	11.7	7.2	12.5	0.9	
【年齢別】												
20歳代(n=84)	39.3	25.0	23.8	34.5	26.2	21.4	16.7	14.3	7.1	10.7	1.2	
30歳代(n=101)	44.6	38.6	23.8	29.7	14.9	15.8	18.8	9.9	5.0	12.9	3.0	
40歳代(n=123)	42.3	33.3	19.5	19.5	23.6	18.7	13.8	15.4	7.3	13.8	0.0	
50歳代(n=136)	49.3	36.0	30.1	25.7	17.6	14.7	12.5	8.1	8.8	13.2	0.7	
60歳代(n=169)	60.9	35.5	34.3	25.4	13.0	8.3	9.5	11.8	7.1	11.2	0.0	
70歳以上(n=61)	37.7	29.5	27.9	11.5	19.7	13.1	16.4	8.2	8.2	14.8	1.6	
【人権意識別】												
身近に感じる(n=270)	51.5	40.0	30.7	28.5	21.9	15.6	15.2	11.9	9.6	7.0	1.5	
身近に感じない(n=172)	46.5	23.3	20.3	20.3	16.3	16.3	10.5	9.9	2.3	20.3	0.6	
どちらともいえない(n=191)	48.2	34.6	30.4	24.1	15.2	13.1	15.2	12.6	9.4	11.0	0.0	

【時系列比較】

前回調査と比べて、「バリアフリー化など、障害のある人の暮らしやすいまちづくりが十分でないこと」が大きく減少した。

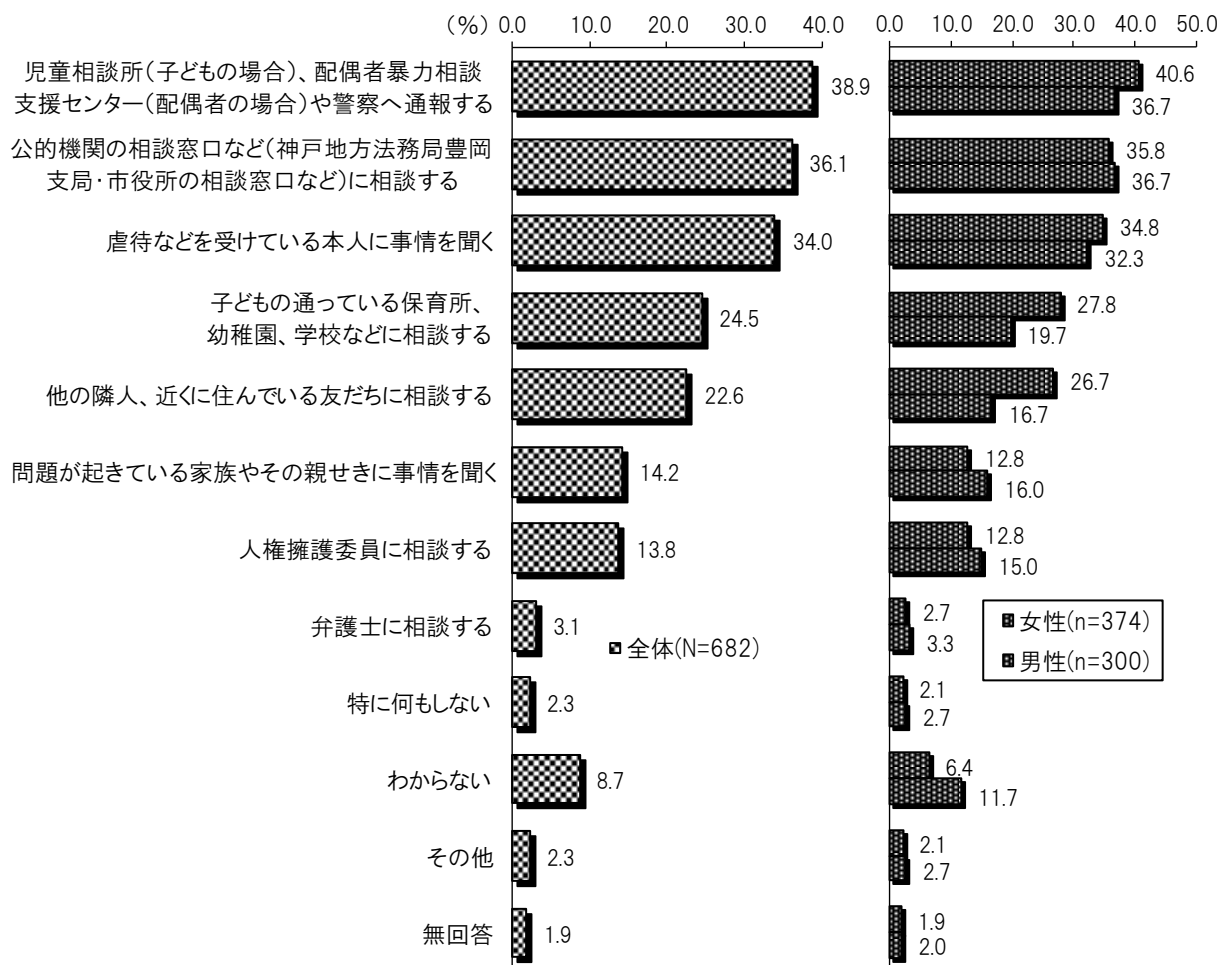


11 虐待や暴力が身近で起きた場合の対応

問 15. 子ども、高齢者、障害のある人への虐待、配偶者や恋人などからの暴力が、あなたのまわりで起きていることを知った場合、あなたはどのように対応しますか。
(〇は3つまで)

虐待や暴力が身近で起きた場合の対応については、「児童相談所（子どもの場合）、配偶者暴力相談支援センター（配偶者の場合）や警察へ通報する」の割合が38.9%と最も高く、次いで「公的機関の相談窓口など（神戸地方方法務局豊岡支局・市役所の相談窓口など）に相談する」（36.1%）、「虐待などを受けている本人に事情を聞く」（34.0%）の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「子どもの通っている保育所、幼稚園、学校などに相談する」「他の隣人、近くに住んでいる友だちに相談する」の割合が高くなっている。



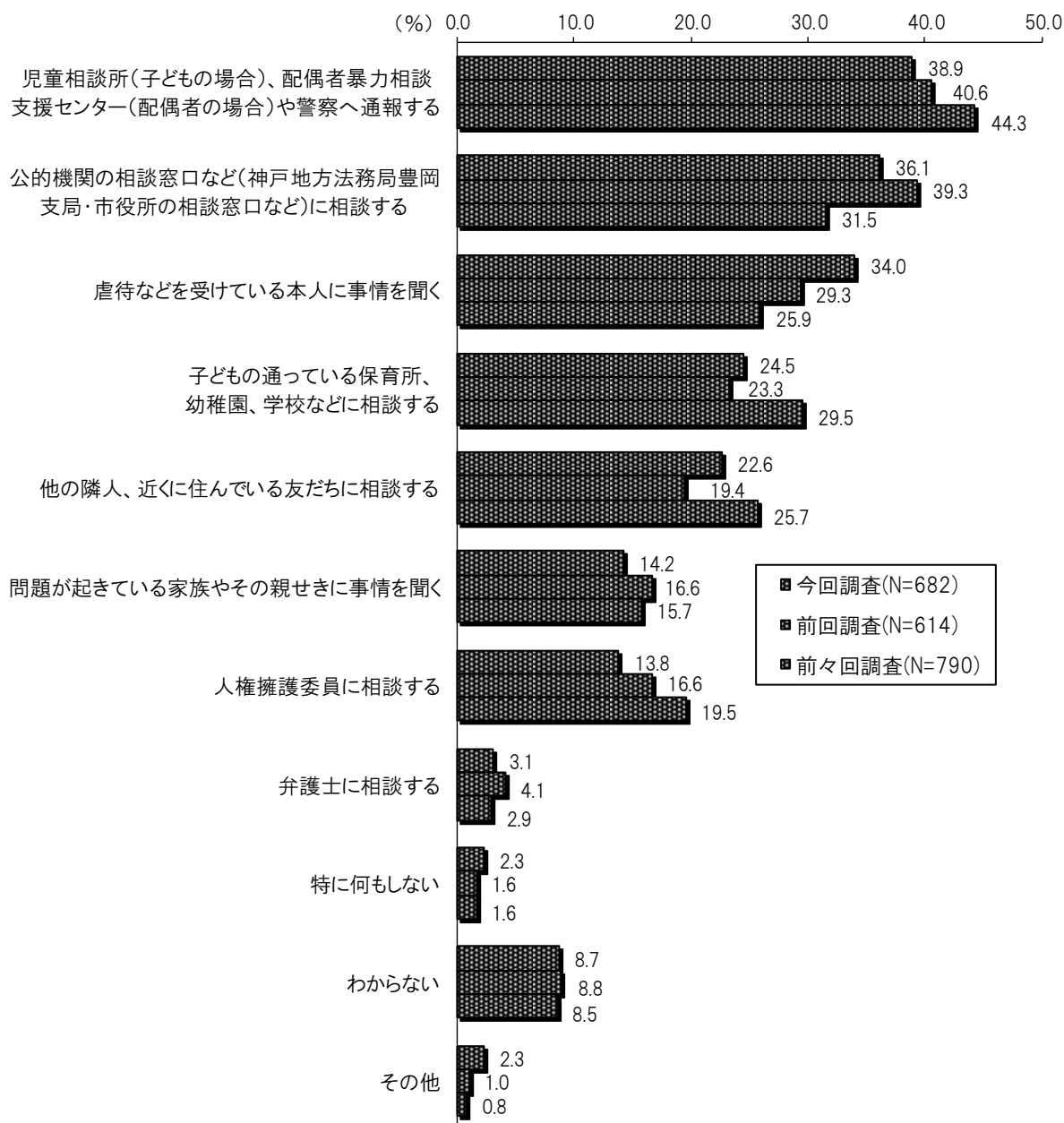
年齢別では、50～60歳代で「公的機関の相談窓口など（神戸地方法務局豊岡支局・市役所の相談窓口など）に相談する」、60歳代以上で「人権擁護委員に相談する」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高く、若い年齢層ほど「虐待などを受けている本人に事情を聞く」の割合が高くなる傾向にある。

人権意識別では、人権を身近に感じない層で「人権擁護委員に相談する」の割合が他の層に比べて高くなっている。

単位 (%)	場合)や警察へ通報する	児童相談所(子どもの場合)、配偶者	公的機関の相談窓口など(神戸地方	虐待などを受けている本人に事情を	園、学校などに相談する 幼稚	子どもの通っている保育所	他の隣人、近くに住んでいる友だち	に相談する	問題が起きている家族やその親せき	に事情を聞く	人権擁護委員に相談する	弁護士に相談する	特に何もしない	わからない	その他
全体(N=682)	38.9	36.1	34.0	24.5	22.6	14.2	13.8	3.1	2.3	8.7	2.3				
【年齢別】															
20歳代(n=84)	34.5	31.0	48.8	19.0	26.2	15.5	6.0	3.6	1.2	8.3	1.2				
30歳代(n=101)	39.6	29.7	48.5	33.7	20.8	12.9	2.0	3.0	2.0	4.0	4.0				
40歳代(n=123)	38.2	35.0	39.0	23.6	20.3	11.4	12.2	4.1	2.4	12.2	0.8				
50歳代(n=136)	39.7	43.4	30.9	30.1	20.6	16.9	9.6	1.5	2.2	9.6	1.5				
60歳代(n=169)	42.0	40.8	22.5	18.9	24.9	13.0	21.3	3.6	3.0	7.1	3.6				
70歳以上(n=61)	34.4	27.9	14.8	19.7	23.0	18.0	36.1	3.3	3.3	11.5	3.3				
【人権意識別】															
身近に感じる(n=270)	41.9	41.5	36.7	23.3	20.0	17.0	11.9	4.8	1.1	5.6	3.7				
身近に感じない(n=172)	36.6	27.9	28.5	25.6	23.3	11.6	17.4	2.3	3.5	11.0	1.7				
どちらともいえない(n=191)	39.8	38.2	34.6	25.7	23.0	13.6	12.6	2.1	2.6	10.5	1.6				

【時系列比較】

前回調査と比べて、「虐待などを受けている本人に事情を聞く」がやや増加した。

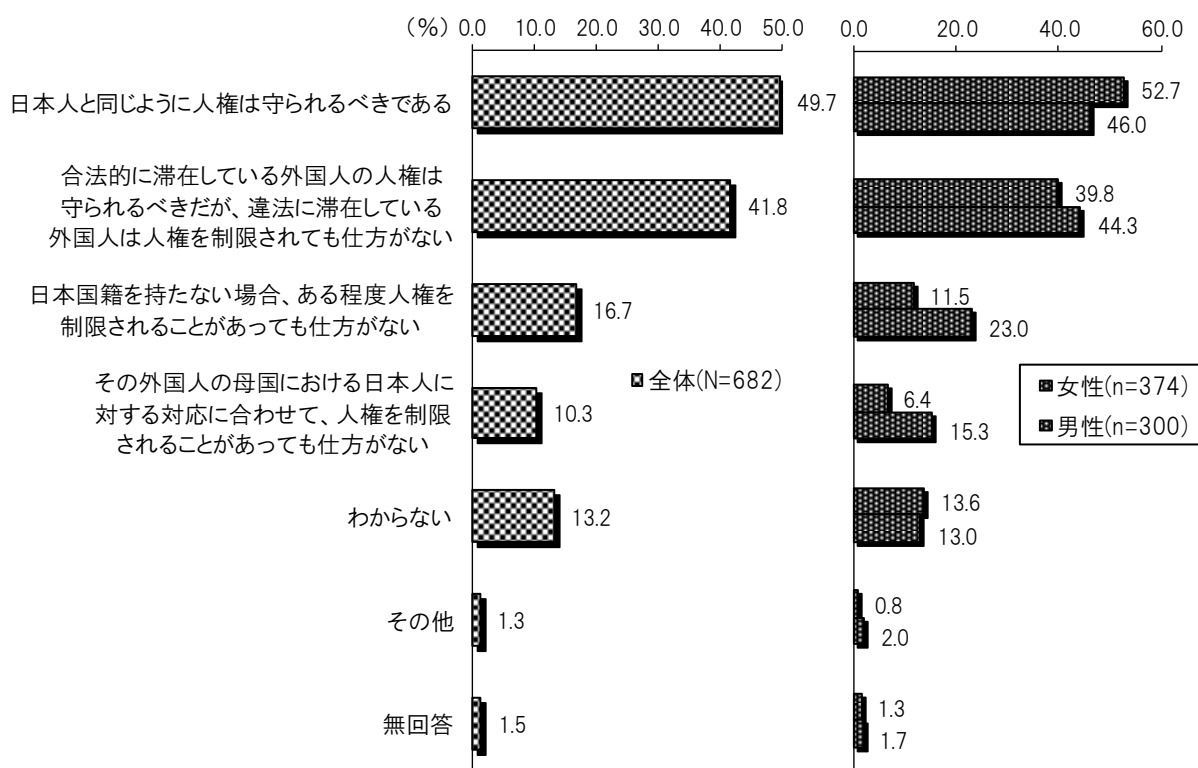


12 外国人の人権について

問 16. 日本に居住している外国人の人権について、あなたの考え方は次のどれに近いですか。（○は3つまで）

外国人の人権については、「日本人と同じように人権は守られるべきである」の割合が49.7%と最も高く、次いで「合法的に滞在している外国人の人権は守られるべきだが、違法に滞在している外国人は人権を制限されても仕方がない」（41.8%）、「日本国籍を持たない場合、ある程度人権を制限されることがあっても仕方がない」（16.7%）の順となっている。

性別では、男性は「日本国籍を持たない場合、ある程度人権を制限されることがあっても仕方がない」「その外国人の母国における日本人に対する対応に合わせて、人権を制限されることがあっても仕方がない」の割合が女性を大きく上回っている。



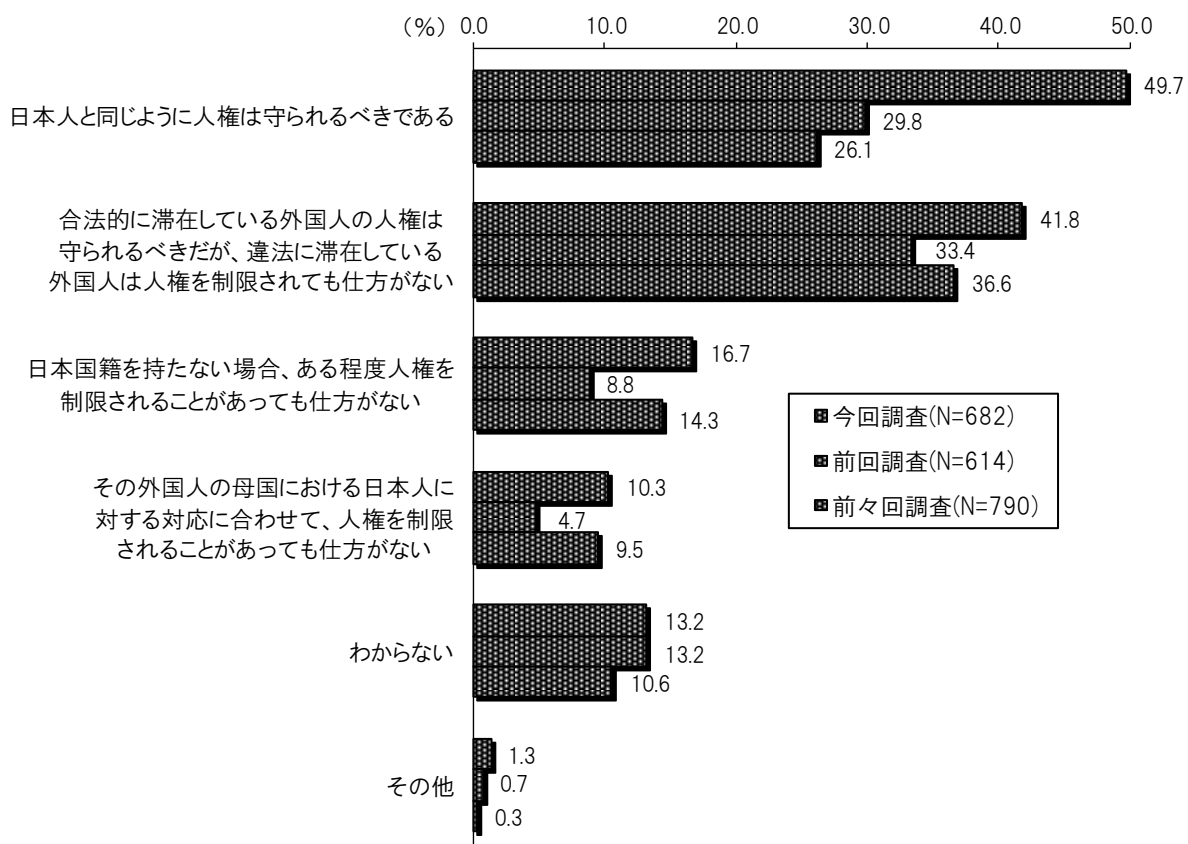
年齢別では、70歳以上で「合法的に滞在している外国人の人権は守られるべきだが、違法に滞在している外国人は人権を制限されても仕方がない」「日本国籍を持たない場合、ある程度人権を制限されることがあっても仕方がない」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、大きな差はみられない。

単位 (%)	日本人と同じように人権は守られるべきである	仕方がない外国人は人権を制限されても仕方ない	合法的に滞在している外国人の人権は守られるべきだが、違法に滞在している外国人の人権を制限されても仕方がない	日本国籍を持たない場合、ある程度人権を制限されるべきでない	対外的対応があつても仕方ない	その外国人の母国における日本人に	わからない	その他
全体(N=682)	49.7	41.8	16.7	10.3	13.2	1.3		
【年齢別】								
20歳代(n=84)	54.8	29.8	9.5	8.3	15.5	0.0		
30歳代(n=101)	44.6	40.6	15.8	7.9	16.8	1.0		
40歳代(n=123)	39.0	37.4	14.6	14.6	19.5	0.8		
50歳代(n=136)	49.3	44.9	15.4	9.6	13.2	2.2		
60歳代(n=169)	55.6	45.0	16.6	10.7	7.7	1.8		
70歳以上(n=61)	59.0	52.5	34.4	9.8	8.2	1.6		
【人権意識別】								
身近に感じる(n=270)	50.4	41.9	17.0	10.4	11.9	2.6		
身近に感じない(n=172)	50.6	42.4	16.3	12.2	11.0	0.6		
どちらともいえない(n=191)	50.3	41.4	15.7	9.9	15.2	0.5		

【時系列比較】

前回調査と比べて、「日本人と同じように人権は守られるべきである」が大きく増加した。

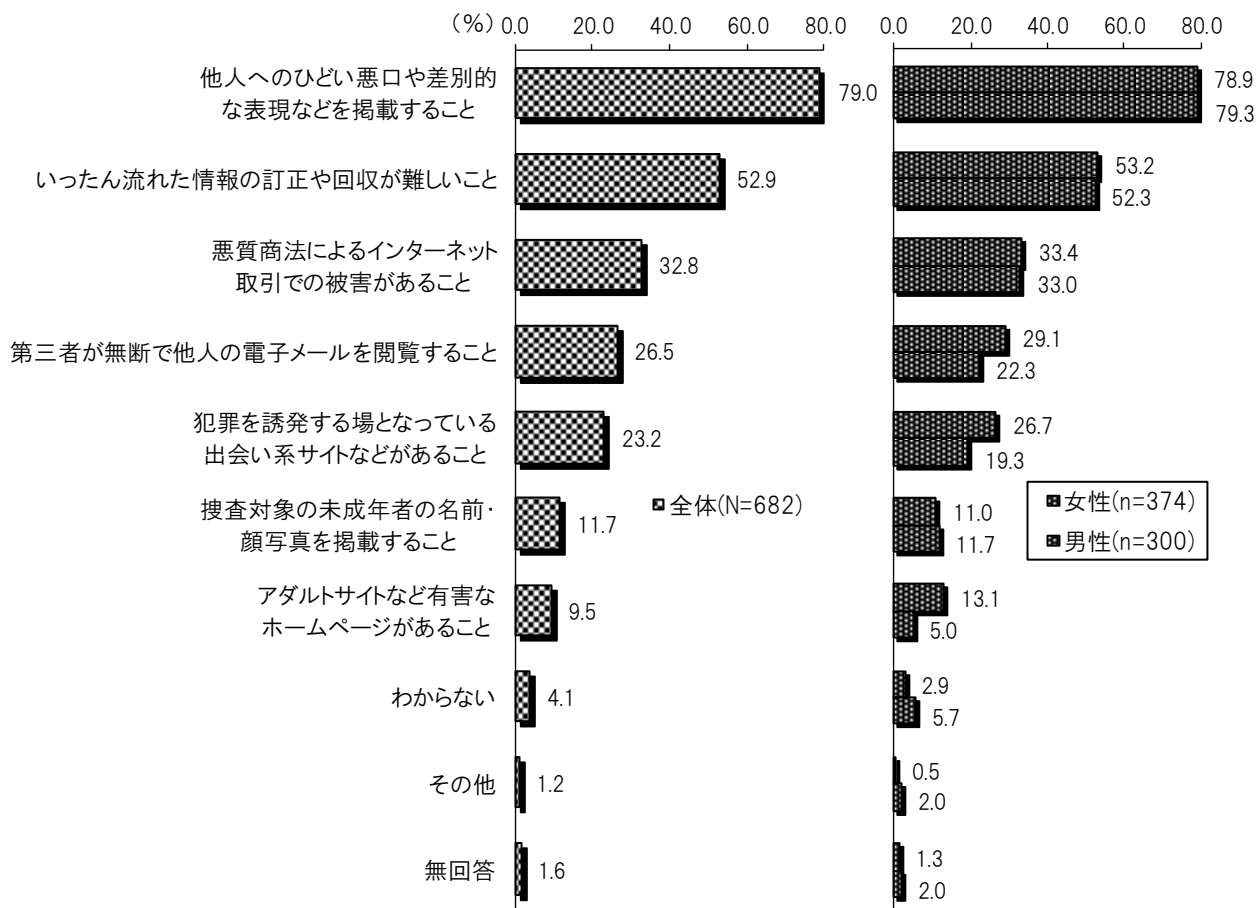


13 インターネットによる人権侵害に関して問題があると思うこと

問 17. インターネットを悪用した人権侵害について、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（○は3つまで）

インターネットによる人権侵害に関して問題があると思うことについては、「他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること」の割合が79.0%と最も高く、次いで「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」（52.9%）、「悪質商法によるインターネット取引での被害があること」（32.8%）、「第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること」（26.5%）の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること」「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」「アダルトサイトなど有害なホームページがあること」の割合が高くなっている。



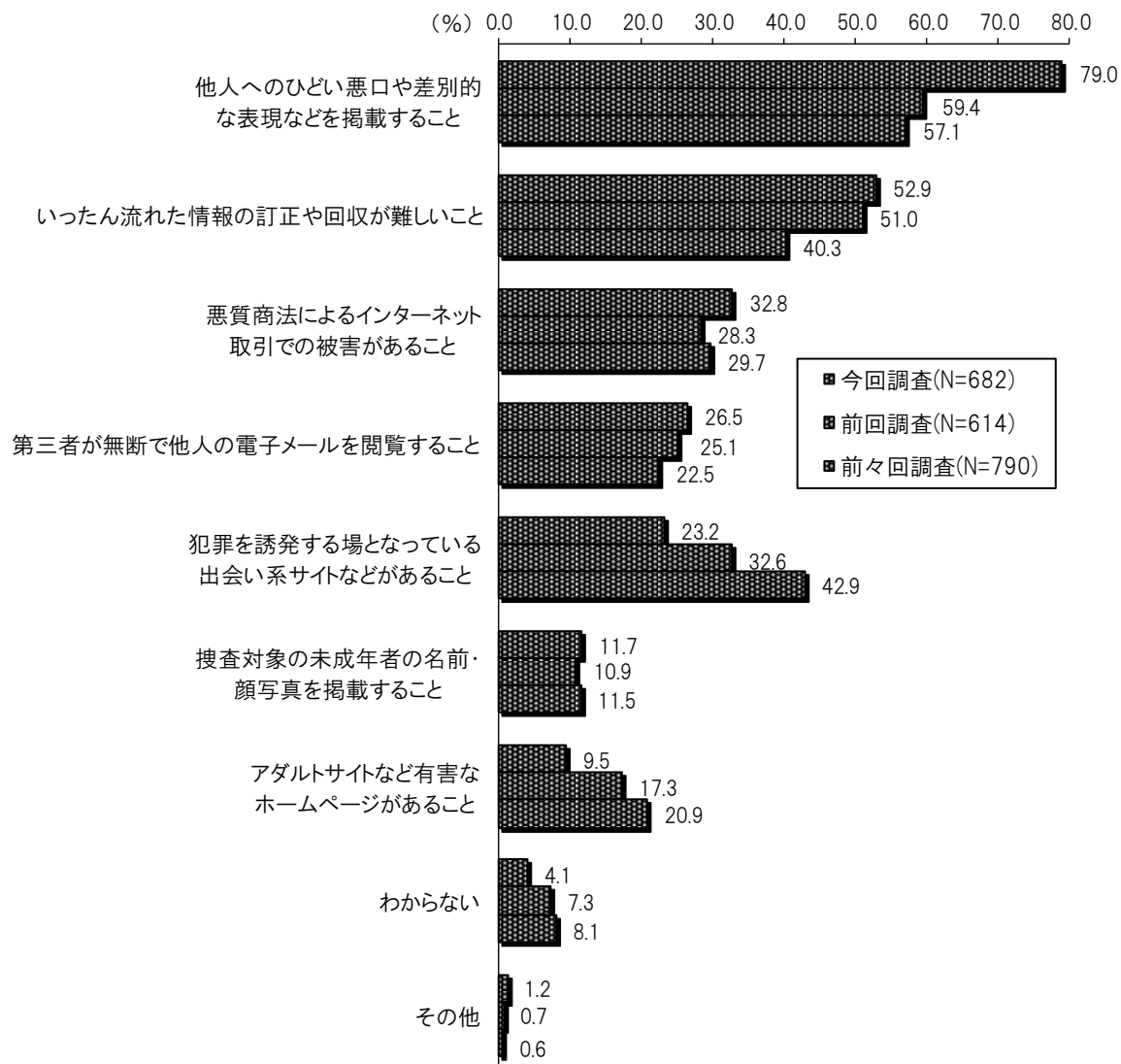
年齢別では、30～40歳代で「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」、50歳代で「他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること」、70歳以上で「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」「アダルトサイトなど有害なホームページがあること」「わからない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」の割合が他の層に比べて高くなっている。

単位 (%)	他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること	いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと	悪質商法によるインターネット取引で被害があること	第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること	出会い系サイトなどがあること	犯罪を誘発する場となっていること	捜査対象の未成年者の名前・顔写真を掲載すること	アダルトサイトなど有害なホームページがあること	わからない	その他
全体(N=682)	79.0	52.9	32.8	26.5	23.2	11.7	9.5	4.1	1.2	
【年齢別】										
20歳代(n=84)	78.6	50.0	31.0	20.2	11.9	10.7	3.6	4.8	0.0	
30歳代(n=101)	77.2	64.4	32.7	23.8	18.8	12.9	6.9	4.0	1.0	
40歳代(n=123)	74.8	61.0	31.7	30.1	18.7	13.0	8.1	1.6	1.6	
50歳代(n=136)	89.0	56.6	33.1	27.2	27.9	14.7	7.4	2.9	0.7	
60歳代(n=169)	82.2	46.2	36.1	26.6	25.4	9.5	13.0	4.1	1.8	
70歳以上(n=61)	60.7	32.8	31.1	26.2	39.3	4.9	19.7	11.5	1.6	
【人権意識別】										
身近に感じる(n=270)	83.0	56.7	29.3	23.3	25.2	13.0	8.9	2.2	1.9	
身近に感じない(n=172)	73.3	51.7	38.4	27.3	24.4	12.2	12.8	3.5	1.2	
どちらともいえない(n=191)	83.8	51.8	34.0	28.3	22.0	9.9	6.8	4.2	0.5	

【時系列比較】

前回調査と比べて、「犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること」が減少し、「他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること」が大きく増加した。

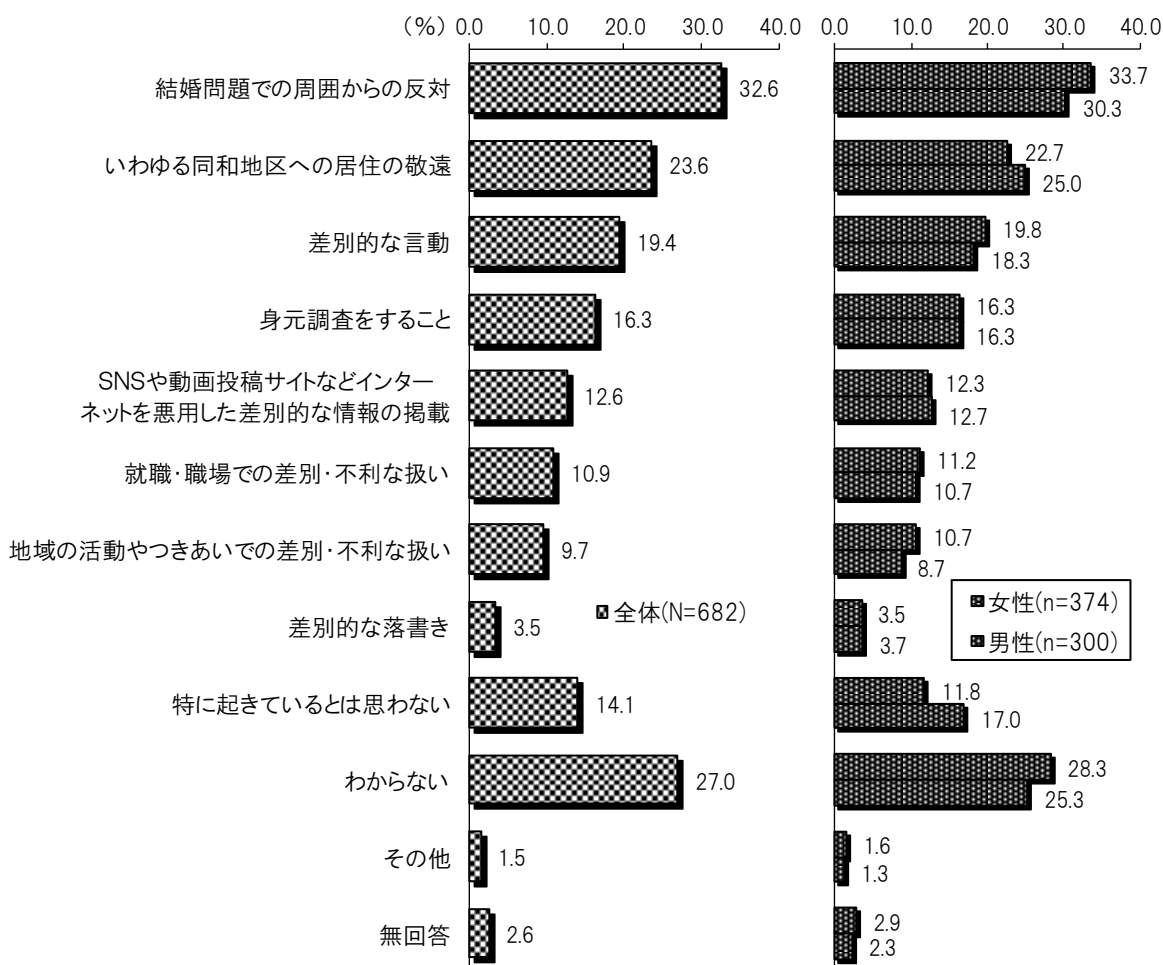


14 同和問題に関する人権問題について

問 18. 同和問題に関することで、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(○はいくつでも)

同和問題に関する人権問題については、「結婚問題での周囲からの反対」の割合が 32.6%と最も高く、次いで「いわゆる同和地区への居住の敬遠」(23.6%)、「差別的な言動」(19.4%)、「身元調査をすること」(16.3%)、「SNSや動画投稿サイトなどインターネットを悪用した差別的な情報の掲載」(12.6%)の順となっている。

性別では、男性は女性に比べ「特に起きているとは思わない」の割合が高くなっている。



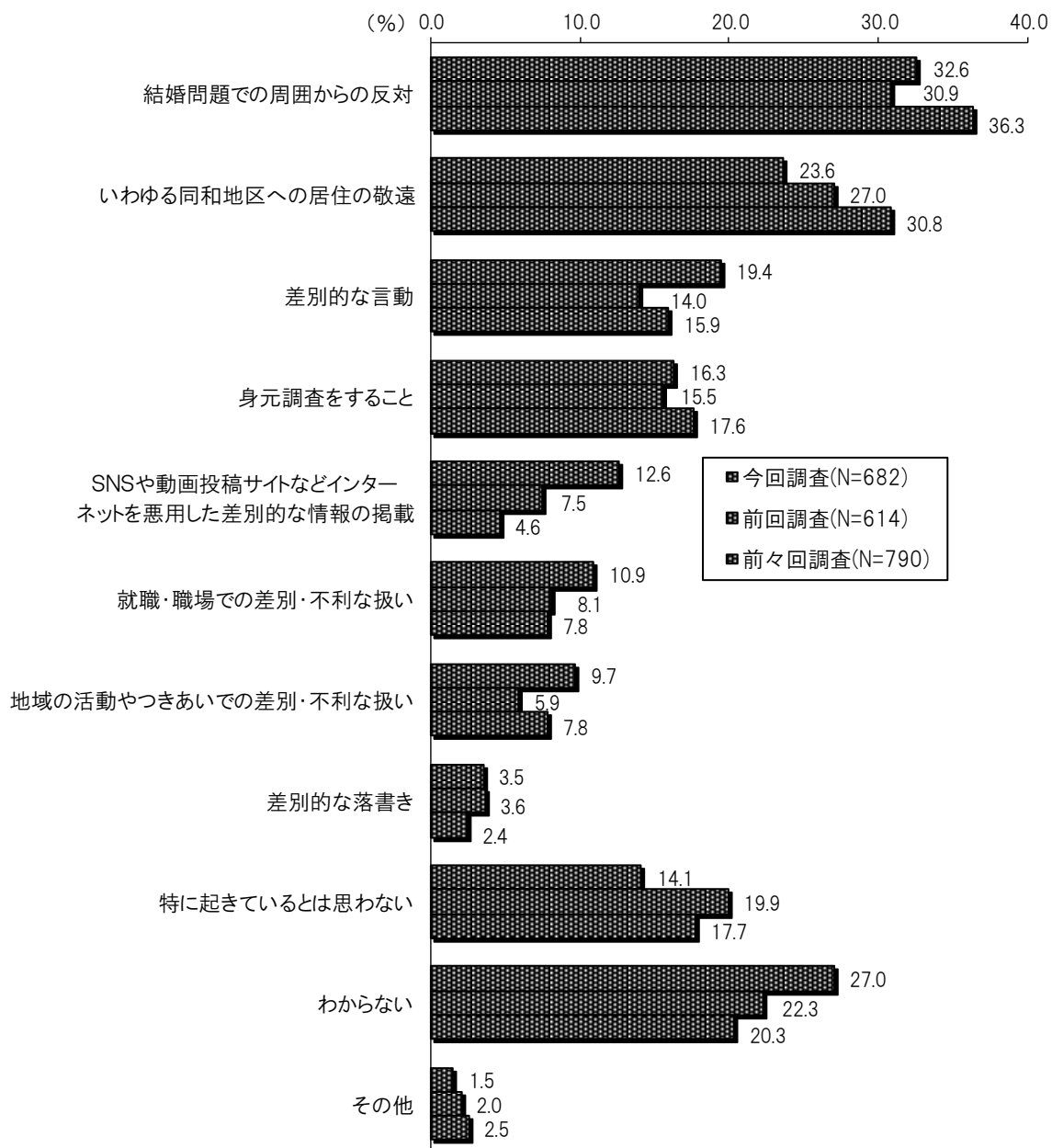
年齢別では、30歳代以下で「差別的な言動」、30歳代で「地域の活動やつきあいで差別・不利な扱い」、70歳以上で「特に起きているとは思わない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「結婚問題での周囲からの反対」「差別的な言動」の割合が他の層を大きく上回っている。

単位 (%)	結婚問題での周囲からの反対	いわゆる同和地区への居住の敬遠	差別的な言動	身元調査をすること	SNSや動画投稿サイトなどインフォメーションを悪用した差別的な情報掲載	就職・職場での差別・不利な扱い	地域の活動やつきあいで差別・不利な扱い	差別的な落書き	特に起きているとは思わない	わからない	その他
全体(N=682)	32.6	23.6	19.4	16.3	12.6	10.9	9.7	3.5	14.1	27.0	1.5
【年齢別】											
20歳代(n=84)	21.4	15.5	25.0	11.9	16.7	14.3	13.1	3.6	6.0	35.7	0.0
30歳代(n=101)	35.6	27.7	28.7	12.9	11.9	18.8	19.8	5.0	8.9	24.8	1.0
40歳代(n=123)	31.7	23.6	15.4	12.2	8.9	8.1	11.4	1.6	14.6	31.7	1.6
50歳代(n=136)	39.0	25.0	14.7	22.8	13.2	9.6	5.1	3.7	15.4	24.3	1.5
60歳代(n=169)	32.0	24.9	18.3	18.3	14.2	7.1	5.3	4.7	15.4	24.3	2.4
70歳以上(n=61)	29.5	23.0	16.4	16.4	8.2	11.5	8.2	1.6	26.2	23.0	1.6
【人権意識別】											
身近に感じる(n=270)	39.6	26.7	28.1	21.9	17.4	15.2	12.6	6.3	11.9	16.7	2.2
身近に感じない(n=172)	26.2	24.4	9.3	12.2	8.1	5.8	6.4	1.7	18.6	35.5	0.6
どちらともいえない(n=191)	29.3	20.9	17.3	15.7	9.9	9.4	8.9	2.1	14.7	29.8	1.6

【時系列比較】

前回調査と比べて、「特に起きているとは思わない」が減少し、「差別的な言動」「SNSや動画投稿サイトなどインターネットを悪用した差別的な情報の掲載」が増加した。

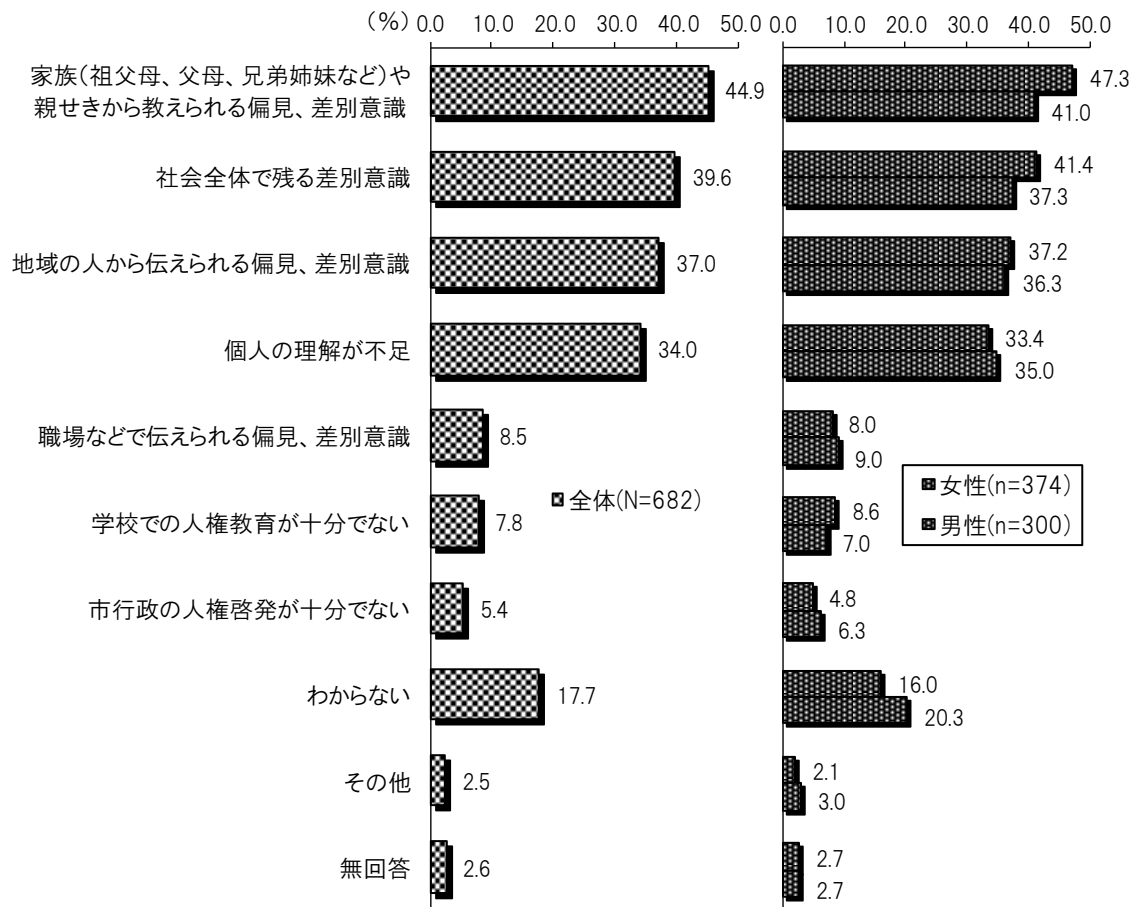


15 同和問題が生じる原因や背景

問 19. 同和問題が生じる原因や背景として考えられることは何ですか。
(○はいくつでも)

同和問題が生じる原因や背景については、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）や親せきから教えられる偏見、差別意識」の割合が 44.9%と最も高く、次いで「社会全体で残る差別意識」（39.6%）、「地域の人から伝えられる偏見、差別意識」（37.0%）、「個人の理解が不足」（34.0%）の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）や親せきから教えられる偏見、差別意識」の割合が高くなっている。



年齢別では、20歳代で「わからない」、30歳代で「地域の人から伝えられる偏見、差別意識」、50～60歳代で「社会全体で残る差別意識」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「社会全体で残る差別意識」「地域の人から伝えられる偏見、差別意識」などの割合が他の層に比べて高くなっている。

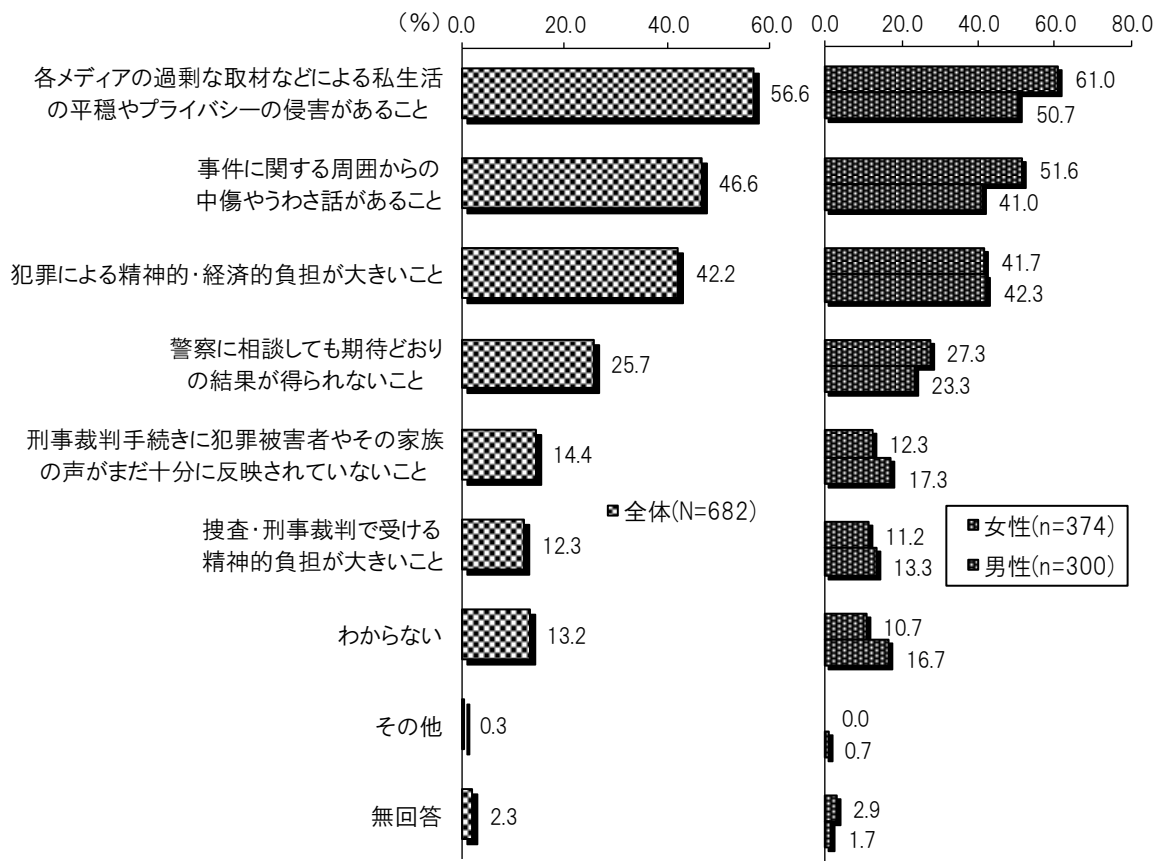
単位(%)	家族(祖父母、兄弟姉妹など)や親せきから教えられる偏見、差別意識	社会全体で残る差別意識	地域の人から伝えられる偏見、差別意識	個人の理解が不足	職場などで伝えられる偏見、差別意識	学校での人権教育が十分でない	市行政の人権啓発が十分でない	わからない	その他
全体(N=682)	44.9	39.6	37.0	34.0	8.5	7.8	5.4	17.7	2.5
【年齢別】									
20歳代(n=84)	48.8	32.1	33.3	28.6	13.1	7.1	6.0	34.5	0.0
30歳代(n=101)	48.5	38.6	44.6	32.7	8.9	11.9	7.9	18.8	5.9
40歳代(n=123)	44.7	28.5	36.6	32.5	8.9	4.1	3.3	18.7	1.6
50歳代(n=136)	42.6	46.3	36.0	38.2	6.6	8.1	6.6	13.2	0.7
60歳代(n=169)	43.8	45.6	36.7	33.1	10.1	9.5	3.0	13.0	4.1
70歳以上(n=61)	36.1	41.0	31.1	41.0	0.0	4.9	9.8	16.4	1.6
【人権意識別】									
身近に感じる(n=270)	52.2	45.9	45.2	39.3	10.7	10.4	8.1	10.7	3.0
身近に感じない(n=172)	37.8	33.7	29.1	33.7	5.2	4.7	2.9	24.4	1.2
どちらともいえない(n=191)	46.6	37.7	35.6	30.9	8.9	7.3	3.7	17.8	3.7

16 犯罪被害者やその家族の人権侵害について

問 20. 犯罪被害者の人やその家族の人権侵害について、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（〇は3つまで）

犯罪被害者やその家族の人権侵害については、「各メディアの過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」の割合が56.6%と最も高く、次いで「事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること」（46.6%）、「犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと」（42.2%）、「警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと」（25.7%）の順となっている。

性別では、女性は「各メディアの過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること」「事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること」の割合が男性を大きく上回っている。



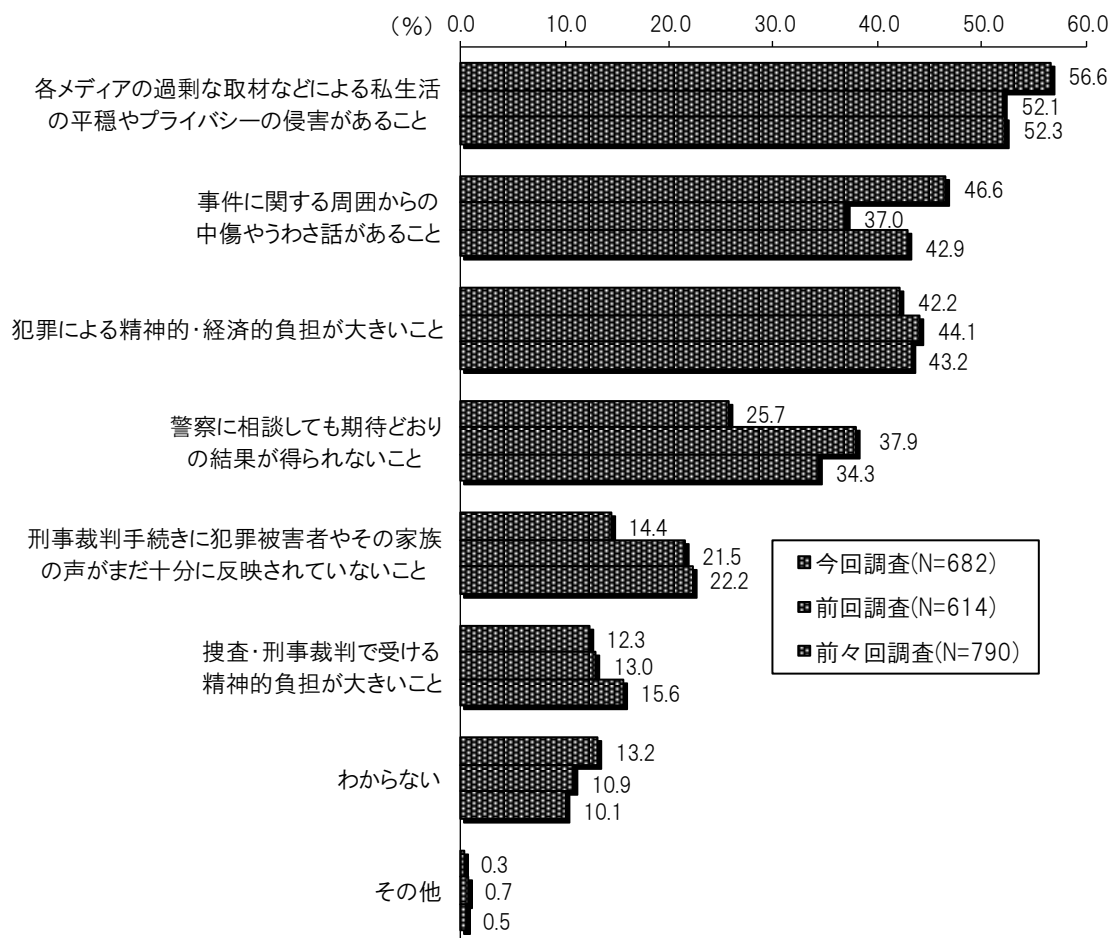
年齢別では、40歳代で「警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと」、50歳代で「事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること」、70歳以上で「わからない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「刑事裁判手続きに犯罪被害者やその家族の声がまだ十分に反映されていないこと」の割合が他の層に比べて高くなっている。

単位 (%)	侵害があること	各メディアの平穏な取材などによる生活の不安	事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること	大きな犯罪による精神的・経済的負担	警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと	刑事裁判手続きに犯罪被害者やその家族の声がまだ十分に反映されていないこと	捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいこと	わからない	その他
全体(N=682)	56.6	46.6	42.2	25.7	14.4	12.3	13.2	0.3	
【年齢別】									
20歳代(n=84)	59.5	39.3	44.0	28.6	10.7	13.1	11.9	0.0	
30歳代(n=101)	65.3	41.6	48.5	18.8	10.9	13.9	15.8	1.0	
40歳代(n=123)	52.8	48.0	40.7	35.8	16.3	13.8	7.3	0.0	
50歳代(n=136)	61.0	55.9	39.7	28.7	16.2	11.8	11.8	0.0	
60歳代(n=169)	54.4	46.7	43.8	21.9	15.4	11.8	14.8	0.0	
70歳以上(n=61)	37.7	44.3	32.8	16.4	14.8	6.6	23.0	1.6	
【人権意識別】									
身近に感じる(n=270)	61.9	49.6	40.4	27.8	20.4	13.0	11.1	0.4	
身近に感じない(n=172)	50.6	40.1	44.2	21.5	12.2	11.0	18.6	0.0	
どちらともいえない(n=191)	57.6	53.4	45.5	24.6	9.9	12.6	9.9	0.5	

【時系列比較】

前回調査と比べて、「警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと」が大きく減少し、「事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること」が増加した。



17 L G B T (Q +) の人の人権について

(1) L G B T (Q +) の認知状況

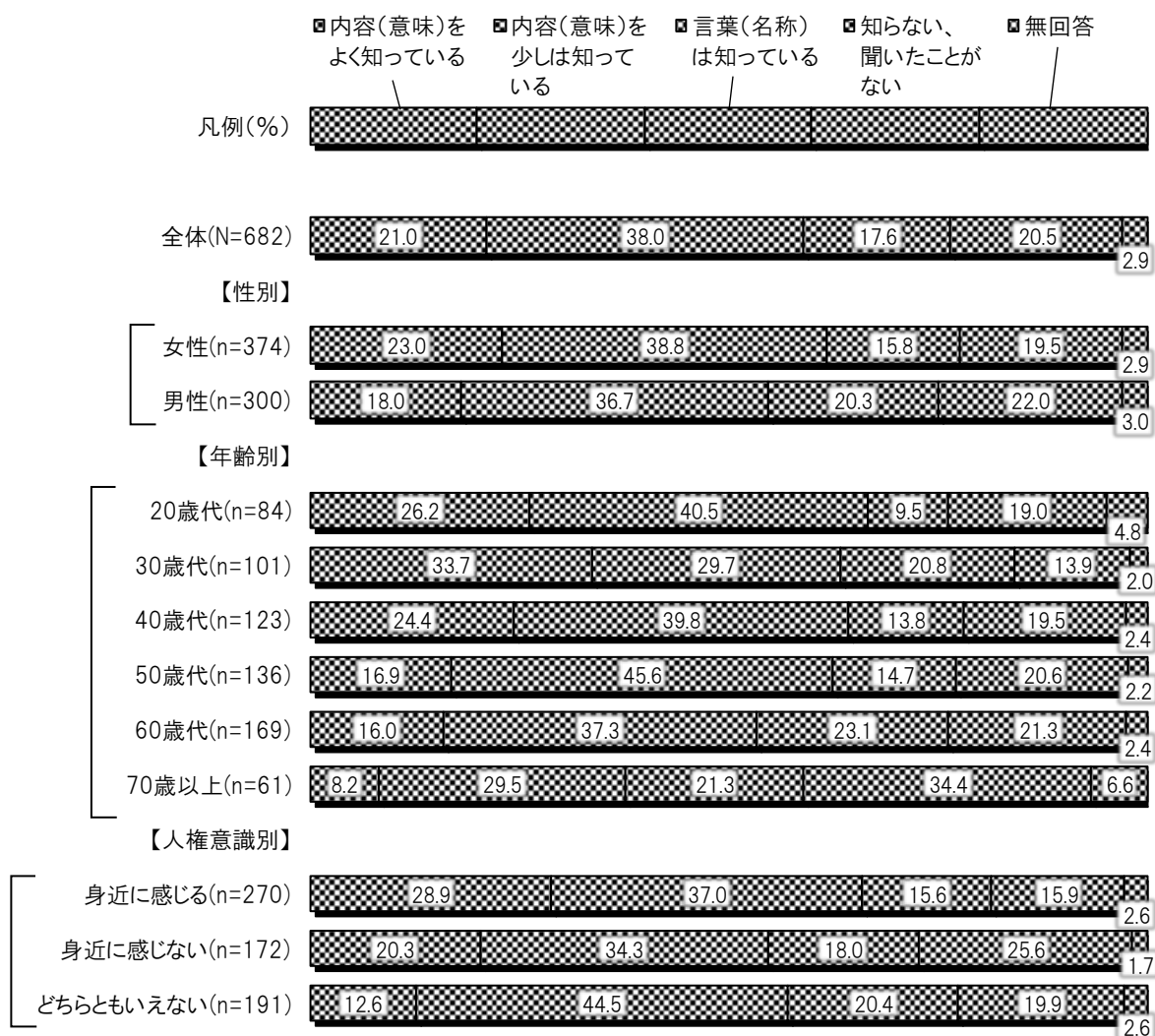
問 21. L G B T (Q +) 【性的マイノリティ】という言葉や意味を知っていますか。
(○ は 1 つ)

L G B T (Q +) の認知状況については、「内容（意味）をよく知っている」が 21.0%、「内容（意味）を少しは知っている」が 38.0%、「言葉（名称）は知っている」が 17.6%で、合計 7割以上（76.6%）が『知っている』と回答している。一方、約 2割（20.5%）は「知らない、聞いたことがない」と回答している。

性別では、女性は男性に比べ「内容（意味）をよく知っている」の割合が高く、男性は「言葉（名称）は知っている」の割合が女性をやや上回っている。

年齢別では、30歳代で「内容（意味）をよく知っている」、70歳以上で「知らない、聞いたことがない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「内容（意味）をよく知っている」、人権を身近に感じない層で「知らない、聞いたことがない」の割合がそれぞれ他の層に比べて高くなっている。



(2) 身近にLGBT(Q+)の人がいること

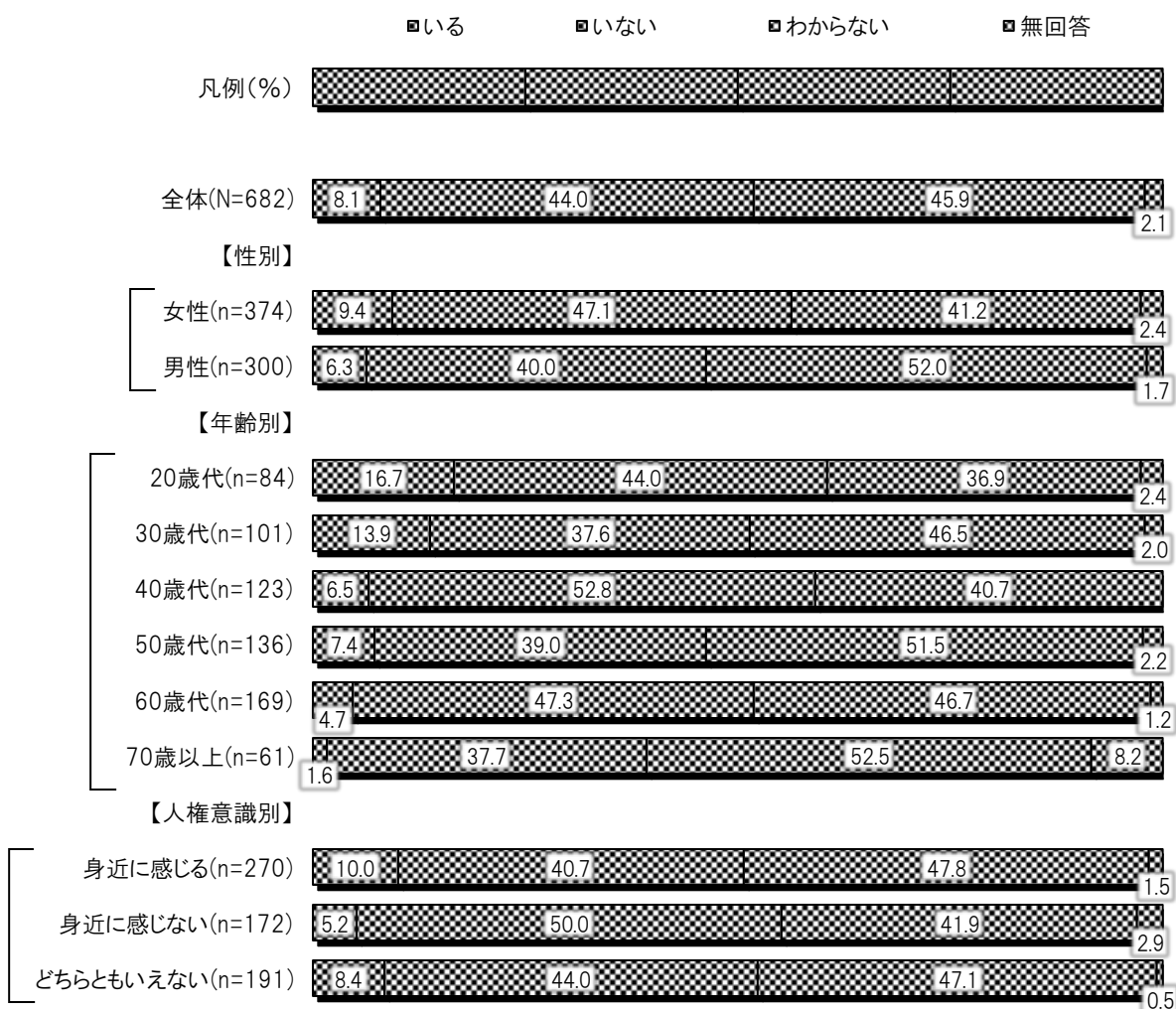
問 22. あなたの周りに、LGBT(Q+)【性的マイノリティ】の人はいますか。
(○は1つ)

身近にLGBT(Q+)の人がいることについては、「いる」が8.1%、「いない」が44.0%、「わからない」が45.9%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「いない」の割合が高く、男性は「わからない」の割合が女性を大きく上回っている。

年齢別では、おおむね若い年齢層ほど「いる」の割合が高くなる傾向にある。

人権意識別では、人権を身近に感じない層で「いない」の割合が他の層に比べて高くなっている。

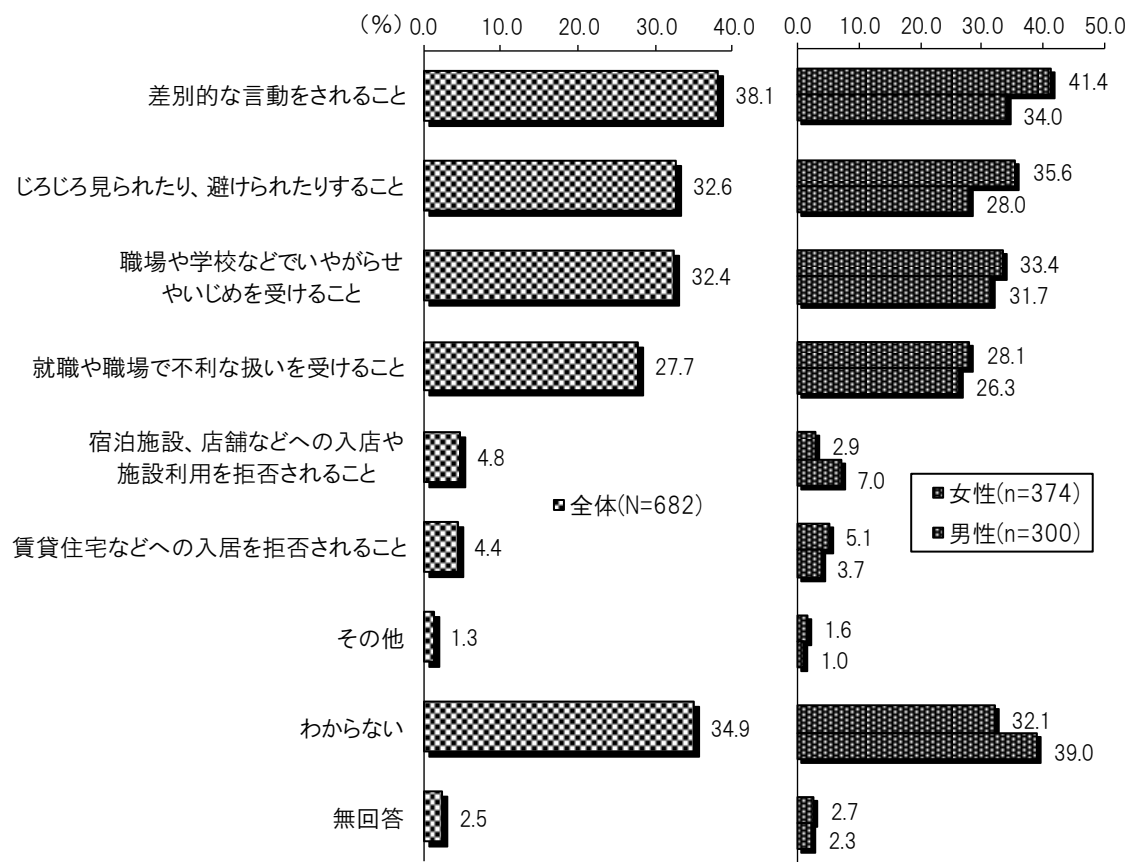


(3) L G B T (Q+)に関する人権問題について

問 23. L G B T (Q+)【性的マイノリティ】に関することで、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(〇はいくつでも)

L G B T (Q+)に関する人権問題については、「差別的な言動をされること」の割合が38.1%と最も高く、次いで「じろじろ見られたり、避けられたりすること」(32.6%)、「職場や学校などでいやがらせやいじめを受けること」(32.4%)、「就職や職場で不利な扱いを受けること」(27.7%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「差別的な言動をされること」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合が高くなっている。



年齢別では、30歳代以下で「差別的な言動をされること」、30歳代で「職場や学校などでいやがらせやいじめを受けること」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「差別的な言動をされること」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」などの割合が他の層に比べて高くなっている。

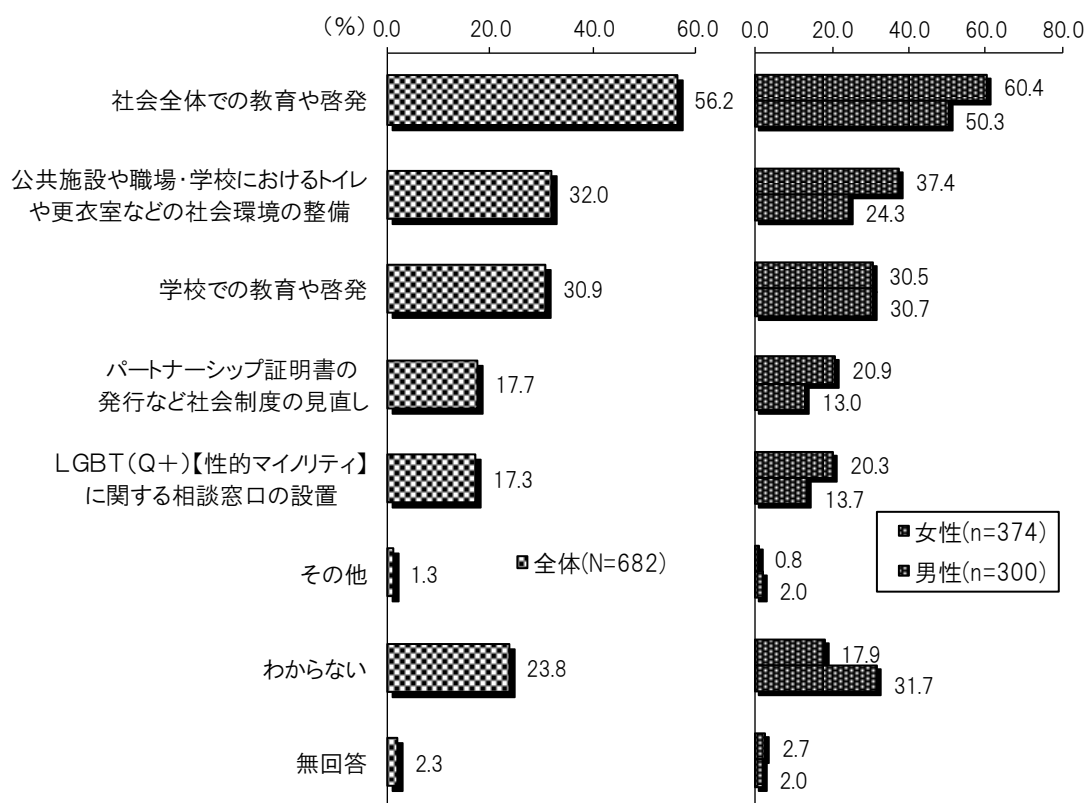
単位 (%)	差別的な言動をされること	れじろじろ見られたり、避けられたりすること	や職場や学校などでいやがらせやいじめを受けること	け就職や職場で不利な扱いを受けること	や宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること	さ賃貸住宅などへの入居を拒否されること	その他	わからない
全体(N=682)	38.1	32.6	32.4	27.7	4.8	4.4	1.3	34.9
【年齢別】								
20歳代(n=84)	44.0	38.1	36.9	22.6	4.8	10.7	4.8	26.2
30歳代(n=101)	49.5	40.6	43.6	29.7	5.0	5.0	1.0	24.8
40歳代(n=123)	39.0	35.8	32.5	24.4	4.9	1.6	1.6	35.8
50歳代(n=136)	33.1	33.8	27.2	33.8	4.4	2.2	0.0	33.8
60歳代(n=169)	34.9	23.7	31.4	29.0	5.3	5.9	0.6	42.0
70歳以上(n=61)	27.9	21.3	23.0	18.0	3.3	1.6	1.6	47.5
【人権意識別】								
身近に感じる(n=270)	45.2	40.7	37.4	33.7	5.9	5.6	2.6	26.3
身近に感じない(n=172)	32.0	28.5	30.8	20.9	4.1	4.7	0.6	41.9
どちらともいえない(n=191)	37.2	25.1	29.8	24.6	4.2	2.6	0.0	39.8

(4) L G B T (Q +)に関する必要な取組

問 24. L G B T (Q +)【性的マイノリティ】に関する取組として必要なことはどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

L G B T (Q +)に関する必要な取組については、「社会全体での教育や啓発」の割合が56.2%と最も高く、次いで「公共施設や職場・学校におけるトイレや更衣室などの社会環境の整備」(32.0%)、「学校での教育や啓発」(30.9%)、「パートナーシップ証明書の発行など社会制度の見直し」(17.7%)の順となっている。

性別では、女性は「社会全体での教育や啓発」「公共施設や職場・学校におけるトイレや更衣室などの社会環境の整備」の割合が男性を大きく上回っている。



年齢別では、20歳代で「パートナーシップ証明書の発行など社会制度の見直し」、30歳代で「学校での教育や啓発」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

人権意識別では、人権を身近に感じる層で「公共施設や職場・学校におけるトイレや更衣室などの社会環境の整備」「LGBT(Q+)【性的マイノリティ】に関する相談窓口の設置」の割合が他の層に比べて高くなっている。

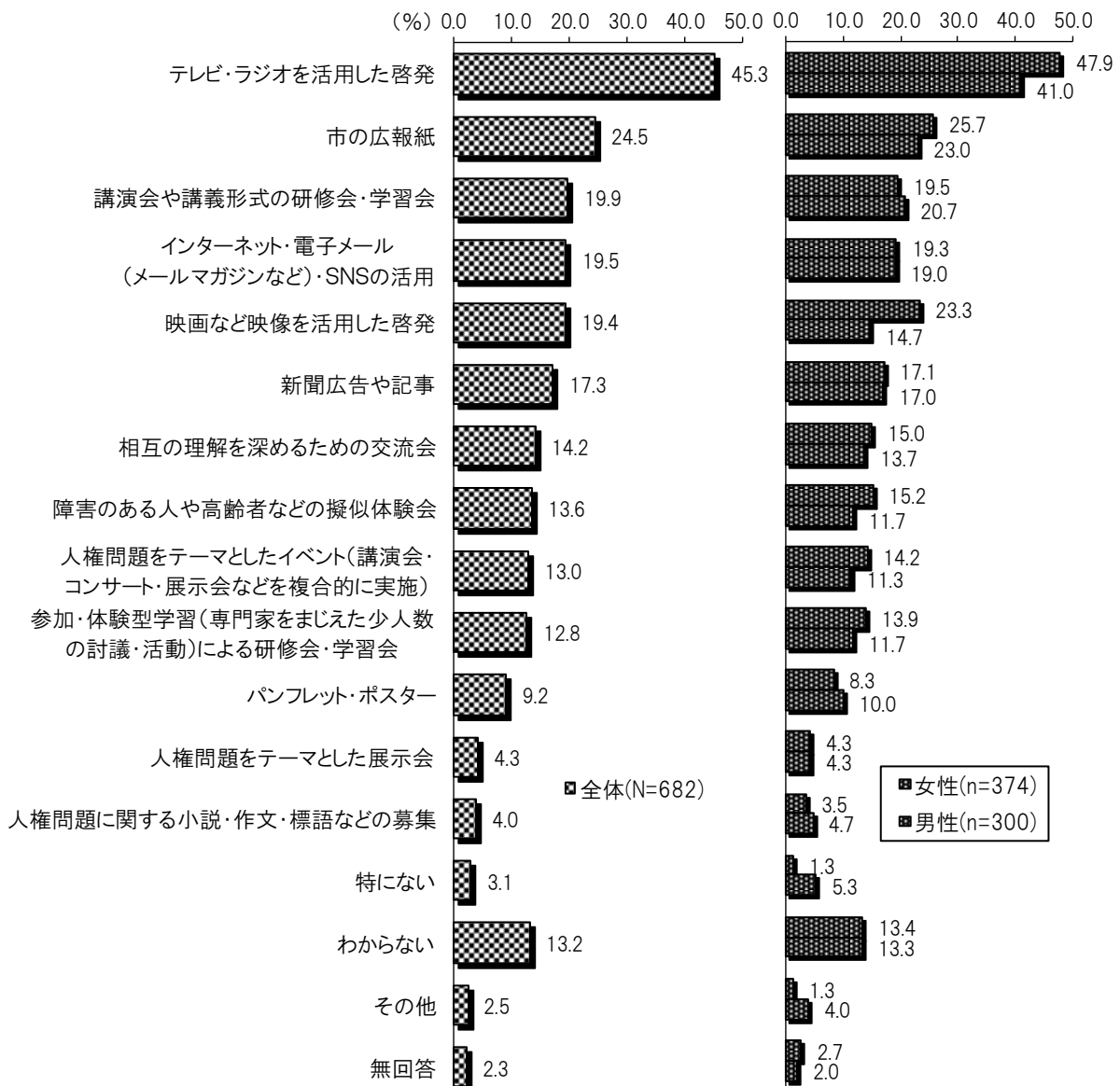
単位 (%)	社会全体での教育や啓発	公共施設や職場・学校におけるトイレや更衣室などの社会環境の整備	学校での教育や啓発	パートナーシップ証明書の発行など社会制度の見直し	LGBT(Q+)【性的マイノリティ】に関する相談窓口の設置	その他	わからない
全体(N=682)	56.2	32.0	30.9	17.7	17.3	1.3	23.8
【年齢別】							
20歳代(n=84)	57.1	34.5	31.0	32.1	13.1	1.2	22.6
30歳代(n=101)	60.4	31.7	44.6	22.8	16.8	2.0	17.8
40歳代(n=123)	52.8	32.5	30.9	18.7	18.7	0.8	24.4
50歳代(n=136)	54.4	36.8	30.1	11.0	19.9	0.7	22.8
60歳代(n=169)	60.4	27.2	28.4	13.6	14.8	1.8	27.2
70歳以上(n=61)	44.3	26.2	14.8	11.5	21.3	1.6	29.5
【人権意識別】							
身近に感じる(n=270)	61.5	37.0	33.7	20.0	20.7	1.9	17.0
身近に感じない(n=172)	50.0	26.2	29.7	14.5	14.0	0.6	31.4
どちらともいえない(n=191)	58.6	31.9	29.8	17.3	15.2	1.6	24.1

18 効果的と思う啓発広報活動

問 25. 今後、より人権啓発を進めるためには、どのような啓発広報活動が効果的と思われますか。(〇はいくつでも)

効果的と思う啓発広報活動については、「テレビ・ラジオを活用した啓発」の割合が45.3%と最も高く、次いで「市の広報紙」(24.5%)、「講演会や講義形式の研修会・学習会」(19.9%)、「インターネット・電子メール(メールマガジンなど)・SNSの活用」(19.5%)、「映画など映像を活用した啓発」(19.4%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「テレビ・ラジオを活用した啓発」「映画など映像を活用した啓発」の割合が高くなっている。



年齢別では、30歳代以下で「映画など映像を活用した啓発」、60歳代で「新聞広告や記事」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高く、若い年齢層ほど「インターネット・電子メール（メールマガジンなど）・SNSの活用」の割合が高くなる傾向にある。

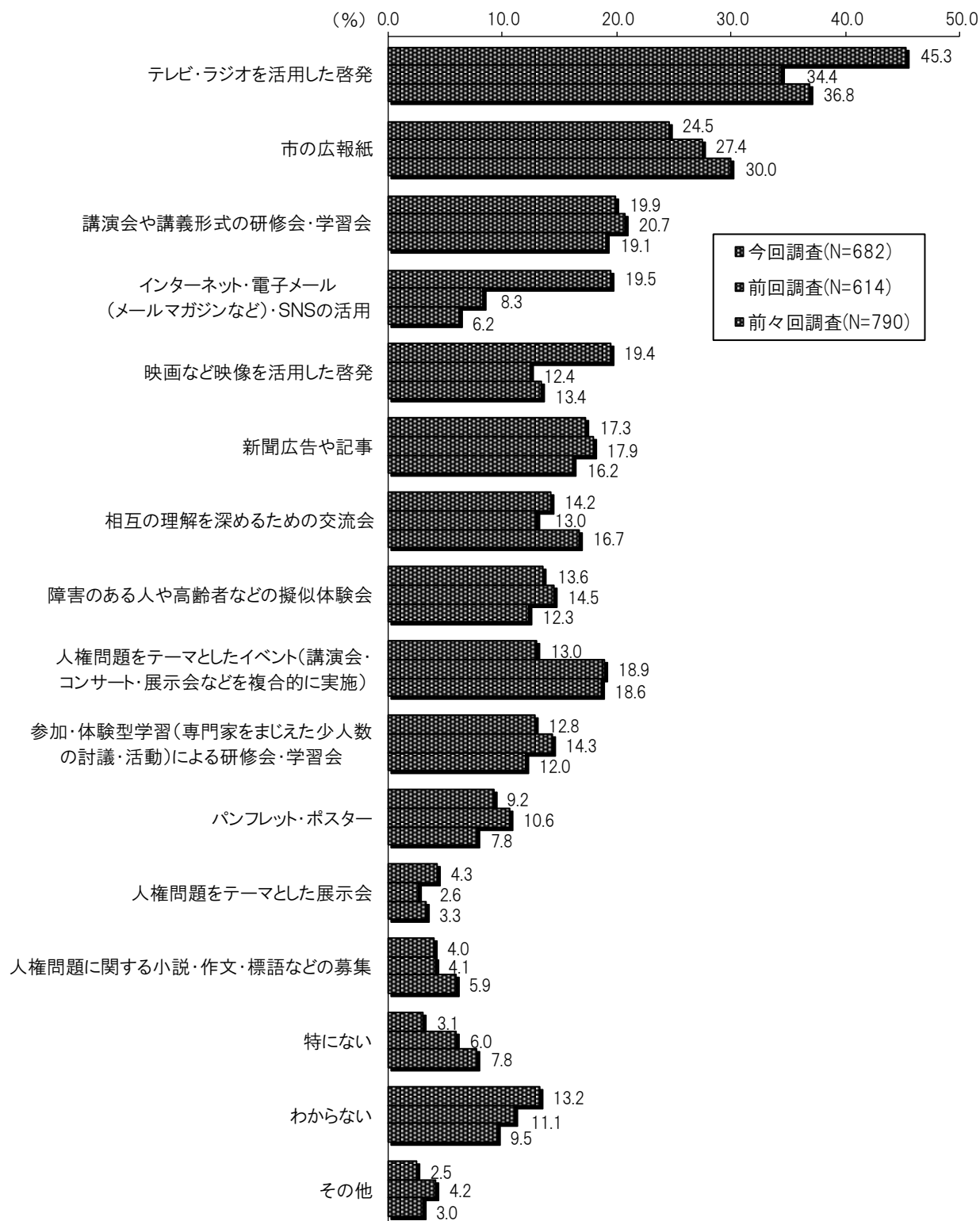
人権意識別では、人権を身近に感じる層で「講演会や講義形式の研修会・学習会」「インターネット・電子メール（メールマガジンなど）・SNSの活用」「映画など映像を活用した啓発」などの割合が他の層に比べて高くなっている。

単位 (%)	テレビ・ラジオを活用	市の広報紙	講演会や講義形式の研修会・学習会	インターネット・メールマガジンなどの活用	映画など映像を活用した啓発	新聞広告や記事	相互の理解を深めるための交流会	障害のある人や高齢者などの疑似体験会	コンサート・展示会などを複合的に実施	人権問題をテーマとした講演会・展示会	研修会・学習会	の討議・活動	専門家・体験型学習（少人数）	参加・体験型学習（専
全体(N=682)	45.3	24.5	19.9	19.5	19.4	17.3	14.2	13.6	13.0	12.8				
【年齢別】														
20歳代(n=84)	45.2	16.7	13.1	36.9	27.4	17.9	16.7	13.1	13.1	19.0				
30歳代(n=101)	44.6	25.7	15.8	22.8	23.8	12.9	10.9	6.9	9.9	9.9				
40歳代(n=123)	48.0	21.1	23.6	21.1	19.5	14.6	13.0	13.8	8.9	15.4				
50歳代(n=136)	41.2	27.2	22.8	16.9	18.4	15.4	15.4	17.6	14.7	12.5				
60歳代(n=169)	50.3	25.4	22.5	12.4	16.0	23.1	17.8	14.8	14.8	11.8				
70歳以上(n=61)	31.1	31.1	16.4	8.2	11.5	14.8	8.2	11.5	16.4	8.2				
【人権意識別】														
身近に感じる(n=270)	50.7	28.5	28.1	24.1	25.2	21.5	20.0	18.1	18.5	18.9				
身近に感じない(n=172)	39.0	22.1	12.8	15.7	15.1	10.5	11.0	9.3	11.0	10.5				
どちらともいえない(n=191)	45.5	24.6	17.8	16.2	15.7	19.4	12.0	12.6	9.4	7.3				

単位 (%)	パネル・ポス	人権問題をテーマとした展示会	募集・人権問題に関する小の	特にな	わからない	その他
全体(N=682)	9.2	4.3	4.0	3.1	13.2	2.5
【年齢別】						
20歳代(n=84)	14.3	4.8	6.0	3.6	10.7	2.4
30歳代(n=101)	11.9	3.0	2.0	3.0	13.9	2.0
40歳代(n=123)	6.5	4.1	4.1	3.3	13.0	3.3
50歳代(n=136)	5.1	6.6	4.4	2.2	12.5	0.7
60歳代(n=169)	8.9	4.7	4.1	2.4	13.0	3.6
70歳以上(n=61)	9.8	0.0	3.3	6.6	19.7	3.3
【人権意識別】						
身近に感じる(n=270)	12.2	4.4	5.6	2.2	5.9	3.3
身近に感じない(n=172)	4.7	3.5	1.7	3.5	18.0	0.6
どちらともいえない(n=191)	10.5	4.2	4.2	3.1	15.2	3.1

【時系列比較】

前回調査と比べて、「人権問題をテーマとしたイベント（講演会・コンサート・展示会などを複合的に実施）」が減少し、「テレビ・ラジオを活用した啓発」「インターネット・電子メール（メールマガジンなど）・SNSの活用」が大きく増加した。



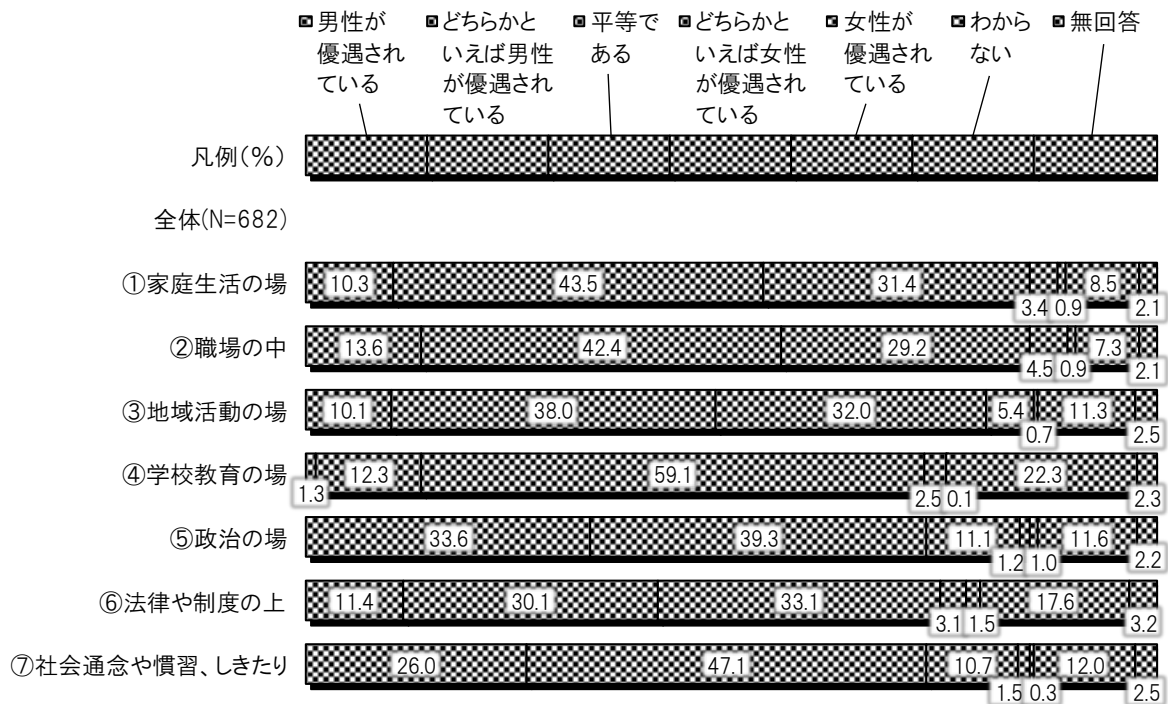
【2】男女共同参画のことについて

1 男女の地位の平等意識

問 26. 現在の社会での男女の地位は、平等になっていると思いますか。
 (〇はそれぞれ1つずつ)

男女の地位の平等意識については、全ての項目において、『男性優遇』（「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計）の割合が『女性優遇』（「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計）の割合を上回っている。特に、「⑤政治の場」（72.9%）や「⑦社会通念や慣習、しきたり」（73.1%）で『男性優遇』の割合が高くなっている。

一方、「平等である」の割合が高い項目としては、「④学校教育の場」（59.1%）があげられる。

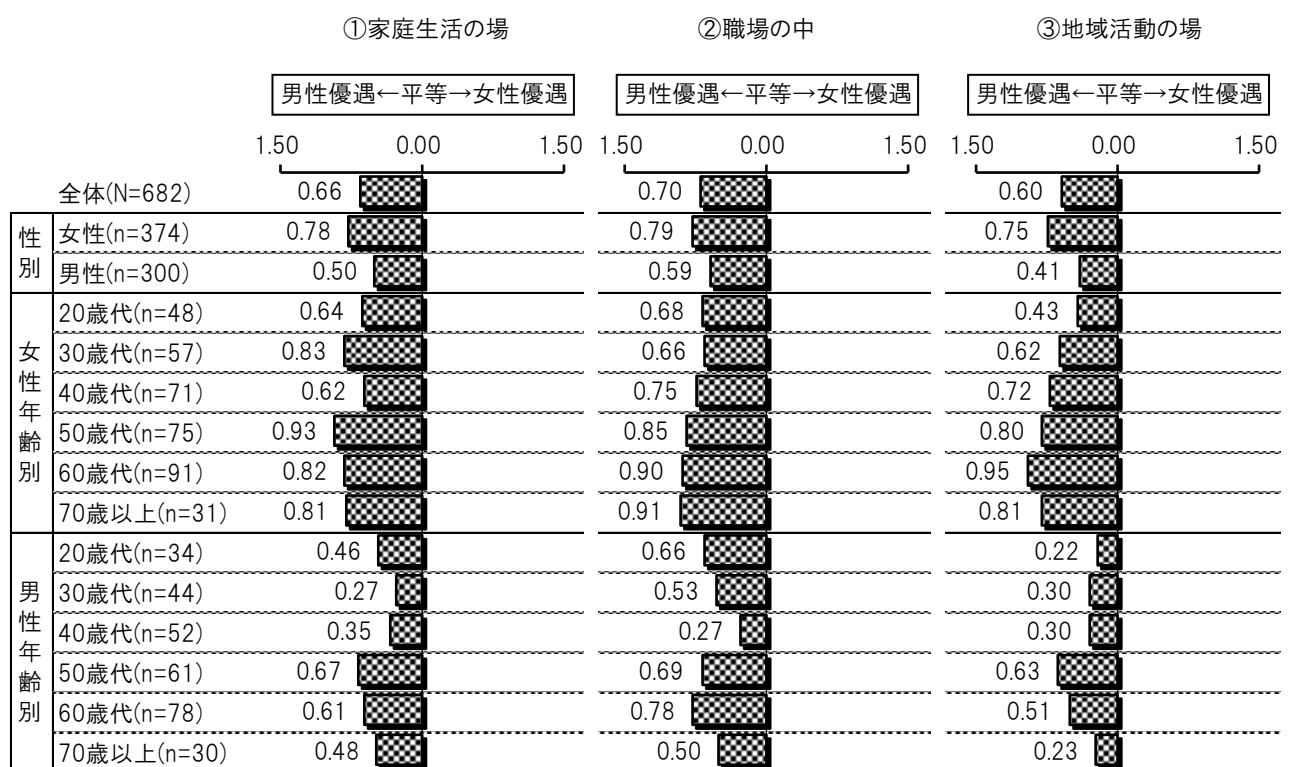


平均評定値^注による属性別傾向をみると、全ての項目において、女性は男性に比べ『男性優遇』意識が高くなっており、特に「⑥法律や制度の上」で男性を大きく上回っている。

性年齢別では、女性はおおむね年齢が上がるほど「②職場の中」「③地域活動の場」で『男性優遇』意識が高くなる傾向にある。また、女性の50歳代以上では「④学校教育の場」で『男性優遇』意識が高く、男性の50～60歳代では「③地域活動の場」で『男性優遇』意識が高くなっている。

注:平均評定値

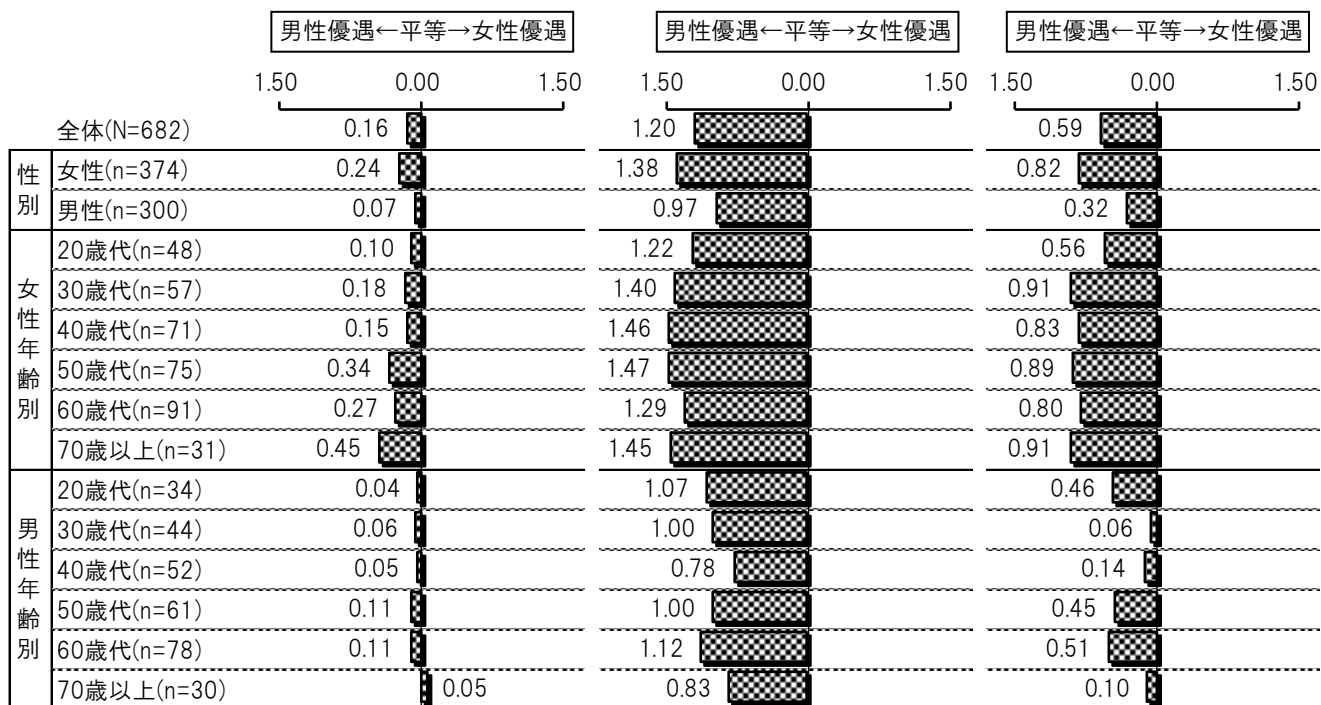
平均評定値とは、女性、男性それぞれについて「優遇されている」に2点、「どちらかといえば優遇されている」に1点、「平等である」に0点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ加重平均して算出した値で、グラフ上では0を中心として左側が男性優遇、右側が女性優遇、0に近いほど平等を示す指標である。



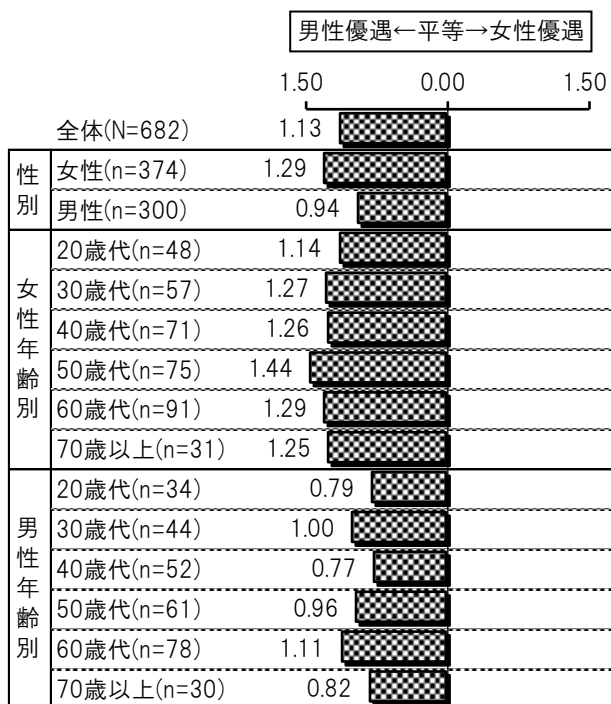
④学校教育の場

⑤政治の場

⑥法律や制度の上

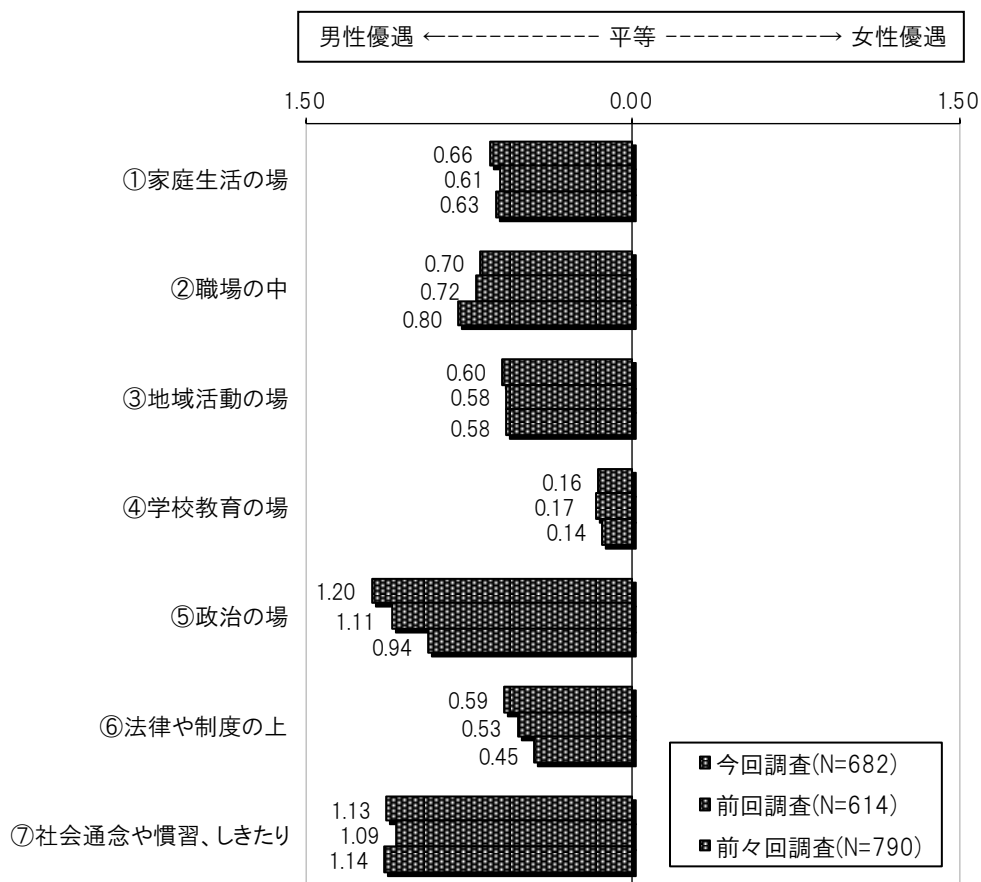


⑦社会通念や慣習、しきたり

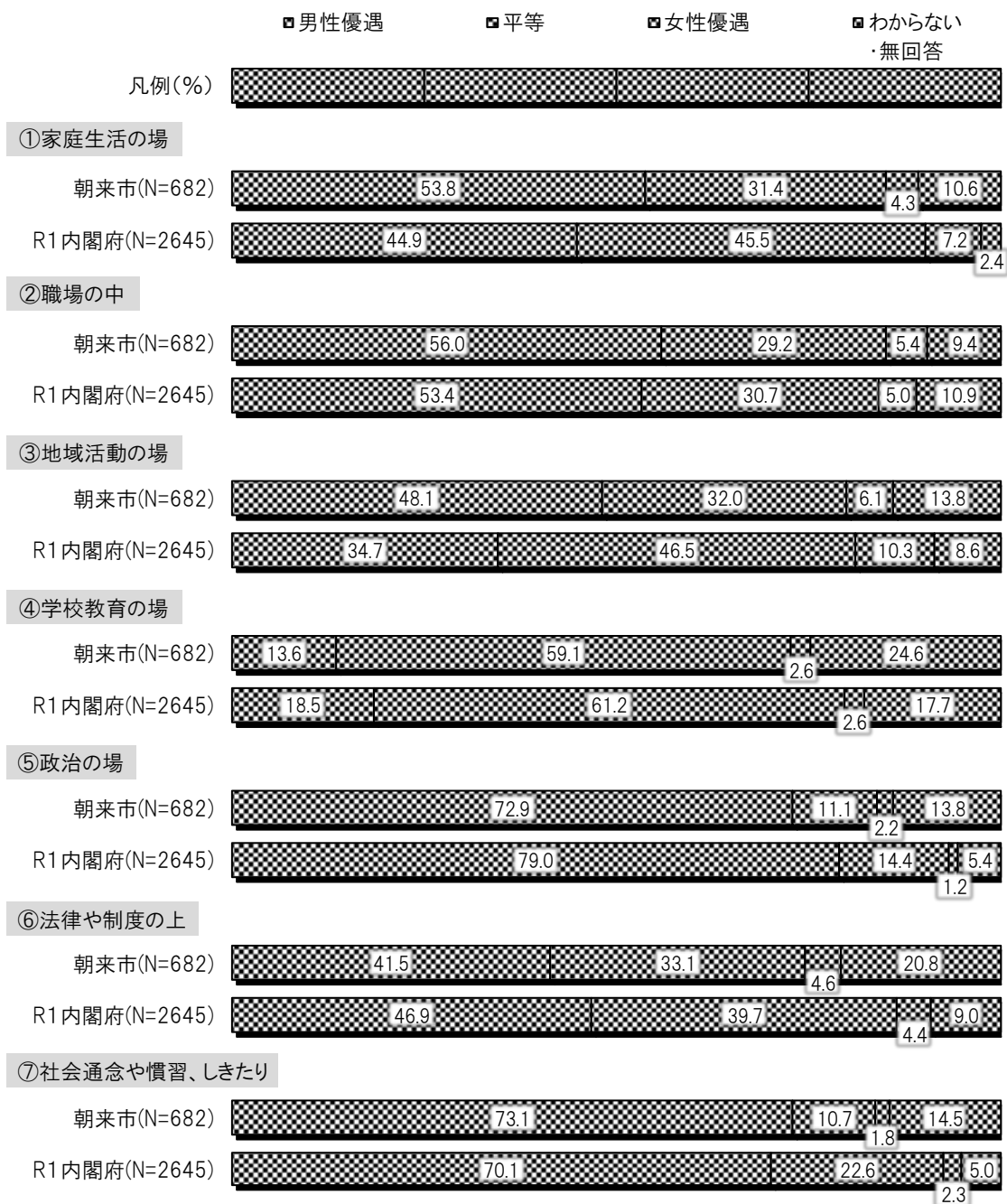


【時系列比較】

前回調査と比べて、「⑤政治の場」で『男性優遇』意識がやや増加した。

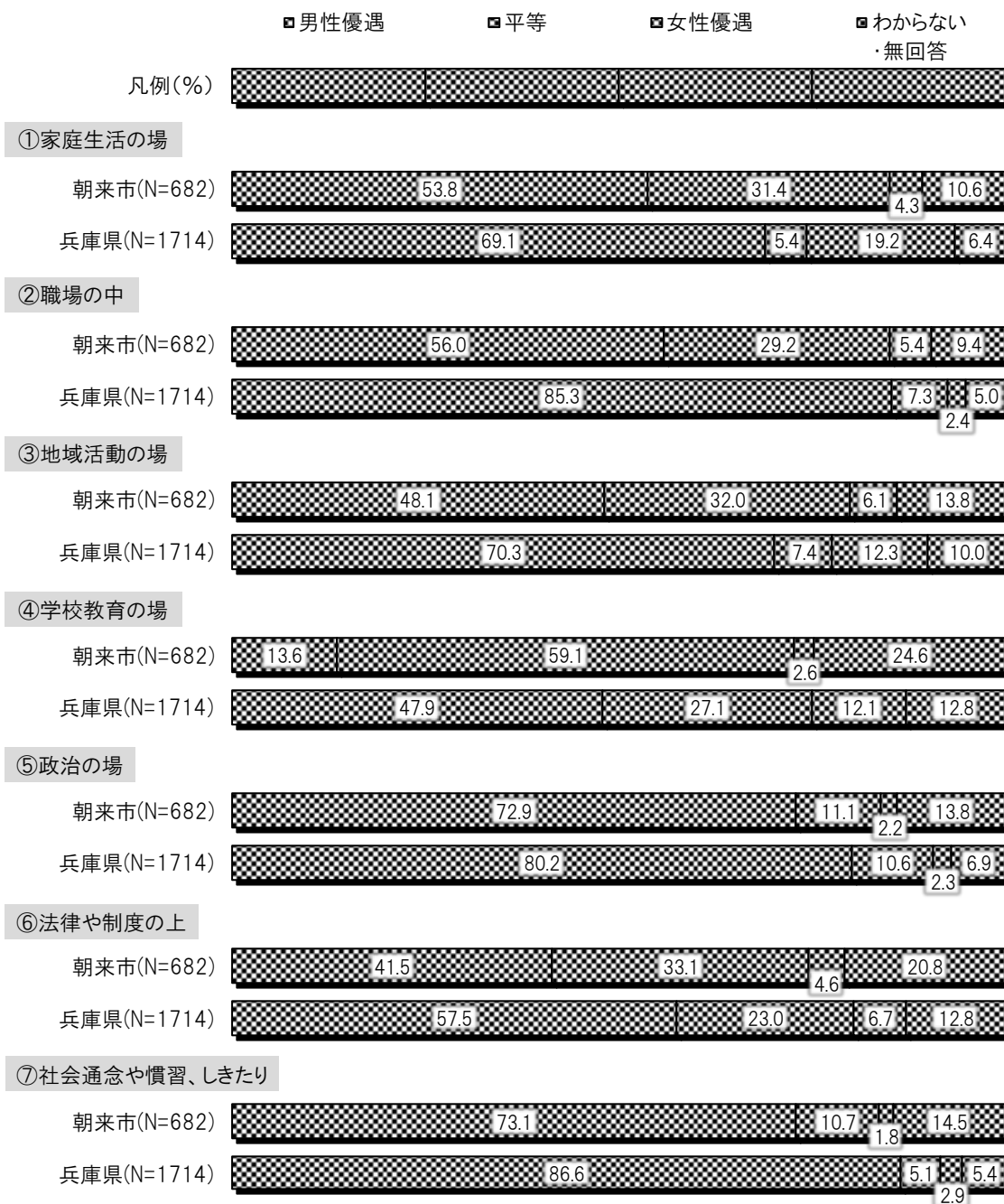


【参考／内閣府との比較】



注：R1内閣府における『男性優遇』は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計値。『女性優遇』は「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計値。

【参考／兵庫県との比較】



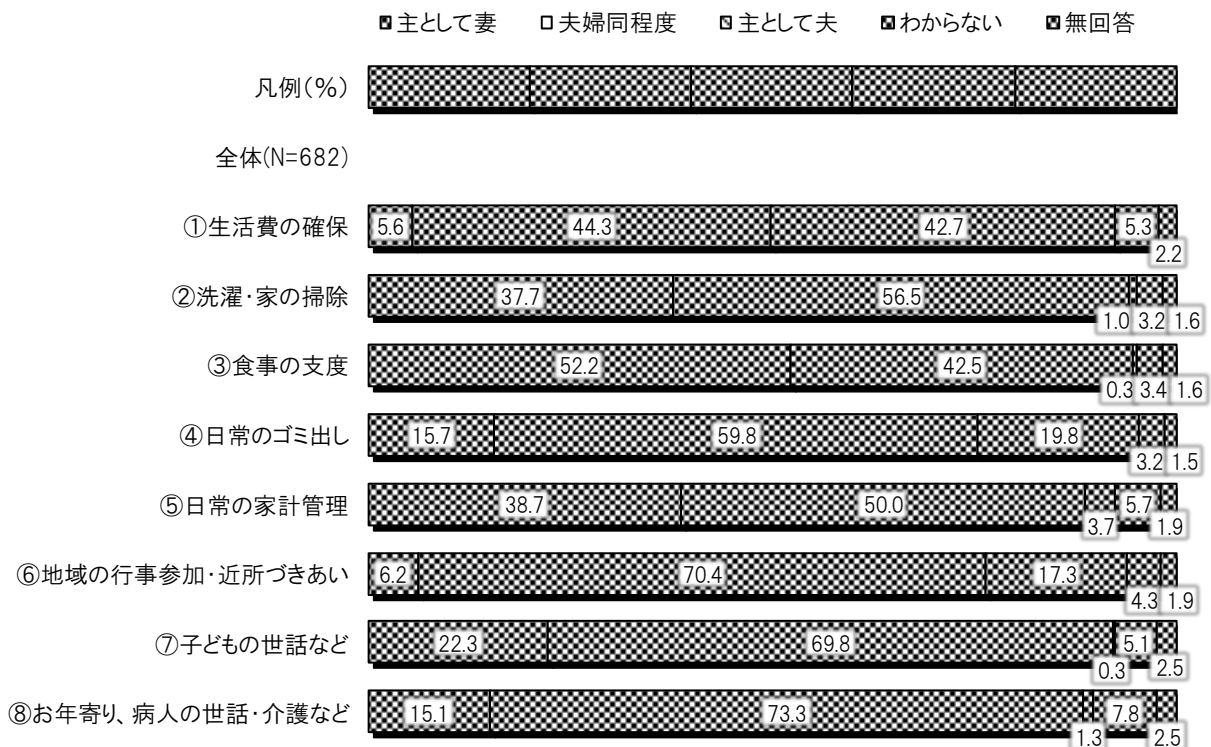
注：兵庫県における『男性優遇』は「男性が非常に優遇」「どちらかといえば男性が優遇」の合計値。
『女性優遇』は「女性が非常に優遇」「どちらかといえば女性が優遇」の合計値。

2 望ましいと思う家庭での役割分担

問 27. 次の家庭での役割分担について、夫婦の間でどのように担当するのが望ましいとお考えですか。配偶者のおられない方もお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

望ましいと思う家庭での役割分担については、「夫婦同程度」の割合が高い順に「⑧お年寄り、病人の世話・介護など」(73.3%)、「⑥地域の行事参加・近所づきあい」(70.4%)、「⑦子どもの世話など」(69.8%)となっている。

一方、「②洗濯・家の掃除」「③食事の支度」「⑤日常の家計管理」は「主として妻」が高い割合を占めており、「①生活費の確保」では「主として夫」の割合が高くなっている。

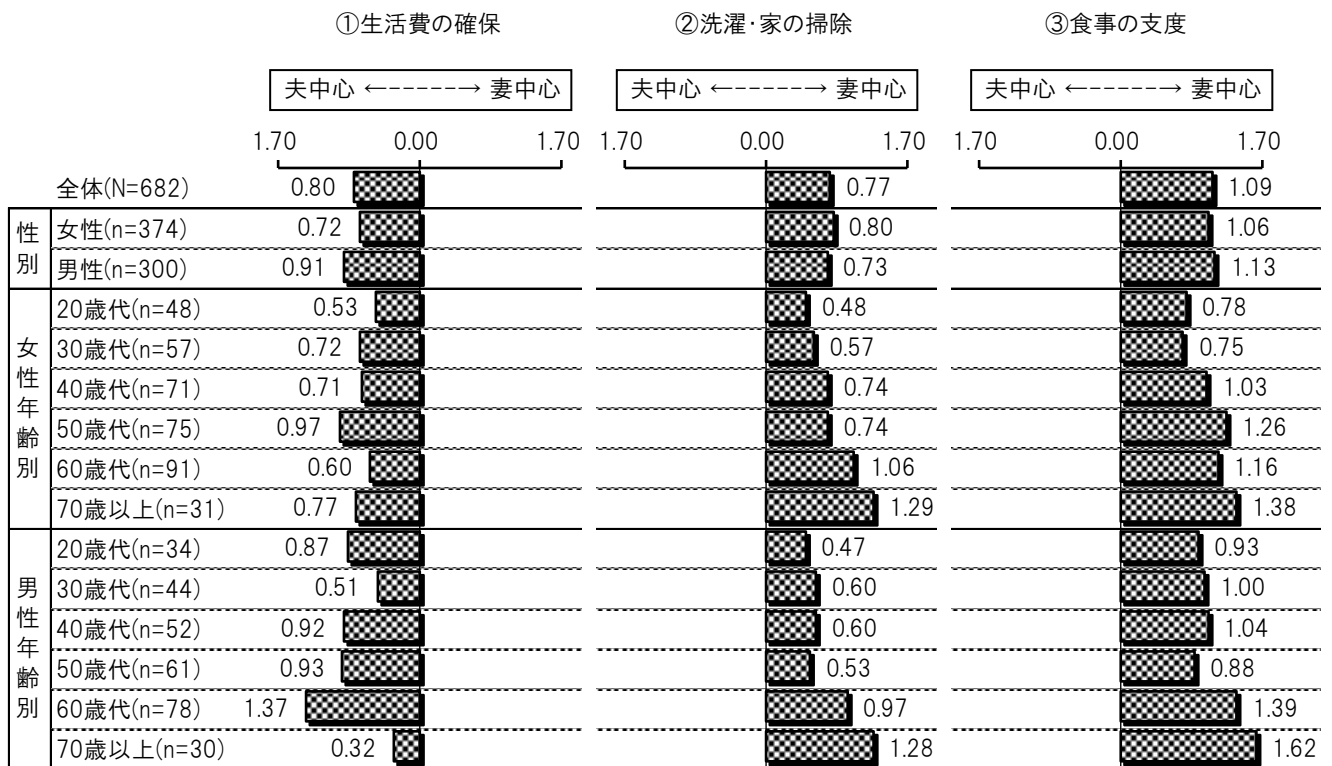


平均評定値^注による属性別傾向をみると、男性は「①生活費の確保」「④日常のゴミ出し」「⑥地域の行事参加・近所づきあい」で『夫中心』が女性を上回っている。

性年齢別では、女性の60歳代以上で「⑧お年寄り、病人の世話・介護など」は『妻中心』、男性の60歳代以上で「③食事の支度」「⑤日常の家計管理」は『妻中心』がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。また、女性は年齢が上がるほど「②洗濯・家の掃除」は『妻中心』が高くなる傾向にある。

注:平均評定値

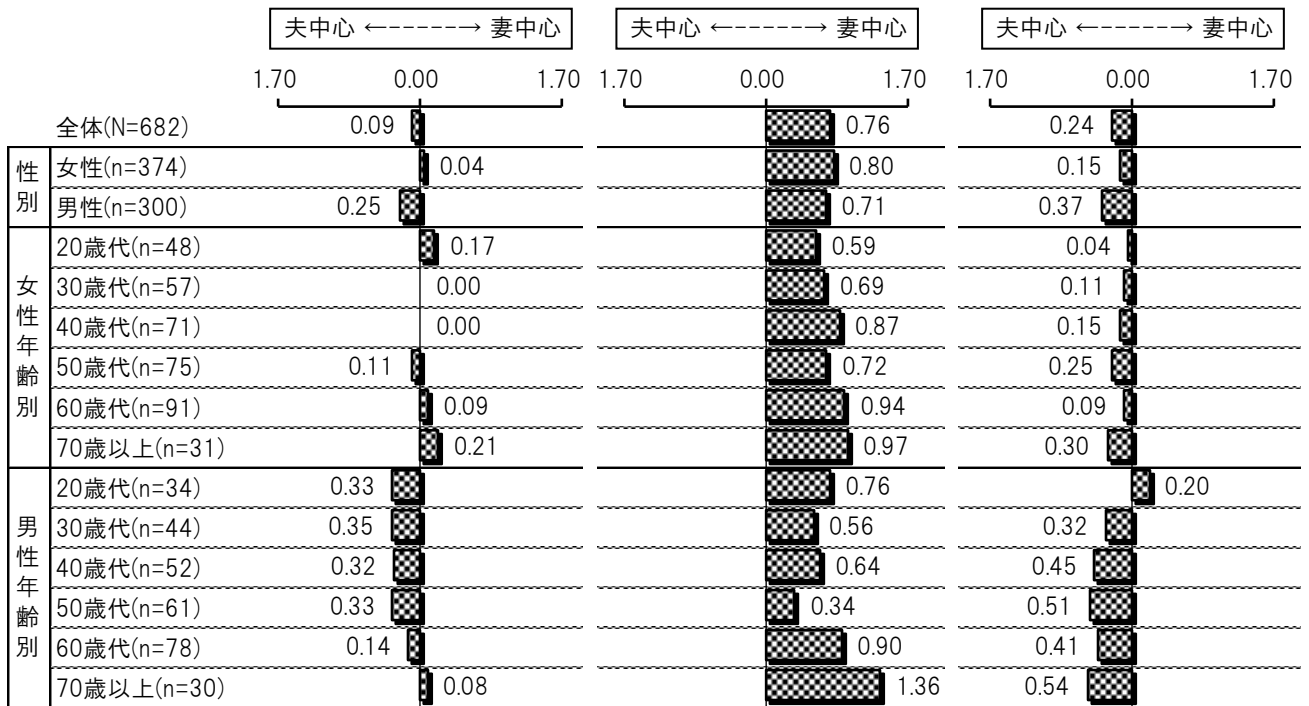
平均評定値とは、「主として妻」「主として夫」に2点、「夫婦同程度」に0点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、グラフ上では0を中心として左側が夫中心、右側が妻中心を示す指標である。



④ 日常のゴミ出し

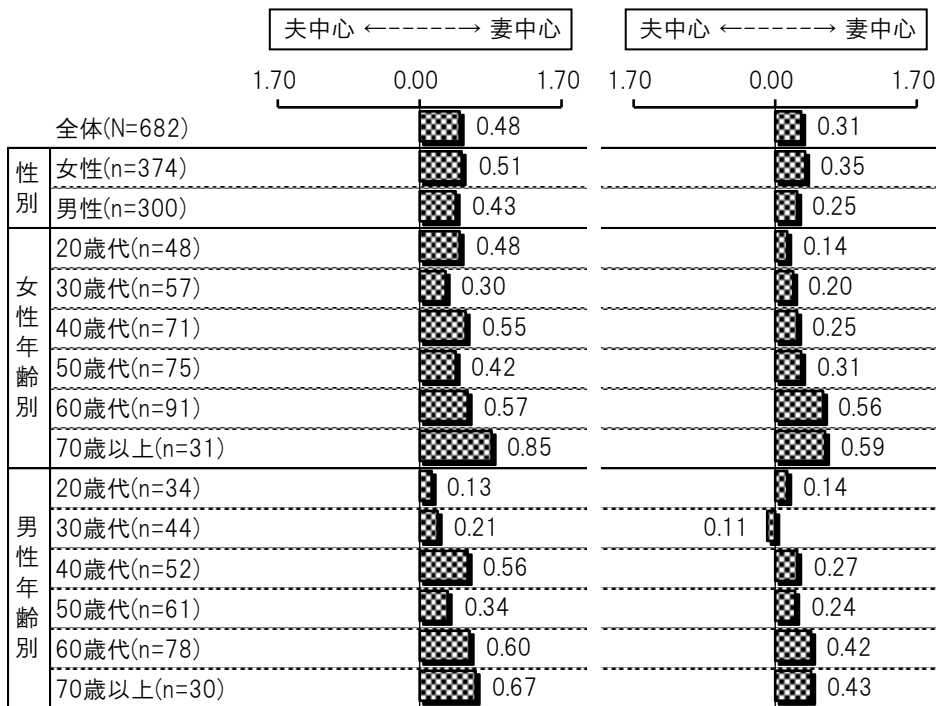
⑤ 日常の家計管理

⑥ 地域の行事参加・近所づきあい



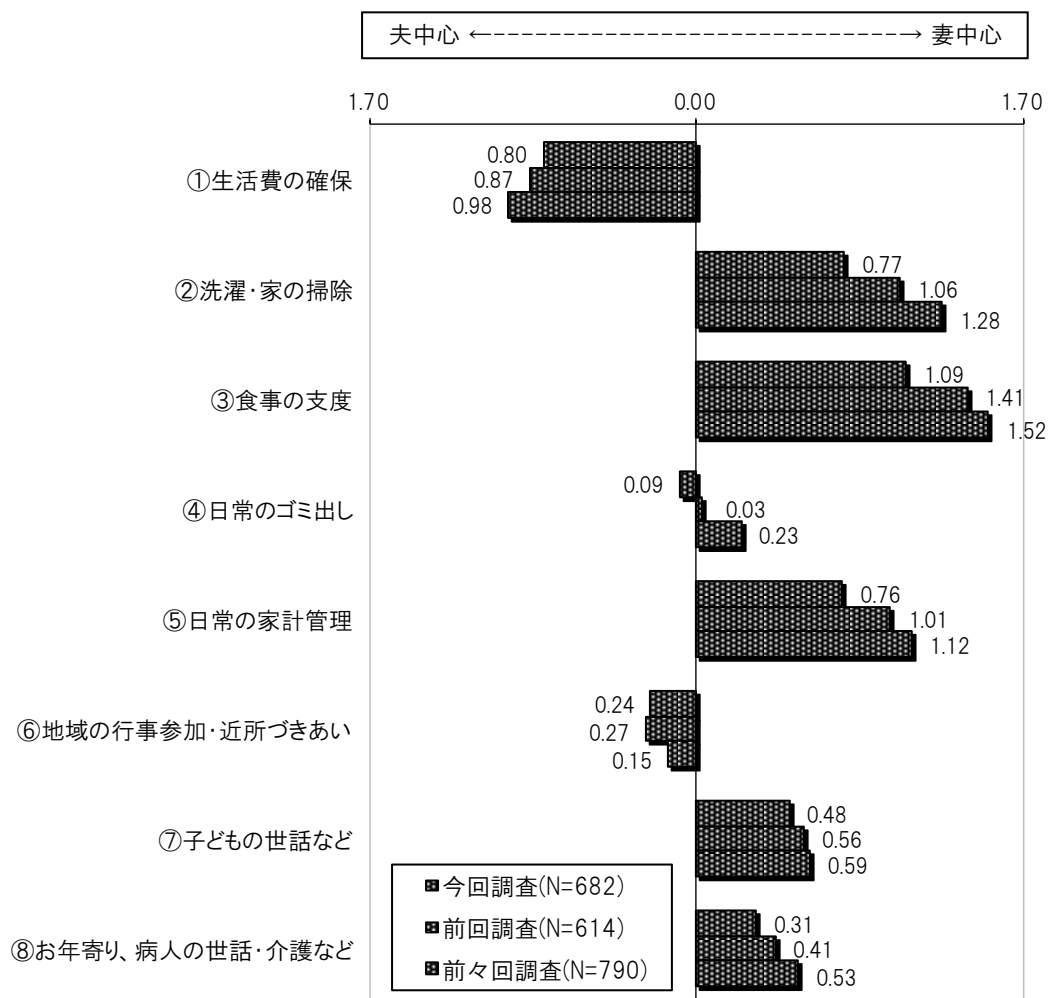
⑦ 子どもの世話など

⑧ お年寄り、病人の世話・介護など

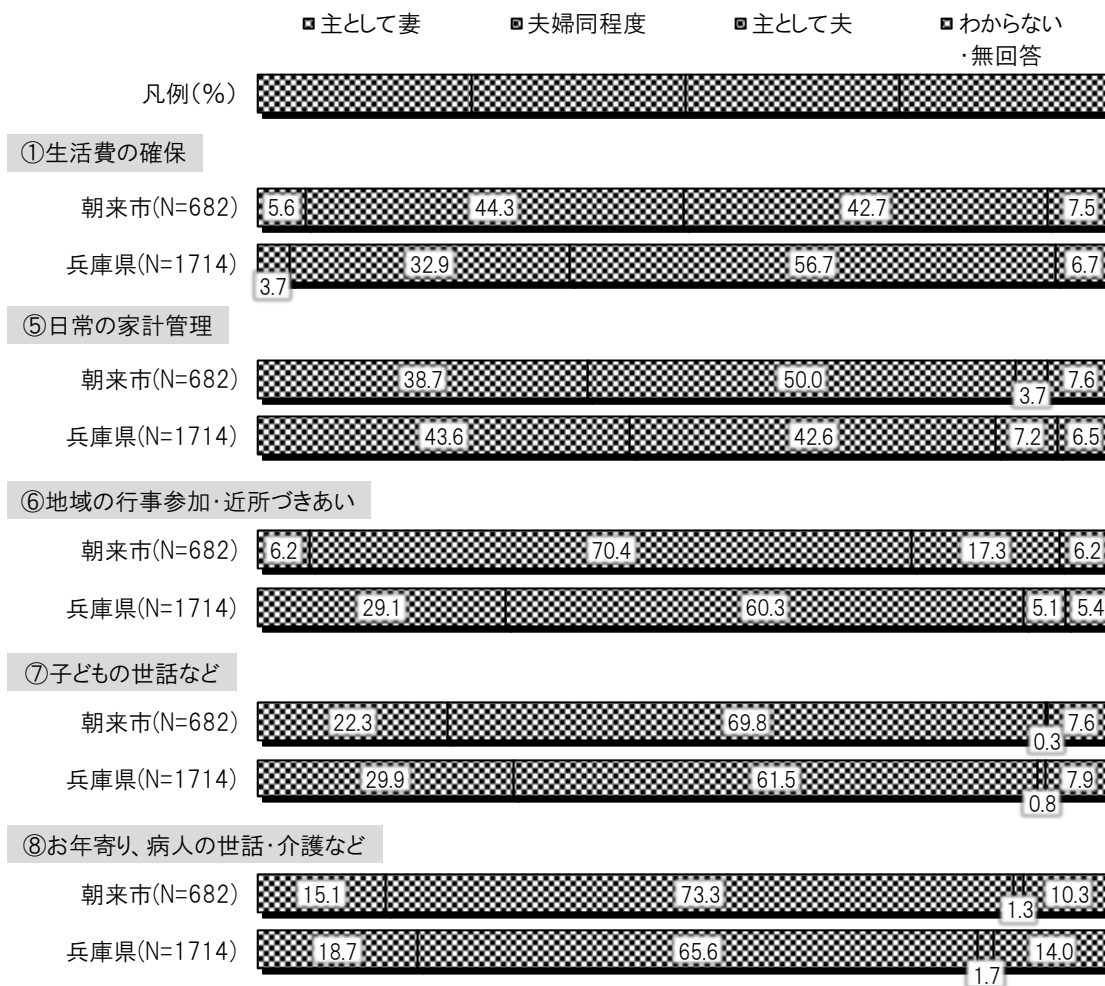


【時系列比較】

前回調査と比べて、「②洗濯・家の掃除」「③食事の支度」「⑤日常の家計管理」などで『妻中心』が減少した。



【参考／兵庫県との比較】



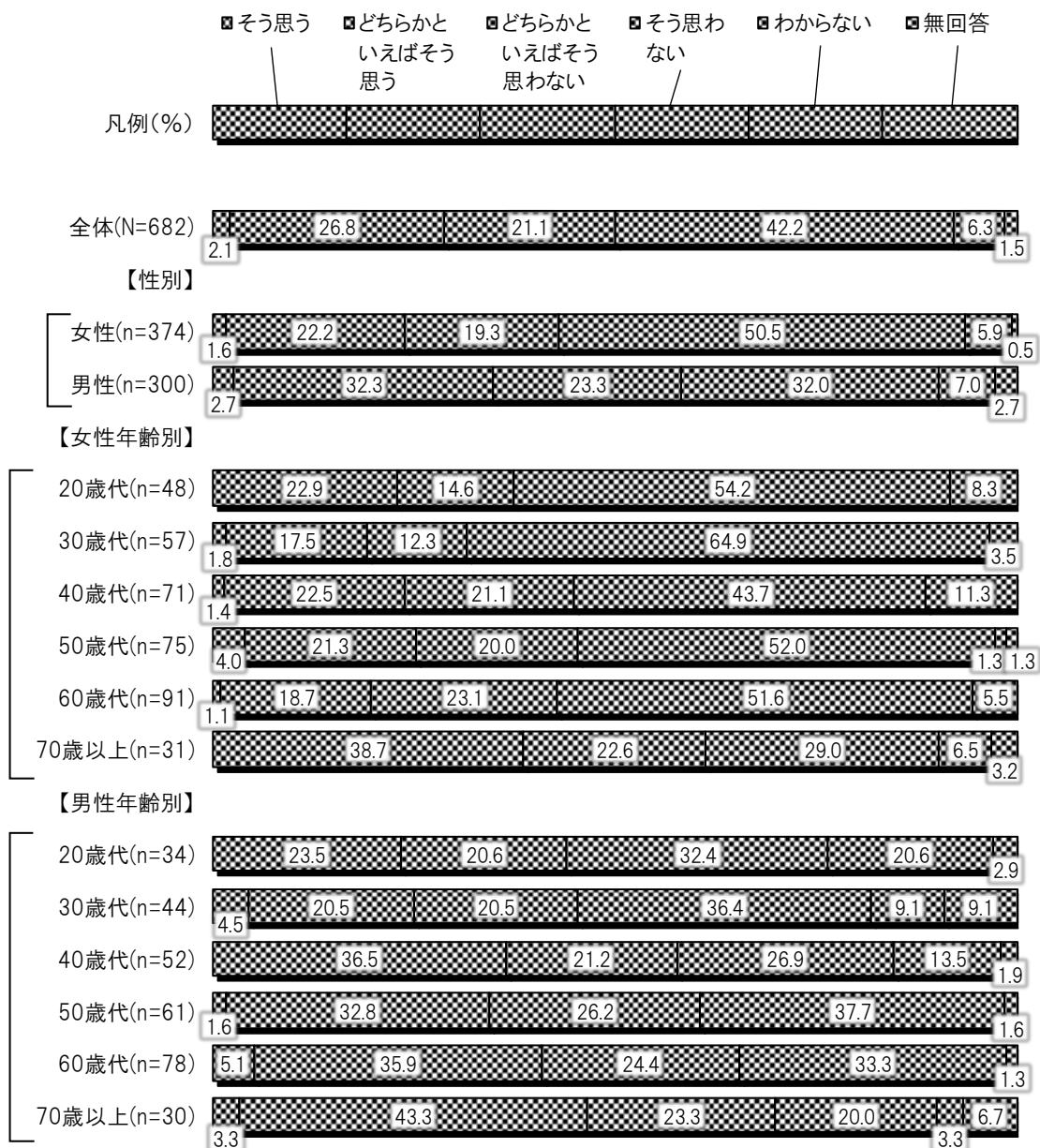
3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問 28. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。
(○は1つ)

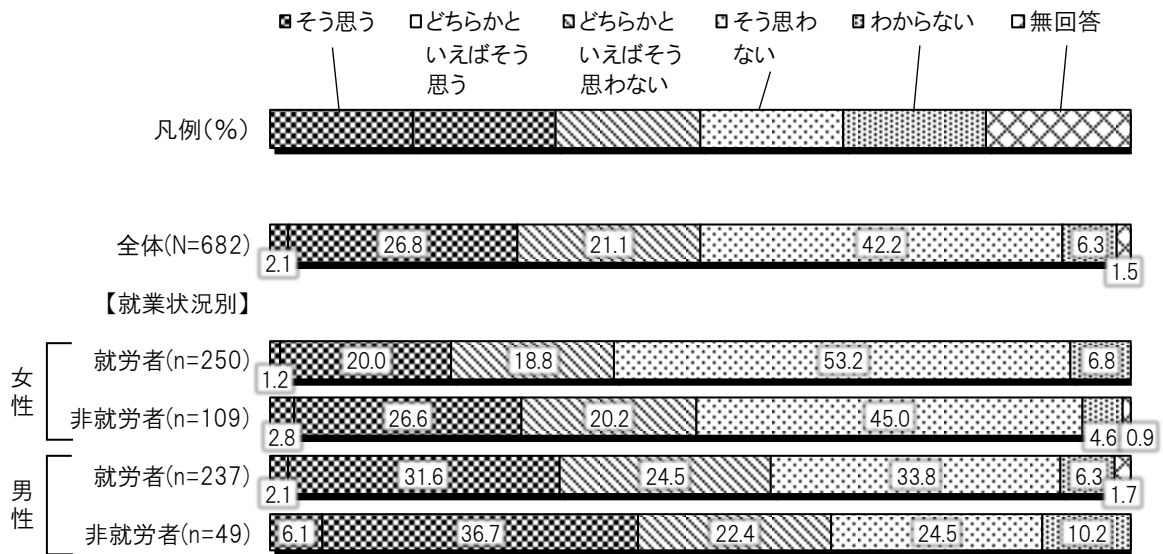
「男は仕事、女は家庭」という考え方については、「そう思う」が 2.1%、「どちらかといえばそう思う」が 26.8%で、合計約3割 (28.9%) が『そう思う』と回答している。一方、「どちらかといえばそう思わない」(21.1%)、「そう思わない」(42.2%) の合計は 63.3%であった。

性別では、女性は「そう思わない」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっている。

性年齢別では、女性の 70 歳以上で「どちらかといえばそう思う」の割合が他の年齢層を大きく上回っており、男性はおおむね年齢が上がるほど『そう思う (合計)』の割合が高くなる傾向にある。

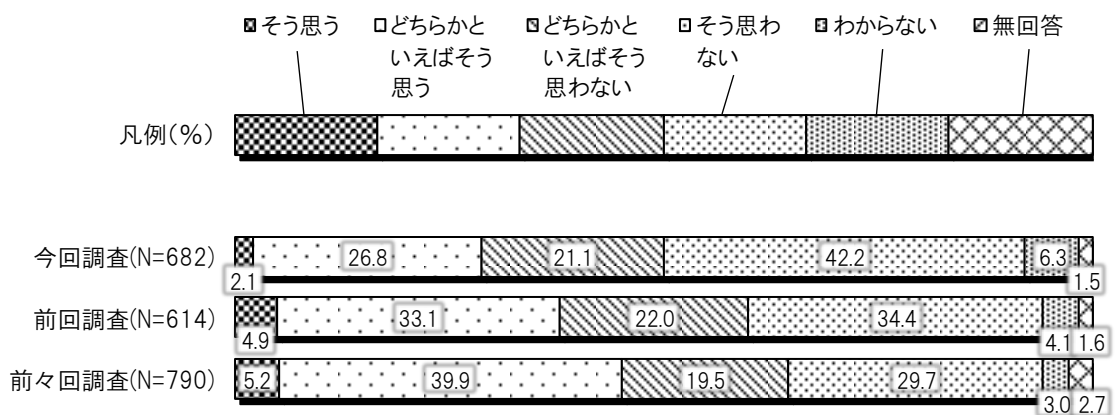


就業状況別では、男女共に就労者は非就労者に比べて『そう思わない（合計）』の割合が高くなっている。

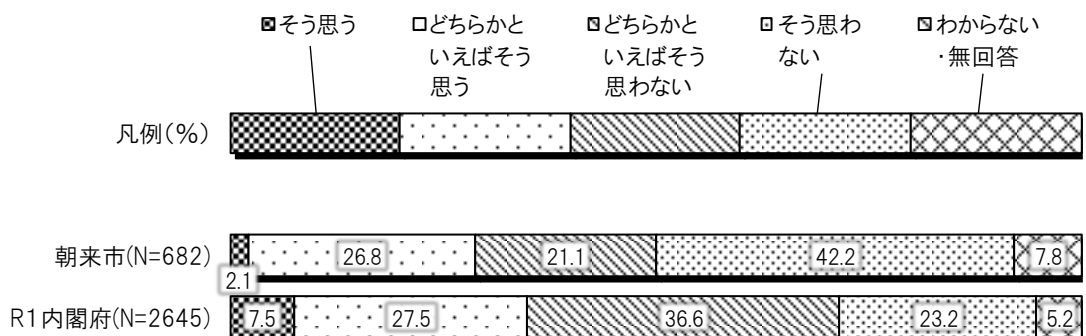


【時系列比較】

前回調査と比べて、『そう思う（合計）』が減少し、「そう思わない」が増加した。



【参考／内閣府との比較】

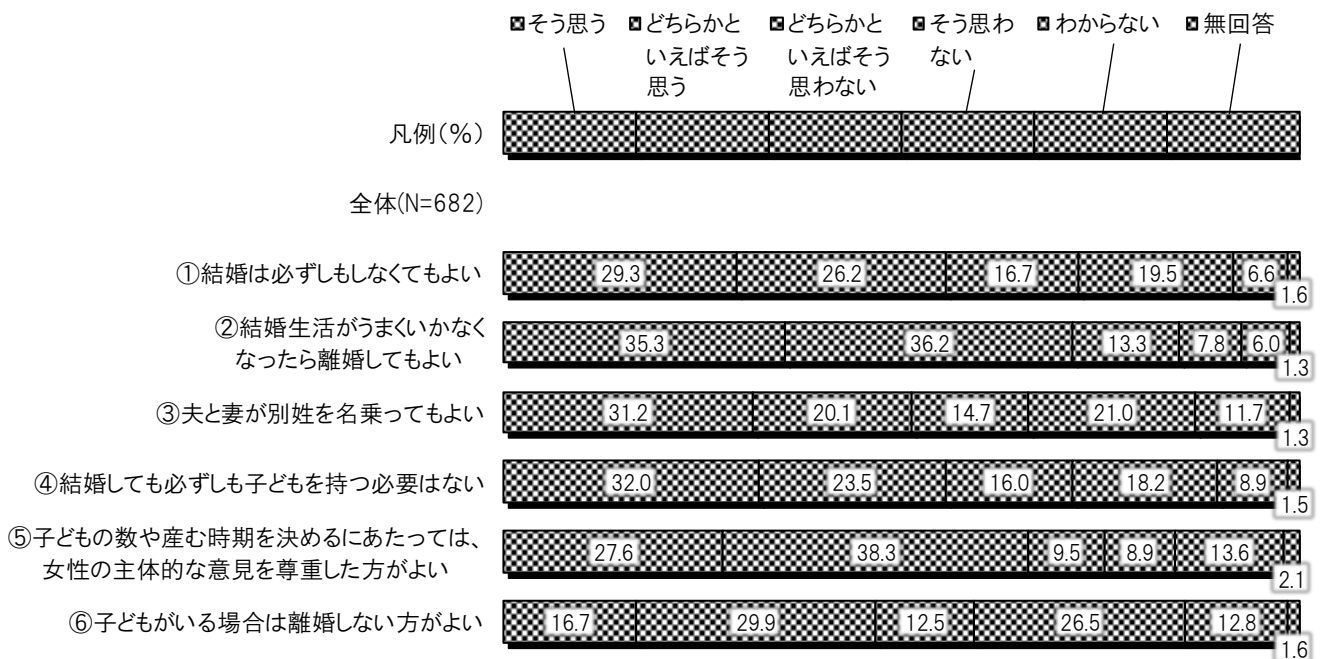


注：R1内閣府の選択肢は、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」。

4 結婚についての考え方

問 29. あなたは、次のような結婚についての意見をどう思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

結婚についての考え方については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合計した割合が高い順に、「②結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい」(71.5%)、「⑤子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい」(65.9%)となっている。一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合計した割合が高い順に、「⑥子どもがいる場合は離婚しない方がよい」(39.0%)、「①結婚は必ずしもしなくてもよい」(36.2%)、「③夫と妻が別姓を名乗ってもよい」(35.7%)となっている。

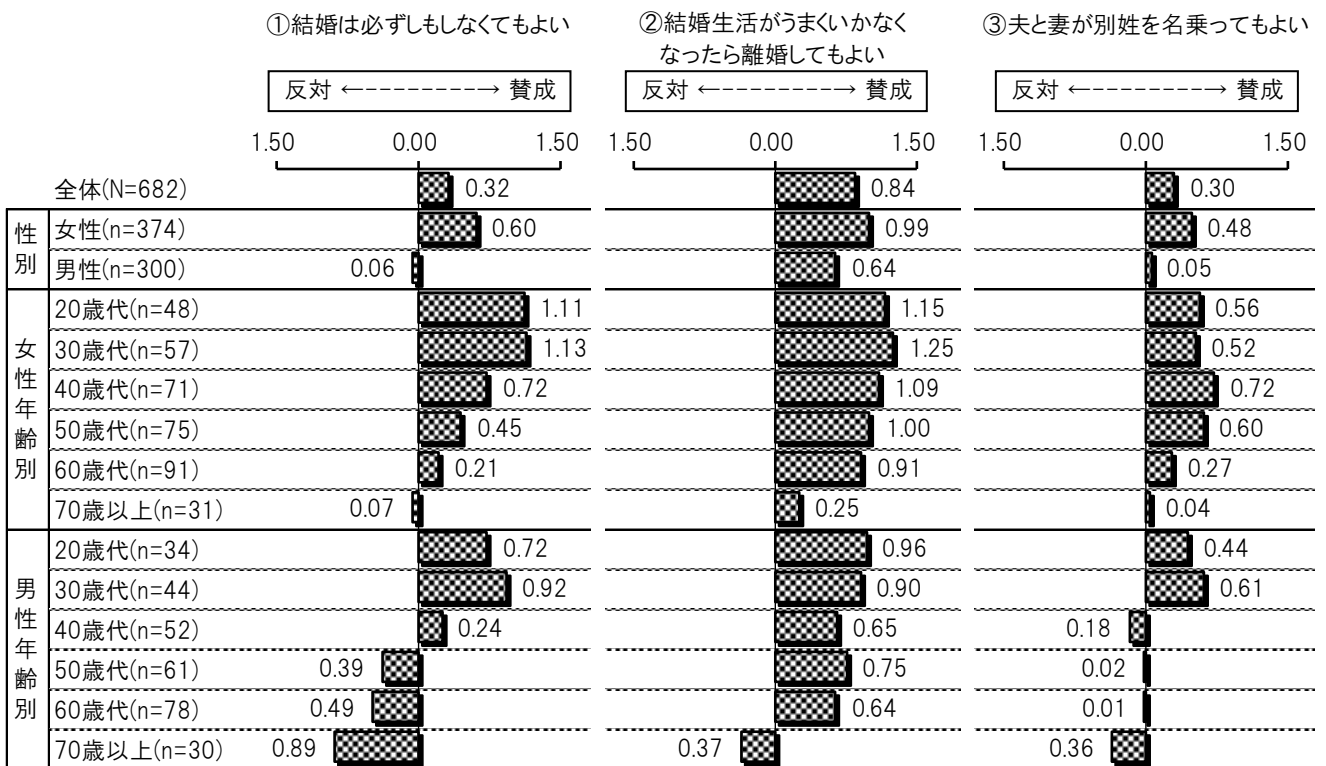


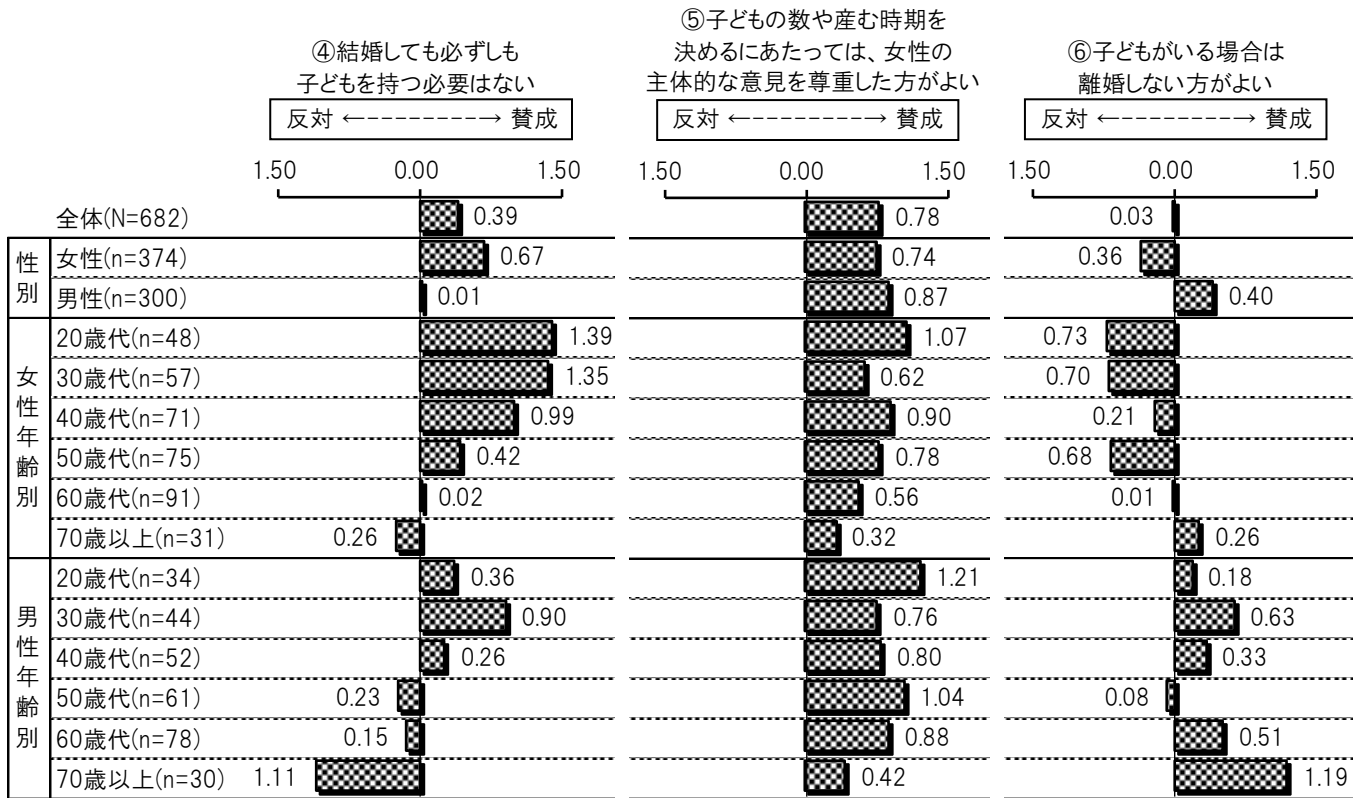
平均評定値^注による属性別傾向をみると、女性は「①結婚は必ずしもしなくてもよい」「④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」で『賛成意識』が男性を大きく上回っており、「⑥子どもがいる場合は離婚しない方がよい」については、女性で『反対意識』、男性で『賛成意識』が高くなっている。

性年齢別では、男性の30歳代以下で「③夫と妻が別姓を名乗ってもよい」の『賛成意識』が高く、女性は若い年齢層ほど「①結婚は必ずしもしなくてもよい」「④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」の『賛成意識』が高くなる傾向がある。一方、男性の50歳代以上では「①結婚は必ずしもしなくてもよい」「④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」の『反対意識』が高くなっている。

注：平均評定値

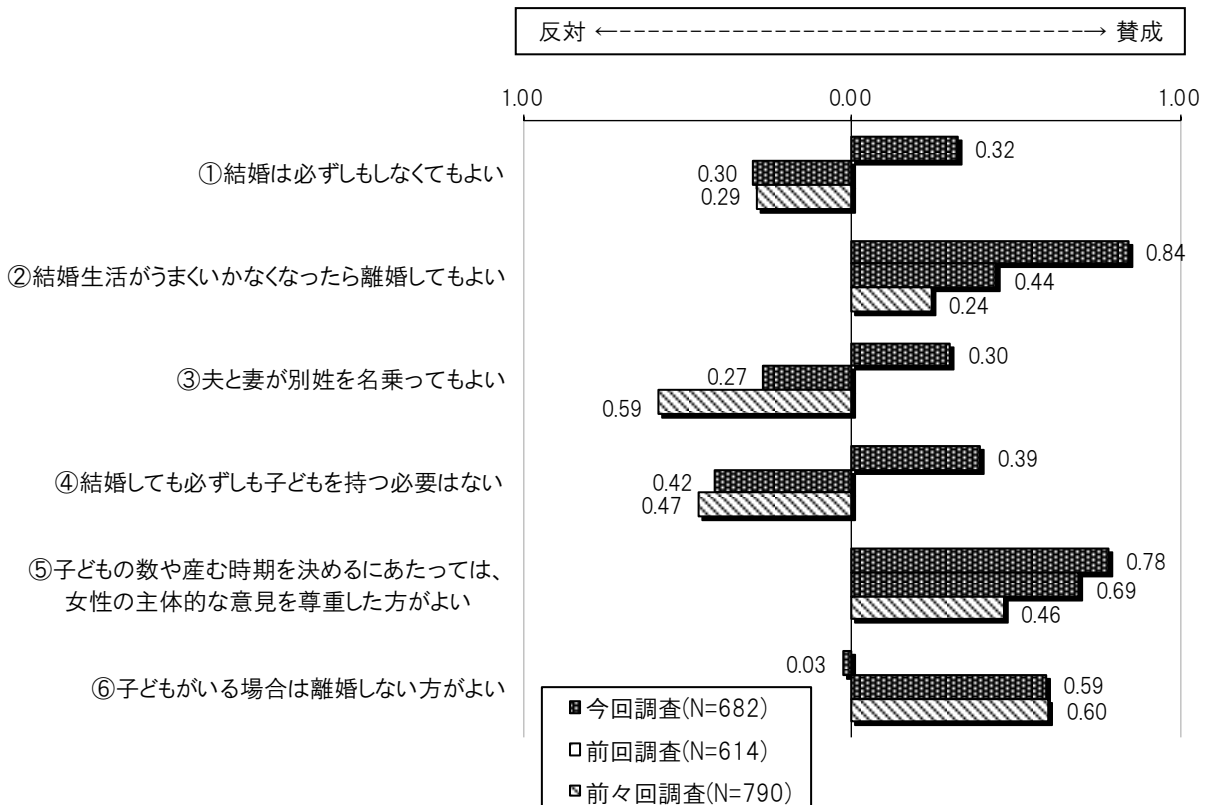
平均評定値とは、「そう思う」「そう思わない」に2点、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」に1点の係数を、それぞれの回答件数に乘じ、加重平均して算出した値で、グラフ上では0を中心として左側が反対、右側が賛成を示す指標である。





【時系列比較】

前回調査と比べて、「①結婚は必ずしもしなくてもよい」「②結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい」「③夫と妻が別姓を名乗ってもよい」「④結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」の『賛成意識』が大きく増加した。

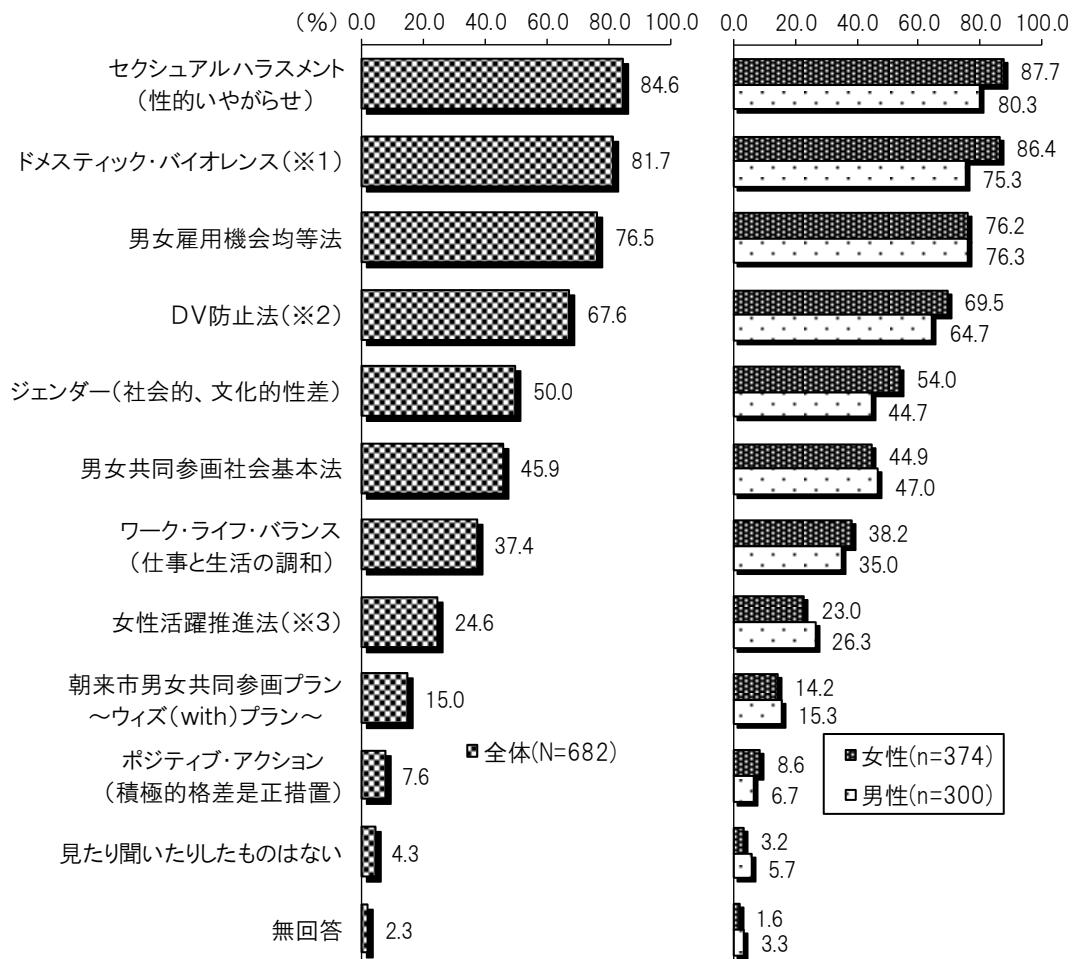


5 男女共同参画に関する用語等の認知状況

問 30. あなたは、次にあげる男女共同参画に関する法律や言葉を知っていますか。
(○はいくつでも)

男女共同参画に関する用語等の認知状況については、「セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）」の割合が84.6%と最も高く、次いで「ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親しい人からの暴力）」（81.7%）、「男女雇用機会均等法」（76.5%）、「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）」（67.6%）、「ジェンダー（社会的、文化的性差）」（50.0%）の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）」「ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親しい人からの暴力）」「ジェンダー（社会的、文化的性差）」の割合が高くなっている。



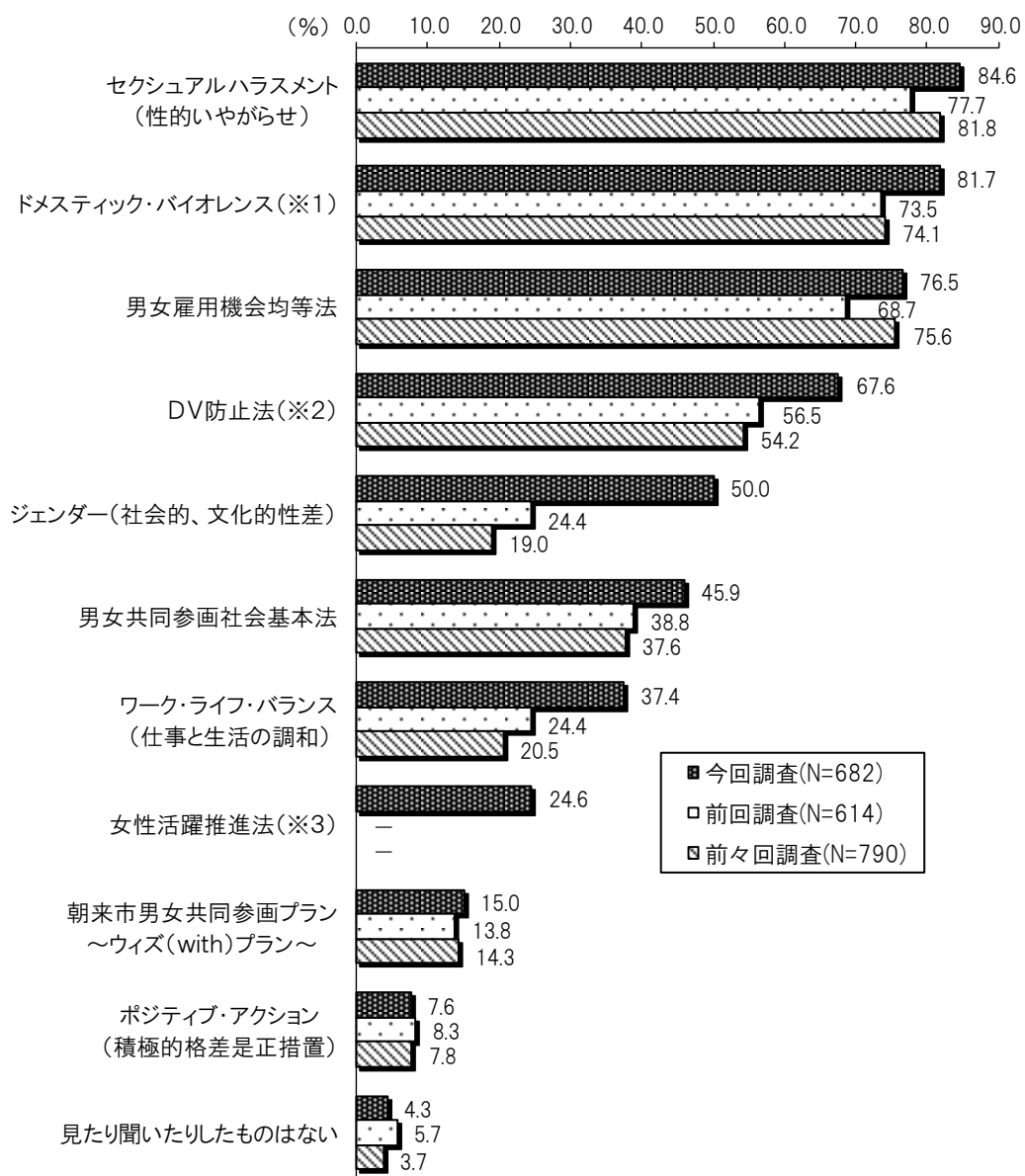
※1:ドメスティック・バイオレンス(DV:配偶者や恋人など親しい人からの暴力)
 ※2:DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)
 ※3:女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

性年齢別では、女性は20歳代で「男女共同参画社会基本法」、男性は50～60歳代で「DV防止法」、男女共に30歳代で「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。また、女性は若い年齢層ほど「ジェンダー（社会的、文化的性差）」の割合が高くなる傾向にある。

単位 (%)	性的いやがらせ (セクシユアルハラ メント)	親しい人からの暴力 (ドメスティック・バ イオレンス)	男女雇用機会均等法	力の防止及び被害者 の保護等に関する法律	DV防止法(配偶者 からの暴力)	ジェンダー(社会的、 文化的性差)	男女共同参画社会基本 法	ワーク・ライフ・バラ ンス (仕事と生活の調和)	女性活躍推進法(女性 の職業生活における活 躍に関する法律)	ウイズ(With)プラン ン	朝来市男女共同参画 プラン	積極的格差是正措置 (アクション)	見たり聞いたりした ものはな
全体(N=682)	84.6	81.7	76.5	67.6	50.0	45.9	37.4	24.6	15.0	7.6	4.3		
【女性年齢別】													
20歳代(n=48)	89.6	83.3	52.1	58.3	64.6	62.5	50.0	22.9	6.3	10.4	6.3		
30歳代(n=57)	80.7	86.0	80.7	66.7	61.4	40.4	57.9	19.3	8.8	7.0	5.3		
40歳代(n=71)	88.7	90.1	77.5	71.8	57.7	39.4	38.0	21.1	15.5	8.5	1.4		
50歳代(n=75)	89.3	86.7	82.7	70.7	57.3	44.0	40.0	24.0	18.7	10.7	2.7		
60歳代(n=91)	93.4	89.0	83.5	75.8	50.5	44.0	25.3	25.3	19.8	6.6	1.1		
70歳以上(n=31)	74.2	74.2	64.5	64.5	19.4	45.2	19.4	25.8	6.5	9.7	6.5		
【男性年齢別】													
20歳代(n=34)	79.4	67.6	52.9	61.8	41.2	44.1	32.4	29.4	5.9	2.9	11.8		
30歳代(n=44)	72.7	79.5	79.5	56.8	59.1	50.0	56.8	22.7	20.5	9.1	4.5		
40歳代(n=52)	84.6	78.8	78.8	57.7	40.4	53.8	42.3	28.8	15.4	11.5	1.9		
50歳代(n=61)	88.5	82.0	82.0	77.0	52.5	47.5	41.0	27.9	16.4	9.8	4.9		
60歳代(n=78)	82.1	76.9	83.3	70.5	42.3	44.9	25.6	29.5	19.2	3.8	6.4		
70歳以上(n=30)	63.3	53.3	63.3	50.0	23.3	40.0	6.7	13.3	6.7	0.0	6.7		

【時系列比較】

前回調査と比べて、「DV防止法」「ジェンダー（社会的、文化的性差）」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が大きく増加した。



※1:ドメスティック・バイオレンス(DV:配偶者や恋人など親しい人からの暴力)
 ※2:DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)
 ※3:女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

6 各種ハラスメントについて

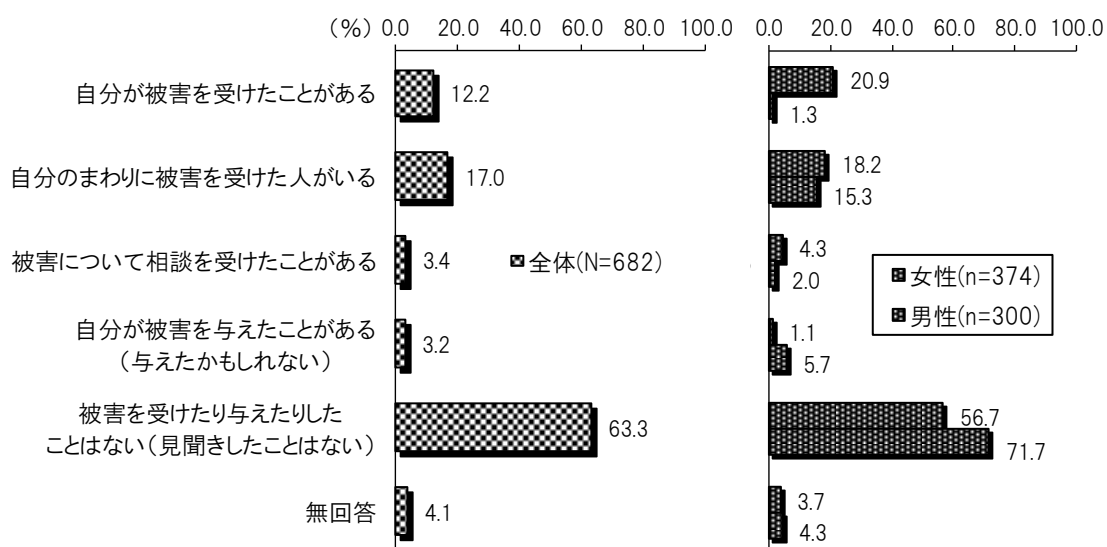
(1) 各種ハラスメントに関する経験

問 31. あなたは、次の①から④までの行為について経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。(〇はそれぞれいくつでも)

① セクシュアルハラスメント(セクハラ)

セクシュアルハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が12.2%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が17.0%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は3.4%、「自分が被害を与えたことがある(与えたかもしれない)」は3.2%であった。

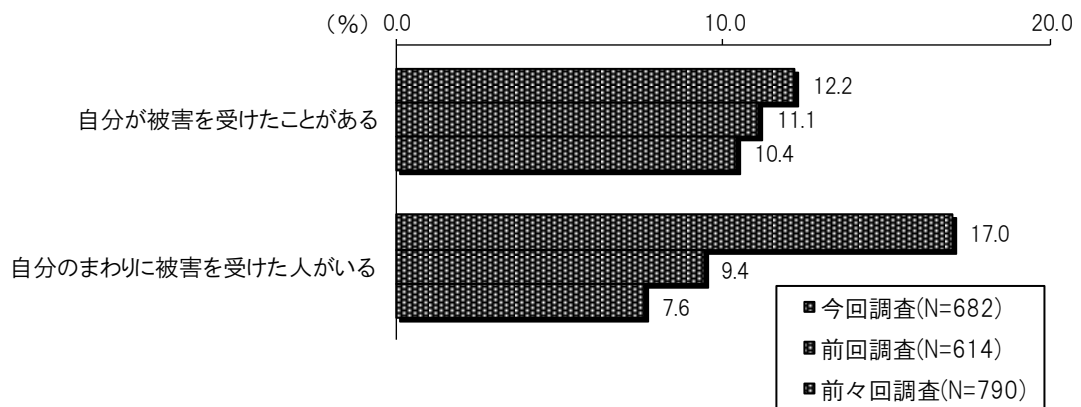
性別では、女性の約2割(20.9%)が「自分が被害を受けたことがある」と回答しており、女性の20歳代や40歳代で高くなっている。



単位 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がある	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある(与えたかもしれない)	被害を受けたり与えたりしたことはない(見聞きしたことはない)
全体(N=682)	12.2	17.0	3.4	3.2	63.3
【女性年齢別】					
20歳代(n=48)	29.2	27.1	2.1	4.2	50.0
30歳代(n=57)	19.3	24.6	5.3	0.0	50.9
40歳代(n=71)	32.4	21.1	1.4	0.0	47.9
50歳代(n=75)	17.3	21.3	2.7	1.3	57.3
60歳代(n=91)	15.4	8.8	6.6	0.0	67.0
70歳以上(n=31)	9.7	3.2	9.7	3.2	67.7
【男性年齢別】					
20歳代(n=34)	0.0	8.8	2.9	5.9	82.4
30歳代(n=44)	0.0	25.0	0.0	2.3	65.9
40歳代(n=52)	3.8	19.2	1.9	0.0	73.1
50歳代(n=61)	1.6	13.1	6.6	9.8	67.2
60歳代(n=78)	0.0	15.4	0.0	9.0	69.2
70歳以上(n=30)	3.3	6.7	0.0	3.3	80.0

【時系列比較】

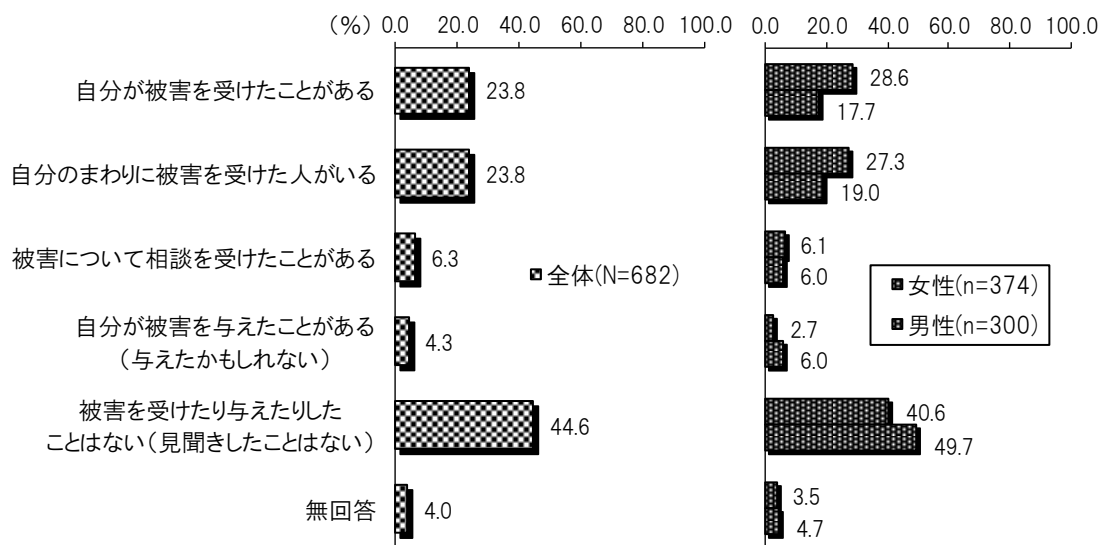
前回調査と比べて、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が増加した。



② パワーハラスメント（パワハラ）

パワーハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」「自分のまわりに被害を受けた人がいる」が23.8%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は6.3%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は4.3%であった。

性別では、女性は男性に比べ「自分が被害を受けたことがある」「自分のまわりに被害を受けた人がいる」の割合が高く、男性は30歳代で「自分が被害を受けたことがある」の割合が高くなっている。

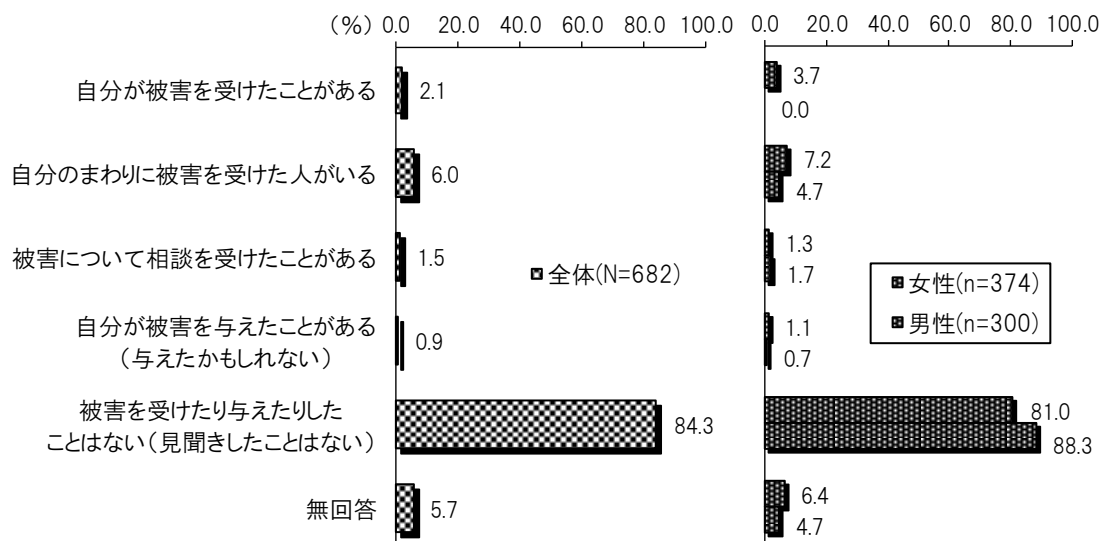


単位 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分が被害を受けたことがある（与えたかもしれない）	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を受けたり与えたりしたことはない（見聞きしたことはない）	無回答
全体(N=682)	23.8	23.8	6.3	44.6	4.3
【女性年齢別】					
20歳代(n=48)	22.9	37.5	10.4	6.3	35.4
30歳代(n=57)	36.8	35.1	8.8	1.8	24.6
40歳代(n=71)	33.8	29.6	2.8	1.4	35.2
50歳代(n=75)	38.7	29.3	8.0	4.0	36.0
60歳代(n=91)	18.7	19.8	5.5	2.2	51.6
70歳以上(n=31)	16.1	6.5	0.0	0.0	71.0
【男性年齢別】					
20歳代(n=34)	11.8	5.9	0.0	2.9	76.5
30歳代(n=44)	29.5	20.5	11.4	4.5	31.8
40歳代(n=52)	23.1	34.6	5.8	1.9	38.5
50歳代(n=61)	21.3	14.8	8.2	13.1	42.6
60歳代(n=78)	11.5	20.5	6.4	5.1	52.6
70歳以上(n=30)	6.7	6.7	0.0	6.7	73.3

③ マタニティハラスメント（マタハラ）

マタニティハラスメントの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が2.1%、「自分のまわりに被害を受けた人がいる」が6.0%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は1.5%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は0.9%であった。

性別では、女性の30歳代で「自分が被害を受けたことがある」の割合がやや高くなっている。

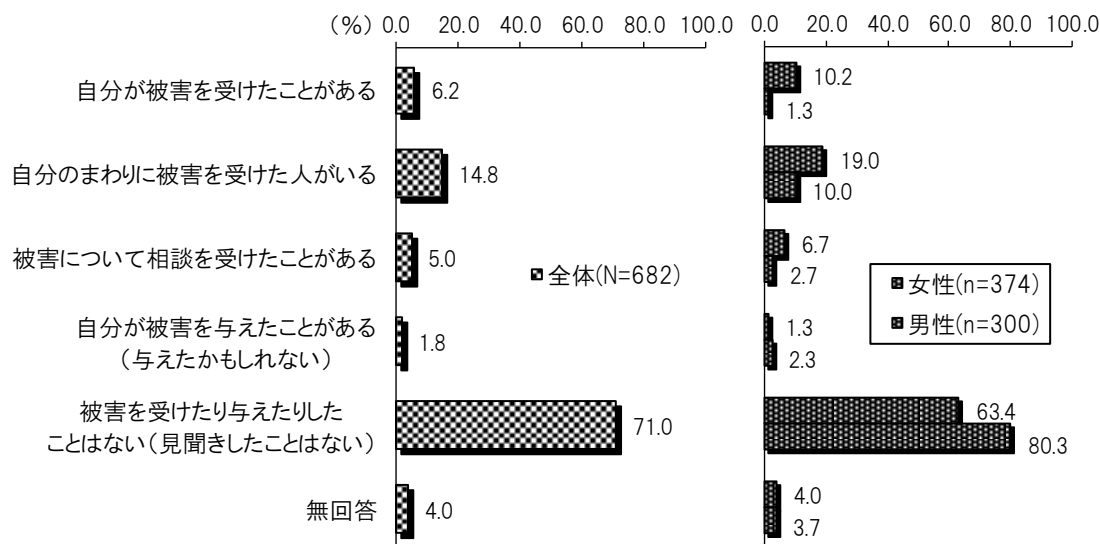


単位 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分が被害を受けたことがある（与えたかもしれない）	自分が被害を受けたことがある（与えたかもしれない）	自分が被害を受けたことがある（与えたかもしれない）	自分が被害を受けたことがある（与えたかもしれない）
全体(N=682)	2.1	6.0	1.5	0.9	84.3
【女性年齢別】					
20歳代(n=48)	2.1	8.3	2.1	4.2	85.4
30歳代(n=57)	8.8	10.5	3.5	1.8	73.7
40歳代(n=71)	5.6	5.6	1.4	0.0	83.1
50歳代(n=75)	4.0	9.3	0.0	0.0	81.3
60歳代(n=91)	1.1	5.5	1.1	1.1	81.3
70歳以上(n=31)	0.0	0.0	0.0	0.0	83.9
【男性年齢別】					
20歳代(n=34)	0.0	0.0	0.0	0.0	97.1
30歳代(n=44)	0.0	9.1	6.8	2.3	75.0
40歳代(n=52)	0.0	9.6	1.9	0.0	86.5
50歳代(n=61)	0.0	0.0	1.6	1.6	93.4
60歳代(n=78)	0.0	5.1	0.0	0.0	89.7
70歳以上(n=30)	0.0	3.3	0.0	0.0	86.7

④ ドメスティック・バイオレンス（DV）

ドメスティック・バイオレンスの経験については、「自分が被害を受けたことがある」が6.2%、「自分のまわりに被害を受けた人がある」が14.8%となっている。また、「被害について相談を受けたことがある」は5.0%、「自分が被害を与えたことがある（与えたかもしれない）」は1.8%であった。

性別では、女性の約1割（10.2%）が「自分が被害を受けたことがある」と回答している。



単位 (%)	自分が被害を受けたことがある	自分が被害を受けたまわりの人に被害を受けたことがある	被害を受けたことについて相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある(与えたかもしれない)	被害を受けたり与えたりしたことはない(見聞きしたことはない)
全体(N=682)	6.2	14.8	5.0	1.8	71.0
【女性年齢別】					
20歳代(n=48)	8.3	16.7	8.3	2.1	64.6
30歳代(n=57)	14.0	31.6	7.0	0.0	45.6
40歳代(n=71)	4.2	22.5	2.8	1.4	70.4
50歳代(n=75)	10.7	17.3	9.3	1.3	66.7
60歳代(n=91)	12.1	16.5	6.6	2.2	62.6
70歳以上(n=31)	12.9	3.2	6.5	0.0	71.0
【男性年齢別】					
20歳代(n=34)	2.9	2.9	2.9	0.0	88.2
30歳代(n=44)	2.3	13.6	9.1	2.3	68.2
40歳代(n=52)	1.9	15.4	1.9	5.8	75.0
50歳代(n=61)	0.0	9.8	3.3	4.9	80.3
60歳代(n=78)	0.0	10.3	0.0	0.0	84.6
70歳以上(n=30)	3.3	3.3	0.0	0.0	86.7

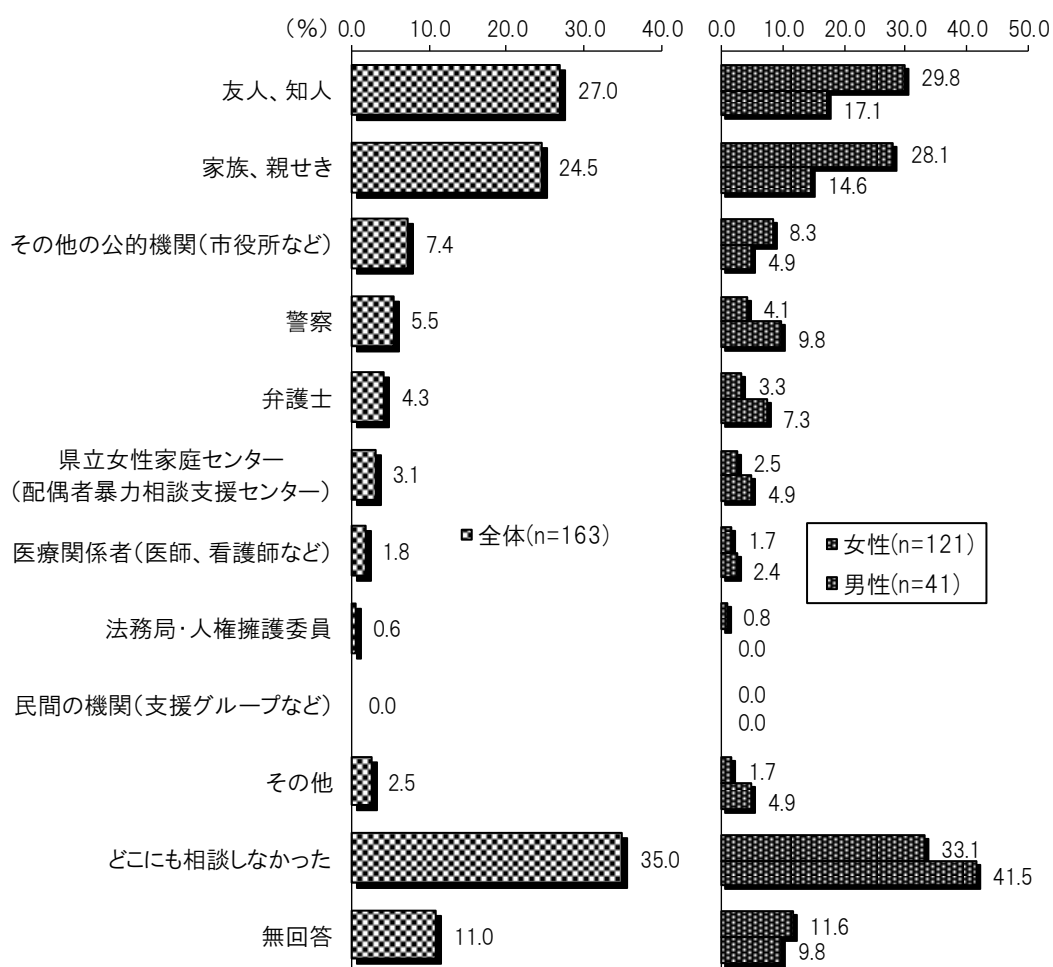
(2) DVを受けたときの相談先

【問 31.④ドメスティック・バイオレンス（DV）で「1～3」と答えた方のみにおたずねします】

問 32. あなたは、これまでに誰かにうち明けたり、相談したりしましたか。
(○はいくつでも)

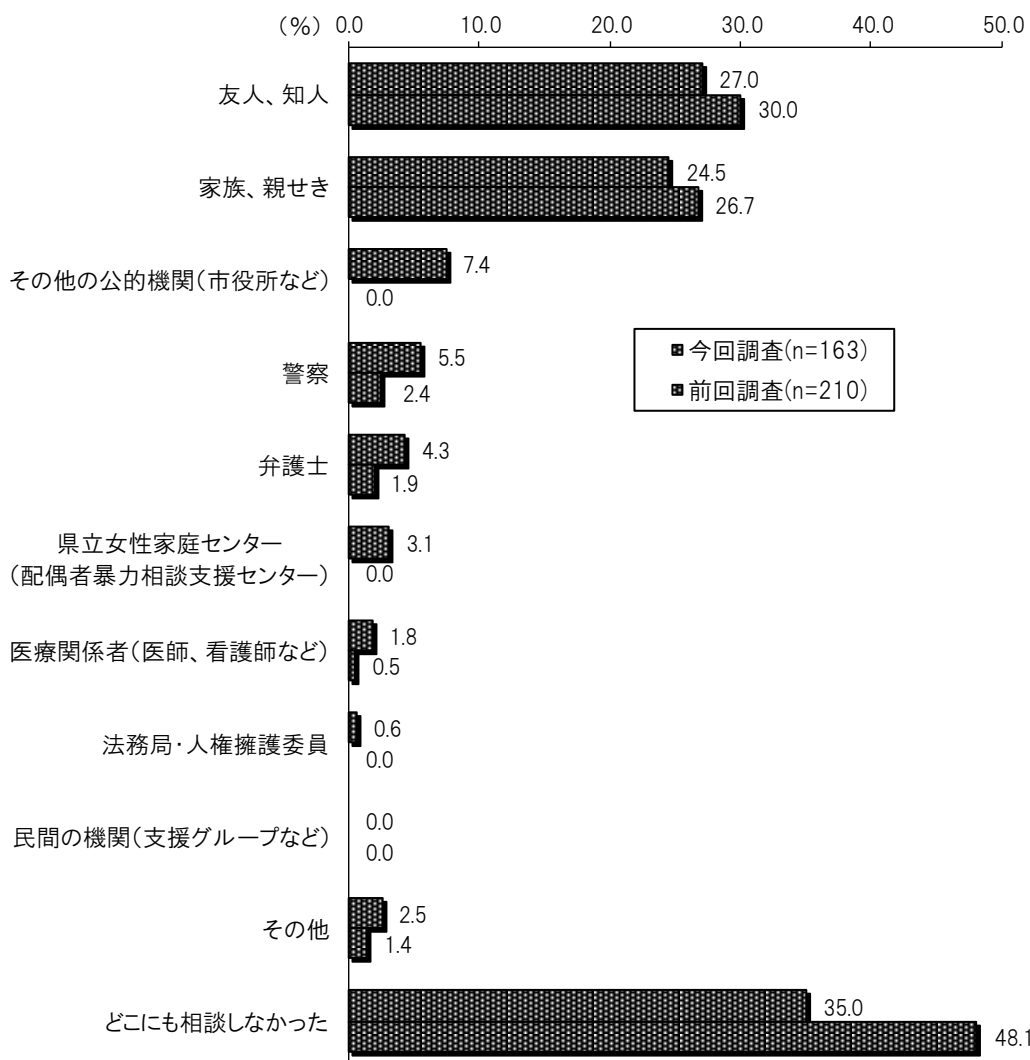
DVを受けたときの相談先については、「友人、知人」の割合が27.0%と最も高く、次いで「家族、親せき」(24.5%)、「その他の公的機関(市役所など)」(7.4%)、「警察」(5.5%)の順となっている。一方、「どこにも相談しなかった」は35.0%となっている。

性別では、女性は「友人、知人」「家族、親せき」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「どこにも相談しなかった」の割合が高くなっている。



【時系列比較】

前回調査と比べて、「どこにも相談しなかった」が減少し、「その他の公的機関（市役所など）」が増加した。



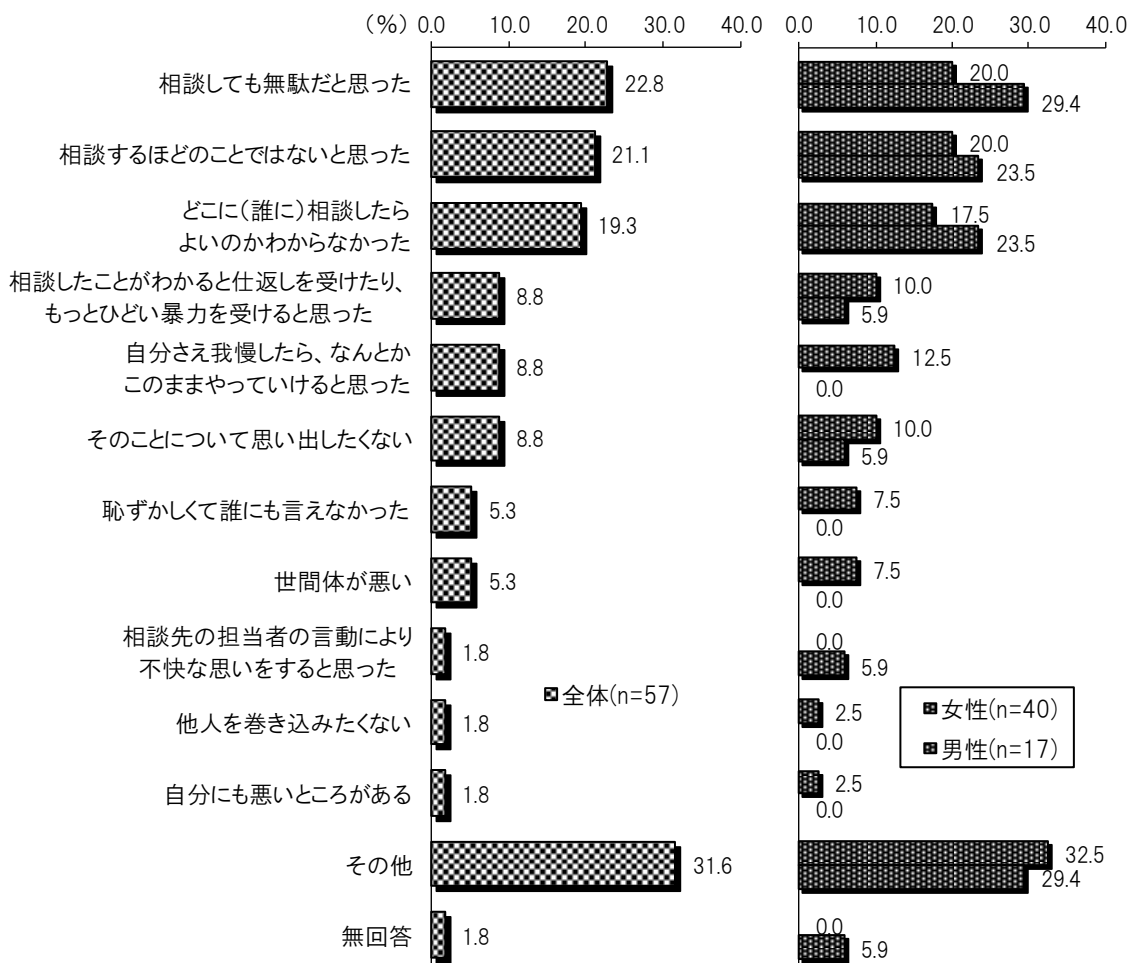
注：前回調査結果は、「自分が被害を受けたことがある」人を母数としている。

(3) DVについて相談しなかった理由

【問 32.で、「11.どこにも相談しなかった」と答えた方におたずねします】
 問 33. どこにも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

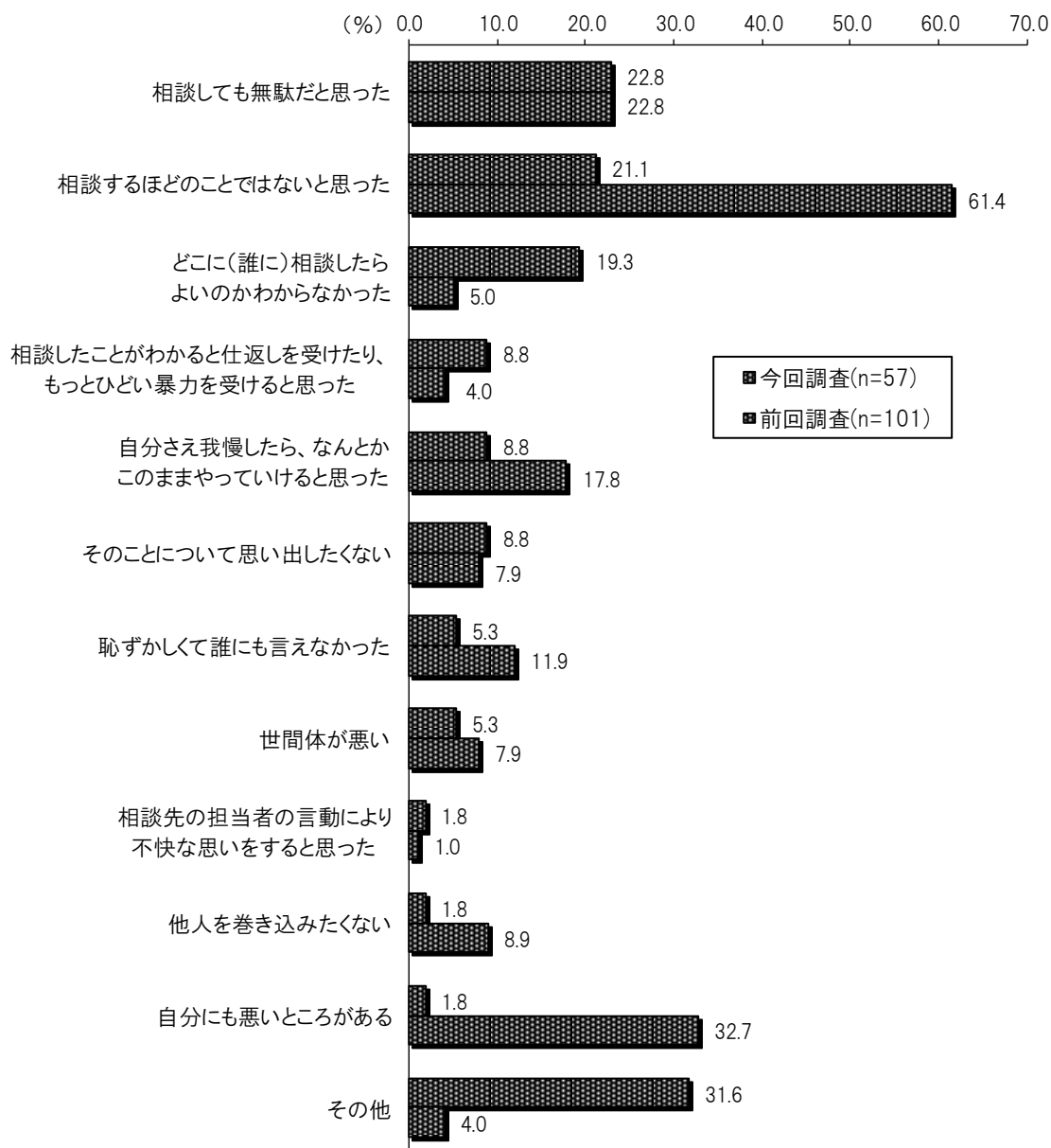
DVについて相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思った」の割合が22.8%と最も高く、次いで「相談するほどのことではないと思った」(21.1%)、「どこに(誰に)相談したらよいのかわからなかった」(19.3%)の順となっている。また「その他」では、「過去のことであったため」「本人から口止めされたため」などの回答がみられた。

性別では、女性は男性に比べ「自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った」の割合が高く、男性は「相談しても無駄だと思った」の割合が女性を上回っている。



【時系列比較】

前回調査と比べて、「相談するほどのことではないと思った」「自分にも悪いところがある」が減少し、「どこに（誰に）相談したらよいのかわからなかった」が増加した。



注：前回調査結果は、「自分が被害を受けたことがある」人を母数としている。

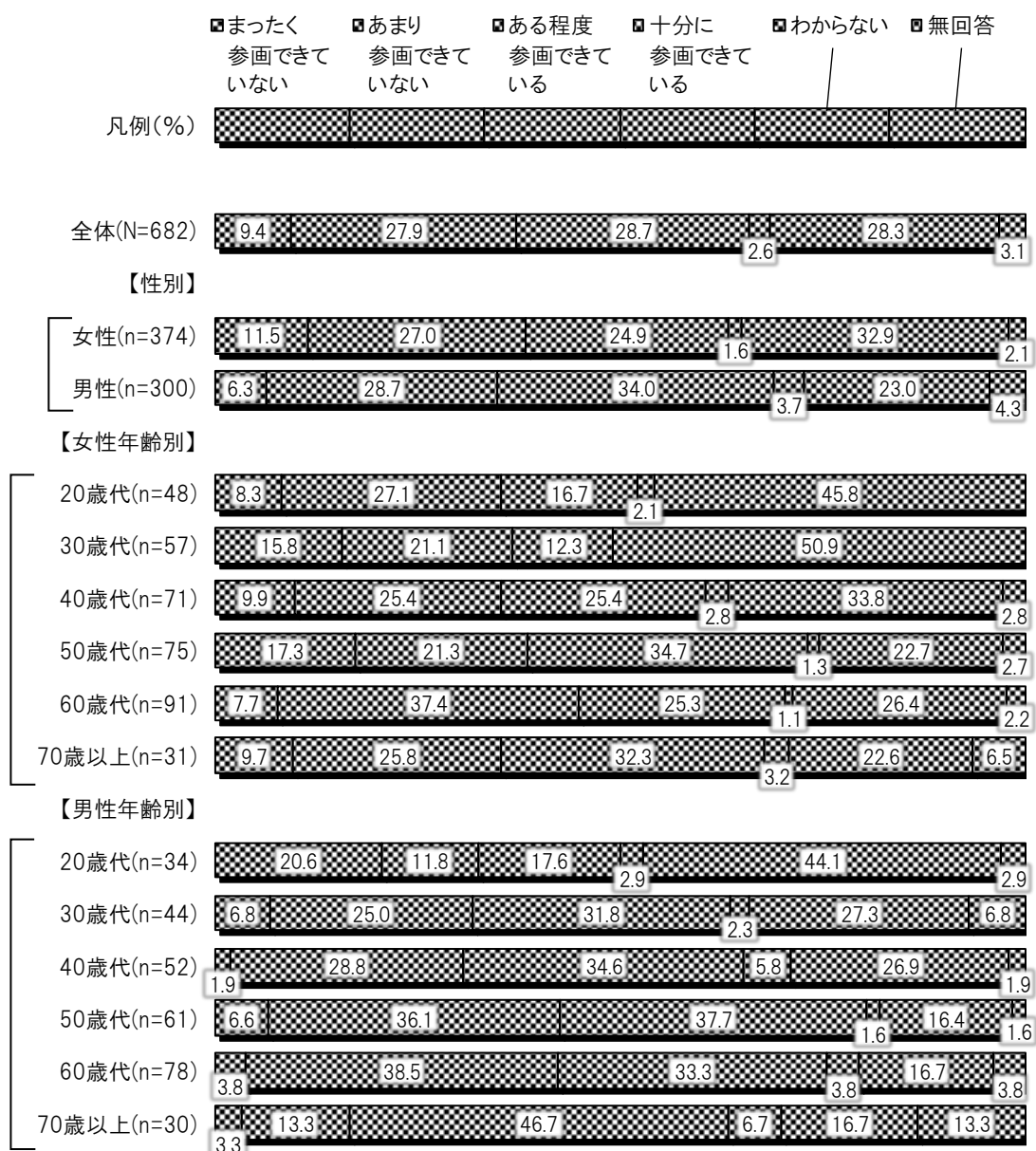
7 地域活動・市政への女性の参画状況について

問 34. 自治会や様々な地域活動・市政における企画づくりや方針決定の場への女性の参画状況について、あなたはごどう思いますか。(○は1つ)

地域活動・市政への女性の参画状況については、「まったく参画できていない」が9.4%、「あまり参画できていない」が27.9%で、合計37.3%が『参画できていない』と回答している。一方、「ある程度参画できている」(28.7%)、「十分に参画できている」(2.6%)の合計は31.3%であった。

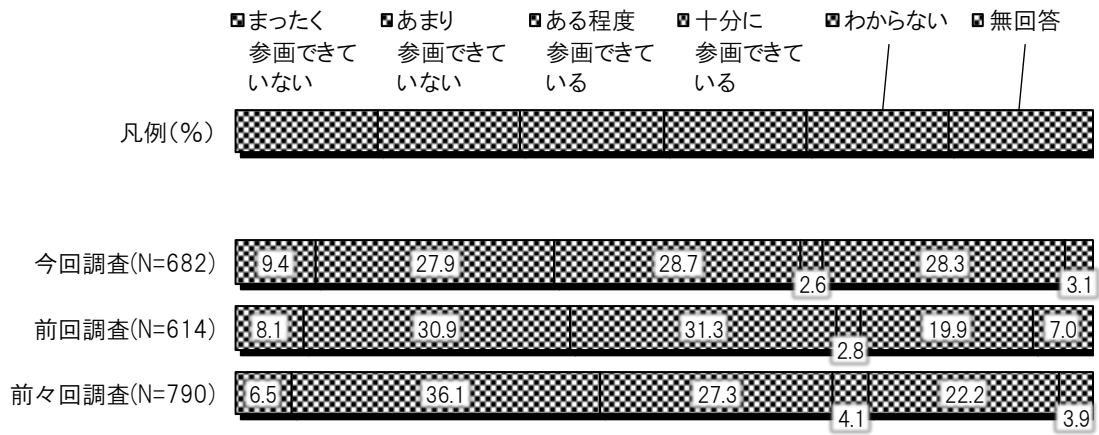
性別では、女性は男性に比べ「まったく参画できていない」の割合が高く、男性は「ある程度参画できている」の割合が女性を大きく上回っている。

性年齢別では、女性の60歳代や男性の50~60歳代で「あまり参画できていない」、男性の70歳以上で「ある程度参画できている」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。



【時系列比較】

前回調査と比べて、「わからない」が増加した。

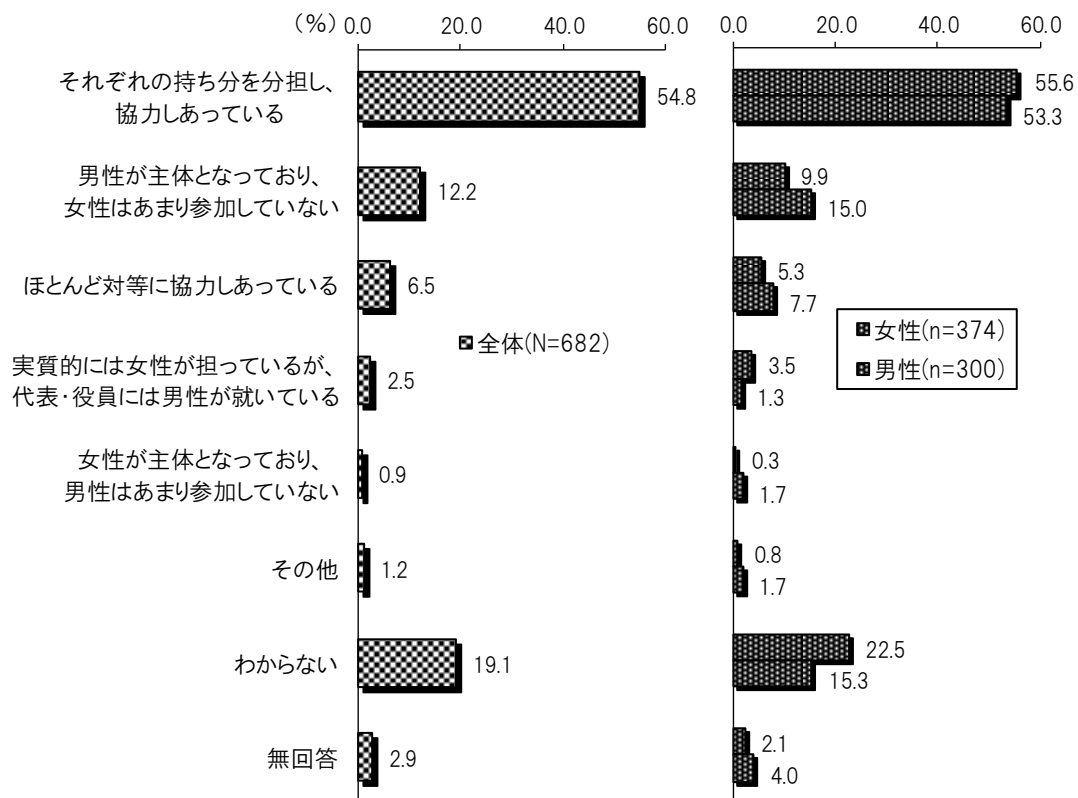


8 地域活動における男女の協力について

問 35. あなたがお住まいの地域では、様々な地域活動（自治会や地域グループ、祭りなどの行事など）において、男性と女性の協力は実際にどのようにされていますか。
 (○は1つ)

地域活動における男女の協力については、「それぞれの持ち分を分担し、協力しあっている」の割合が54.8%と突出して最も高く、次いで「男性が主体となっており、女性はあまり参加していない」が12.2%で続いている。

性別では、男性は女性に比べ「男性が主体となっており、女性はあまり参加していない」の割合が高くなっている。

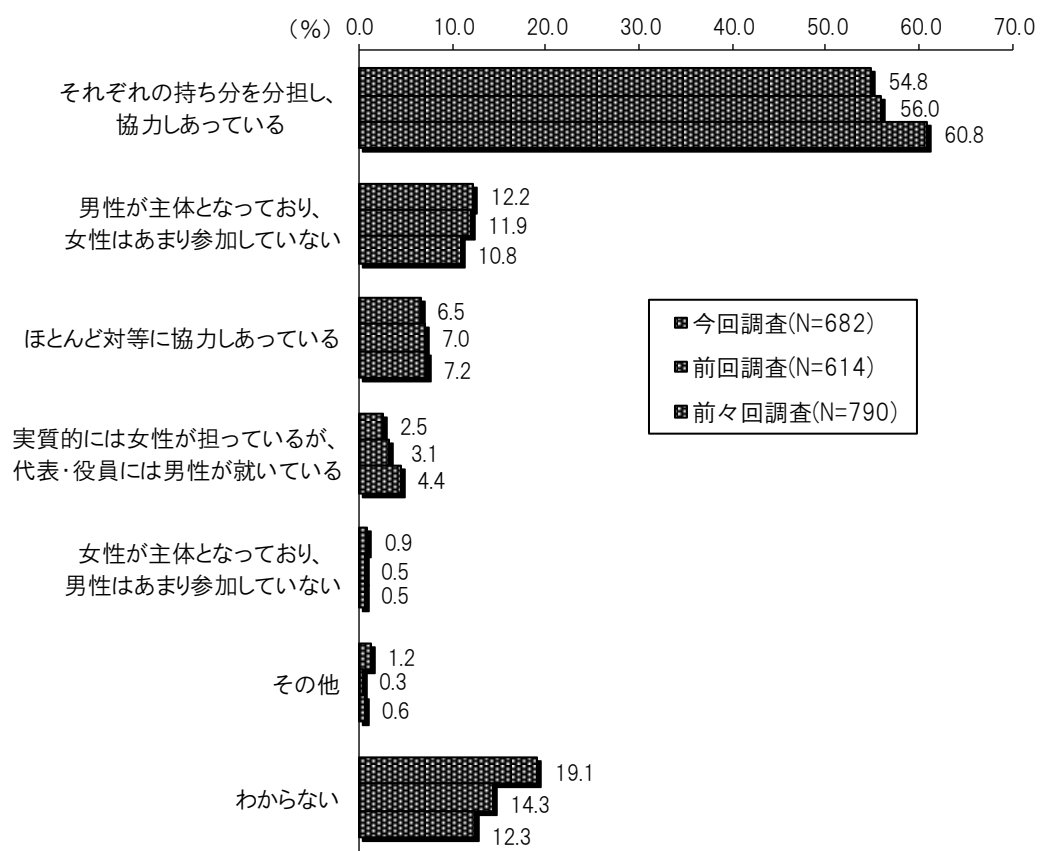


性年齢別では、女性の30歳代以下で「わからない」、女性の60歳代で「それぞれの持ち分を分担し、協力しあっている」の割合がそれぞれ他の年齢層を大きく上回っている。

単位(%)	しそ れぞ れ の あ ま り を 分 担	てり い な い 女 性 は あ ま り 参 加 し	あ ほ と ん ど の 対 等 に 協 力 し	男 性 が 就 業 に 関 与 し て い る	実 質 的 に は 女 性 が 担 当 し て い る	てり い な い 男 性 は あ ま り 参 加 し	そ の 他	わ か ら な い
全体(N=682)	54.8	12.2	6.5	2.5	0.9	1.2	19.1	
【女性年齢別】								
20歳代(n=48)	27.1	10.4	12.5	4.2	2.1	0.0	43.8	
30歳代(n=57)	40.4	1.8	5.3	1.8	0.0	3.5	47.4	
40歳代(n=71)	56.3	12.7	2.8	7.0	0.0	0.0	21.1	
50歳代(n=75)	60.0	13.3	6.7	4.0	0.0	1.3	10.7	
60歳代(n=91)	73.6	8.8	2.2	1.1	0.0	0.0	9.9	
70歳以上(n=31)	61.3	12.9	6.5	3.2	0.0	0.0	12.9	
【男性年齢別】								
20歳代(n=34)	32.4	8.8	5.9	0.0	0.0	2.9	47.1	
30歳代(n=44)	47.7	9.1	15.9	2.3	0.0	2.3	18.2	
40歳代(n=52)	55.8	17.3	5.8	0.0	1.9	0.0	17.3	
50歳代(n=61)	60.7	24.6	4.9	0.0	0.0	0.0	8.2	
60歳代(n=78)	59.0	10.3	6.4	2.6	5.1	2.6	9.0	
70歳以上(n=30)	53.3	20.0	10.0	0.0	0.0	3.3	3.3	

【時系列比較】

前回調査と比べ大きな変化はみられない。



9 就業の状況について

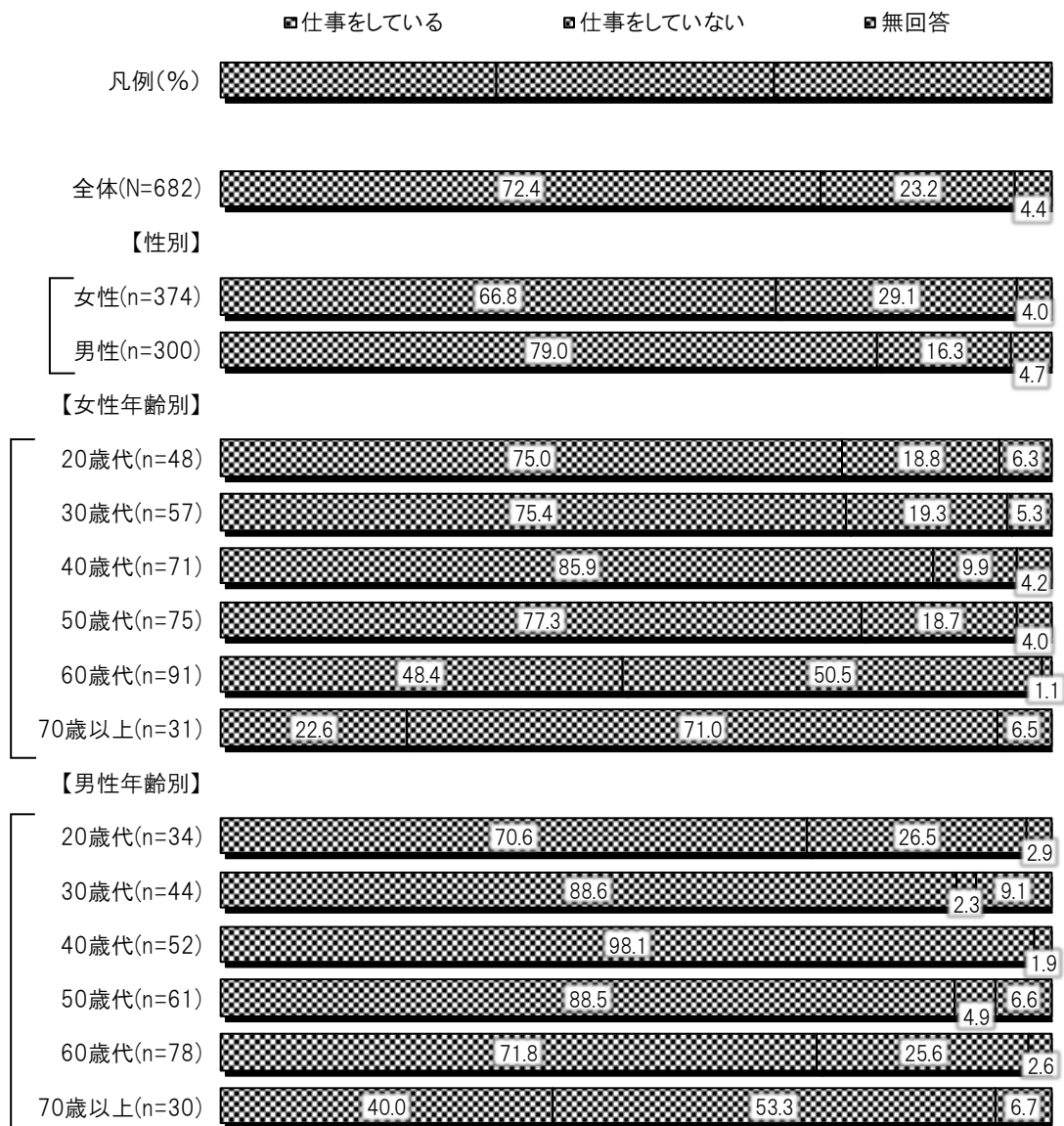
(1) 就業状況

問 36. あなたは現在、仕事をしていますか。(○は1つ)

就業状況については、「仕事をしている」が72.4%、「仕事をしていない」が23.2%となっている。

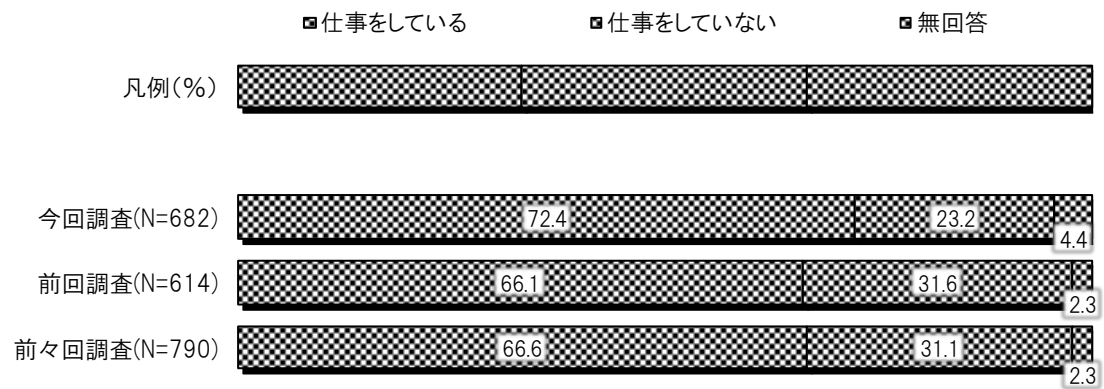
性別では、女性は「仕事をしていない」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「仕事をしている」の割合が高くなっている。

性年齢別でみると、男性の70歳以上では4割が「仕事をしている」と回答している。



【時系列比較】

前回調査と比べて、「仕事をしていない」が減少し、「仕事をしている」が増加した。



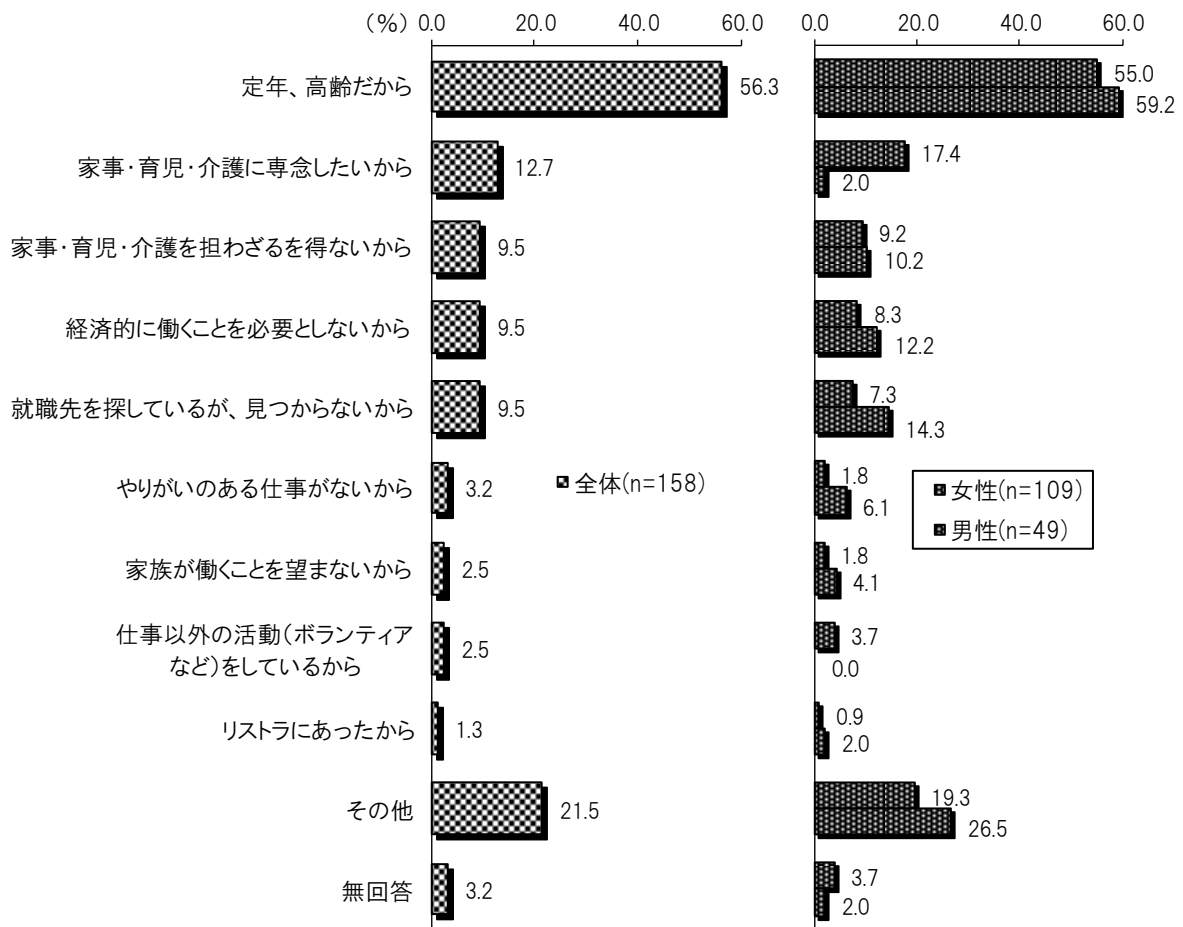
(2) 働いていない理由

【問 36 で、「2.仕事をしていない」と答えた方におたずねします】

問 37. あなたが働いていない主な理由は何ですか。(〇はいくつでも)

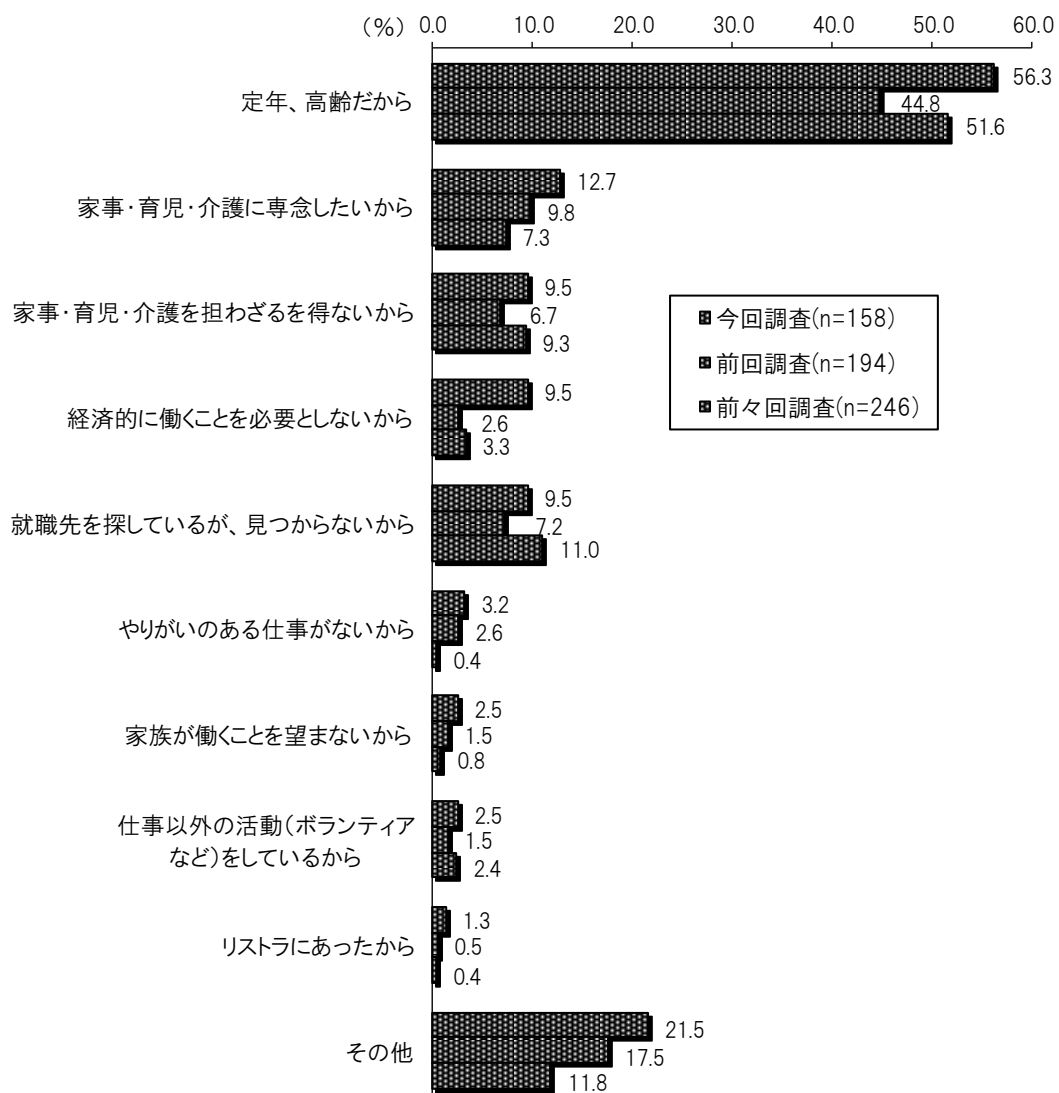
働いていない理由については、「定年、高齢だから」の割合が 56.3%と突出して最も高く、次いで「家事・育児・介護に専念したいから」が 12.7%で続いている。また「その他」では、「学生のため」「病気のため」などの回答がみられた。

性別では、女性は「家事・育児・介護に専念したいから」の割合が男性を大きく上回っている。



【時系列比較】

前回調査と比べて、「定年、高齢だから」「経済的に働くことを必要としないから」が増加した。



(3) 今後の就労意向

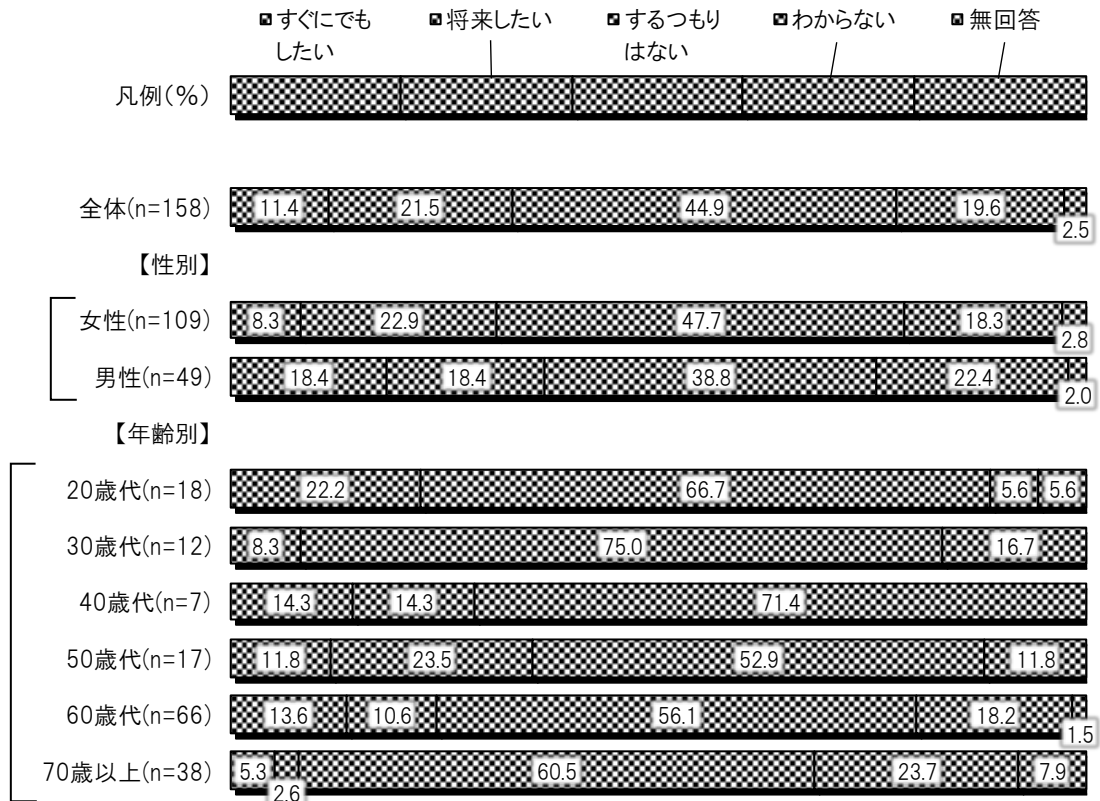
【問 36 で、「2.仕事をしていない」と答えた方におたずねします】

問 38. 今後、仕事をしたいと思えますか。(○は1つ)

今後の就労意向については、「すぐにでもしたい」が 11.4%、「将来したい」が 21.5%で、合計 32.9%が就労を希望している。

性別では、男性は「すぐにでもしたい」の割合が女性を大きく上回っている。

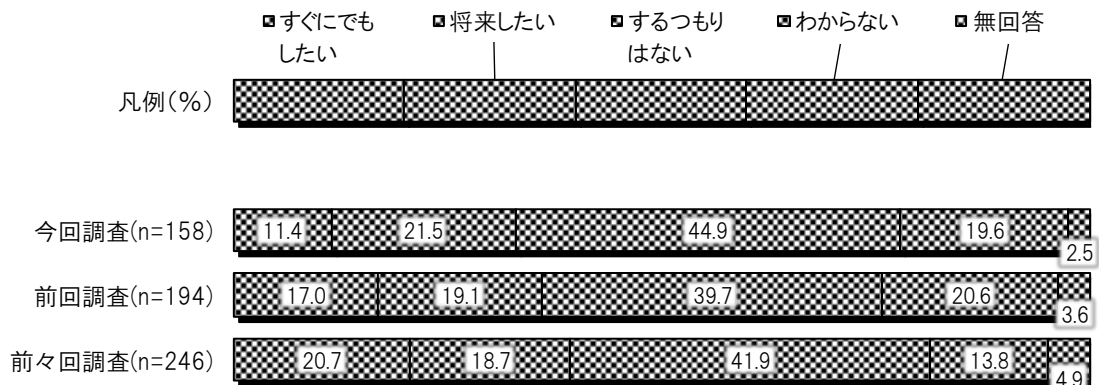
年齢別では、20～30 歳代で就労希望の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



注:40 歳代については、件数(n=)が少ないため参考値として参照。

【時系列比較】

前回調査と比べて、「すぐにでもしたい」が減少し、「するつもりはない」が増加した。

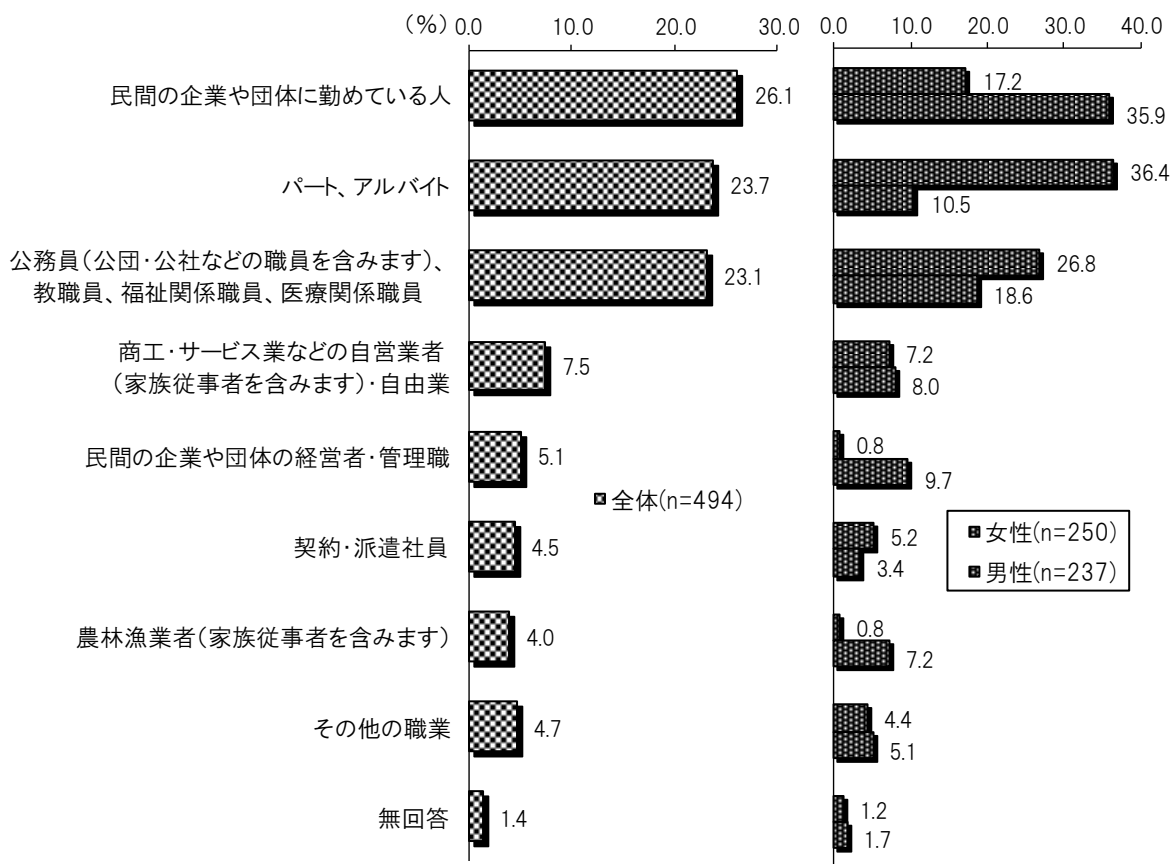


(4) 職業

【問 36.で、「1.仕事をしている」と答えた方におたずねします】
 問 39. あなたの職業は何ですか。(〇は1つ)

職業については、「民間の企業や団体に勤めている人」の割合が 26.1%と最も高く、次いで「パート、アルバイト」(23.7%)、「公務員(公団・公社などの職員を含みます)、教職員、福祉関係職員、医療関係職員」(23.1%)の順となっている。

性別では、女性は「パート、アルバイト」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「民間の企業や団体に勤めている人」「民間の企業や団体の経営者・管理職」の割合が高くなっている。



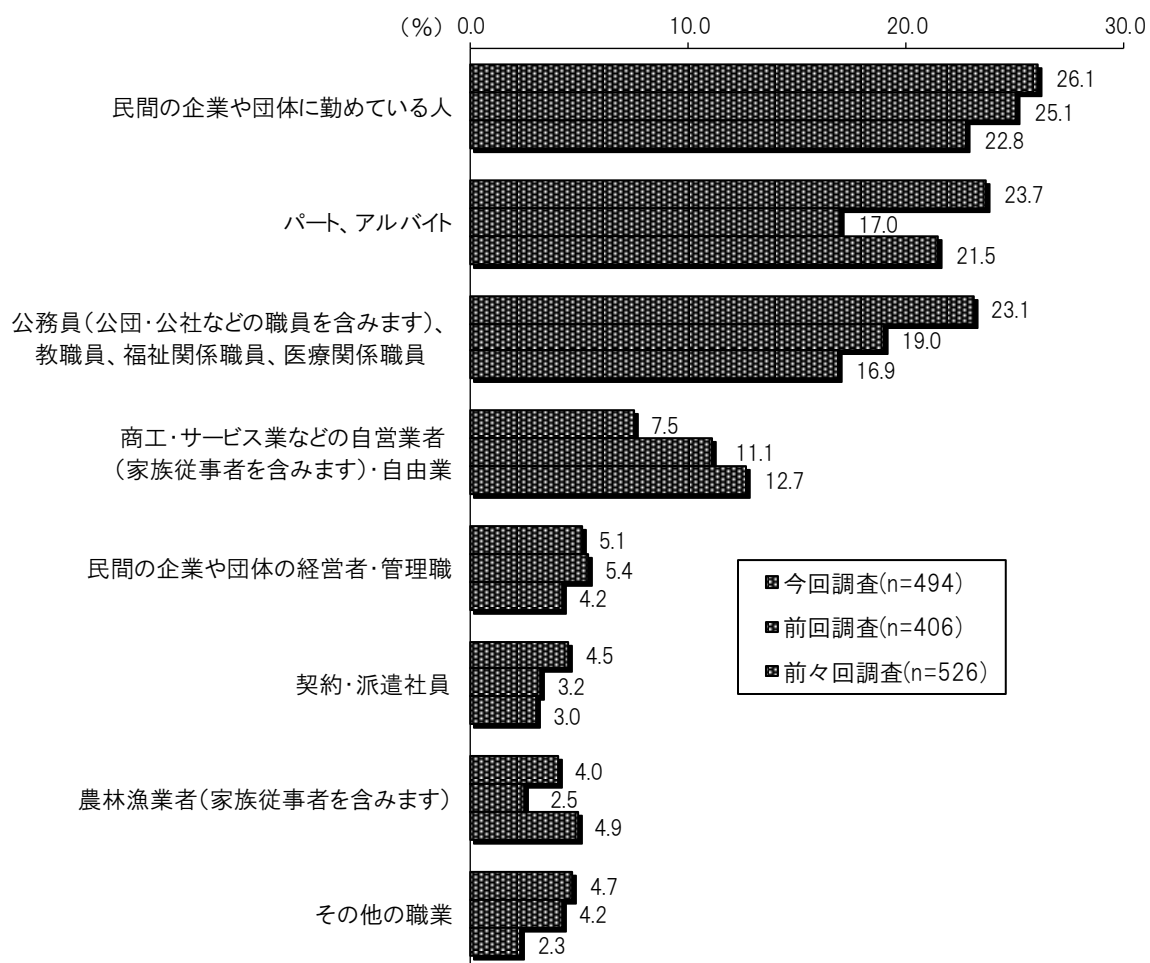
性年齢別では、男女共に30歳代で「公務員（公団・公社などの職員を含みます）、教職員、福祉関係職員、医療関係職員」、60歳代で「パート、アルバイト」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	民間の企業や団体に勤めている人	パート、アルバイト	公務員（公団・公社などの職員を含みます）、教職員、福祉関係職員、医療関係職員	公務員（公団・公社などの職員を含みます）、自由業	商工・サービス業などの自営業者（家族従事者を含みます）	民間の企業や団体の経営者・管理職	契約・派遣社員	農林漁業者（家族従事者を含みます）	その他の職業
全体(n=494)	26.1	23.7	23.1	7.5	5.1	4.5	4.0	4.7	
【女性年齢別】									
20歳代(n=36)	25.0	27.8	27.8	8.3	0.0	0.0	2.8	8.3	
30歳代(n=43)	18.6	27.9	39.5	2.3	0.0	7.0	0.0	4.7	
40歳代(n=61)	19.7	32.8	29.5	9.8	0.0	8.2	0.0	0.0	
50歳代(n=58)	19.0	31.0	29.3	3.4	1.7	6.9	1.7	6.9	
60歳代(n=44)	6.8	56.8	11.4	9.1	2.3	2.3	0.0	4.5	
70歳以上(n=7)	0.0	71.4	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	
【男性年齢別】									
20歳代(n=24)	45.8	12.5	16.7	12.5	0.0	4.2	8.3	0.0	
30歳代(n=39)	41.0	5.1	30.8	7.7	5.1	2.6	2.6	5.1	
40歳代(n=51)	52.9	0.0	21.6	7.8	9.8	0.0	2.0	3.9	
50歳代(n=54)	35.2	5.6	24.1	11.1	18.5	0.0	1.9	3.7	
60歳代(n=56)	19.6	26.8	7.1	3.6	5.4	10.7	14.3	7.1	
70歳以上(n=12)	8.3	16.7	0.0	8.3	25.0	0.0	33.3	8.3	

注：女性の70歳以上については、件数(n=)が少ないため参考値として参照。

【時系列比較】

前回調査と比べて、「パート、アルバイト」「公務員（公団・公社などの職員を含みます）、教職員、福祉関係職員、医療関係職員」が増加した。



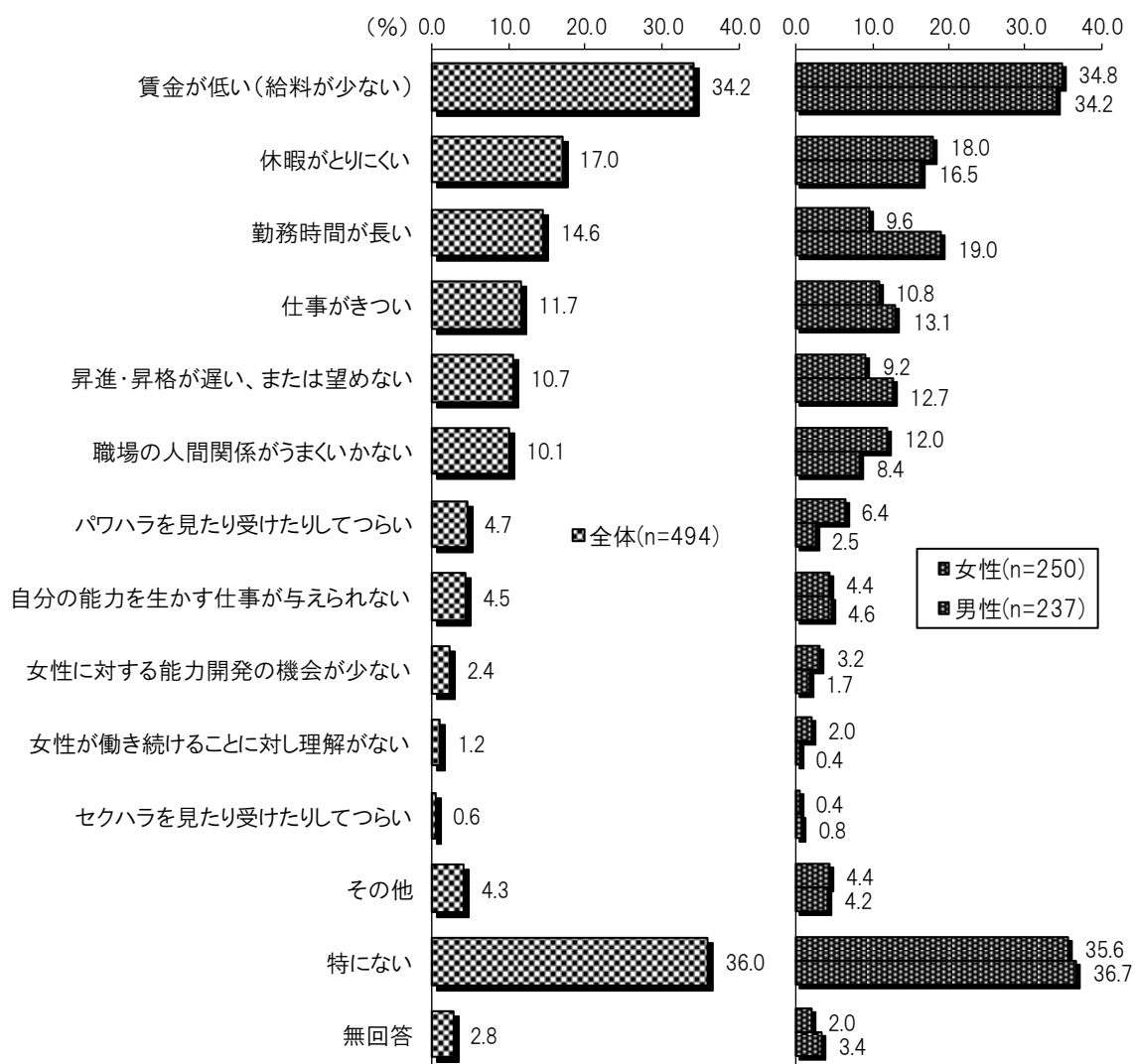
(5) 職場や仕事で悩んでいることや不満

【問 36.で、「1.仕事をしている」と答えた方におたずねします】

問 40. あなたは、いまの職場や仕事で、悩んでいること、不満があるとしたら、それはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

職場や仕事で悩んでいることや不満については、「賃金が低い(給料が少ない)」の割合が34.2%と最も高く、次いで「休暇がとりにくい」(17.0%)、「勤務時間が長い」(14.6%)、「仕事がつい」(11.7%)、「昇進・昇格が遅い、または望めない」(10.7%)の順となっている。

性別では、男性は「勤務時間が長い」の割合が女性を大きく上回っている。



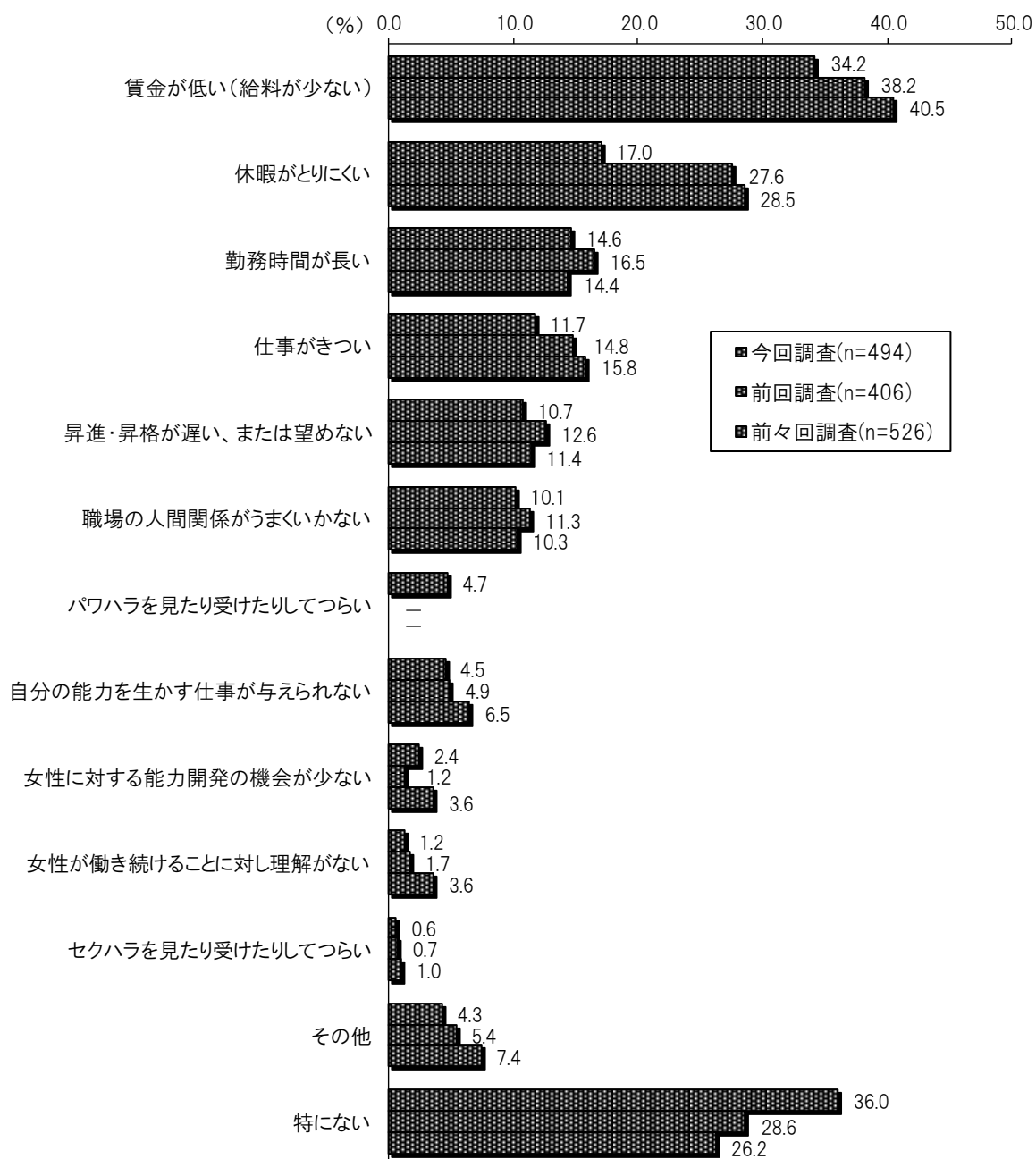
性年齢別では、女性の30歳代で「賃金が低い（給料が少ない）」、男性の20歳代で「勤務時間が長い」「昇進・昇格が遅い、または望めない」「職場の人間関係がうまくいかない」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	賃金が低い (給料が少ない)	休暇がとりにくい	勤務時間が長い	仕事がつらい	昇進・昇格が遅い、 または望めない	職場の人間関係が うまくいかない	パワハラを見たり受 けたりし	自分の能力を生かす 仕事と与えられない	女性に対する能力開 発の機会が少ない	女性が働き続けるこ とに対し理解がない	セクハラを見たり受 けたりし	その他	特 に ない
全体(n=494)	34.2	17.0	14.6	11.7	10.7	10.1	4.7	4.5	2.4	1.2	0.6	4.3	36.0
【女性年齢別】													
20歳代(n=36)	38.9	22.2	8.3	5.6	8.3	11.1	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	30.6
30歳代(n=43)	46.5	18.6	18.6	18.6	7.0	18.6	7.0	0.0	2.3	4.7	0.0	4.7	27.9
40歳代(n=61)	32.8	16.4	9.8	16.4	14.8	13.1	8.2	8.2	3.3	3.3	0.0	3.3	37.7
50歳代(n=58)	36.2	19.0	10.3	10.3	10.3	10.3	8.6	5.2	5.2	0.0	0.0	3.4	34.5
60歳代(n=44)	22.7	15.9	2.3	2.3	4.5	6.8	6.8	0.0	4.5	2.3	2.3	4.5	45.5
70歳以上(n=7)	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9
【男性年齢別】													
20歳代(n=24)	45.8	16.7	33.3	16.7	25.0	25.0	8.3	4.2	0.0	0.0	0.0	8.3	25.0
30歳代(n=39)	30.8	20.5	25.6	15.4	17.9	12.8	2.6	2.6	5.1	2.6	2.6	7.7	30.8
40歳代(n=51)	41.2	23.5	19.6	13.7	11.8	2.0	3.9	5.9	0.0	0.0	0.0	3.9	27.5
50歳代(n=54)	29.6	18.5	22.2	11.1	13.0	7.4	1.9	7.4	3.7	0.0	1.9	1.9	46.3
60歳代(n=56)	33.9	7.1	7.1	12.5	7.1	7.1	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	3.6	41.1
70歳以上(n=12)	16.7	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	58.3

注：女性の70歳以上については、件数(n)が少ないため参考値として参照。

【時系列比較】

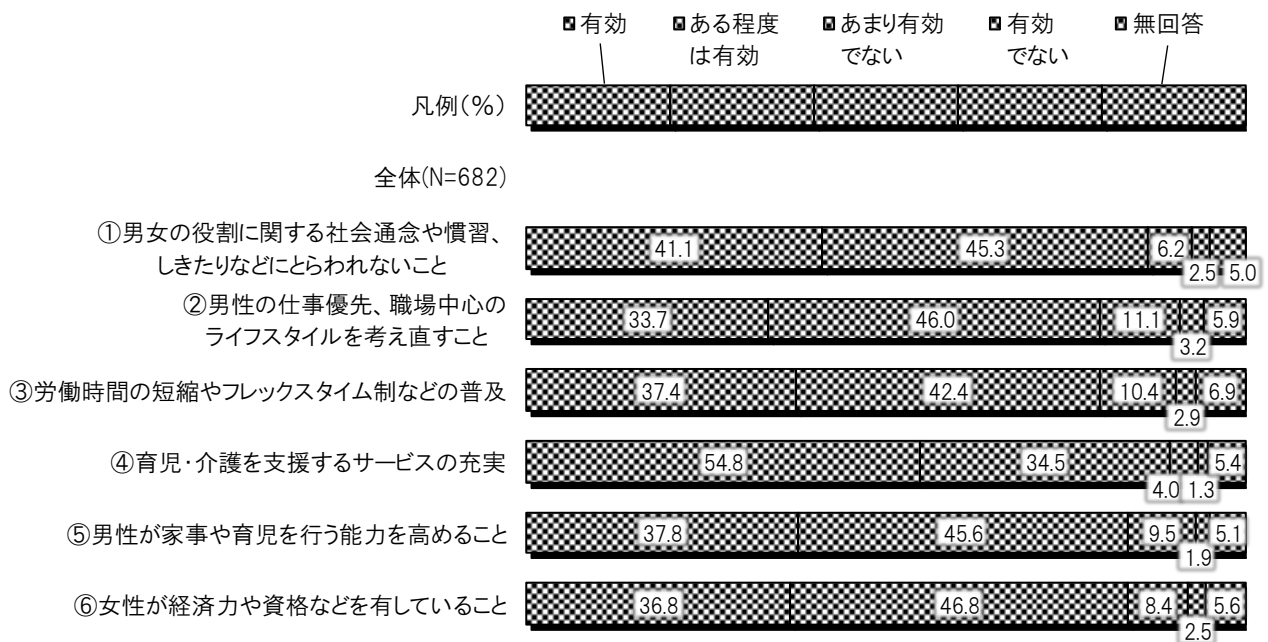
前回調査と比べて、「休暇がとりにくい」が大きく減少し、「特にない」が増加した。



10 仕事や家事などを共に担う社会を実現するために有効なこと

問 41. 男性と女性が仕事と家事や育児、介護などを共に担う社会を実現するためには、次のことはどのくらい有効だと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

仕事や家事などを共に担う社会を実現するために有効なことについて、「有効」の割合をみると「④育児・介護を支援するサービスの充実」の割合が54.8%と最も高く、次いで「①男女の役割に関する社会通念や慣習、しきたりなどにとられないこと」が41.1%で続いている。

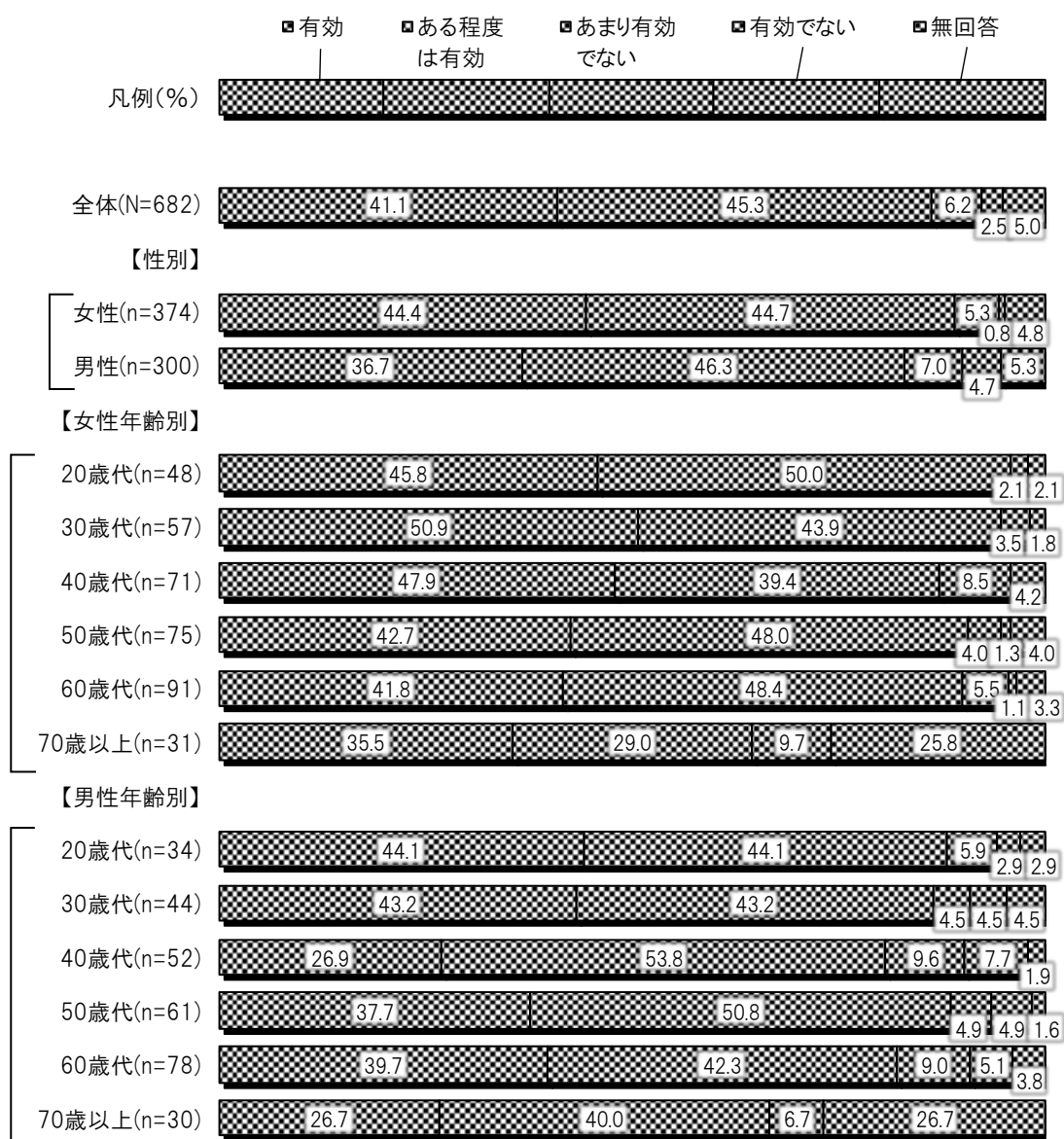


①男女の役割に関する社会通念や慣習、しきたりなどにとらわれないこと

「社会通念や慣習、しきたりなどにとらわれないこと」については、「有効」が 41.1%、「ある程度は有効」が 45.3%で、合計 86.4%が『有効』と回答している。一方、「あまり有効でない」(6.2%)、「有効でない」(2.5%) の合計は 8.7%であった。

性別では、女性は男性に比べ「有効」の割合が高くなっている。

性年齢別では、男女共に 70 歳以上で『有効(合計)』の割合が他の年齢層に比べて低くなっている。

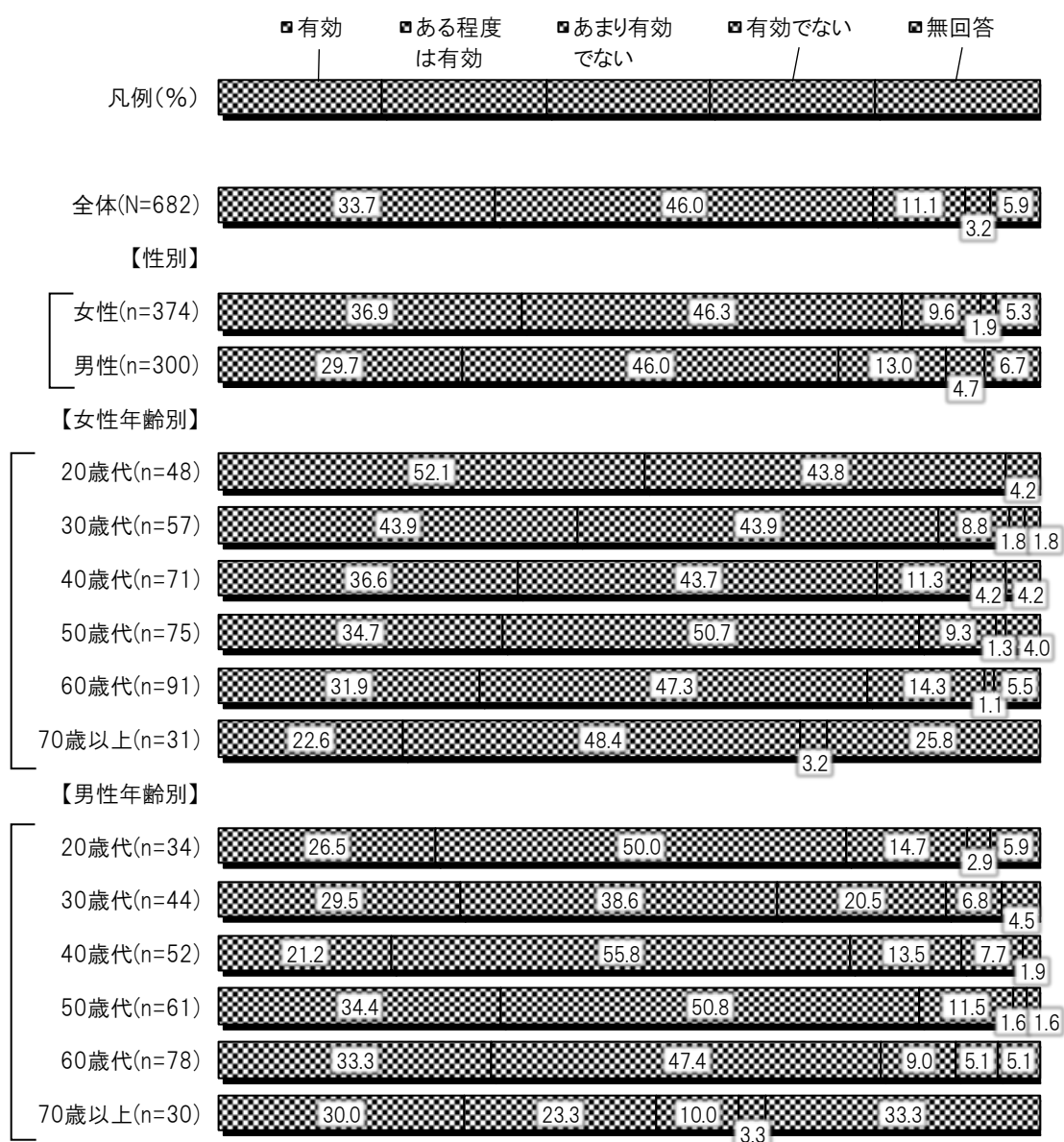


②男性の仕事優先、職場中心のライフスタイルを考え直すこと

「男性の仕事優先、職場中心のライフスタイルを考え直すこと」については、「有効」が33.7%、「ある程度は有効」が46.0%で、合計79.7%が『有効』と回答している。一方、「あまり有効でない」(11.1%)、「有効でない」(3.2%)の合計は14.3%であった。

性別では、女性は男性に比べ「有効」の割合が高くなっている。

性年齢別では、女性は若い年齢層ほど「有効」の割合が高くなる傾向にあり、男性の30歳代で『有効でない(合計)』の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

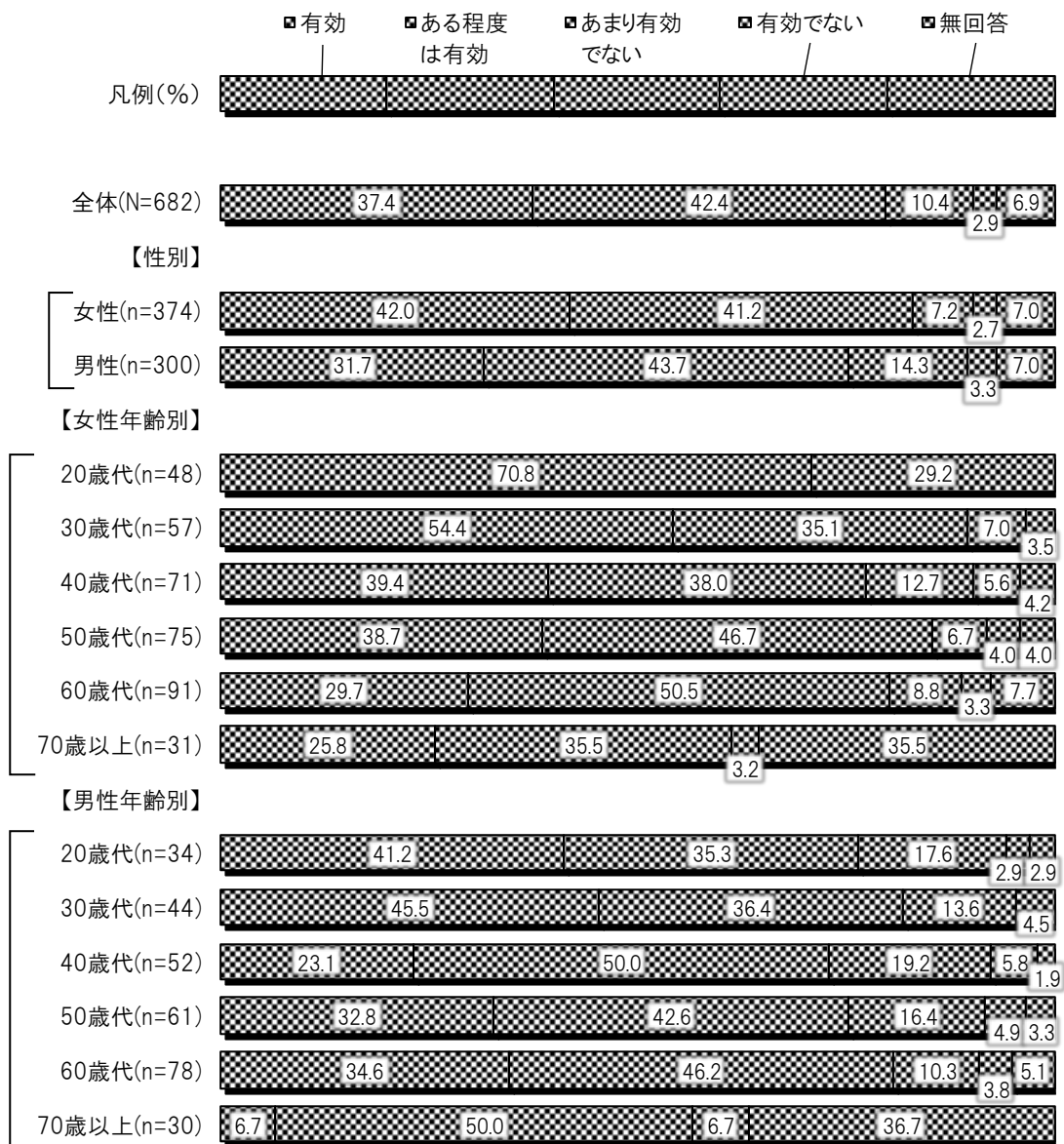


③労働時間の短縮やフレックスタイム制などの普及

「労働時間の短縮やフレックスタイム制などの普及」については、「有効」が37.4%、「ある程度は有効」が42.4%で、合計79.8%が『有効』と回答している。一方、「あまり有効でない」(10.4%)、「有効でない」(2.9%)の合計は13.3%であった。

性別では、女性は「有効」の割合が男性を大きく上回っており、男性は女性に比べ「あまり有効でない」の割合が高くなっている。

性年齢別では、女性は若い年齢層ほど「有効」の割合が高くなる傾向にあり、男性の30歳代以下で「有効」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

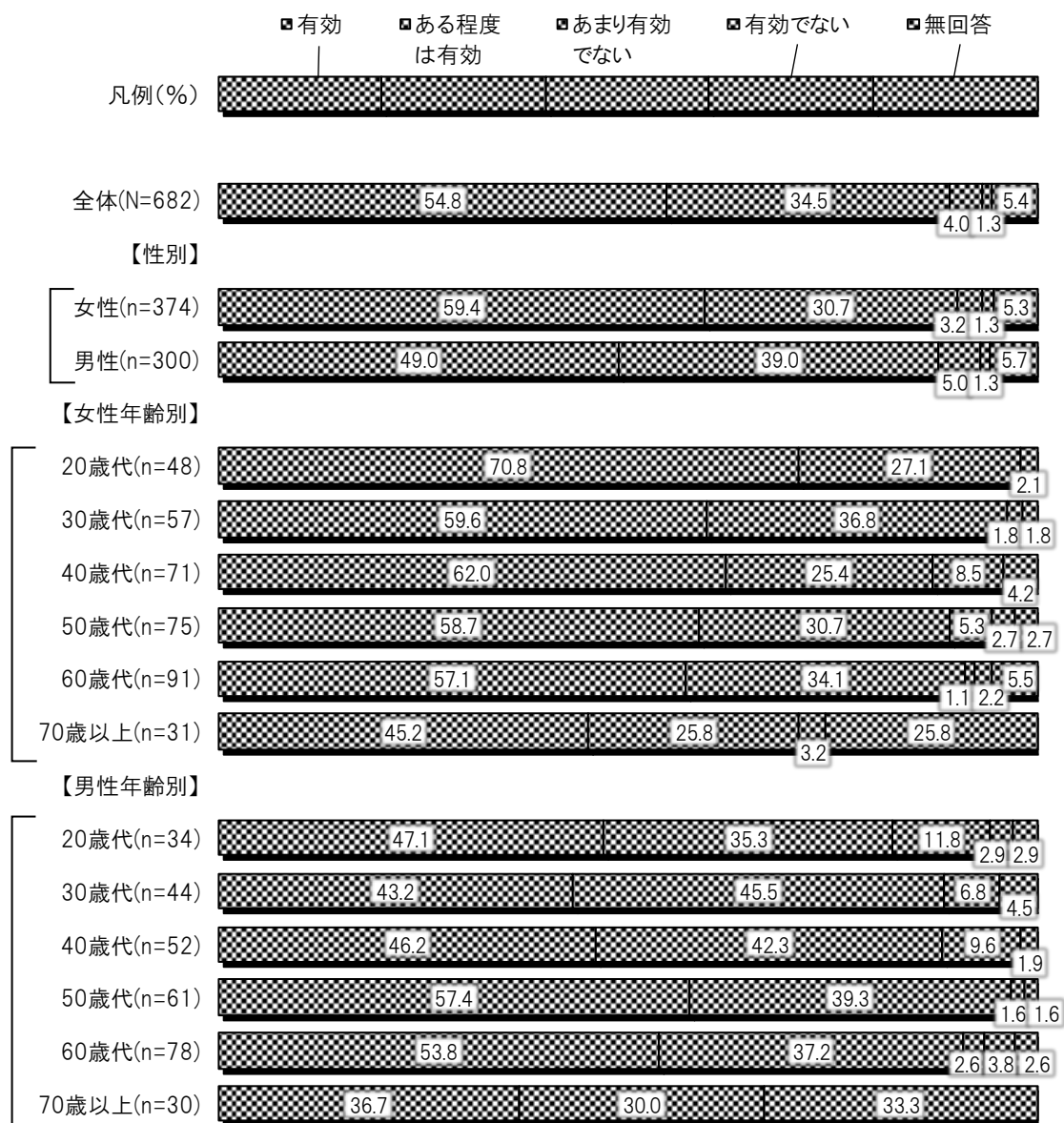


④育児・介護を支援するサービスの充実

「育児・介護を支援するサービスの充実」については、「有効」が54.8%、「ある程度は有効」が34.5%で、合計89.3%が『有効』と回答している。一方、「あまり有効でない」(4.0%)、「有効でない」(1.3%)の合計は5.3%であった。

性別では、女性は「有効」の割合が男性を大きく上回っている。

性年齢別では、女性の20歳代で「有効」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。

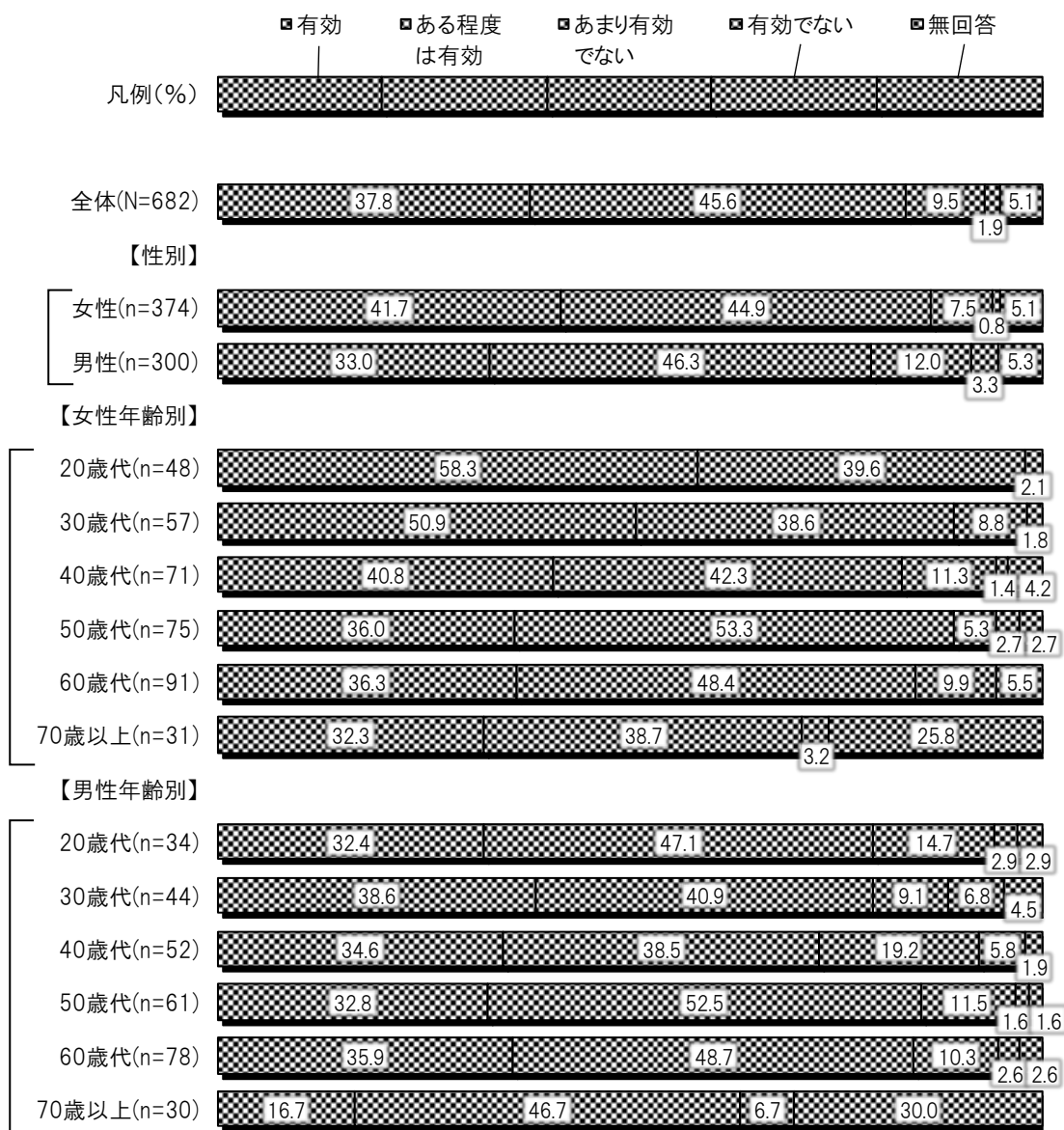


⑤男性が家事や育児を行う能力を高めること

「男性が家事や育児を行う能力を高めること」については、「有効」が37.8%、「ある程度は有効」が45.6%で、合計83.4%が『有効』と回答している。一方、「あまり有効でない」(9.5%)、「有効でない」(1.9%)の合計は11.4%であった。

性別では、女性は男性に比べ「有効」の割合が高くなっている。

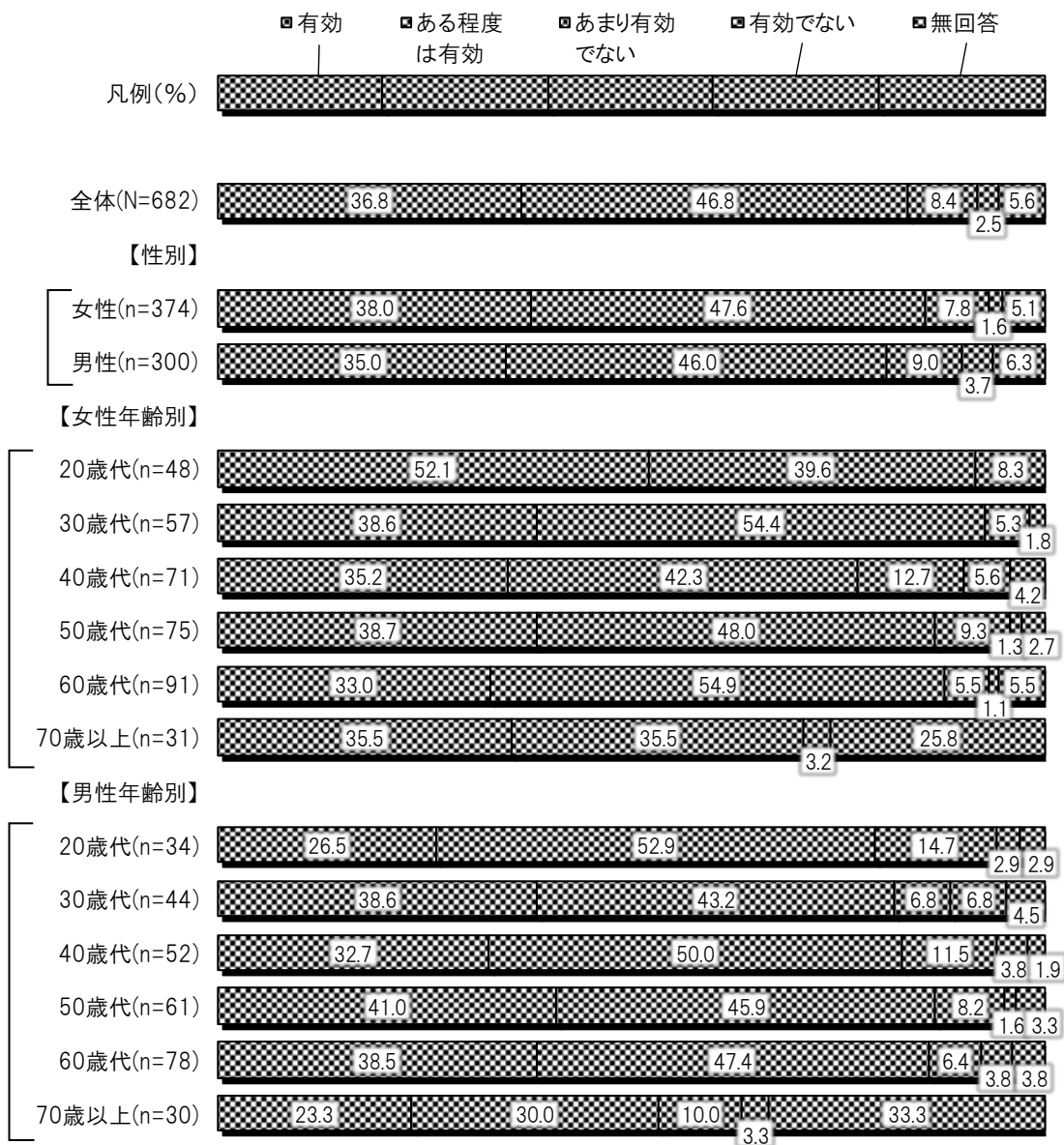
性年齢別では、女性は若い年齢層ほど「有効」の割合が高くなる傾向にあり、男性の40歳代で「あまり有効でない」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



⑥女性が経済力や資格などを有していること

「女性が経済力や資格などを有していること」については、「有効」が36.8%、「ある程度は有効」が46.8%で、合計83.6%が『有効』と回答している。一方、「あまり有効でない」(8.4%)、「有効でない」(2.5%)の合計は10.9%であった。

性別では大きな差はみられないが、性年齢別では、女性の20歳代で「有効」の割合が他の年齢層を大きく上回っている。



【時系列比較】

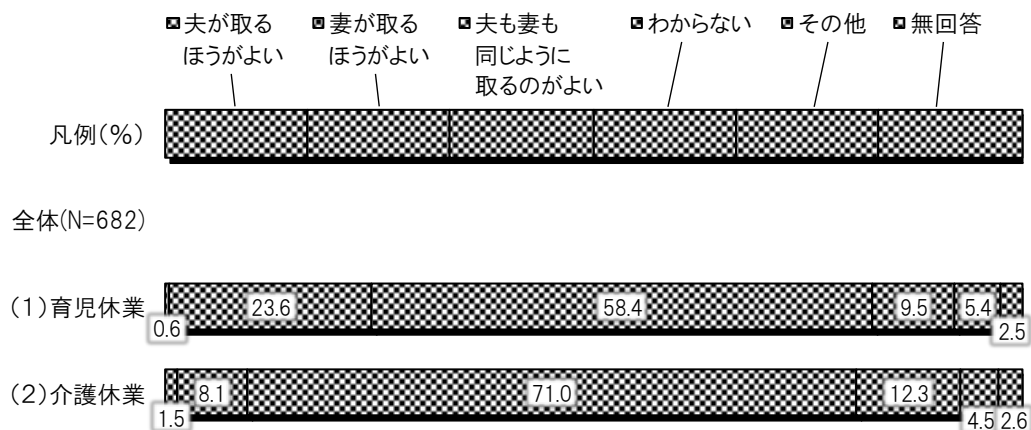
前回調査と比べて、「①男女の役割に関する社会通念や慣習、しきたりなどにとらわれないこと」「②男性の仕事優先、職場中心のライフスタイルを考え直すこと」「③労働時間の短縮やフレックスタイム制などの普及」で「有効」が増加した。



11 育児休業・介護休業について

問 42. 家庭で育児や介護が必要なとき、共働きの夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたら、どうするのがよいと思いますか。それぞれについてお答えください。

育児休業・介護休業については、「妻が取るほうがよい」の割合が「(1) 育児休業」で 23.6%、「(2) 介護休業」で 8.1%となっている。また、「夫も妻も同じように取るのがよい」の割合は「(1) 育児休業」で 58.4%、「(2) 介護休業」で 71.0%となっている。

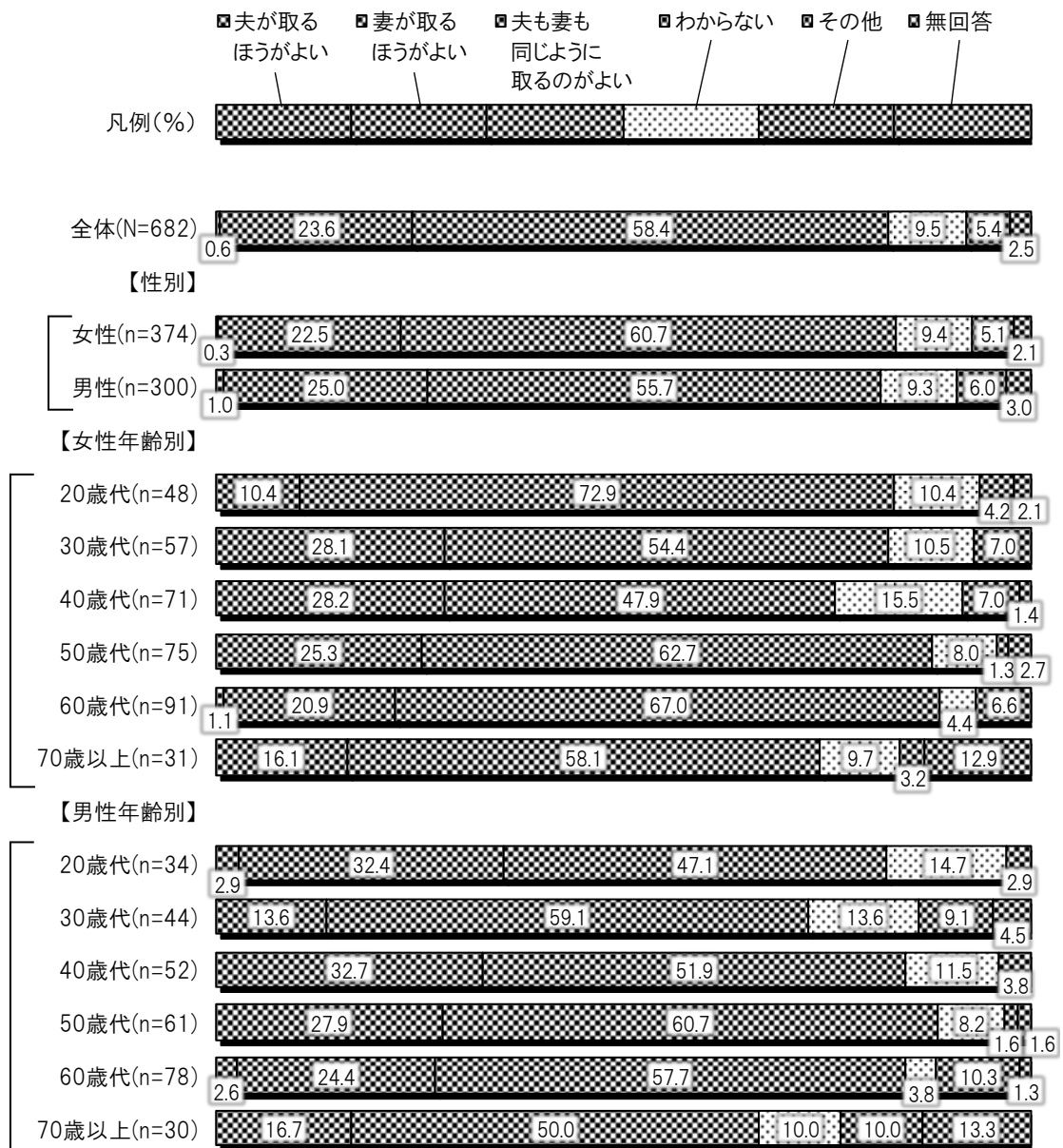


(1) 育児休業

育児休業については、「夫も妻も同じように取るのがよい」の割合が 58.4%と最も高く、次いで「妻が取るほうがよい」が 23.6%、「夫が取るほうがよい」が 0.6%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「夫も妻も同じように取るのがよい」の割合が高くなっている。

性年齢別では、女性の 20 歳代で「妻が取るほうがよい」の割合が他の年齢層に比べて低くなっている。

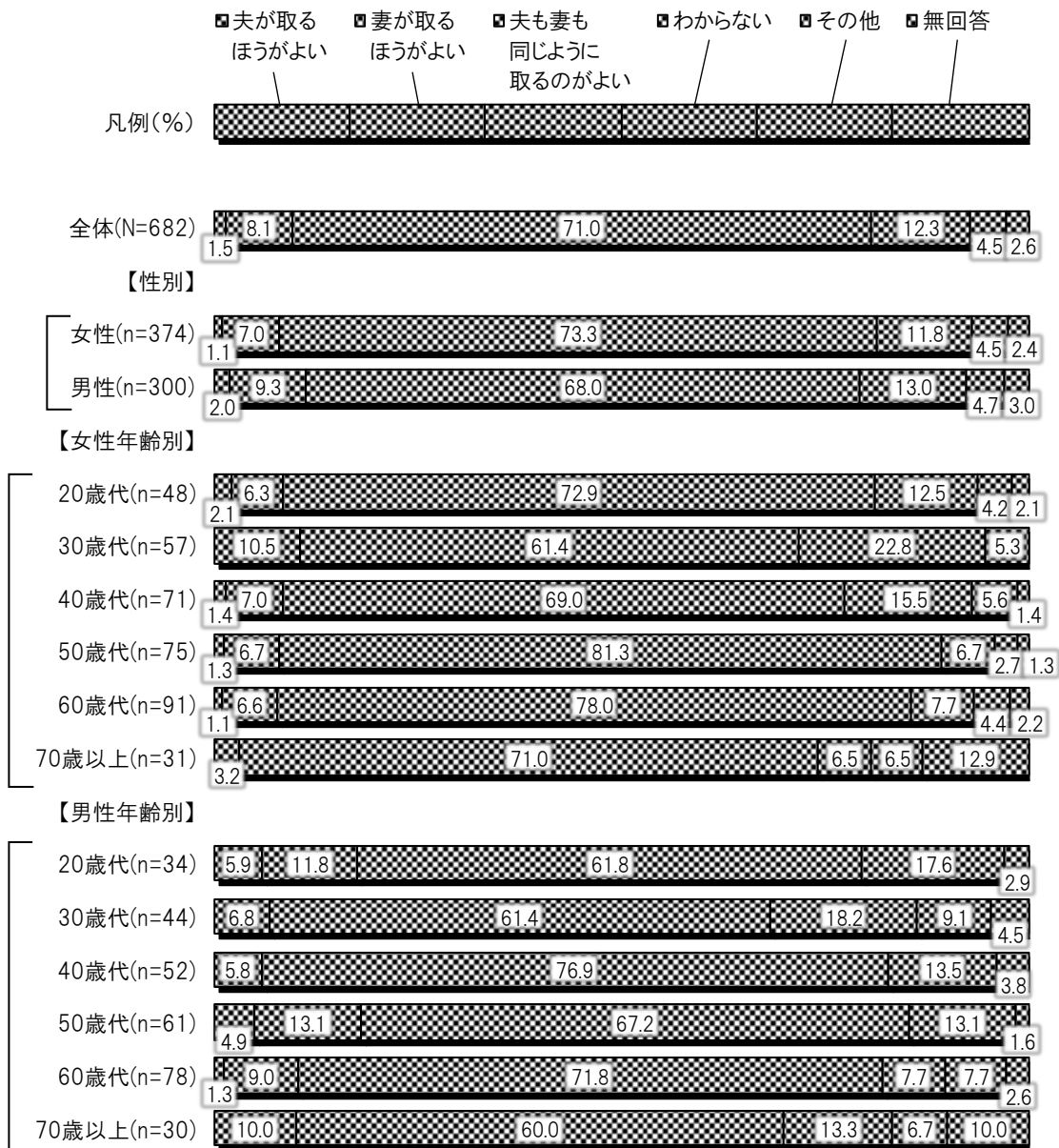


(2) 介護休業

介護休業については、「夫も妻も同じように取るのがよい」の割合が71.0%と最も高く、次いで「妻が取るほうがよい」が8.1%、「夫が取るほうがよい」が1.5%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「夫も妻も同じように取るのがよい」の割合が高くなっている。

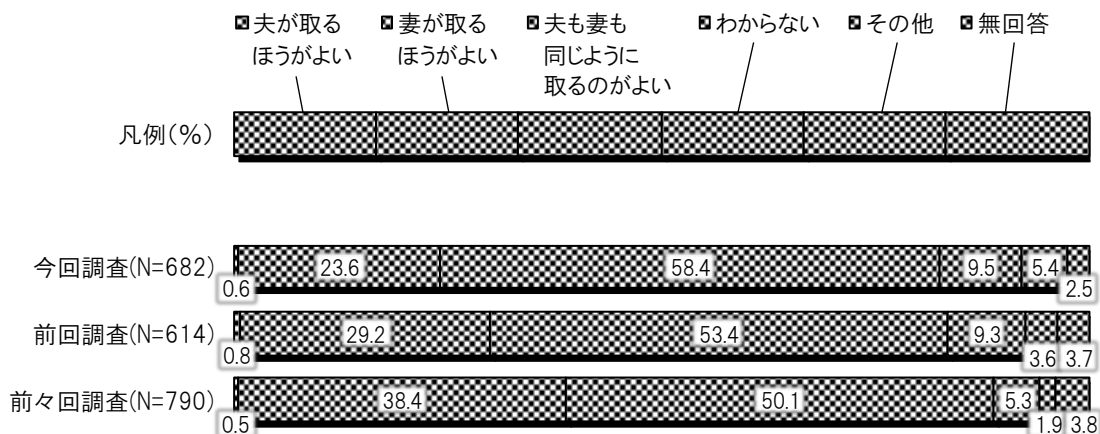
性年齢別では、女性の50～60歳代で「夫も妻も同じように取るのがよい」の割合が他の年齢層に比べて高くなっている。



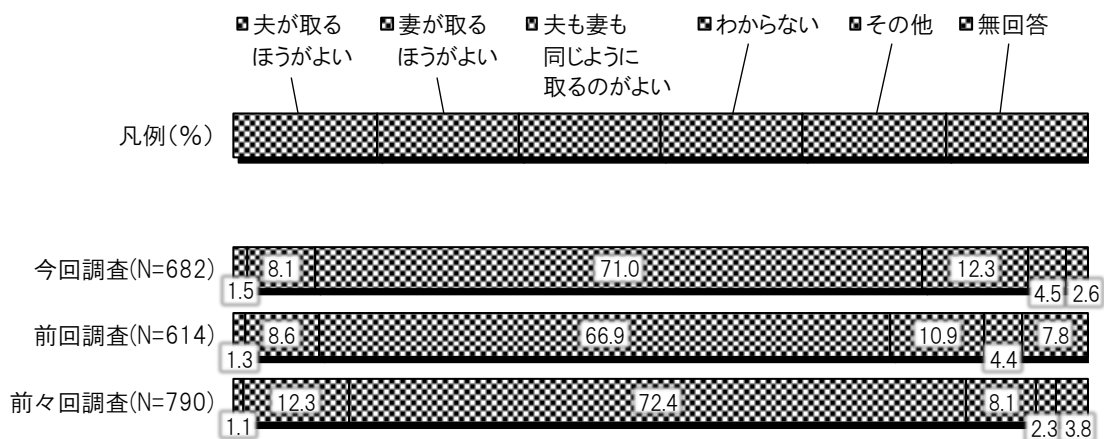
【時系列比較】

前回調査と比べて、「(1) 育児休業」は「妻が取るほうがよい」が減少し、「夫も妻も同じように取るのがよい」が増加した。「(2) 介護休業」は「夫も妻も同じように取るのがよい」がやや増加した。

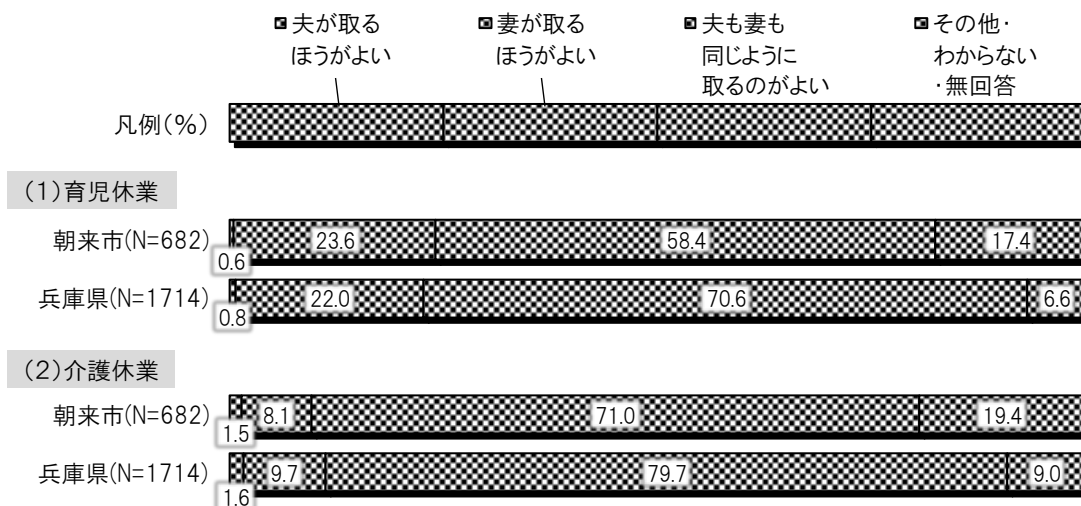
(1) 育児休業



(2) 介護休業



【参考／兵庫県との比較】

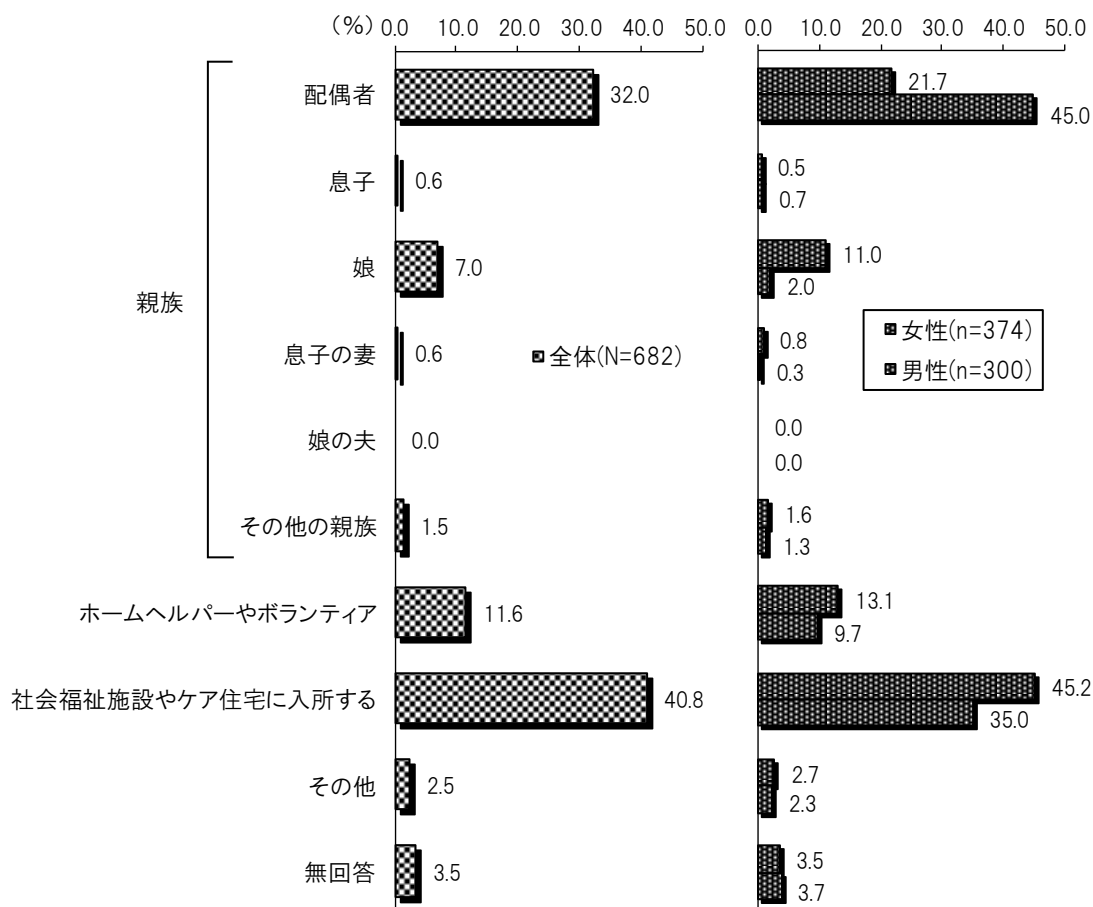


12 介護が必要になった場合に希望する介助者

問 43. あなたが、もし寝たきりや認知症になったとしたら、主に誰に身の回りの世話をしてもらいたと思いますか。(○は1つ)

介護が必要になった場合に希望する介助者については、「社会福祉施設やケア住宅に入所する」の割合が40.8%と最も高く、次いで「配偶者」(32.0%)、「ホームヘルパーやボランティア」(11.6%)の順となっている。また、親族(「配偶者」「息子」「娘」「息子の妻」「娘の夫」「その他の親族」)は合計で41.7%となっている。

性別では、女性は男性に比べ「娘」「社会福祉施設やケア住宅に入所する」の割合が高く、男性は「配偶者」の割合が女性を大きく上回っている。

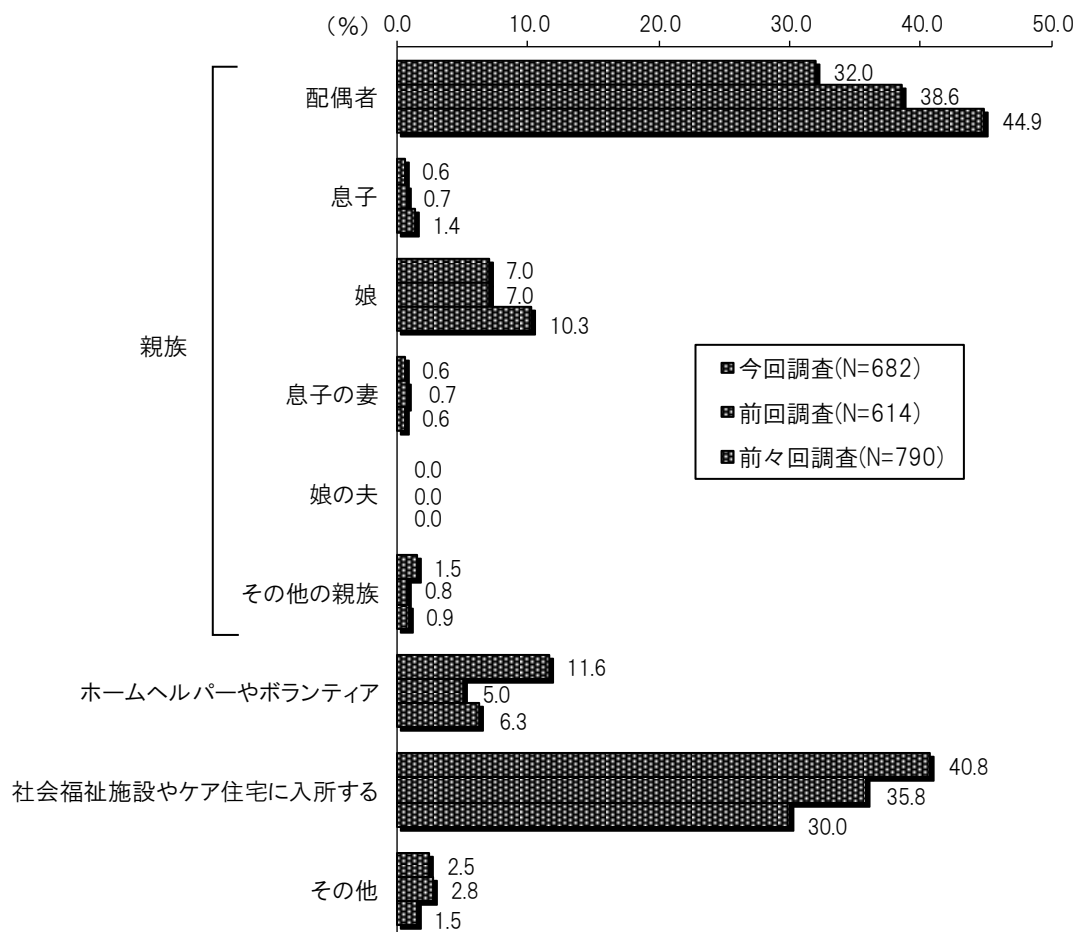


性年齢別では、女性の60歳代以上で「社会福祉施設やケア住宅に入所する」、男性の60歳代で「配偶者」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	配偶者	息子	娘	息子の妻	娘の夫	その他の親族	ホームヘルパーやボランティア	社会福祉施設やケア住宅に入所する	その他
全体(N=682)	32.0	0.6	7.0	0.6	0.0	1.5	11.6	40.8	2.5
【女性年齢別】									
20歳代(n=48)	18.8	0.0	4.2	0.0	0.0	6.3	18.8	45.8	2.1
30歳代(n=57)	21.1	0.0	15.8	0.0	0.0	1.8	10.5	43.9	5.3
40歳代(n=71)	23.9	0.0	9.9	1.4	0.0	0.0	21.1	33.8	4.2
50歳代(n=75)	26.7	0.0	16.0	1.3	0.0	1.3	6.7	41.3	2.7
60歳代(n=91)	22.0	0.0	8.8	0.0	0.0	1.1	11.0	56.0	0.0
70歳以上(n=31)	9.7	6.5	9.7	3.2	0.0	0.0	12.9	51.6	3.2
【男性年齢別】									
20歳代(n=34)	32.4	5.9	5.9	2.9	0.0	2.9	5.9	35.3	5.9
30歳代(n=44)	29.5	0.0	2.3	0.0	0.0	4.5	11.4	40.9	4.5
40歳代(n=52)	44.2	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9	7.7	40.4	0.0
50歳代(n=61)	45.9	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	11.5	39.3	0.0
60歳代(n=78)	59.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	24.4	2.6
70歳以上(n=30)	46.7	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	3.3	33.3	3.3

【時系列比較】

前回調査と比べて、「配偶者」が減少し、「ホームヘルパーやボランティア」「社会福祉施設やケア住宅に入所する」が増加した。

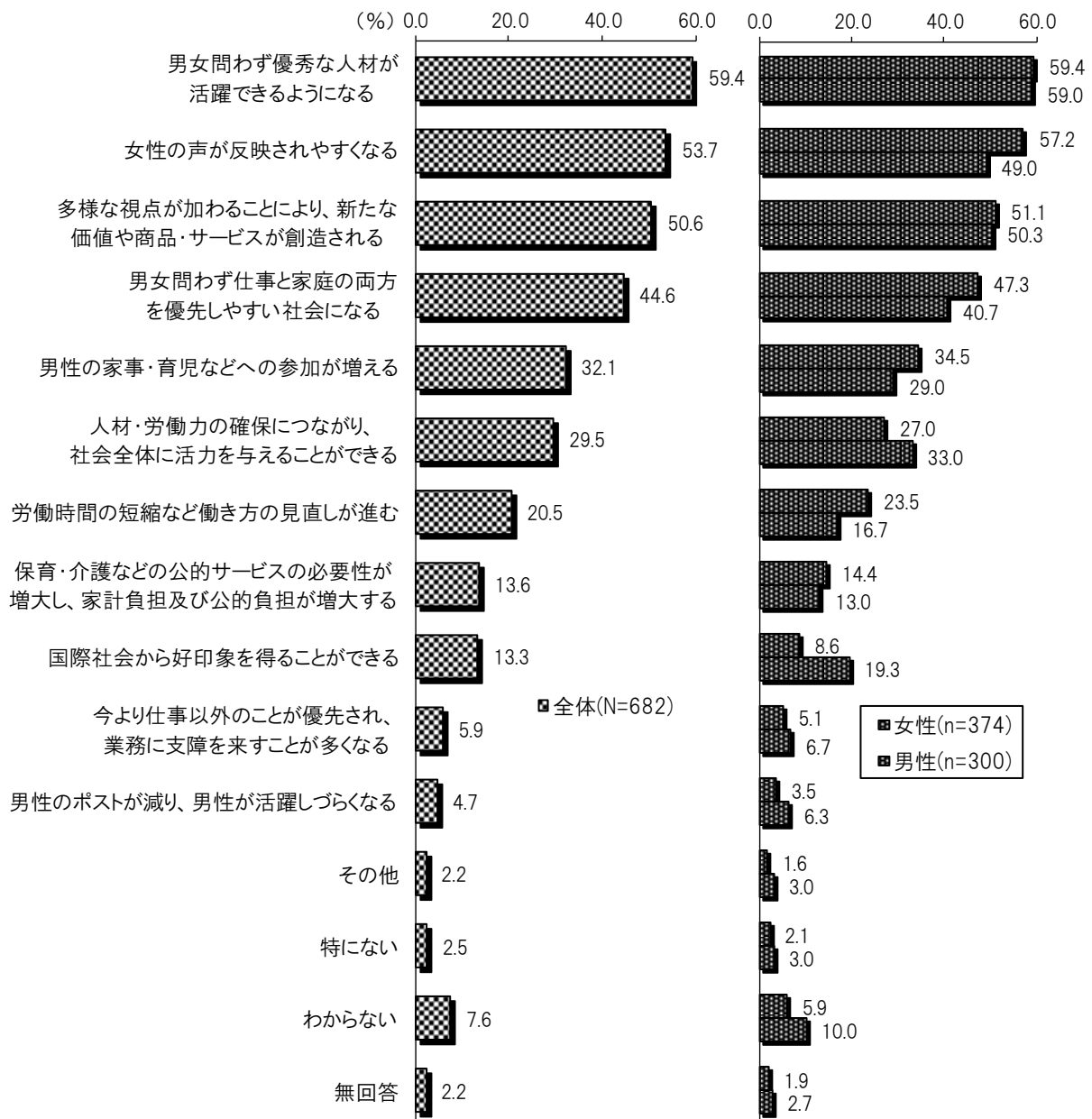


13 女性の参画が進むことによる影響

問 44. 今後、政治・経済・地域などあらゆる分野で、女性の参画が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)

女性の参画が進むことによる影響については、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「女性の声が反映されやすくなる」(53.7%)、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(50.6%)、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」(44.6%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「女性の声が反映されやすくなる」の割合が高く、男性は「国際社会から好印象を得ることができる」の割合が女性を大きく上回っている。

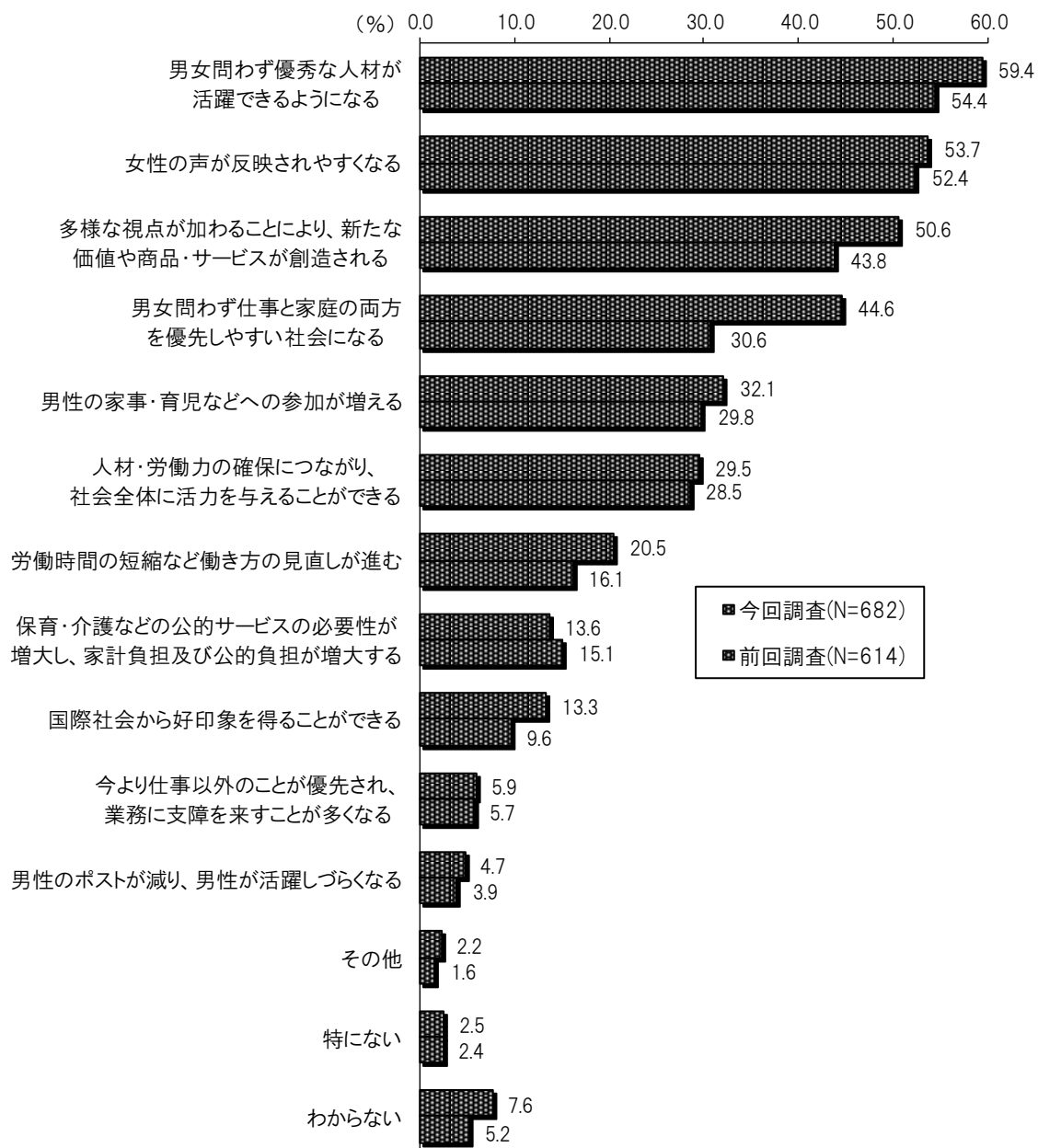


性年齢別では、女性は20歳代で「国際社会から好印象を得ることができる」、50歳代で「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」の割合が高く、男性は50～60歳代で「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」、60歳代で「多様な視点加わりにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」「労働時間の短縮など働き方の見直しが進む」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

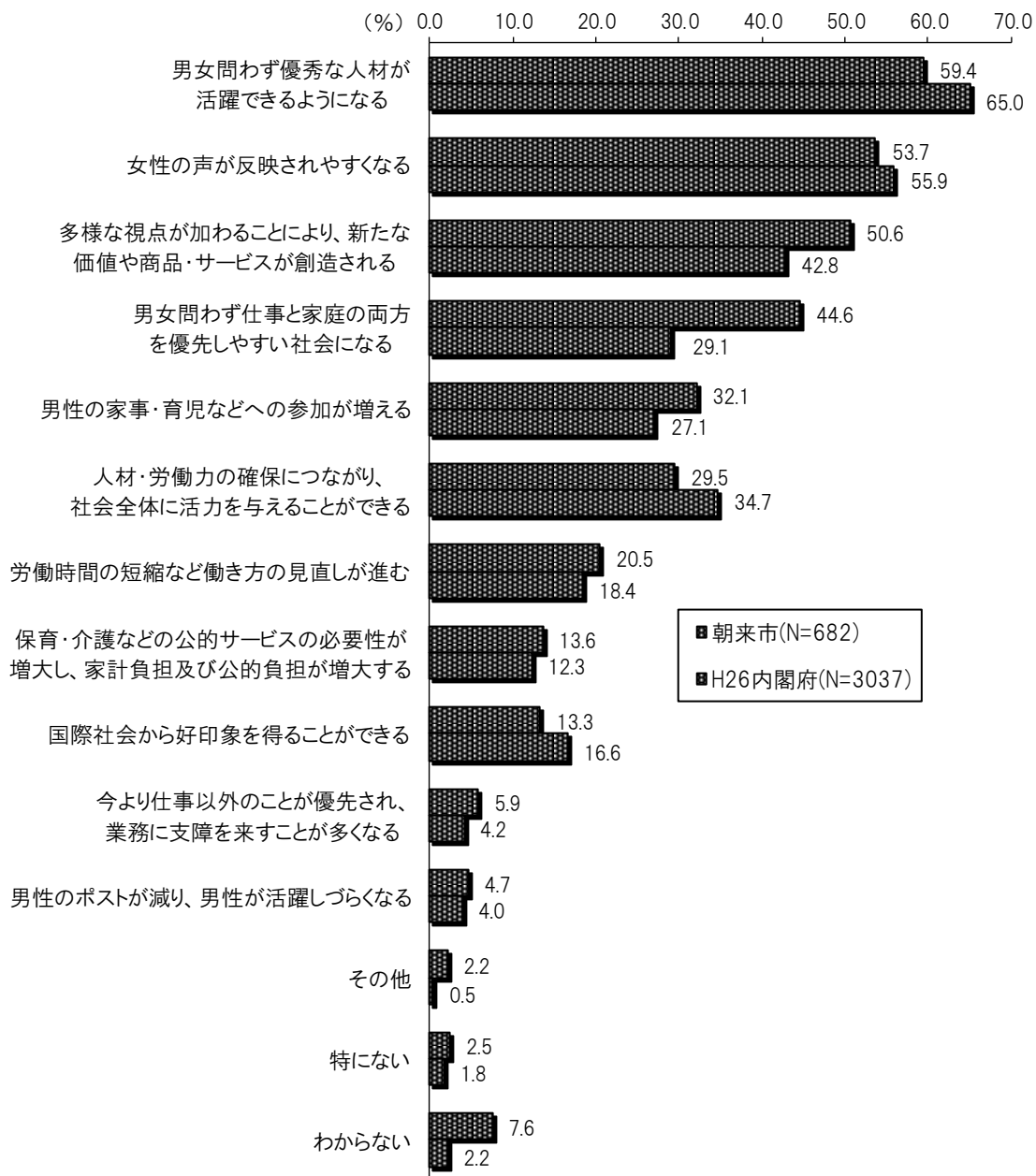
単位 (%)	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	女性の声が反映されやすくなる	新たな価値や商品・サービスが創造される	多様な視点加わりにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	先んずち社会と家庭の両方を優先する	男性の家事・育児などへの参加が増える	社会全体に活力を与えることができる	人材・労働力の確保につながる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	的負担が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	国際社会から好印象を得ることができる	今より仕事以外のことが優先される、業務に支障を来すことが多く	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	その他	特になし	わからない
全体(N=682)	59.4	53.7	50.6	44.6	32.1	29.5	20.5	13.6	13.3	5.9	4.7	2.2	2.5	7.6			
【女性年齢別】																	
20歳代(n=48)	50.0	62.5	52.1	58.3	41.7	29.2	20.8	18.8	18.8	8.3	12.5	0.0	0.0	16.7			
30歳代(n=57)	61.4	63.2	54.4	42.1	35.1	26.3	24.6	5.3	10.5	3.5	0.0	3.5	0.0	8.8			
40歳代(n=71)	54.9	54.9	47.9	42.3	22.5	16.9	23.9	19.7	7.0	7.0	4.2	1.4	2.8	1.4			
50歳代(n=75)	68.0	57.3	50.7	53.3	33.3	28.0	24.0	12.0	5.3	2.7	0.0	0.0	5.3	0.0			
60歳代(n=91)	59.3	57.1	50.5	46.2	37.4	30.8	23.1	16.5	7.7	5.5	3.3	2.2	2.2	6.6			
70歳以上(n=31)	61.3	45.2	54.8	38.7	45.2	35.5	25.8	12.9	3.2	3.2	3.2	3.2	0.0	6.5			
【男性年齢別】																	
20歳代(n=34)	47.1	29.4	41.2	26.5	20.6	26.5	14.7	8.8	17.6	0.0	0.0	0.0	5.9	23.5			
30歳代(n=44)	47.7	56.8	40.9	38.6	29.5	13.6	6.8	18.2	20.5	4.5	11.4	6.8	4.5	6.8			
40歳代(n=52)	53.8	42.3	40.4	46.2	25.0	23.1	7.7	11.5	15.4	9.6	7.7	3.8	0.0	15.4			
50歳代(n=61)	65.6	57.4	54.1	42.6	26.2	47.5	16.4	8.2	23.0	11.5	4.9	1.6	4.9	6.6			
60歳代(n=78)	70.5	52.6	64.1	43.6	35.9	43.6	28.2	15.4	19.2	2.6	5.1	2.6	0.0	7.7			
70歳以上(n=30)	56.7	43.3	50.0	40.0	33.3	30.0	20.0	16.7	20.0	10.0	10.0	3.3	6.7	3.3			

【時系列比較】

前回調査と比べて、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」が大きく増加した。



【参考／内閣府との比較】

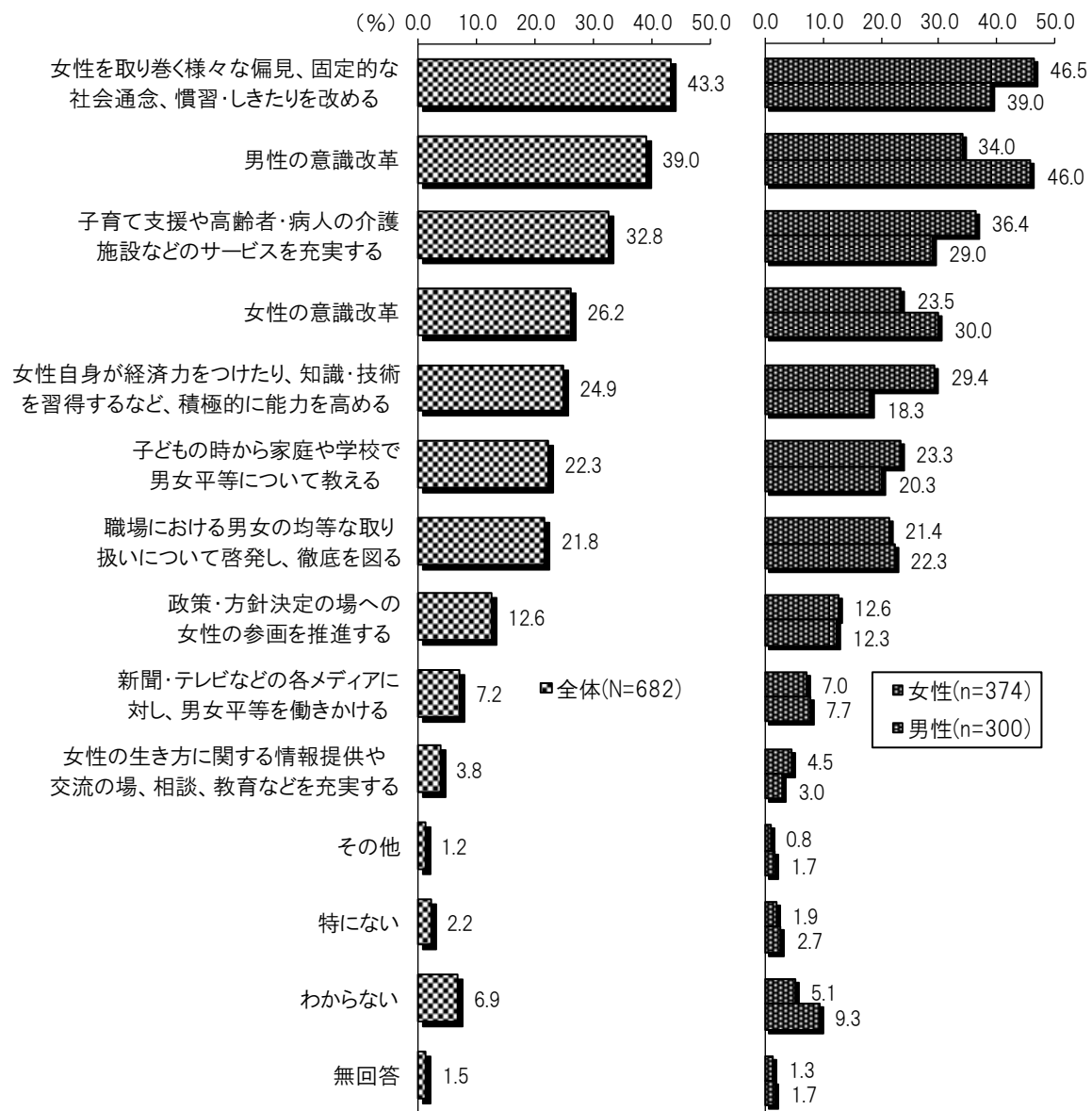


14 男女が対等な社会となるために重要なこと

問 45. 今後、あらゆる分野で男女がさらに対等な社会となるために、重要なことはどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

男女が対等な社会となるために重要なことについては、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」の割合が43.3%と最も高く、次いで「男性の意識改革」(39.0%)、「子育て支援や高齢者・病人の介護施設などのサービスを充実する」(32.8%)、「女性の意識改革」(26.2%)の順となっている。

性別では、女性は男性に比べ「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力を高める」の割合が高く、男性は「男性の意識改革」の割合が女性を大きく上回っている。

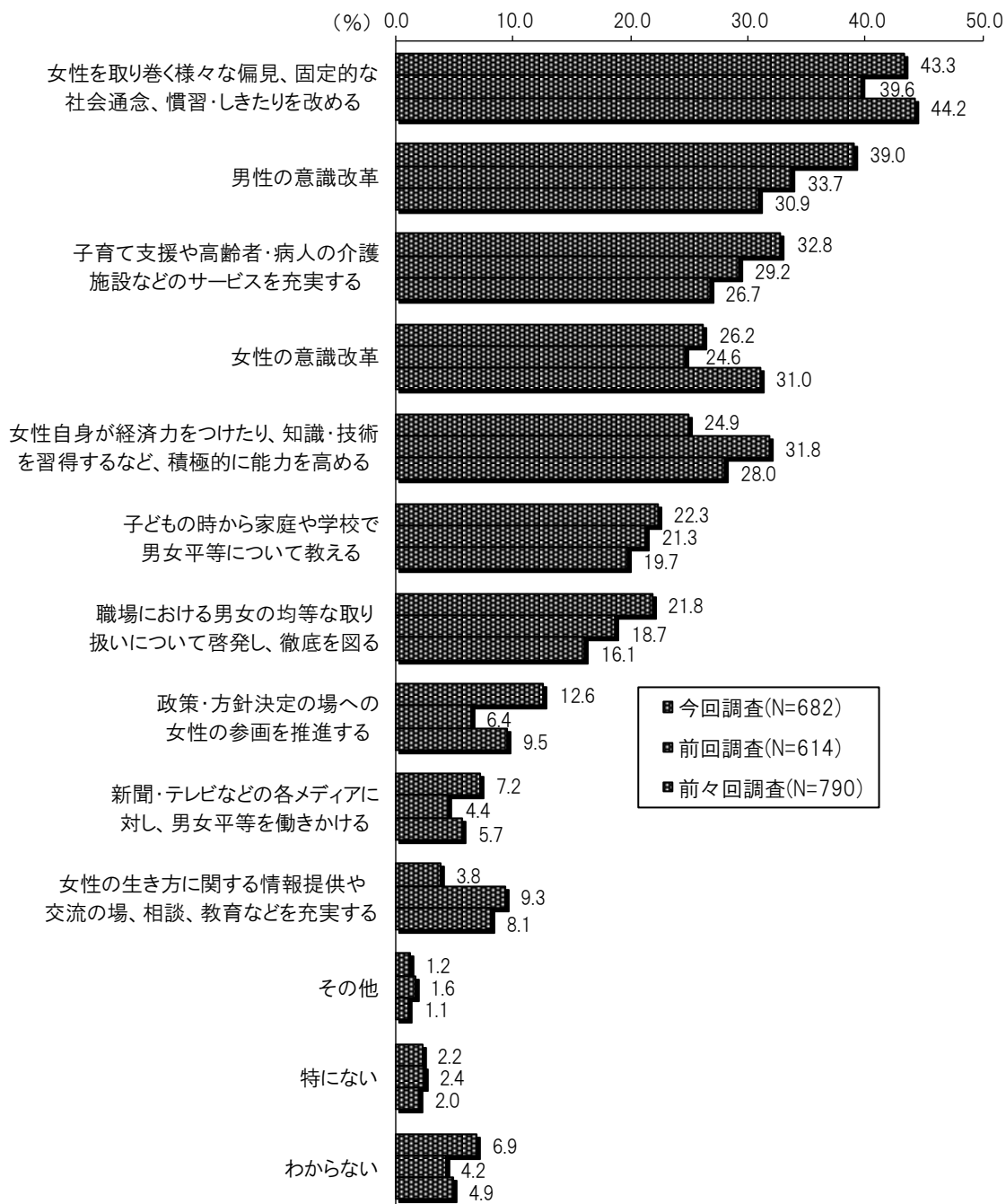


性年齢別では、女性は20歳代で「子育て支援や高齢者・病人の介護施設などのサービスを充実する」、70歳以上で「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力を高める」の割合が高く、男性は20歳代で「わからない」、50歳代で「男性の意識改革」、50～60歳代で「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」の割合がそれぞれ他の年齢層に比べて高くなっている。

単位 (%)	りを改める	女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める	男性の意識改革	る施設などのサービス	子育て支援や高齢者・病人の介護施設	女性の意識改革	極的に能力を高める	知識・技術を習得するなど、積極的に能力を高める	女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力を高める	女子等について教える	子どもからの家庭や学校で男	る場における啓発し、徹底を図	職場における男女の均等な取り	参画を推進する	政策・方針決定の場への女性の	に、テレビなどの各メディア	新聞・テレビなどの各メディア	対し、男女平等を働きかける	充実する	や交流の場、相談、教育などを提供	女性の方に関する情報提供	その他	特にな	わからない
全体(N=682)	43.3	39.0	32.8	26.2	24.9	22.3	21.8	12.6	7.2	3.8	1.2	2.2	6.9											
【女性年齢別】																								
20歳代(n=48)	45.8	25.0	50.0	12.5	27.1	31.3	22.9	2.1	4.2	10.4	0.0	2.1	4.2											
30歳代(n=57)	50.9	33.3	43.9	17.5	24.6	29.8	21.1	15.8	0.0	7.0	0.0	0.0	10.5											
40歳代(n=71)	43.7	40.8	28.2	26.8	21.1	16.9	18.3	9.9	5.6	4.2	1.4	1.4	9.9											
50歳代(n=75)	53.3	37.3	28.0	32.0	29.3	17.3	26.7	14.7	8.0	4.0	0.0	4.0	1.3											
60歳代(n=91)	44.0	29.7	37.4	25.3	35.2	26.4	24.2	16.5	8.8	2.2	2.2	2.2	1.1											
70歳以上(n=31)	35.5	38.7	38.7	19.4	45.2	19.4	6.5	12.9	16.1	0.0	0.0	0.0	6.5											
【男性年齢別】																								
20歳代(n=34)	38.2	32.4	26.5	23.5	5.9	8.8	26.5	11.8	14.7	2.9	0.0	2.9	20.6											
30歳代(n=44)	29.5	50.0	27.3	31.8	11.4	15.9	11.4	9.1	9.1	4.5	2.3	2.3	13.6											
40歳代(n=52)	26.9	48.1	21.2	28.8	26.9	30.8	21.2	9.6	9.6	5.8	1.9	3.8	7.7											
50歳代(n=61)	49.2	60.7	26.2	32.8	19.7	23.0	26.2	11.5	4.9	1.6	0.0	1.6	8.2											
60歳代(n=78)	47.4	41.0	33.3	32.1	19.2	23.1	23.1	17.9	5.1	1.3	2.6	0.0	6.4											
70歳以上(n=30)	33.3	33.3	40.0	26.7	23.3	10.0	26.7	10.0	6.7	3.3	3.3	10.0	3.3											

【時系列比較】

前回調査と比べて、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力を高める」「女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する」が減少し、「男性の意識改革」「政策・方針決定の場への女性の参画を推進する」が増加した。



V 自由意見

今回の調査では101件の自由意見があり、その意見の一部を編集して掲載する。

「朝来市は人権尊重のまちである」との意見が若い世代からいくつか寄せられた一方で「都市部と比べて古い慣習や考えが残っている」「男女間の固定的な役割意識が根深い」などの意見もあり、継続的な意識啓発などの取組が求められる。

【女性 20 歳代】

- 朝来市はとてもやさしい町です。このままであって欲しいです。
- 田舎こそ男女が協力して、より良い社会になることができると思います。
- 女性が声をあげる場面はよく見られますが、男性が人権に対して声をあげているのは見ません。逆に男性が声をあげにくいのではないかと感じています。
- 新型コロナウイルスに感染した人に対してや医療従事者に対する誹謗中傷を対策すべき。差別に関して、子どもに対してより、親への教育の方が必要だと思う。
- 人権については、一人一人がどんな人でも（障がいがある、認知症であるなど含む）理解し、正しく対応、接する必要があると思います。相手を思いやる気持ちを大切にお互いに尊重し合い、子どもから大人、様々な人が暮らしやすい町づくりをしたい、していただきたいと思っています。
- 日頃から地域活動等あらゆる場に、様々な立場の人が、それぞれ参加しやすい時間等で参加していく、それを認めていくことが大事だと思います。いくら女性のリーダーが増えても、結婚や出産を経験している人、自分らしく自分の人生を歩んできた人とは生活のリズムが違う場合もあり、子育て世帯への気配りが生まれにくいと思います。身近にいる人の状況を理解する。まずは、どんな状況なのか知るためにも制度も大事ですが、一人一人の心の持ち方を育む取組が必要だと思いました。

【女性 30 歳代】

- 男女の身体的能力の差があるのは理解できるけど、全く同じ仕事内容でも、男性の方が賃金が高いことが多く、女性の自立は不利なので、もしもの休業も家庭の経済ダメージの少ない女性となる。
- 朝来市は、人権尊重されている町です。
- 慣習や地域に根付いた偏見などを変えていくのはとても難しく、時間がかかるとは思いますが、少しずつ変えていく必要があると思います。今年、新型コロナウイルスを罹患した方や病院で働いた方などへの差別や偏見を耳にする機会も多く、もう少し生きやすい社会になれば皆が嫌な思いをすることも少なくなるのではないかと感じました。
- この地域においては、男尊女卑の考え方がまだまだ根深く、かつ女性も家庭にいたことが当たり前になっていて、改める気が感じられません。私はとても違和感を覚えています。我慢は美德という考え方はありなのかもしれませんが、それ以外の考え方も受容できる大人が増えて欲しいです。心の余裕がなさすぎる大人が多すぎて、すごく疲れます。
- 女性の社会進出に当たり、家庭、子育てを両立しながら仕事ができればと思います。パートでも、もう少し時間を細かく区切るなどで対策をしていただければ、働きたいのに働けず家庭で家事をしている女性も社会に参加しやすくなると思います。

- 人権のことや男女共同参画社会について何となくでしか知っておらず、アンケートでも「わからない」ということが多かった。社会において大切なことであるのに意識が低く、私も含めそういう人が大半ではないかなと感じる。そういう人がもっと知って変化していけるようにするにはどうすればいいのかを考えると、難しいなとただただ感じるばかりでした。このアンケートで意識するきっかけにはなったかなとも思う。
- 女性と男性が平等にというテーマは重要であり、今後現状を変えていかなければと思っただけでも、これまでの教育、経験の中で、女性である私にも、どこか「男性>女性」という価値観（というのでしょうか）が刷り込まれているのかもしれない。なかなか難しく時間が必要と思いますが、社会が成熟することを祈っています。そのための努力を私自身も続けていこうと思います。
- 男女という枠組みが必要な場合を除いて、不必要に男女を区別するような機会を減らしてはどうでしょうか。人々の意識を変えていくことにつながると思います。「男が・・・」「女が・・・」と言っている間は男女平等になどならないと思います。この質問の中にも「～はいいと思うかどうか」とあったが、個人によって違っていいし、状況にもよるので、答えるのが難しかったです。

【女性 40 歳代】

- CATVを利用しての人権、男女共同参画の啓発は、講演会等に参加できない人も見れるので、有効な手段だと思う。
- 社会的に立場の弱い人たち（高齢者、障がい者など）の声を聴かない人達が増えてきているような気がします。（自己中心的な人）。自己中人達に感情的に訴えても分からない人は全然分かってくれない。弱い立場の人が堂々と地域で生活していけるような制度を作って下さい。
- 社会への女性の進出、参画は行われつつありますが、家庭への男性の積極的な行動が少ないため、女性は負担が多くなり、疲弊してしまうのだと思います。仕事で疲れているのは誰でも一緒。子どもの頃から甘やかして何でもしてあげるといっても人格形成の中の大部分を担っているのではないのでしょうか。
- 男女平等をどこまで求めるか個人差があり、平等になることを求めているケースがある（レディースデイ、女性専用車両の有無など）。多様化する考え方を全て理解するのも難しい（特にLGBT系）。時代に合った働き方、待遇などを柔軟に考えることが求められている気がします。
- 男性にしか担えないこと、女性にしか担えないこともあると思いますので、対等も大切ですがお互いが尊重される社会を目指すべきだと思います。また、古くから続いているしきたりにも意味があることも理解しておかなければならないと思いますので、何でも全てを平等、対等にするのとは少し違うと思います。

【女性 50 歳代】

- 50代の親世代 80~90代の人たちは明らかに差別発言をしていたが、今はそんな発言を聞くことがなくなったことを思えば、やはり教育、啓発は効果があるのかと思う一方で、SNSとやらで、ひどい言葉を発する人がいたりして陰湿さは増しているのかと、恐ろしい。男女以外の性別があるのなら、男女共同参画と書くのは違うのではないか。公衆トイレは男女別にしてほしい。どちらも使えるということで3種類あればよいです。

- 人権教育、男女共同参画など啓発、活動など、ご活躍とは存じますが、一定の範囲、人達、固定された中からの地域、社会参加、市民の年代問わず気軽に話し、意見交換ができる窓口のような形式チャンスがないと思います。簡単な身近でもできるワークショップ的な形など「お茶でもいい」というような堅苦しくない「会」を開催されることを希望します。
- 役割分担については男性か女性かで分けるより、その人の持つ能力やポジションなどを考えて、適した方が担えば良いと思いました。ただ、その根底には男女共同参画社会や正しい人権感覚を持っていることが大前提なので、地道な啓発が大切だと思いました。

【女性 60 歳代】

- コロナについても、いじめについても男女の立場についても、結局は一人の心根の改革にしかないと思います。皆が「そうだ」と思えば「今」この瞬間に差別はなくなります。様々なことを「自分ごと」としてとらえられる人が育てば、拉致問題もコロナ禍で頑張っている医療従事者への配慮も、ごみ収集車にたずさわる人への目も一転します。
- ケーブルテレビでコロナ感染症の情報を発信される時、偏見や差別的な言動をしないよう話されたことは、人権尊重の意味で大事だったと思う。こんな大変な時こそ、お互いをいたわり大切に接するよう呼びかけてほしい。
- 職場でも家庭でも、まだまだ固定的な社会通念は改革されていないと感じます。男性と女性がそれぞれの力を出し合って、生活していくことは大切なことですが、お互いが人格を尊敬し大切にしていることが一番大事です。これからも人権を意識した政策を希望します。
- 男性の子育て、介護、家事体験、女性の職場体験、管理職体験など模擬体験のできるイベントなどがあるとよい。
- 地区の役員が全て男性であるところから変えていければ、と思います。身近なところからの変革。区長、副区長、評議員、隣保長（組長）等ほとんどの地区が男性です（全て調べていないので、はっきりとは言えませんが。）。この田舎では、男尊女卑がいまだに根付いていて、女性が前に出ると、女のくせにとという扱いを受ける。それは、男性だけではなく女性の中にも女は前に出るな的なものがあります。政治の世界で女性の活躍が叫ばれるように地区においても、そうありたいと思います。
- 人はどんな形で生まれて来ても、生きる価値があり、助け合っていないとならないと思います。また、生きていく中で、障がいのため周りの助けを借りなければ、生きづらい人生を持ったときには偏見や差別がなく、生きていける制度や、法をより広めていくことが急がれる。男女共同参画社会の実現の近道は教育のみ。幼少期から親が姿を見せる。

【女性 70 歳以上】

- 男女共同参画は、ずい分以前より言われているが、変わってきているのは、本当に緩やかだと思う。しかし、基本的な部分では、各人の意識の改善が大切だと思う。生活や仕事で男性、女性、それぞれに向き不向きは仕方がないことなので、それを考えてもお互い（男性、女性）が進んでやることになればと思う。男は仕事、女は家事の押し付けは、現在では随分崩れつつあると思う。女性も共働きをしている人は多い。とすれば共同で考え、家庭生活を分担することは大切だと思う。

【男性 20 歳代】

○コロナの対応をみても市長の人権に対する思いが伝わってくる。「人権尊重のまち朝来市」すばらしいです。

【男性 30 歳代】

- このコロナの中であって、朝来市は感染者に対してもとても冷静に対応できていると感じる。これは市民一人一人の意識の表れだと思う。人権は法律などで押し付けるのではなく、平素の生活の中で育つものであると思う。他市のように条例などで縛られずとも、人権に明るい朝来市を誇りに思います。
- 女性がまだ社会的に弱いとは思えない。実力ある人は上に立っています。また、痴漢などの問題は、女性車両に乗らないなどの「個人」の責任が強い。性的な差別にしても、女性は男性の衣服を着ても問題はないが、男性はスカートなど着ると必ず白い目で見られます。まだ女性が社会的に弱いと思っている人は、その人が「女性は弱い」と思っているだけで、今のままでもしっかり支援やサービスは十分だと思う。あとは、世間と本人の感情のみだと思えます。
- 男女共に等しく機会が与えられる社会が重要だと思います。

【男性 40 歳代】

- CATVを見ました。いい映画で啓発をされていて感動しました。
- 朝来市は人権について明るい市であると思う。
- あまり凝った事業を行うのではなく、映画やCMなどメディアから自然と啓発ができるような仕組みが良いと思う。
- 労働者男女問わず収入が上がれば、人権の問題への意識も高まる。生活に困窮するような状態では、人権どころではない。

【男性 50 歳代】

- 差別や暴力などの人権問題が（大きくニュース等で取り上げられている）発生しないような市にしていきたいです。また、どのような事例が発生しているのかの詳細や対策等も知りたいと思った。
- 男女共同参画について、市民から意見を聞く機会を設けられたらよいと思う。（大人から学生まで広く参加できるように配慮して。）巡回学習の時に男女共同参画の研修内容を盛り込んだらよいと思う。
- コロナ禍で様々なことが中止となり、関係が少なくなり、他者への関心がより薄くなっているように感じます。
- 人にやさしい町、市であって欲しい。

【男性 60 歳代】

- 8月に配布されたコロナの人権のチラシはとても心に響きました。啓発とはこういうことです。
- 押し付けがましい啓発ではなく、今年のようなケーブルテレビを使ったような啓発の方が受け入れられやすく思います。

- 朝来市独自で人権尊重宣言を発令する。幅広い人権を守るとは言いやすいが、部落差別解消となると声が小さく、行政も「やめましょう」的な言葉が先行する。今回のコロナ感染差別のように、国はもちろん県、市、町が、もっともっと声を出して発して欲しい。行政が汗をかかないと部落差別はなくなりません。
- 固定観念、世間の慣習にとらわれず、自分と同じく他人も大切に思う心を育てるため、子どもの頃から画一的でない教育を行い、個性を尊重する心を植え付ける。
- 朝来市は人にやさしい町である。
- 市長をはじめ、市は人権について、とても配慮されていらっしゃると思います。素晴らしいです。
- 平等に対する差別の背反的な捉え方でなく、いろいろな事象には差別、区別の違いはあるのでそこは各々の主観が入るので良い悪いの判断は難しい。それについては認める。ただ公共性、社会性の中では、その裏には責任を持つことが大事。

【男性 70 歳以上】

- これまで問題視されてきたことだけが人権問題とは言えない。今までプラス、新しい問題が発生する可能性があります。マラソンのペースメーカーのように、ただ先を走れば解決するものではない。昔から言われている諸問題は、牛が反芻して咀嚼するように、皆が持っているようによく噛んで食物の消化を助けるよう努めていかなければならないと思います。

人権についての市民意識調査

調査へのご協力をお願い

平素は市政に対し、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、人権尊重のまちづくりに向け、市民と行政が一体となった推進体制を強化し、市民の人権意識を高め、あらゆる差別や偏見がなくなる地域社会を目指しています。

また、男女がお互いの人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いながら、それぞれの個性と能力を発揮することができる男女共同参画社会を目指しています。

このたび、今後の人権教育・啓発及び男女共同参画の施策を進める上で参考とさせていただくため、「人権についての市民意識調査」を行うことといたしました。

この調査は、20歳以上の方から男女各1,000人、合わせて2,000人を無作為に選ばせていただきました。調査は無記名です。すべて統計的に処理を行い、個人の名前が出るなどご迷惑をおかけすることはありませんので、ぜひご協力をお願いいたします。

令和2（2020）年12月

朝来市長 多次 勝 昭



ご記入にあたってのお願い

1. 回答はあなた（封筒の宛名ご本人）自身のお考えでお答えください。
なお、ご本人が病気などで記入ができない場合、家族の方などが、代わって記入してください。
2. 記入は黒のボールペン、または濃い鉛筆でお願いします。
3. 回答は、質問ごとに番号に○をつけてください。
4. 質問によって回答される方が限られる場合がありますので、ことわり書きをお読みいただき、記入してください。
5. ご記入いただきました調査票は、返信用封筒に入れ、**12月28日（月）**までにご返送ください。（切手は不要です）

◆この調査についてのお問い合わせ先

朝来市 市民生活部 人権推進課

TEL 079-672-6122（直通）

あなた自身のことについておたずねします

問1. あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. () |
|-------|-------|--------|

問2. あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20～29歳 | 2. 30～39歳 | 3. 40～49歳 |
| 4. 50～59歳 | 5. 60～69歳 | 6. 70歳以上 |

問3. あなたの同居の家族構成をお答えください。(○は1つ)

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. あなたと配偶者(パートナー)のふたり |
| 3. 親と子(2世代世帯) | 4. 祖父母と親と子(3世代世帯) |
| 5. その他(具体的に) | |

問4. あなたの同居家族の中に、次の方(あなた自身を含む)はいますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 小学校入学前の子ども | 2. 小学生の子ども |
| 3. 65歳以上の方 | 4. 介護を必要とする方 |
| 5. 障害のある方 | 6. いずれもない |

人権のことについておたずねします

問5. あなたは「人権」を身近な問題として感じていますか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 非常に身近に感じる | 2. かなり身近に感じる |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり身近に感じない |
| 5. まったく身近に感じない | 6. わからない |

問6. 次の①～③それぞれについて、あなたはどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ)

①今の日本は、人権が尊重されている社会である。

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばそうは思わない |
| 5. わからない | |

②住民一人ひとりの人権意識は5～6年前に比べて高くなっている。

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばそうは思わない |
| 5. わからない | |

③ 5～6年前に比べて人権が侵害されていることは減っている。

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う |
| 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえばそうは思わない |
| 5. わからない | |

問7. あなたは、今までに自分の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------|---|---------|
| 1. ある | → | 問7-1. へ |
| 2. ない | → | 問8. へ |
| 3. わからない | → | 問8. へ |

問7. で、「1. ある」と答えた方におたずねします

◆問7-1. それは、どのような人権侵害でしたか。(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. あらぬうわさや悪口による名誉・信用などの侵害 |
| 2. 公的機関や企業・団体による不当な扱い |
| 3. 地域での暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ |
| 4. パワーハラスメント（職務権限などを用いて行ういじめやいやがらせ） |
| 5. 家庭での暴力や虐待 |
| 6. 学校でのいじめ |
| 7. 差別待遇（信条・性別・社会的身分・心身の障害などによる不利な扱い） |
| 8. 部落差別 |
| 9. プライバシーの侵害 |
| 10. セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ） |
| 11. SNS*や動画投稿サイトなどインターネットを悪用した人権侵害 |
| 12. その他（具体的に) |

SNS … ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略称。Facebook やTwitter、YouTube、Instagram など、不特定多数の人が情報交換できるコミュニケーションの場。ほかにLINEなどの情報通信アプリがあります。



◆問7-2. 人権侵害を受けたとき、あなたはどうしましたか。(○はいくつでも)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 友達、同僚、上司、学校の先生に相談した |
| 2. 家族、親せきに相談した |
| 3. 警察に相談した |
| 4. 弁護士に相談した |
| 5. 人権擁護委員に相談した |
| 6. 公的機関（神戸地方法務局豊岡支局・市役所の相談窓口など）に相談した |
| 7. NPOなど民間団体に相談した |
| 8. 相手に抗議をした |
| 9. 何もしなかった |
| 10. その他（具体的に) |

問8. あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがあると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|----------|--------------------------|
| 1. ないと思う | 2. 自分では気づかなかったが、あるかもしれない |
| 3. あると思う | 4. わからない |

問 9. 日本の社会には人権にかかわるさまざまな問題がありますが、あなたが特に関心のあるものはどれですか。（○はいくつでも）

1. 女性に関する問題
2. 子どもに関する問題
3. 高齢者に関する問題
4. 障害のある人に関する問題
5. 同和問題
6. 日本に居住している外国人に関する問題
7. 特定の国の出身又はその子孫であることのみを理由に日本社会から追い出そうとしたり、危害を加えようとするなど一方的な内容の言動（ヘイトスピーチ）に関する問題
8. エイズ患者・HIV（エイズ・ウイルス）など感染者に関する問題
9. ハンセン病患者・回復者等に関する問題
10. 犯罪被害者等に関する問題
11. 性同一性障害者（心と身体の性が一致しない人）に関する問題
12. SNSや動画投稿サイトなどインターネットを悪用した人権侵害の問題
13. ホームレスの人に関する問題
14. 性的指向（異性愛・同性愛・両性愛）を理由とした人権侵害の問題
15. 北朝鮮拉致被害者に関する問題
16. 刑を終えて出所した人に関する問題
17. アイヌの人々に関する問題
18. 人身取引（性的搾取・強制労働等を目的とした人身取引）に関する問題
19. 働く人の権利に関する問題
20. 特にない
21. その他（具体的に _____）

問 10. あなたは、平成 28(2016)年度に施行された人権に関する 3つの法律（部落差別解消法、ヘイトスピーチ解消法、障害者差別解消法【人権三法】）について知っていますか。（○は 1つ）

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. よく知っている | 2. 少しは知っている |
| 3. 言葉（名称）は知っている | 4. 知らない、聞いたことがない |

問 11. 女性に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。（○は 3つまで）

1. 男女の性別による固定的な役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」など）
2. 昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い
3. 女性の社会進出のための支援制度が不十分
4. ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親しい人からの暴力）
5. セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）
6. ストーカー、ちかん行為
7. 売春・買春・援助交際
8. アダルトビデオや女性のヌード写真などを掲載した雑誌などの商品化
9. 「婦人」、「未亡人」のように女性にだけ用いられる言葉
10. わからない
11. その他（具体的に _____）

問 12. 子どもに関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(○は3つまで)

1. 親がいうことを聞かない子どもにしつけのつもりで体罰を与えること
2. 子どもに心理的な虐待を加えたり、子育てを放棄すること
3. 子ども同士が「暴力」や「仲間はずれ」、「無視」などのいじめをすること
4. いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事
5. 学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること
6. 教師が児童や生徒に体罰を与えること
7. インターネット、スマートフォンなどで子どもを取り巻く性情報がはんらんしていること
8. 児童買春や子どものヌード写真・映像を商品化すること
9. 悪口やいやがらせをSNSや動画投稿サイトなどインターネットに書き込んだりすること
10. わからない
11. その他（具体的に)

問 13. 高齢者に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。
(○は3つまで)

1. バリアフリー化など、高齢者の暮らしやすいまちづくりが十分でないこと
2. 働く意欲や能力があるのに雇用と待遇が十分に保障されていないこと
3. 高齢者だけでは住宅への入居が難しいこと
4. 悪徳商法や詐欺などによる被害が多いこと
5. 病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと
6. 高齢者が邪魔者扱いされ、意見や行動が尊重されないこと
7. 家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと
8. 情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
9. 家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたりすること
10. わからない
11. その他（具体的に)

問 14. 障害のある人に関することで、人権上、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(○は3つまで)

1. バリアフリー化など、障害のある人の暮らしやすいまちづくりが十分でないこと
2. 働く場所や機会が少なく、待遇が十分に保障されていないこと
3. 学校や職場で不利な扱いを受けること
4. 病院での看護や福祉施設での介護や対応が十分でないこと
5. スポーツ活動、文化活動、地域活動などに気軽に参加できないこと
6. 社会復帰や社会参加のための受け入れ態勢が十分でないこと
7. 情報を障害のある人にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと
8. 障害のある人の意見や行動が尊重されないこと
9. 障害のあることを理由に周囲から結婚を反対されること
10. わからない
11. その他（具体的に)

問 15. 子ども、高齢者、障害のある人への虐待、配偶者や恋人などからの暴力が、あなたのまわりで起きていることを知った場合、あなたはどのように対応しますか。(〇は3つまで)

1. 虐待などを受けている本人に事情を聞く
2. 問題が起きている家族やその親せきに事情を聞く
3. 他の隣人、近くに住んでいる友だちに相談する
4. 子どもの通っている保育所、幼稚園、学校などに相談する
5. 人権擁護委員に相談する
6. 公的機関の相談窓口など(神戸地方法務局豊岡支局・市役所の相談窓口など)に相談する
7. 児童相談所(子どもの場合)、配偶者暴力相談支援センター(配偶者の場合)や警察へ通報する
8. 弁護士に相談する
9. 特に何もしない
10. わからない
11. その他(具体的に)

問 16. 日本に居住している外国人の人権について、あなたの考え方は次のどれに近いですか。(〇は3つまで)

1. 日本人と同じように人権は守られるべきである
2. その外国人の母国における日本人に対する対応に合わせて、人権を制限されることがあっても仕方がない
3. 日本国籍を持たない場合、ある程度人権を制限されることがあっても仕方がない
4. 合法的に滞在している外国人の人権は守られるべきだが、違法に滞在している外国人は人権を制限されても仕方がない
5. わからない
6. その他(具体的に)

問 17. インターネットを悪用した人権侵害について、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

1. 他人へのひどい悪口や差別的な表現などを掲載すること
2. 捜査対象の未成年者の名前・顔写真を掲載すること
3. 第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること
4. 犯罪を誘発する場となっている出会い系サイトなどがあること
5. アダルトサイトなど有害なホームページがあること
6. 悪質商法によるインターネット取引での被害があること
7. いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと
8. わからない
9. その他(具体的に)

問 18. 同和問題に関する事で、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。
(〇はいくつでも)

1. 差別的な言動
2. 差別的な落書き
3. 就職・職場での差別・不利な扱い
4. 結婚問題での周囲からの反対
5. 身元調査をすること
6. SNSや動画投稿サイトなどインターネットを悪用した差別的な情報の掲載
7. 地域の活動やつきあいでの差別・不利な扱い
8. いわゆる同和地区への居住の敬遠
9. 特に起きているとは思わない
10. わからない
11. その他 (具体的に)

問 19. 同和問題が生じる原因や背景として考えられることは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 家族(祖父母、父母、兄弟姉妹など)や親せきから教えられる偏見、差別意識
2. 地域の人から伝えられる偏見、差別意識
3. 職場などで伝えられる偏見、差別意識
4. 社会全体で残る差別意識
5. 学校での人権教育が十分でない
6. 市行政の人権啓発が十分でない
7. 個人の理解が不足
8. わからない
9. その他 (具体的に)

問 20. 犯罪被害者の人やその家族の人権侵害について、あなたが特に問題があると思うのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

1. 犯罪による精神的・経済的負担が大きいこと
2. 警察に相談しても期待どおりの結果が得られないこと
3. 各メディアの過剰な取材などによる私生活の平穏やプライバシーの侵害があること
4. 事件に関する周囲からの中傷やうわさ話があること
5. 捜査・刑事裁判で受ける精神的負担が大きいこと
6. 刑事裁判手続きに犯罪被害者やその家族の声がまだ十分に反映されていないこと
7. わからない
8. その他 (具体的に)

問 21. LGBT(Q+)【性的マイノリティ】*という言葉や意味を知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 内容(意味)をよく知っている | 2. 内容(意味)を少しは知っている |
| 3. 言葉(名称)は知っている | 4. 知らない、聞いたことがない |

LGBT(Q+)【性的マイノリティ】…「セクシュアル・マイノリティ」とも言われ、性的な少数者という意味です。例えば、性別に違和感を抱えている人や、恋愛感情などが異性に向かう多数派ではない人、身体的な性別や性自認が不明瞭な人などのことを言います。性的マイノリティの方々の中には、日常生活で様々な精神的苦痛や孤立感をはじめとした、生きづらさを感じている方もいます。

問 22. あなたの周りに、LGBT(Q+)【性的マイノリティ】の人はいますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|--------|----------|
| 1. いる | 2. いない | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

問 23. LGBT(Q+)【性的マイノリティ】に関することで、現在、どのような人権問題が起きていると思いますか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1. 職場や学校などでいやがらせやいじめを受けること | |
| 2. 就職や職場で不利な扱いを受けること | |
| 3. 差別的な言動をされること | |
| 4. 賃貸住宅などへの入居を拒否されること | |
| 5. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設利用を拒否されること | |
| 6. じろじろ見られたり、避けられたりすること | |
| 7. その他(具体的に |) |
| 8. わからない | |

問 24. LGBT(Q+)【性的マイノリティ】に関する取組として必要なことはどのようなことだと思いますか。(○は3つまで)

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1. 社会全体での教育や啓発 | |
| 2. 学校での教育や啓発 | |
| 3. LGBT(Q+)【性的マイノリティ】に関する相談窓口の設置 | |
| 4. パートナーシップ証明書の発行など社会制度の見直し | |
| 5. 公共施設や職場・学校におけるトイレや更衣室などの社会環境の整備 | |
| 6. その他(具体的に |) |
| 7. わからない | |

問 25. 今後、より人権啓発を進めるためには、どのような啓発広報活動が効果的と思われますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---|---|
| 1. テレビ・ラジオを活用した啓発 | |
| 2. 新聞広告や記事 | |
| 3. 市の広報紙 | |
| 4. 映画など映像を活用した啓発 | |
| 5. パンフレット・ポスター | |
| 6. インターネット・電子メール(メールマガジンなど)・SNSの活用 | |
| 7. 講演会や講義形式の研修会・学習会 | |
| 8. 参加・体験型学習(専門家をまじえた少人数の討議・活動)による研修会・学習会 | |
| 9. 相互の理解を深めるための交流会 | |
| 10. 障害のある人や高齢者などの擬似体験会 | |
| 11. 人権問題をテーマとした展示会 | |
| 12. 人権問題に関する小説・作文・標語などの募集 | |
| 13. 人権問題をテーマとしたイベント(講演会・コンサート・展示会などを複合的に実施) | |
| 14. 特にない | |
| 15. わからない | |
| 16. その他(具体的に |) |

男女共同参画のことについておたずねします

問 26. 現在の社会での男女の地位は、平等になっていると思いますか。（○はそれぞれ1つずつ）

①～⑦までの項目について、それぞれ 選んだ番号に○をつけてください。	男性が優遇されている	どちらかといえは 男性が優遇されている	平等である	どちらかといえは 女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
	1	2	3	4	5	6
① 家庭生活の中で	1	2	3	4	5	6
② 職場の中で	1	2	3	4	5	6
③ 地域活動の中で	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育の中で	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の中で	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念や慣習、しきたりで	1	2	3	4	5	6

問 27. 次の家庭での役割分担について、夫婦の間でどのように担当するのが望ましいとお考えですか。

配偶者のおられない方もお答えください。（○はそれぞれ1つずつ）

①～⑧までの項目について、それぞれ 選んだ番号に○をつけてください。	主として妻	夫婦同程度	主として夫	わからない
	1	2	3	4
① 生活費の確保	1	2	3	4
② 洗濯・家の掃除	1	2	3	4
③ 食事の支度	1	2	3	4
④ 日常のゴミ出し	1	2	3	4
⑤ 日常の家計管理	1	2	3	4
⑥ 地域の行事参加・近所づきあい	1	2	3	4
⑦ 子どもの世話など	1	2	3	4
⑧ お年寄り、病人の世話・介護など	1	2	3	4

問 28. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。（○は1つ）

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問 29. あなたは、次のような結婚についての意見をどう思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

①～⑥までの項目について、それぞれ選んだ番号に○をつけてください。

	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	そ ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
① 結婚は必ずしもしなくてもよい	1	2	3	4	5
② 結婚生活がうまくいかなかったら離婚してもよい	1	2	3	4	5
③ 夫と妻が別姓を名乗ってもよい	1	2	3	4	5
④ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
⑤ 子どもの数や産む時期を決めるにあたっては、女性の主体的な意見を尊重した方がよい	1	2	3	4	5
⑥ 子どもがいる場合は離婚しない方がよい	1	2	3	4	5

問 30. あなたは、次にあげる男女共同参画に関する法律や言葉を知っていますか。（○はいくつでも）

1. 男女共同参画社会基本法
2. 男女雇用機会均等法
3. DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律）
4. 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）
5. ジェンダー（社会的、文化的性差）
6. セクシュアルハラスメント（性的いやがらせ）
7. ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人など親しい人からの暴力）
8. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
9. ポジティブ・アクション（積極的格差是正措置）
10. 朝来市男女共同参画プラン～ウィズ（with）プラン～
11. 見たり聞いたりしたものはない

問31. あなたは、次の①から④までの行為について経験したり、身近で見聞きしたりしたことがありますか。(○はそれぞれいくつでも)

以下の「用語の解説」もお読みください。	自分が被害を受けたことがある	自分のまわりに被害を受けた人がいる	被害について相談を受けたことがある	自分が被害を与えたことがある (与えたかもしれない)	被害を受けたり、与えたりしたことはない (見聞きしたことはある)
① セクシュアルハラスメント (セクハラ)	1	2	3	4	5
② パワーハラスメント (パワハラ)	1	2	3	4	5
③ マタニティハラスメント (マタハラ)	1	2	3	4	5
④ ドメスティック・バイオレンス (DV)	1	2	3	4	5

用語の解説

① セクシュアルハラスメント (セクハラ)

・職場などにおいて、相手の望まない性的な言動のこと(性的嫌がらせ)。相手は異性に限らず、同性同士でも起こる場合があります。

② パワーハラスメント (パワハラ)

・職場などにおいて、職務上の地位や人間関係などといった権力(パワー)を利用して、精神的・身体的苦痛を与える行為や職場環境を悪化させる嫌がらせ行為のこと。ただし、業務上必要な指示や注意・指導などはパワハラにはあたりません。

③ マタニティハラスメント (マタハラ)

・職場などにおいて、働く女性が妊娠や出産を理由に精神的・肉体的な苦痛を受ける嫌がらせ行為のこと。妊娠や出産を理由とした解雇、雇用契約の変更などもマタハラにあたります。

④ ドメスティック・バイオレンス (DV)

・夫婦や恋人などの親密な関係にある(あった)パートナーからふるわれる暴力のこと。

- (1) 身体的暴力(殴る、蹴る、首を絞める、髪を引っ張る など)
- (2) 精神的暴力(大声で怒鳴る、無視する、大切にしているものを壊す など)
- (3) 経済的暴力(生活費を渡さない、外で働くことを邪魔する など)
- (4) 性的暴力(性行為を強要する、避妊に協力しない、妊娠中絶を強要する など)
- (5) 社会的隔離(勝手にメールなどを見る、家族や友人との付き合いを制限する など)
- (6) 子どもを巻き込んだ暴力(子どもに暴力を見せる、子どもの前でパートナーをバカにする など)

問 31. ④ドメスティック・バイオレンス（DV）で「1～3」と答えた方のみにおたずねします

問 32. あなたは、これまでに誰かにうち明けたり、相談したりしましたか。（〇はいくつでも）

→ 11. 以外を答えた方は問 34. へ

1. 警察
2. 法務局・人権擁護委員
3. 県立女性家庭センター（配偶者暴力相談支援センター）
4. その他の公的機関（市役所など）
5. 弁護士
6. 民間の機関（支援グループなど）
7. 医療関係者（医師、看護師など）
8. 家族、親せき
9. 友人、知人
10. その他（具体的に)
11. どこにも相談しなかった → 問 33 へ

問 32. で、「11. どこにも相談しなかった」と答えた方におたずねします

問 33. どこにも相談しなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）

1. どこに（誰に）相談したらよいかわからなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思った
5. 自分さえ我慢したら、なんとかこのままやっていけると思った
6. 相談先の担当者の言動により不快な思いをすと思った
7. 世間体が悪い
8. 他人を巻き込みたくない
9. そのことについて思い出したくない
10. 自分にも悪いところがある
11. 相談するほどのことではないと思った
12. その他（具体的に)



問 34. 自治会や様々な地域活動・市政における企画づくりや方針決定の場への女性の参画状況について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1. まったく参画できていない
2. あまり参画できていない
3. ある程度参画できている
4. 十分に参画できている
5. わからない

問 35. あなたがお住まいの地域では、様々な地域活動(自治会や地域グループ、祭りなどの行事など)において、男性と女性の協力は実際にどのようにされていますか。(○は1つ)

1. ほとんど対等に協力しあっている
2. それぞれの持ち分を分担し、協力しあっている
3. 男性が主体となっており、女性はあまり参加していない
4. 女性が主体となっており、男性はあまり参加していない
5. 実質的には女性が担っているが、代表・役員には男性が就いている
6. その他(具体的に)
7. わからない

問 36. あなたは現在、仕事をしていますか。(○は1つ)

1. 仕事をしています → **問 39. へ**
2. 仕事をしていない → **問 37. へ**



問 36 で、「2. 仕事をしていない」と答えた方におたずねします

問 37. あなたが働いていない主な理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 家事・育児・介護に専念したいから
2. 家事・育児・介護を担わざるを得ないから
3. 家族が働くことを望まないから
4. 経済的に働くことを必要としないから
5. やりがいのある仕事がないから
6. 就職先を探しているが、見つからないから
7. リストラにあったから
8. 定年、高齢だから
9. 仕事以外の活動(ボランティアなど)
10. その他(具体的に)
をしているから



問 38. 今後、仕事をしたいと思いませんか。(○は1つ)

1. すぐにもほしい
2. 将来ほしい
3. するつもりはない
4. わからない

→ **次は問 41. へ**

問 36. で、「1. 仕事をしている」と答えた方におたずねします

問 39. あなたの職業は何ですか。（○は1つ）

1. 農林漁業者（家族従事者を含みます）
2. 商工・サービス業などの自営業者（家族従事者を含みます）・自由業
3. 民間の企業や団体の経営者・管理職
4. 民間の企業や団体に勤めている人
5. 公務員（公団・公社などの職員を含みます）、教職員、福祉関係職員、医療関係職員
6. 契約・派遣社員
7. パート、アルバイト（1～5とは無関係にパート、アルバイト勤務の方はここに○）
8. その他の職業（具体的に _____ ）



問 40. あなたは、いまの職場や仕事で、悩んでいること、不満があるとしたら、それはどのようなことですか。（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 賃金が低い（給料が少ない） | 2. 勤務時間が長い |
| 3. 職場の人間関係がうまくいかない | 4. 仕事がきつい |
| 5. 自分の能力を生かす仕事を与えられない | 6. 休暇がとりにくい |
| 7. 昇進・昇格が遅い、または望めない | 8. セクハラを見たり受けたりしてつらい |
| 9. パワハラを見たり受けたりしてつらい | 10. 女性が働き続けることに対し理解がない |
| 11. 女性に対する能力開発の機会が少ない | 12. その他（具体的に _____ ） |
| 13. 特にない | |

問 41. 男性と女性が仕事と家事や育児、介護などをともに担う社会を実現するためには、次のことはどのくらい有効だと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

（○はそれぞれ1つずつ）

①～⑥までの項目について、それぞれ選んだ番号に○をつけてください。

	有 効	有 ある 程度 効は	あ ま り 有 効 で ない	有 効 で ない
① 男女の役割に関する社会通念や慣習、しきたりなどと とらわれないこと	1	2	3	4
② （多くの場合）男性の仕事優先、職場中心のライフス タイルを考え直すこと	1	2	3	4
③ 労働時間の短縮やフレックスタイム制などの普及	1	2	3	4
④ 育児・介護を支援するサービスの充実	1	2	3	4
⑤ 男性が家事や育児を行う能力を高めること	1	2	3	4
⑥ 女性が経済力や資格などを有していること	1	2	3	4

問 42. 家庭で育児や介護が必要なとき、共働きの夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたら、
どうするのがよいと思いますか。それぞれについてお答えください。

(1) 育児休業について (○は1つ)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 夫が取るほうがよい | 2. 妻が取るほうがよい |
| 3. 夫も妻も同じように取るのがよい | 4. わからない |
| 5. その他 (具体的に) | |

(2) 介護休業について (○は1つ)

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1. 夫が取るほうがよい | 2. 妻が取るほうがよい |
| 3. 夫も妻も同じように取るのがよい | 4. わからない |
| 5. その他 (具体的に) | |

問 43. あなたが、もし寝たきりや認知症になったとしたら、主に誰に身の回りの世話をしてもら
いたいと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 息子 |
| 3. 娘 | 4. 息子の妻 |
| 5. 娘の夫 | 6. その他の親族 |
| 7. ホームヘルパーやボランティア | 8. 社会福祉施設やケア住宅に入所する |
| 9. その他 (具体的に) | |

問 44. 今後、政治・経済・地域などあらゆる分野で、女性の参画が進み、女性のリーダーが増え
るとどのような影響があると思いますか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される |
| 2. 人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる |
| 3. 女性の声が反映されやすくなる |
| 4. 国際社会から好印象を得ることができる |
| 5. 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる |
| 6. 男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる |
| 7. 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む |
| 8. 男性の家事・育児などへの参加が増える |
| 9. 今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる |
| 10. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる |
| 11. 保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する |
| 12. その他 (具体的に) |
| 13. 特にない |
| 14. わからない |

問 45. 今後、あらゆる分野で男女がさらに対等な社会となるために、重要なことはどのようなことだと思いますか。(〇は3つまで)

1. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める
2. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に能力を高める
3. 職場における男女の均等な取り扱いについて啓発し、徹底を図る
4. 女性の意識改革
5. 男性の意識改革
6. 子育て支援や高齢者・病人の介護施設などのサービスを充実する
7. 子どもの時から家庭や学校で男女平等について教える
8. 女性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などを充実する
9. 政策・方針決定の場への女性の参画を推進する
10. 新聞・テレビなどの各メディアに対し、男女平等を働きかける
11. その他(具体的に)
12. 特にない
13. わからない

●人権尊重のまちづくりについて、あるいは男女共同参画社会の実現に向けた取り組みについて、ご意見、ご要望があればどんなことでも結構です。ご自由にお書きください。

質問は以上です。
お忙しい中、ご協力いただき誠にありがとうございました。

記入もれがないか、もう一度ご確認の上、同封の返信用封筒で、
12月28日(月)までにご返送くださいますようお願いいたします。

人権についての市民意識調査報告書

発 行 / 令和 3 (2021) 年 3 月

発 行 者 / 兵庫県 朝来市

問 合 せ 先 / 朝来市 市民生活部 人権推進課

〒669-5292 兵庫県朝来市和田山町東谷 213 番地 1

TEL (079) 672-6122

FAX (079) 672-4041
